

京都大学フィールド科学教育研究センター
自己点検・評価報告書

(対象：2008-2011 年度)

2013 年 2 月

はじめに

京都大学フィールド科学教育研究センター（以下、「フィールド研」）は 2003 年に設置された。今年度はその 10 年目にあたる節目の年である。1990 年代、京都大学では、「情報系」などとともに、地球環境に関する教育・研究を行う「環境系」の部局の設立が目標の一つとされ、フィールド研は、地球環境学堂・学舎、生態学研究センターとともにその一つと位置づけられた。フィールド研が目指すフィールド科学は京都大学が従来から伝統を誇ってきた研究分野の一つであり、新たな部局として誕生するに際しては、農学研究科附属の演習林、水産実験所、亜熱帯植物実験所及び理学研究科附属の瀬戸臨海実験所という、京都大学のフィールド科学を実習・研究の場として支えてきた全国の 10 か所に所在する 9 の施設が統合された。これらの施設は、北海道川上郡標茶町の北海道研究林標茶区、同白糠郡白糠町の北海道研究林白糠区、京都府舞鶴市の舞鶴水産実験所、京都府南丹市の芦生研究林、京都市北区の上賀茂試験地、和歌山県有田郡有田川町の和歌山研究林、同西牟婁郡白浜町の瀬戸臨海実験所、同東牟婁郡串本町の紀伊大島実験所、山口県周南市の徳山試験地、及び京都大学キャンパス内の北白川試験地である。

フィールド研は設置当初から、特徴ある学際的な学問分野として「森里海連環学」を提唱し、その学問としての確立を目指した研究活動、関連するアカデミック・コミュニティにその重要性を認識させるための学会活動、社会にその思想を定着させるための社会連携活動、等を行ってきた。「森里海連環学」は、荒廃する我が国の自然を再生する中で、かつての日本人が行ってきた自然とのつきあい方を再評価し、その成果に基づいて新たなつきあい方を検討・提示しようとする学問分野であり、それによって得られた様々な知見を社会に発信しようとする領域統合的な学問分野でもある。このような学問においては、講義室や実験室における研究・教育だけでは決して解を見つけれられるものではなく、精度・密度ともに高く、また、フィールドに密着した調査研究を通じてはじめて、意味のある方向性が見いだせる。さらに、このような研究・教育活動を通じて、フィールド科学に精通した人材を世に送り出すことも重要な責務である。フィールド研はこのことが可能なだけの多くの施設を全国各地に持ち、森里海連環学を展開してきた。

設立以来 10 年の歴史の中で、フィールド研は様々な活動を展開してきた。教育活動としては、京都府由良川、和歌山県古座川、北海道別寒辺牛川の各流域で行われてきた森里海連環学実習が代表的なものである。また、東日本大震災後には、少人数セミナーの一つの場として教育活動を行ってきた、フィールド研社会連携教授である畠山重篤氏が活動する宮城県気仙沼市舞根地区において、森里海連環学の視点をさらに発展させた新たな活動を始めている。これ以外にも、フィールド研教員が積極的にを行っている全学共通科目の多くが、森里海連環学の要素を色濃く持っている。これらの教育活動の一部は（公財）日本財団のご支援のもとに維持されてきた。フィールド研設立時から続いてきたこの支援は、2012 年度から開始される、学内の地球環境学堂・学舎、農学研究科、人間・環境学研究科との新たな教育ユニットとしての活動に向けて花開きつつある。これによって森里海連環学を基礎とする幅広い視野を持った研究者を世に出す基盤がさらに確固たるものになることになる。一方、2011 年度には、舞鶴水産実験所と瀬戸臨海実験所が文部科学省から教育関係共同利用拠点に認定された。これによって、両施設における他大学との教育の共同利用が可能になり、より広範なフィールド科学教育が可能となった。

全国各地に展開する施設は、それぞれが地元と深く連携した教育研究活動も展開してきた。フィールド研全体の事業としては、2009 年度から概算要求事業（プロジェクト分）として「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業」を行っている。この事業は、森里海連環学を実践し、地域に展開していくことを目指した活動であり、調査研究を通じてその成果を地域に発信し、社会に役立てていくという試みである。実際のフィールドは京都府由良川水系と高知県仁淀川流域である。それぞれの地域で地元行政や NPO 団体等の深いご理解とご協力を得ながら、着実に成果があがりつつある。これらの実践活動を通じて森里海連環学を社会に理解いただき、我が国の自然再生に役立てるモデルケースとすることが、本事業の最も重要な目的とするところである。今回の評価期間中の後半は、2010 年が国際生物多様性年、2011 年が国際森林年であり、これに震災の伴う津波被害地の劇的な生態系の再生状況などの実証も含めて、森里海連環学を国内外に問う上で追い風の吹く時期であった。これらの社会情勢を的確に捉えながら、森里海連環学的な自然との共生の在り方を考えていくのがフィールド研の責務であると考えられる。

全球的なレベルでも森から海にいたるつながりの理解を深めることは重要である。フィールド研にはこれまでに実現できていない目標の一つとして、海外拠点の設置がある。これについては、今しばらくの時間を要すると考えられる。今回の自己評価報告書は、設立以来 10 年を経たフィールド研の活動の後半を評価するものである。今後の展開に関する方向性を模索する上でも、この報告書に記された内容を改めて検討し、新たな 10 年への糧とできることを期待する次第である。

2013 年 2 月

京都大学フィールド科学教育研究センター長 柴田昌三

目次

1	フィールド研の沿革・理念と目的・組織概要	1
1. 1	沿革	1
1. 2	理念と目的	1
1. 2. 1	理念	1
1. 2. 2	目標	1
1. 3	組織概要	2
1. 3. 1	概要	2
1. 3. 2	教育研究部	3
1. 3. 3	管理技術部	4
1. 4	各ステーション、施設概要	4
1. 4. 1	森林ステーション	4
1. 4. 2	里域ステーション	5
1. 4. 3	海域ステーション	5
1. 4. 4	海域陸域統合管理学研究部門	6
2	活動の記録とそれに対する自己総合評価、課題、展望	7
2. 1	教育活動	7
2. 1. 1	大学院教育	7
2. 1. 1(1)	協力講座	7
2. 1. 1(2)	大学院研究科への提供科目	8
2. 1. 1(3)	大学院での学位授与	9
2. 1. 2	全学共通科目	10
2. 1. 3	学部教育	12
2. 1. 3(1)	学部教育での提供科目	12
2. 1. 3(2)	学部での学位授与	13
2. 1. 4	公開実習	14
2. 1. 4(1)	公開臨海実習	14
2. 1. 4(2)	海洋生物科学技術論と実習 I , II	14
2. 1. 4(3)	公開森林実習	14
2. 1. 4(4)	森里海連環学実習 A	15
2. 1. 5	他大学実習の受け入れ	15
2. 1. 6	他大学生研究の受け入れ	15
2. 1. 7	自己総合評価、課題、展望	15
2. 2	研究活動	16
2. 2. 1	森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）	16
2. 2. 2	NaGISA (Natural Geography In Shore Area)プロジェクト	16
2. 2. 3	舞鶴湾ナマコ資源増殖推進事業	17
2. 2. 4	古座川プロジェクト	18
2. 2. 5	21 世紀 COE プログラム「昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生」	19
2. 2. 6	海域陸域統合管理学プロジェクト	19
2. 2. 7	環境省自然環境局生物多様性センターの生物多様性国家戦略に基づく重要生態系監視地域モニタリング事業（モニタリングサイト 1000）	21
2. 2. 8	JaLTER (Japan Long-Term Ecological Research)	21
2. 2. 9	研究成果の発表（専門誌の出版）	21
2. 2. 10	受賞	23
2. 2. 11	自己総合評価、課題、展望	25
2. 3	社会貢献	26
2. 3. 1	水族館	26
2. 3. 2	時計台対話集会	26
2. 3. 3	公開講座	27
2. 3. 4	地域連携講座	27
2. 3. 5	神戸大学・京都大学合同市民講座	29
2. 3. 6	全日本空輸株式会社（ANA）との連携	29
2. 3. 7	NPO 法人エコロジー・カフェとの協定	30

2.3.8	徳山試験地・周南市連携事業	30
2.3.9	高校生向け教育プログラム (SSH, SPP 事業)	30
2.3.10	その他幼稚園～高校生向け教育プログラム	31
2.3.11	東北復興支援学生ボランティア	31
2.3.12	芦生地域有害鳥獣対策協議会と芦生研究林との共同イベント	32
2.3.13	「東京で学ぶ 京大の知」	32
2.3.14	その他の社会貢献事業	32
2.3.15	自己総合評価、課題、展望	32
2.4	外部資金	34
2.4.1	科学研究費補助金	34
2.4.2	受託研究	35
2.4.3	共同研究	35
2.4.4	機関経理金	35
2.4.5	寄付金	36
2.4.6	自己総合評価、課題、展望	36
2.5	国際交流	37
2.5.1	国際シンポジウム	37
2.5.2	海外調査	37
2.5.3	国際学会発表	39
2.5.4	在外研究	41
2.5.5	外国人の受け入れ	41
2.5.6	21 世紀 COE プログラム「昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生」	43
2.5.7	マレーシア サバ大学との学術協力協定	43
2.5.8	自己総合評価、課題、展望	43
3	管理と運営	44
3.1	教授会	44
3.2	教員会議	44
3.3	運営委員会	44
3.4	協議員会	44
3.5	部局内常設委員会	45
3.6	教授懇談会	45
3.7	自己総合評価、課題、展望	45
4	各施設における課題	47
4.1	芦生研究林	47
4.2	北海道研究林	49
4.3	和歌山研究林	49
4.4	上賀茂試験地	50
4.5	徳山試験地	51
4.6	北白川試験地	51
4.7	紀伊大島実験所	52
4.8	舞鶴水産実験所	52
4.9	瀬戸臨海実験所	53
5	フィールド研教員の業績	55
5.1	原著論文・総説（査読あり）	55
5.2	原著論文・総説（査読なし）	75
5.3	報告書・一般誌等	79
5.4	著書	94
5.5	自己総合評価、課題、展望	98

6 資料	99
6. 1 活動の記録（日記）	99
[2008 年度（平成 20 年度）]	99
[2009 年度（平成 21 年度）]	103
[2010 年度（平成 22 年度）]	109
[2011 年度（平成 23 年度）]	115
6. 2 マスコミへの情報発信	122
6.2.1 新聞・雑誌等記事	122
6.2.2 テレビ、ラジオ	123
6. 3 各施設 利用人数一覧	124
6. 4 各施設 学生実習等調べ	126
6.4.1 フィールド研提供科目	126
6.4.2 学内利用	129
6.4.3 他大学利用	132
6.4.4 高校生以下を対象とする実習等	135
6.4.5 一般対象の実習等	139
6. 5 瀬戸臨海実験所 水族館入場者数	143
6. 6 船舶運転実績	143
6.6.1 舞鶴水産実験所 船舶運転実績	143
6.6.2 瀬戸臨海実験所 船舶運転実績	143

1 フィールド研の沿革・理念と目的・組織概要

1. 1 沿革

京都大学では、1990年代半ばに、21世紀を展望して新たな五つの独立研究科の設置が構想されるとともに、地球的最重要課題の環境問題の解決を目指して、地球環境科学の学問構築や教育研究のあり方を求めて「環境フォーラム」が開催された。これらの具体化を目的に、平成11年（1999年）6月には将来構想検討委員会の中に地球環境科学研究構想専門委員会が設置され、多面的な検討の結果、2001年4月の生態学研究センターの改組、2002年4月の大学院地球環境学堂の設置に続き、平成15年（2003年）4月にフィールド科学教育研究センター（以下「フィールド研」）が設置された。

フィールド研は、理学研究科附属瀬戸臨海実験所（和歌山県白浜町）、農学研究科附属の演習林（北海道・京都府・和歌山県・山口県）、亜熱帯植物実験所（和歌山県串本町）、水産実験所（京都府舞鶴市）の4施設を統合し、全学共同利用施設として発足した。当センターは、京都大学の多くの附置研究所やセンターの中でも、現地（遠隔地）に基盤を置くことと、“教育”を冠に掲げた点で、大変ユニークな施設と位置づけられる。

また「森里海連環学」を研究と教育に生かし、学問分野として確立すること、この考え方を教育を通して、大学生をはじめ行政や市民に浸透させ、日本の沿岸域の環境を守り、改善するための沿岸域管理に生かしていくことを目的とし、日本財団の助成をうけて2008年10月に海域陸域統合管理学研究部門が設立された。

1. 2 理念と目的

1.2.1 理念

わが国の自然環境を特徴づける森林生物圏と沿岸海洋生物圏は、本来不可分に連環しつつ、私達の生存に計り知れない恵みをもたらしてきた。しかし、近年における人間活動の加速度的な膨張は、このような自然の不可分のつながりを著しく分断し、深刻な地球環境問題を引き起こしつつある。

森と海の豊かな自然の再生と持続的利用には、その間に介在する人里空間のあり方が問題となり、里域生態系解明への新たな挑戦が求められる。このような基本的な考えに基づき、新たなフィールド科学としての森・里・海連環学のフロンティア組織を創生することは意義深いことである。

当センターは、温帯域におけるフィールド科学の教育研究拠点として、人と自然の共存原理に資する新たな科学を創造し、新たな価値観の形成をめざす。

1.2.2 目標

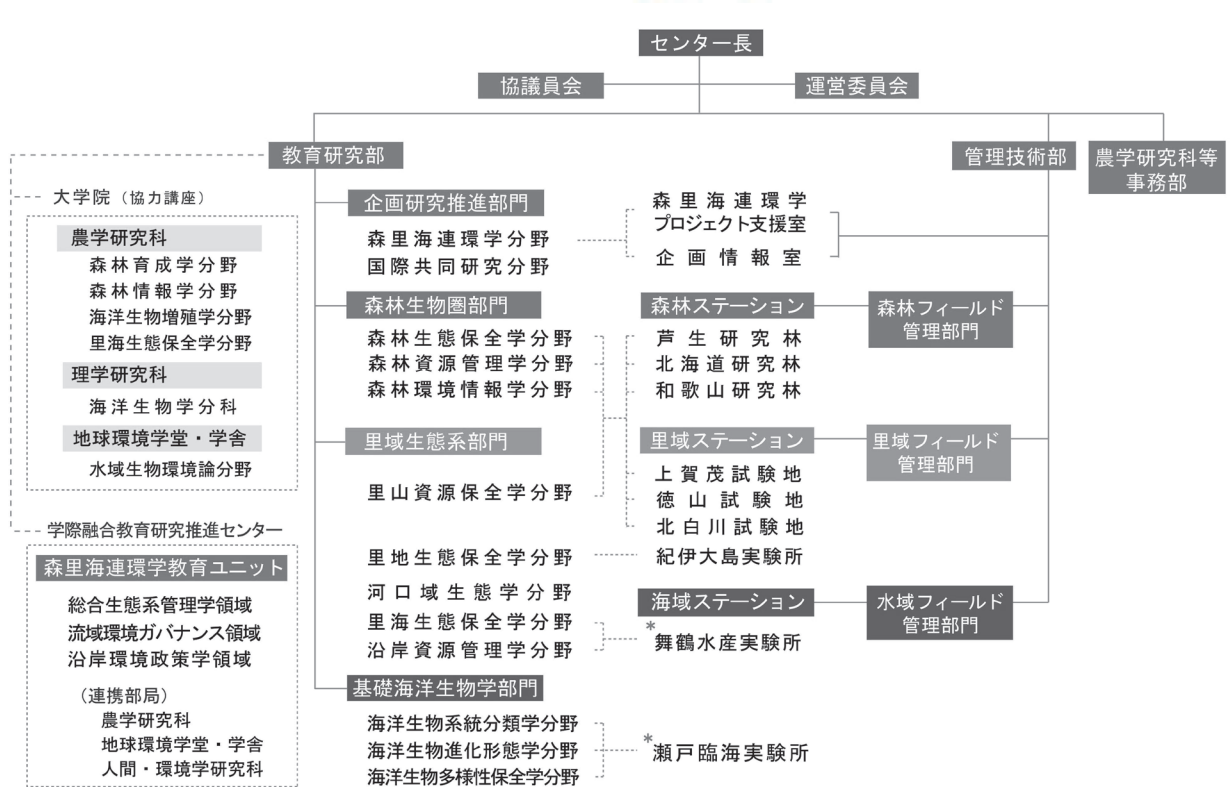
当センターは、上記の理念を実現するため、以下の点を重点に教育と研究を展開する。

- 森林生物圏、里域生物圏、沿岸海洋生物圏間の連環機構の解明
- 森林生物圏、里域生物圏、沿岸海洋生物圏における基礎科学の展開
- 森林域、里域、沿岸海域における各ステーションの長期的生態学研究拠点としての機能強化
- 自然生態系や地球環境の保全に関する地域に根ざした現場教育と研究の展開
- 森林域、里域、沿岸海域における生物圏情報の発信による社会連携の推進
- 地球環境問題の解決に貢献し得る総合的視点と優れた専門性を兼ね備えた人材の育成

1. 3 組織概要

1.3.1 概要

教育研究部と管理技術部からなる。センター本部は本学北部キャンパスに置かれ、森林、里域、海域の各ステーションを構成する9の施設が、太平洋側から日本海側に至る近畿圏を中心に広域に位置する。(担当事務部門は、農学研究科等事務部である。)



* 教育関係共同利用拠点認定（文部科学省 2011年4月1日）

運営委員会

学内の有識者からなる運営委員会は、フィールド研の管理運営についての重要事項に関して、センター長から試問を受け助言をすることを主たる目的としている。

協議委員会

フィールド研の最高議決機関である協議委員会は、フィールド研の全教授と学内関連部局の長を中心とした関連教員から構成される。センター長の選任、教員人事の決定、概算要求事項の承認、組織の改編に関わる事項の承認を行う。

共同利用運営委員会（瀬戸臨海実験所）

瀬戸臨海実験所の共同利用の実施に関する重要事項を審議する。

共同利用運営委員会（舞鶴水産実験所）

舞鶴水産実験所の共同利用の実施に関する重要事項を審議する。

1.3.2 教育研究部

企画研究推進部門

森里海連環学分野

森林域、里域および沿岸海洋域を対象として、隣接する生物圏相互の関連に焦点を当てた研究部門間の共同研究を促進する。多様な共同研究を基礎に、森・里・海の連環に関する研究プロジェクトを企画し、全国の関連研究機関との連携の下、新たなフィールド科学の創出と展開を図る。

国際共同研究分野

東アジアならびに東南アジアを主なフィールドとして、陸域と海域の連環を柱とした地球環境問題に関する国際共同研究を展開し、海外における連携拠点の構築を図る。

森林生物圏部門

森林生態保全学分野

森林生態系が示す種・個体（遺伝子）、個体群、群集、集水域、景観といった階層性に注目し、各階層における多様性とシステムの形成維持メカニズムや多様な森林生物種の生活史の解明を主とした教育研究を行う。また野外操作実験を実施し、森林生態系の保全と生物資源の持続的な再生利用のための手法の提示も目指す。

森林資源管理学分野

森林が有する環境、生物、文化としての資源の機能を評価し、これに基づく森林資源の持続的な管理理論の構築と管理技術についての実践的な教育研究を行う。特に当面の課題としては、近年、管理圧の低下から荒廃しつつある人工林・二次林の持続的管理手法の確立に向けた研究を行う。

森林環境情報学分野

持続可能な森林管理に向けて、環境影響評価基準・指標の定量化、GIS/GPS による森林利用機能区分、LCI/LCA による環境低負荷型生産技術、森林認証・ラベリング等を中心とした実践的・問題解決型研究を展開する。

里域生態系部門

里山資源保全学分野

生活圏に接する森林において、人間との相互作用により成立した生態系の特性や機構を明らかにするとともに、多面的なアプローチから、生物多様性および森林の保全、森林と人間との新たな共存に向けて幅広い教育研究を行う。

里地生態保全学分野

人里と一部に里山と里海を含む、いわゆる里地に分布する攪乱依存性植生ならびに攪乱依存性植物の起源と歴史および生態的特性を明らかにし、それらの管理保全体系ならびに持続的利用に関する考察を行う。

河口域生態学分野

陸域と海域の接点にあたる河口域は、多くの海洋生物の再生産に極めて重要な場であり、生物多様性の宝庫でもある。しかし、一方では人間の生活と生産活動の様々なインパクトが集積する場所でもある。有明海などのモデル的な河口域を対象に、資源生物学的ならびに保全生態学的教育研究を行う。

里海生態保全学分野

陸域からの影響も含めたごく沿岸域の環境特性を把握し、生息する資源生物の生産生態との関係を解明する。とくに、藻場、砂浜域、干潟域などでの仔稚魚の分布、行動、摂餌、成長、生残等を明らかにし、魚介類の成育場としての里海の役割を定性、定量的に評価する。

沿岸資源管理学分野

若狭湾西部海域をフィールドとして主要な資源生物の個体群動態を研究し、海洋環境構造や海況変動の影響を明らかにする。さらに、資源生物の分類と生活史・生態特性を調べ、それらの資源変動機構の解明に取り組む。

基礎海洋生物学部門

海洋生物系統分類学分野

系統分類学は、生物の多様性を認識する基本であり、1922 年の瀬戸臨海実験所の創設以来、連綿と続けて来た分野である。海洋生物の多様性は非常に高く、多くの未知の事柄が残されている。このような多様性の包括的な解明を目指して研究を行う。

海洋生物進化形態学分野

形態観察は、生物の多様性を認識するために必須の作業である。本分野では、最新の装置を用いた精密な比較・機能形態学的研究や、分子生物学的手法による形態形成のメカニズムを解明する研究を行う。

海洋生物多様性保全学分野

海洋生物の多様性を保全するために、多様な生物が環境の変動に対してどのように反応するのかを明らかにするとともに、島島実験地における 30 年以上にわたる長期観察や、地球規模の環境変動を把握するための国際共同研究の中核的役割を果たす。

1.3.3 管理技術部

森里海連環学プロジェクト支援室、企画情報室と、森林、里域、水域の3フィールド管理部門、9施設からなる。フィールドの管理・運営および基礎情報の収集、情報管理、技術開発、教育研究支援を行う。

企画情報室

森里海連環学プロジェクト支援室

森林フィールド管理部門	芦生研究林管理技術班
	北海道研究林管理技術班
	和歌山研究林管理技術班
里域フィールド管理部門	上賀茂試験地管理技術班
	徳山試験地管理技術班
	北白川試験地管理技術班
水域フィールド管理部門	紀伊大島実験所管理技術班
	舞鶴水産実験所管理技術班
	瀬戸臨海実験所管理技術班

1. 4 各ステーション、施設概要

1.4.1 森林ステーション

○芦生研究林

1921年に旧知井村の九ヶ字共有林の一部(4,179.7ha)に、教育・研究を目的として、99年間の地上権を設定して設置された。北緯35°18′、東経135°43′、標高355～959mに位置し、年平均気温11.9℃、年降水量2,298mmである。冬季には1～2mの積雪がある。京都市の北約35km、福井・滋賀の両県境に接する京都府の東北部に位置し、由良川の源流域にあたる。面積は4,185.6haで、スギを主体とした人工林250ha(人工林率6%)と天然林からなる。天然林のうち1,800haは伐採跡地に再生した二次林で、残りは地上権設定以降人の手が加わっていない原生的なものとなっている。気候区分では日本海型と太平洋型の移行帯に位置し、植生区分では暖温帯林と冷温帯林の移行帯にもあたるため、植物の種数が多い。天然林の植生は、標高約600mまでは、コナラ、ウラジロガシ、ソヨゴなどの暖温帯林構成種が見られる。それ以上の標高域ではブナ、ミズナラを主にした冷温帯林構成種が見られ、斜面中腹から尾根周辺には天然生のスギを混じえる。日本海側の多雪地域に特有な種も多い。大規模面積の冷温帯天然林としては西日本で屈指であり、森林生態系の長期的な動態把握を行っている。多様性に富んだ森林は、様々な教育・研究に最適なフィールドであり、社会教育の場としても広く利用されている。

○北海道研究林

北海道研究林は標茶区と白糠区からなる。標茶区は1949年に、白糠区は1950年に、いずれも旧陸軍省軍馬補充部用地跡に設置された。標茶区は根釧原野のほぼ中央、釧路湿原の北東端の緩やかな丘陵地に位置する(北緯43°19′、東経144°37′、標高30～149m)。面積は1,446.8haで、人工林率は29%、年平均気温は5.8℃、年降水量は1,112mmである。夏季は海霧による日照不足のため湿潤低温で、冬季は乾燥した北西季節風のため気温が-30℃まで低下して季節凍土が発達するなど、気象条件が厳しい。天然林の植生は針葉樹を欠き、ミズナラ、ヤチダモをはじめとする落葉広葉樹からなる。白糠区は、阿寒山群の南端に位置する(北緯43°01′、東経143°57′、標高64～270m)。面積は880.4ha、人工林率は14%である。年平均気温は、標茶区と比較すると海岸線に近いためにやや高く7.2℃で、年降水量は1,276mmである。天然林はトドマツ、ハルニレ、ミズナラなどからなる針広混交林で、標茶区には分布しない種もみられる。自然環境の異なる両区を用いて、天然林の動態、森林再生技術の開発等の比較試験が進められ、夏季と冬季には樹木識別、森林計測、雪氷調査法等の実習が行われている。

○和歌山研究林

吉野林業地に比較的近い暖温帯林と冷温帯林の境界域に、研究と実地演習を目的として、1926年に99年間の地上権を設定して設置された。有田川支流の湯川川最上流部に位置し(北緯34°04′、東経135°31′)、面積842.0ha、標高455～1,261mにあり、年平均気温は12.3℃、年降水量は2,521mmである。地質は中生層に属し、土壌は比較的肥沃であるが、地形は急峻で、各所に断崖や滝が見られる。天然林は、標高約700～1,000m付近はモミ、ツガが主で一部広葉樹を交えた針広混交林、標高約1,000m以上の稜線に近い部分はブナ、ミズナラ、カエデ類、ヒメシャラなどが優占する落葉広葉樹林である。戦後の拡大造林期に植栽されたスギ、ヒノキを中心に、フィールド研究研究林の中で人工林率が52%と最も高い。モミ・ツガ林の動態研究のほか、急峻かつ多雨な条件下における持続的森林資源管理に関する試験研究が行われている。近年では、地元の小・中・高等学校を対象とした森林・林業・環境に関する社会教育活動にも力を入れている。

1.4.2 里域ステーション

○上賀茂試験地

1926年に設置され、1949年に現在地(北緯 35° 04'、東経 135° 46'、標高 109~225m)に移転した。面積は 46.8ha で、人工林率は 32%である。年平均気温は 14.7℃、年降水量は 1,523mm である。面積の 60%を占める天然林は、1970 年代以降にマツ枯れでアカマツが激減し、コナラ、ソヨゴなどの広葉樹と林齢 100 年前後のヒノキの混交林へと遷移している。設置当初から、世界各地の植物園、研究所など(現在、約 120 機関)との相互協力のもとに種子交換を行い、多くの外国産樹種の導入育成による樹木園造成を進めてきた。特にマツ属の収集と育成に重点が置かれた。現在は、樹木園および見本林園の再整備を進め、マツ属の成長量や気象の観測など基礎データを蓄積するとともに、二次林の成長量、植生変化についても調査している。本学から北に 5km と交通至便で、森林科学、生物学分野を始め、幅広い分野の試験研究および実習の場として、他大学、他機関からも数多く利用されている。

○徳山試験地

徳山試験地の前身は 1931 年に設置された徳山砂防演習地である。1942 年に砂防演習地の移転の際、徳山試験地として設置され、1966 年に現在地(北緯 34° 04'、東経 131° 50')に移転した。面積は 41.9ha、標高は 102~351m で、比較的急斜面が多い。気候区分は瀬戸内型で、年平均気温は 15.1℃、年降水量は 1,899mm で梅雨期に集中し、早春と夏季の乾燥が著しい。人工林率は 49%で、その 4 割は移転以前に植栽された林齢 70 年以上のヒノキ林である。照葉樹林帯に属するが、面積の 45%を占める二次林にはアカマツと落葉広葉樹が混交する。産地、系統別に植栽されたマツ属の生育比較試験や、マツ属の病虫害に対する抵抗性に関する研究が行われてきた。現在は、文化財建造物の補修用資材として必要とされながらも資源の枯渇が懸念されている桧皮(ひわだ)について、桧皮の生産と、剥皮が幹の成長および材質に及ぼす影響に関する調査が進められている。瀬戸内地域にわずかに残された天然生の照葉樹林の植生動態についての研究も行われている。

○北白川試験地

農学部が創設された翌年の 1924 年に、林学科(現・森林科学科)の苗畑として、本学北部キャンパスの北東部(北緯 35° 02'、東経 135° 47'、標高 60m)に設置された。面積は 1.3ha で、そのうち苗畑が 0.3ha、見本園が 0.7ha を占める。年平均気温は 15.2℃、年降水量は 1,445mm である。亜寒帯から暖温帯下部に至る国内産 250 種と、外国産 170 種(アジア・オセアニア原産 100 種、欧州・北米原産 70 種)、その他栽培品種 80 種の計 500 種が見本樹として植栽されている。材鑑室には、各研究林および試験地から集められた 40 科 125 種 133 本(針葉樹 41 本、広葉樹 92 本)の大型材鑑標本が収められている。森林科学を始めとする生物系分野の樹木観察などの実習や、苗畑や温室を用いた動植物の試験研究に多く利用されている。

○紀伊大島実験所

紀伊半島南端串本町潮岬の東 1.5 kmにある紀伊大島中央部の須江地区(北緯 33° 28'、東経 135° 50'、標高約 100m)に位置する。1937 年に大島暖帯植物試験地として設置された後、1967 年に亜熱帯植物実験所と改称された。面積は 11.8ha である。暖流黒潮の影響を強く受け、気候は温暖で年平均気温は 16.9℃、年降水量は 2,500~2,600mm である。所内の自然植生は、スダジイやヤマモモ、ヤブニッケイ、タブノキなどの多種多様な照葉樹とその林縁および林床植物からなる。実験所全体が和歌山県鳥獣保護区に指定され、鳥類や昆虫類も種類が豊富である。また、観賞用ツバキと花ウメ系統を自然樹形で多数保存している。通時プロジェクトとして紀伊大島生物相の史的解明、教官研究として照葉樹林文化圏と黒潮文化圏における資源植物複合の on situ 保全、伝統的管理水田における希少雑草の動態に関する研究を進めている。他研究機関との共同研究のほか、本学院生学生対象の授業やセミナー、地元住民を対象とした観察会や講演会も随時行われている。

1.4.3 海域ステーション

○舞鶴水産実験所

1972 年、京都市に移転した農学部水産学科の跡地に設置された。面積は 2.0ha、北緯 35° 29'、東経 135° 22' にあり、年平均気温は 14.3℃、年降水量は 1,786mm である。京都大学から北北西 64km に位置する。海の生き物と環境に関する多面的な研究を展開しており、沿岸に暮らす魚類・無脊椎動物の生活史や環境との関わりについての野外研究と飼育実験的研究、ならびに魚類の系統分類学的研究を主に行っている。特に、ヒラメ・マアジなど浅海域を成育場とする魚種や、スズキなどの海と川を行き来する両側回遊性魚種については国内有数の研究拠点である。日本海側で唯一の大学附置水産実験所であり、国内外の研究者の研究拠点として、さらに理科系教員ならびに他大学学生の実習拠点としても広く利用されており、関連試験研究機関と連携した研究も積極的に進めている。また、地域には大学がないことから社会教育に貢献すべく、市民を対象とした公開講座や見学会を開催している。

○瀬戸臨海実験所

1922 年、理学部附属臨海研究所として、紀伊半島西岸の田辺湾口に位置する番所崎桔梗平と呼ばれた場所(北緯 33° 41'、東経 135° 20')に設置された。敷地 4.1ha、島島実験地 2.7ha、建物 5,680m² からなる。周辺の気候は温暖で、冬季の平均気温は 7℃前後であり、夏季は 27℃前後まで上がる。降水量は梅雨時と台風シーズンに特に多い。付近の海

域は、黒潮分流の影響を強く受けており、周辺の表面水温は年平均で約 20℃である。冬季でも 12℃以下になることは稀であり、一方で夏季も 29℃を越えることはほとんどない。表面水の塩分は 31～35psu で、透明度は約 8m、潮位差は 1.4～2.0m に達する。周辺の海岸・海中の多様な景観や、そこに見られる豊富な生物相は、現在も比較的良好に保護されており、所員や外来研究者(延べ約 1,500 人・日)による研究、学内外の臨海実習(延べ約 1,500 人・日)などに利用されている。

1.4.4 海域陸域統合管理学研究部門

フィールド科学教育研究センターが進めている森里海連環学を研究と教育に生かし、学問分野として確立すること、この考え方を教育を通して、大学生をはじめ行政や市民に浸透させ、日本の沿岸域の環境を守り、改善するための沿岸域管理に生かしていくことを目的とし、日本財団の助成をうけて 2008 年 10 月に設立された。将来にはそのような森里海連環学に基づく統合的沿岸域管理を担う人材育成をアジア各国でも行うことを目指している。

沿岸域の統合的管理を進めるためには、陸上生態系と沿岸生態系の相互作用を明らかにし、しかも人間の関わり方を生態系との関係で考えていくことが必要である。当部門で目指す統合管理とは、森里海連環学にほかならず、その統合管理の指標として、沿岸の生物多様性を保全することを目的としている点で、これまでの沿岸域統合管理では語られてこなかった分野を目指してきた。

教育では、全学共通科目として「森里海連環学」、「沿岸環境保全学」（「海域・陸域統合管理論」より改称）、「森林学」、「水圏生物学入門」、そして実習科目である「森里海連環学実習（A：由良川-舞鶴湾； B：古座川-串本湾； C：別寒辺牛川-厚岸湖-厚岸湾）など、海域と陸域の統合管理に関連する科目を提供してきた（実習 B および C は北海道大学との合同実習）。

研究では、いくつかの河川とその流域および沿岸域を対象とした森里海連環学の研究を行っている。2008 年には、由良川と別寒辺牛川についての研究が行われた。2009 年度から仁淀川での研究を加えて行っている。また、ダムの上流を含む流域環境への影響問題に関して、豊川で環境経済学的な研究を開始した。さらに、フィリピン・ミンダナオ島における陸上の利用形態（森林伐採・プランテーション）と沿岸の藻場やジュゴンの個体数変動の関係について研究を進めてきた。

社会教育・地域連携では、森里海連環学を一般の人にも発信するために、市民を対象とした公開講座を行っている。合同市民公開講座を 2008 年度は神戸大学と共同で行った。また、地方で地元の人と一緒に流域の森里海連環を考える地域連携講座を北海道厚岸町などの別寒辺牛川流域、京都府の由良川流域、高知県仁淀川流域などで行ってきた。

なおこの部門は 2012 年 3 月 31 日をもって終了し、その所属教員および職員は、2012 年 4 月 1 日に発足する学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニットに所属することとなった。

2 活動の記録とそれに対する自己総合評価、課題、展望

2.1 教育活動

フィールド研は、京都大学の学内共同教育研究施設として、実習、リレー講義、新入生向け少人数セミナー（ポケゼミ）などの京都大学の全学共通科目へ多くの授業科目を提供している。

また協力講座として、京都大学大学院農学研究科、理学研究科への参画し、大学院地球環境学舎へ基幹分野及び協力分野として参画している。

2.1.1 大学院教育

2.1.1(1) 協力講座

フィールド研は、協力講座として、京都大学大学院農学研究科へ3分野、理学研究科へ1分野が参画して、大学院教育および学部教育を行っている。また、大学院地球環境学舎へも科目を提供している。なお、フィールド研河域生態学分野は、フィールド研に農学研究科から現在参画している流動分野であり、農学研究科では応用生物科学専攻海洋生物増殖学分野として位置づけられている。

協力講座としての教員配置と学生数（2012年1月現在）

	専攻	分野	教員	ポストク など	博士後期 課程	修士課程	学部生 (4回生)
農 学 研 究 科	森林科学専攻 森林資源学講座	森林育成学分野	柴田 昌三（教授） 安藤 信（准教授） 徳地 直子（准教授） 長谷川 尚史（准教授） 寄元 道德（助教）	1	2	4(1)	4
		森林情報学分野	吉岡 崇仁（教授） 館野 隆之輔（准教授） 中島 皇（講師） 坂野上 なお（助教） 中西 麻美（助教）	0	2	3	3
	応用生物科学専攻	海洋生物増殖学分野 (流動分野)	田川 正朋（准教授） 中山 耕至（助教） 中坊 徹次 (総合博物館教授)	0	1	5	4
		里海生態保全学分野 <舞鶴水産実験所>	山下 洋（教授） 益田 玲爾（准教授） 上野 正博（助教） 甲斐 嘉晃（助教）	0	10	3(1)	0 (+2)
	(講義担当教員として協力)		梅本 信也（准教授）	-	-	-	-
理 学 研 究 科	生物科学専攻	海洋生物学分科 <瀬戸臨海実験所>	朝倉 彰（教授） 久保田 信（准教授） 宮崎 勝己（講師） 大和 茂之（助教） 中野 智之（助教）	1	2 (+2)	1	0

() 内は、休学中の学生数・+は、他分野所属だが当該分野で指導している学生数

大学院研究科への協力講座としての参画（2012年1月現在）

農学研究科森林科学専攻

森林育成学分野 教授1名、准教授3名、助教1名

森林情報学分野 教授1名、准教授1名、講師1名、助教2名

農学研究科応用生物科学専攻

海洋生物増殖学（流動分野） 准教授1名、助教1名

里海生態保全学 教授1名、准教授1名、助教2名

理学研究科生物科学専攻

海洋生物学分科 教授1名、准教授1名、講師1名、助教2名

2.1.1(2) 大学院研究科への提供科目

大学院研究科への提供科目（2011 年度）

大学院農学研究科 農学専攻

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
雑草学専攻実験	梅本ほか	I 55	修士 1・2 回生	通年	10

大学院農学研究科 森林科学専攻

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
森林情報学特論 II	館野	II 115	修士 1・2 回生	後期集中	2
森林育成学特論 II	安藤，徳地	II 116	修士 1・2 回生	後期	2
森林情報学専攻演習	吉岡，館野，中島，坂野上，中西	II 207	修士 1・2 回生	通年	8
森林育成学専攻演習	柴田，安藤，徳地，長谷川，寄元	II 208	修士 1・2 回生	通年	8
森林情報学専攻実験	吉岡，館野，中島，坂野上，中西	II 307	修士 1・2 回生	通年	10
森林育成学専攻実験	柴田，安藤，徳地，長谷川，寄元	II 308	修士 1・2 回生	通年	10

大学院農学研究科 応用生物科学専攻

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
海洋資源生物学演習	田川，中山ほか	IV 307	修士 1・2 回生	通年	6
里海生態保全学演習	山下，益田，上野，甲斐	IV 317	修士 1・2 回生	通年	6
海洋資源生物学専攻実験	田川，中山ほか	IV 407	修士 1・2 回生	通年	12
里海生態保全学専攻実験	山下，益田，上野，甲斐	IV 418	修士 1・2 回生	通年	12

大学院理学研究科 生物科学専攻動物学系

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
動物系統解析特論 A	久保田，宮崎，大和，中野	8004	修士 1・2 回生	前期	2
動物系統解析特論 B	久保田，宮崎，大和，中野	8005	修士 1・2 回生	後期	2
形態機能系統特論 A	久保田，宮崎，大和，中野	8006	修士 1・2 回生	前期	2
形態機能系統特論 B	久保田，宮崎，大和，中野	8007	修士 1・2 回生	後期	2
海洋生物学特論	久保田，宮崎，大和，中野	8040	修士 1・2 回生	前期集中	2
海洋生物学ゼミナール A	久保田，宮崎，大和，中野	8091	修士 1・2 回生	前期	2
海洋生物学ゼミナール B	久保田，宮崎，大和，中野	8092	修士 1・2 回生	後期	2
海洋生物学ゼミナール C	久保田，宮崎，大和，中野	8093	修士 1・2 回生	前期	2
海洋生物学ゼミナール D	久保田，宮崎，大和，中野	8094	修士 1・2 回生	後期	2
海洋生物学ゼミナール	久保田，宮崎，大和，中野	—	博士後期	—	—

大学院地球環境学舎 環境マネジメント専攻

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
里海学	山下	3273	修士 1・2 回生	後期前半	1
里山再生論	柴田ほか	3507	修士 1・2 回生	前期集中	1
里域植生保全論	梅本	3563	修士 1・2 回生	前期集中	2
海洋生物特性論	久保田，宮崎，大和，中野	3629	修士 1・2 回生	前期集中	2
森林育成学	柴田	3557	修士 1・2 回生	後期	2

2.1.1(3) 大学院での学位授与

2008 年度

(森林育成学分野)

修士	齊藤 誠子	一斉開花年の異なるチュウゴクザサ個体群の集団構造
	池田 邦彦	履歴の異なる焼畑休閑林でのタケ類メロカンナ・バクシフェラの一斉開花後更新初期過程
課程博士	福島 慶太郎	Process and Mechanism of Change in Nitrogen Cycling during a Forest Development after Clear-cut in Japanese Cedar Plantations スギ人工林の皆伐および植栽後の成立にともなう窒素循環の変化とそのメカニズム

(海洋生物増殖学分野)

修士	三輪 一翔	和歌山県古座川河口域周辺におけるカマキリ <i>Cottus kazika</i> 及びカジカ小卵型 <i>Cottus pollux</i> SE 仔稚魚の分布・分散の比較
	唐崎 佑	有明海筑後川におけるエツの産卵および仔稚魚の生残に河川流量が及ぼす影響

(里海生態保全学分野)

修士	高橋 宏司	マアジ <i>Trachurus japonicus</i> の学習能力の個体発生
	Yi-Ting Lien	Investigation of genetic variation of endosymbiotic algae in reef corals among climatic zones
	鈴木 健太郎	由良川水圏における水生昆虫群集と環境との関係
課程博士	陳 炳善	Study of Seed Production and Stock Enhancement Technologies of the Black Rockfish <i>Sebastes schlegelii</i> Based on Physiological and Ecological Characteristics

(海洋生物学分科)

修士	北野 裕子	オウギガニの形態の左右非対称性と行動との関連性についての研究
	豊田 史子	有櫛動物クラゲムシ類のミトコンドリアゲノム多様性についての研究
課程博士	河村 真理子	田辺湾におけるヒドロクラゲ群集と沿岸海洋環境の相互関係
	小林 亜玲	日本産カイヤドリヒドラ類の生態学的および生物地理学的研究

2009 年度

(森林情報学分野)

修士	三浦 きさと	森林認証製品の普及に関する取得事業体と消費者の意識について
----	--------	-------------------------------

(森林育成学分野)

修士	中村 真介	京都市東山のシイ林における伐採後の初期更新
修士	松浦 宜弘	滋賀県におけるハタネズミの生息地特性解析
課程博士	松山 周平	Reproductive ecology of the congeneric dioecious trees, <i>Rhus javanica</i> and <i>R. trichocarpa</i> (雌雄異株性の同属樹木(ヌルデ、ヤマウルシ)における繁殖生態学的研究)
課程博士	上田 実希	Seasonal variation in nitrate uptake and assimilation properties of evergreen and deciduous plant species in temperate forest ecosystems including winter (温帯林における常緑ならびに落葉植物の硝酸態窒素利用の冬季も含めた季節性)
課程博士	呉 初平	マツ枯れ低質林におけるアカマツ更新の初期段階の管理方法ー古都・京都のアカマツ林景観の回復についてー

(海洋生物増殖学分野)

修士	西川 泰造	異体類体色異常の発生機構ー成長履歴等からの検討ー
修士	田中 健太郎	ヒラメ変態期の形態変化におけるアポトーシス関与の可能性
課程博士	鈴木 啓太	有明海奥部の低塩分・濁度極大域における特産のカイアシ類およびアミ類の生産機構

(里海生態保全学分野)

修士	秋山 諭	丹後海由良川河口域におけるニホンハマミの繁殖特性と個体群動態
修士	大畑 亮輔	シラス型仔魚の対捕食者戦略における濁度の重要性
修士	鳥越 賢	木製魚礁の集魚効果における付着・穿孔生物の影響
修士	藤田 純太	Relationships between life history traits and genetic diversity in freshwater shrimps (Family: Atyidae) (ヌマエビ科における生活史特性と遺伝的多様性との関係)
課程博士	福西 悠一	海産魚類の初期生活期における紫外線適応の個体発生と種間差
論文博士	竹野 功璽	若狭湾西部海域におけるヒラメの漁業生物学的研究

(海洋生物学分科)

修士	西本 篤史	海底沈木を基質とする生物群集に関する生態学的研究
	原田 桂太	ザラカイメンの胃腔内に共生する 2 種のカクレエビの、住処としての利用方法の違い
	座安 佑奈	日本沿岸のオオトゲキクメイシ属 2 種 <i>Acanthastrea hemprichii</i> と <i>A. echinata</i> の種の境界を探る

2010 年度

(森林情報学分野)

修士	白井 伸章	モウソウチク林の物質循環特性：植物－土壌系の窒素内部循環と葉の形態に着目して
修士	白澤 紘明	遺伝的アルゴリズムを用いた林道の三次元線形最適化モデル
課程博士	坂本 朋美	日本における森林認証制度の展開と課題

(森林育成学分野)

修士	阿方 智子	ササの開花・枯死が森林生態系の窒素動態に及ぼす影響
修士	福井 遼	作業道における運搬車の走行負荷の評価
課程博士	新井 宏受	Factors and mechanisms that change soil organic carbon stocks and dynamics after afforestation in a Japanese coniferous plantation (日本の針葉樹人工林における人工林設定後の土壌有機炭素量及び動態に変化を及ぼす要因・機構)

(海洋生物増殖学分野)

修士	辻 寛人	変態完了後のヒラメ無眼側に発現する黒化（二次黒化）－発現過程の解析と黒化部位の特徴－
----	------	--

(里海生態保全学分野)

修士	多賀 真	トラフグ仔稚魚の成長における低塩分の有効性とそのメカニズム
修士	松井 彰子	舞鶴湾におけるスジハゼ <i>Acentrogobius pflaumii</i> 3 タイプの生息環境と生活史
修士	宮島 悠子	魚類によるクラゲ摂餌の生態学および栄養学的評価
課程博士	Antonio, E. S.	Feeding Dynamics of Benthic Communities from Yura River-Estuary to Tango Sea
課程博士	福西 悠一	海産魚類の初期生活期における紫外線適応の個体発生と種間差
論文博士	奥村 裕	Mass Balance and Bioaccumulation of Major Dioxins in Sendai Bay

2011 年度

(森林情報学分野)

修士	上田 栞由 小出 和彰	乾燥方法の違いによるスギ心持ち正角の視覚的再評価－国産材の品質管理に向けて－ 幽仙谷天然林における粗粒状有機物の流出
----	----------------	---

(森林育成学分野)

修士	米田 聡美 岩井 有加 橋本 智之	ヒノキ林土壌における無機態窒素の形態変化－総速度の季節変動とその制御要因－ シカによる過採食が集水域における下層植生の現存量および窒素吸収に与える影響 シカによる下層植生の過採食が降雨出水時の渓流水質に与える影響
----	-------------------------	--

(海洋生物増殖学分野)

修士	田路 拓人	アカシタビラメーデンベエシタビラメ間の遺伝的・形態的分化の検証
修士	大塚 春樹	クロデメキンとワキンにおける形態形成過程の相違－クロデメキン特有形態の解釈－

(里海生態保全学分野)

修士	鎌田 遼	飼育下におけるカタクチイワシ仔魚の成長特性と対捕食者能力：水温と餌密度の効果
修士	渡辺 謙太	沿岸域の植物プランクトン生産に河川流入が与える影響
課程博士	高橋 宏司	海産魚類の学習能力の個体発生とそのメカニズムに関する研究

(海洋生物学分科)

(該当なし)

2.1.2 全学共通科目

フィールド研は、学内共同教育研究施設として京都大学の全学共通科目へ多くの講義を行っている。集中講義として開講する実習が 4 科目、リレー講義を 4 科目、新入生向け少人数セミナー（ボケゼミ）を 2011 年度は 15 科目開講した。さらに、農学部の協力講座として実施している講義を 3 科目、全学共通科目としても履修できるようにしている。また、他部局が提供する全学共通科目 2 科目に教員を非常勤講師として派遣している。（B 群：自然科学系科目・A 群：人文・社会科学系科目）

全学共通科目への提供科目（2011 年度）

（講義・実習：B 群）

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
森里海連環学実習 A	山下，長谷川，上野，中西，甲斐ほか	実習	全回生	前期集中	2
森里海連環学実習 B	梅本，田川，宮崎，佐藤，大和	実習	全回生	前期集中	2
森里海連環学実習 C	吉岡，向井，館野，中山，坂野上	実習	全回生	前期集中	2
水圏生物学入門	山下，久保田，益田，田川，宮崎，大和，上野ほか	講義	全回生	前期	2
森里海連環学－森里海のつながり－	山下，柴田，吉岡，徳地，長谷川，佐藤，館野，中島，中山，畠山ほか	講義	全回生	後期	2
沿岸環境保全学	柴田，佐藤ほか	講義	全回生	後期	2
森林学	柴田，吉岡，徳地，安藤，長谷川，館野，中島，寄元，坂野上，中西ほか	講義	全回生	後期	2
暖地性積雪地域における冬の自然環境	中島	実習	全回生	後期集中	1
北海道東部の人と自然	吉岡，館野，坂野上ほか（農学部講義と合同）	実習	全回生	前期集中	2
北海道東部の厳冬期の自然環境	吉岡，館野，坂野上ほか（農学部講義と合同）	実習	全回生	後期集中	2
昆虫・魚・哺乳動物の生理学	田川ほか（農学部講義と合同）	講義	主として 1・2 回生	前期	2

（少人数セミナー：B 群）

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
原生的な森林の働き	中島	ゼミ	1 回生	前期集中	2
海岸生物の生活史	久保田	ゼミ	1 回生	前期集中	2
魚類心理学入門	益田	ゼミ	1 回生	前期集中	2
森里海のつながりを清流古座川に見る	梅本	ゼミ	1 回生	前期集中	2
C.W. ニコル “アフアの森” に学ぶ	柴田	ゼミ	1 回生	前期集中	2
フィールド実習 “森は海の恋人”	長谷川	ゼミ	1 回生	前期集中	2
木造校舎を造る：木の文化再生へ	柴田ほか	ゼミ	1 回生	前期	2
海産無脊椎動物－分類群と形の多様性	宮崎	ゼミ	1 回生	前期集中	2
森林の再生と動態	安藤	ゼミ	1 回生	前期集中	2

（少人数セミナー：A・B 群）

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
森のつくりだすもの	徳地	ゼミ	1 回生	前期集中	2
環境の評価	吉岡	ゼミ	1 回生	前期	2
日本海に遊ぶ～日本海学入門	上野	ゼミ	1 回生	後期	2
瀬戸内に見る森里海連環	中島	ゼミ	1 回生	前期	2
京をめぐる森と人の暮らし	寄元，坂野上	ゼミ	1 回生	後期	2
森を育て活かす－林業体験をとおして考える	長谷川	ゼミ	1 回生	前期	2

（他部局提供科目への協力：B 群）

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
探求型化学実験－湖と海の化学調査－	大和ほか（総合人間学部提供科目）	実験	全回生	前期集中	2
生物圏の科学－生命・食糧・環境－	吉岡，安藤，徳地ほか（農学部提供科目）	講義	全回生	後期	2

2.1.3 学部教育

農学研究科、理学研究科に協力講座を提供する分野の教員の多くは、各学部にも講義科目を提供しており、下記の様な農学部、理学部の科目を担当あるいは分担した。

2.1.3(1) 学部教育での提供科目

学部教育での提供科目（2011 年度）

農学部 森林科学科

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
森林基礎科学 I	吉岡ほか	E103	1 回生	前期	2
森林基礎科学 IV	柴田ほか	E106	1 回生	後期	2
森林育成学	柴田，徳地，長谷川，安藤，寄元	E128	3 回生	後期	2
森林植物学	安藤	E129	3 回生	前期	2
森林資源管理学	館野，坂野上	E130	3 回生	後期	2
森林環境学	吉岡，中島	E131	3 回生	後期	2
森林科学実習 IV	徳地，安藤，坂野上，寄元ほか	E214	2 回生	後期集中	1
森林総合実習及び実習法	安藤，長谷川，寄元，中島，坂野上ほか	E221	3 回生	前期集中	2
研究林実習 I	フィールド研教員ほか	E237	2 回生	後期集中	1
研究林実習 II	徳地ほか	E238	3 回生	後期集中	1
研究林実習 III	吉岡，館野，坂野上ほか	E239	3 回生	前期集中	2
研究林実習 IV	吉岡，館野，坂野上ほか	E240	3 回生	後期集中	2

農学部 資源生物科学科

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
資源生物科学概論 III	山下，田川，中山ほか	A107	2 回生	後期	2
動物生理学	田川ほか	A113	2 回生	前期	2
資源生物科学基礎実験	田川，益田，中山ほか	A118	2 回生	後期	1
海洋生物科学技術論と実習 I	田川，益田，上野，中山，甲斐ほか	A205	2 回生	前期集中	2
海洋生物科学技術論と実習 II	山下，上野，甲斐ほか	A206	2 回生	前期集中	2
植物調査法と実習	梅本ほか	A208	2 回生	前期集中	2
海洋生物生態学	山下，田川，益田，上野，中山，甲斐	A224	3 回生	前期	2
資源生物科学専門外書講義 II	田川，中山ほか	A237	3 回生	前・後期	各 2
資源生物科学実験および実験法 I	資源生物科学科教員（田川，中山ほか）	A238	3 回生	前・後期	各 6
資源生物科学実験および実験法 II	資源生物科学科教員（田川，中山ほか）	A239	3 回生	前・後期	各 6
海洋生物生理学	田川	A248	3 回生	後期	2
魚類学	中山，甲斐ほか	A250	3 回生	後期	2
海洋生物資源学演習	田川，中山ほか	A512	4 回生	通年	2

理学部 生物科学科

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
無脊椎動物学	久保田，宮崎	2708	2 回生以上	後期	2
臨海実習第 1 部	久保田，宮崎，大和，中野	2733	2 回生以上	前期集中	2
臨海実習第 2 部	久保田，宮崎，大和，中野	3767	3 回生以上	前期集中	2
臨海実習第 4 部	久保田，宮崎，大和，中野	3769	3 回生以上	前期集中	2
生物学セミナーB	久保田，宮崎，大和，中野ほか	3761	3 回生以上	後期	2

2.1.3(2) 学部での学位授与

2008 年度

(森林情報学分野)

学士 上田 菜由 京都市雲ヶ畑地域における森林管理の現状と今後の展望

(森林育成学分野)

学士 白濱 圭通 土地利用と地質が有田川水系の水質に与える影響

(海洋生物増殖学分野)

学士 西本 麻梨絵 東アジア産のハゼクチ *Acanthogobius hasta* (スズキ目ハゼ科) 2 型についての研究
辻 寛人 由良川天然遡上アユの孵化時期と成長
宮島 悠子 カワハギの餌料としてのミズクラゲの有効性
佐久間 啓 若狭湾西部丹後海のベントス群集

2009 年度

(森林情報学分野)

学士 大槻 あずさ 由良川流域における溶存有機物の動態と分布に関する考察

学士 河本 晴恵 由良川流域における溶存鉄の分布に関する考察

(森林育成学分野)

学士 市川 隆史 路線開設コストを考慮した素材生産作業システムの選択

学士 岩井 有加 スギ・ヒノキコンテナ苗の形態的特徴と植栽後の成長

(海洋生物増殖学分野)

学士 大塚 春樹 クロデメキンの形態形成一ワキンとは異なる特有形態の確立過程一

学士 田路 拓人 有明海産ワラスボの遺伝的多様性の分析及び韓国産との比較

学士 渡辺 謙太 由良川河口域における植物プランクトン群集の季節変化

2010 年度

(森林情報学分野)

学士 三木 敏裕 京都府中丹・南丹地域における木材生産と流通の変化一森林組合・素材生産業者の事業展開を中心に一

(森林育成学分野)

学士 池山 祐司 マルチシートの敷設による下刈作業代替の可能性

学士 小森 由衣 林業・木材利用に関する消費者・林業関係者への意識調査

(海洋生物増殖学分野)

学士 越後 はるな ヒラメの白い無眼側体表が傷修復によって黒くなる現象について

学士 東海林 明 Two morphotypes of *Pempheris nyctereutes* (Pisces: Pempheridae) based on the specimens from the Pacific coast of southern Japan

学士 吉川 尚樹 祖先的なカレイ目魚類ボウズガレイの親魚適正の検討

(海洋生物学科)

学士 藤本 心太 和歌山県田辺湾の海産クマムシ相に関する研究

2011 年度

(森林情報学分野)

学士 石井 勝之 Overabundant deer impact on soil nitrogen dynamics in grassland
鈴木 伸弥 窒素と酸素同位体組成を用いた由良川流域における硝酸塩の供給源の評価
山田 優志 (講義科目単位で卒業)

(森林育成学分野)

学士 日高 渉 アラカシの硝酸還元に伴う根呼吸の定量 ～¹⁴C02 パルスラベリングを用いて～

牧野 奏佳香 暖温帯二次林におけるコナラの個体レベルの窒素動態

森田 玲 東日本大震災・被災地における森林資源の実態と資源利用の可能性 ～宮城県気仙沼市唐桑町舞根をモデルとして～

(海洋生物増殖学分野)

学士 古田 真珠 人口種苗マナマコの成長に伴う日周性の変化

学士 磯島 俊実 ヒラメ無眼側への着色型黒化の進行過程

学士 木村 一晶 Morphological variation in a gobiid fish, *Luciogobius guttatus* Gill, 1859 from Japan (Teleostei: Gobiidae)

学士 山田 諒 外来海産魚タイリクスズキによる外来スズキへの遺伝的攪乱の検討

2.1.4 公開実習

2.1.4(1) 公開臨海実習

公開臨海実習は、国立大学法人臨海臨湖実験所長会議に所属する主として理学系の臨海実験所やセンター20施設が、毎年全国の大学の大学生、大学院生を対象に、それぞれの独自の専門分野で、それぞれの好適な時期に、1回の実習につき1週間前後の期間で開講する実習である（1大学が複数回実施可能）。文部科学省の財政的支援を受けており、参加学生には単位互換制度にもとづき、実施大学が1～2単位を与える。瀬戸臨海実験所の参加実績は6章の4を参照のこと。

多様で恵まれた自然環境に立地する瀬戸臨海実験所周辺に生息する無脊椎動物の多様性の認識を基礎とした「系統分類・生態・進化」について、磯浜や実験所所有の島島での現場観察、船舶（実習研究船ヤンチナ）からの採集・観察、各種の観測機器による海洋観測、実習室での各種装置・機器や顕微鏡などを使用した観察や解析、さらには一般公開している水族館を活用した各種動物群の形態、生態、遺伝子解析、系統分類など多岐にわたる実習を実施している。

参加全大学が一律に実施するアンケート調査によると、瀬戸臨海実験所に対する評価は高い。実施時期（夏季と春季の1回ずつ）、期間（7泊8日ずつ）は適正であり、多岐の内容にわたる実習では、生息環境に関する体験やデータの採取などとあわせ、各動物門の系統分類・生態・進化などに関する基礎的な知見と認識が得られたことが常に記されている。また、他大学の学生・院生との交流の場としての機能も評価されている。参加者数は以下の通り。

公開臨海実習参加大学数と参加学生数

年度		大学数	学生数
2008年度	夏	4校	5名
	春	7校	7名
2009年度	夏	4校	4名
	春	10校	11名
2010年度	夏	2校	4名
	春	6校	8名
2011年度	夏	3校	3名
	春	4校	9名

2.1.4(2) 海洋生物科学技術論と実習Ⅰ，Ⅱ

実習期間：（Ⅰ）2011年8月19日（金）～25日（木）／（Ⅱ）2011年8月25日（木）～31日（水）

募集定員：各5名以内

対象学生：農学・水産学・生物環境学系の2・3年生。

2011年度より公開実習となった。海洋観測や魚類・ベントス調査を主とした実習で、舞鶴湾内の多点において水温・塩分・光強度・流速などの基礎的な海洋調査、砕波帯における仔稚魚調査、魚類分類学および解剖学実習などを行う。

2.1.4(3) 公開森林実習

実施期間：2011年9月5日（月）～7日（水）

募集定員：10名

対象学生：農学・森林科学系の学部レベルの学生。主として2・3年生

全国大学演習林協議会の取り組みの一環として2010年度から開催。ただし2010年度は公開実習としての参加者はなく、人間環境大学および京都学園大学との共同利用実習での参加者のみ。

また2011年度は、公開森林実習として単位互換する特別聴講生と、特別聴講生とならない一般聴講生、加えて先の2大学の共同利用実習生が参加する形で実施された。内容としては里域から森林域にわたる近畿圏の多様な自然や森林景観の特徴について基礎的知識を習得することを目的としている。特に、暖温帯林と冷温帯林の移行帯の特徴を示す天然林内の木本植物や草本植物、ツキノワグマやニホンジカの生態や被害状況等の現地観察、外国産樹種見本林やマツ属の成長量・二次林の植生変化に関する研究資料や標本データを用いた解析の実践を学ぶ。

2.1.4(4) 森里海連環学実習 A

実習期間：2011 年 8 月 8 日(月)～12 日(金)

募集定員：10 名

対象学生：学部生、文系・理系を問わない

2011 年度より公開実習となった。森林域、里域、農地、都市などの陸域の環境が、河川の水質、生物多様性、沿岸域の生物環境にどのような影響を与えているかを分析し、川を通した森から海までを生態系の複合ユニットとして、科学的に捉える視点を育成することを目的とした実習を行う。水質（水温、塩分、電気伝導度、溶存酸素、COD、硝酸態窒素、アンモニア態窒素、珪酸、懸濁物質）調査、魚類、水生昆虫などの水生生物の採集調査および土地利用様式の調査を行った。

2.1.5 他大学実習の受け入れ

各地施設では全国のさまざまな大学の実習を受け入れており、その内容はきわめて多岐にわたる。通常の理系（例えば信州大学理学部の分析化学持論実習、受入施設：瀬戸臨海実験所）、自然誌系（例えば大阪府立大学大学院・生命環境科学研究科の緑地環境科学実験実習、受入施設：和歌山研究林）から、文系（例えば京都精華大学人文学部環境社会学科自然教育論、受入施設：上賀茂試験地）、教育系（例えば京都造形芸術大学・こども芸術学科の科目「こどもといのち」、受入施設：芦生研究林）、芸術系（例えば京都造形芸術大学・日本庭園歴史遺産研究センターの The Japanese Garden Intensive Seminar、受入施設：芦生研究林）まで様々である。受け入れ実績（大学名、科目名、参加人数等）は 6.4.3 を参照のこと。

2.1.6 他大学生研究の受け入れ

各地施設では全国のさまざまな大学の学生にフィールド研究の場を提供している。例えば、奈良女子大学、神戸大学、大阪大学から卒業研究などのために、施設を利用している。受け入れ実績は 6.3 を参照のこと。

2.1.7 自己総合評価、課題、展望

フィールド研は、研究林、試験地、臨海実験所、水産実験所などのフィールド施設を有効に利用し、京都大学におけるフィールドを基盤とした教育研究において大きな役割を果たしていると評価できる。今後もこれまでの高い活性を維持するとともに、以下のような展望を持って教育、研究を推進する必要がある。

(1) 国際的な教育研究拠点の形成：国内における森里海連環学の教育と研究の拠点は整備されつつある。森里海連環学に関する教育・研究をさらに推進するためには、とくに我が国では得がたい熱帯環境を有するフィールドが必要であり、東南アジアの大学と密接な連携を図り、熱帯域フィールド拠点の構築をめざすことが重要な課題として残されている。2006 年にマレーシア・サバ大学と学術協力協定を締結し、人と情報の交流を開始した。今後これを足がかりに、森里海連環学教育と研究の国際的な展開を図りたい。

(2) 海域・陸域の統合的管理に関する教育研究部門の設立：個別に細分化された縦割りの専門教育では、深刻さを増す地球環境問題に対処できる人材を育てることはできない。フィールド研では、森里海連環学を核に、経済や法律なども含めた科学分野を広く複合的に把握できる人材を育成するため、森里海連環学教育に特化した専門セクションを構築する意義は大きい。民間からの外部資金などを積極的に導入し、教育研究部門の設立を目指す必要がある。この件については、日本財団からの助成により、2008 年 10 月から海域陸域統合管理研究部門が新設された。

(3) 独立研究科の設置：フィールド研は独自の大学院を持たない。しかし、フィールド研が生態系研究を基礎とした理農融合型の教育研究を目指していることや、大型の教育研究プログラム等では大学院のない部局は主体的な応募ができないことが多く、特色のある教育研究の推進において、大きな障害となっている。関係する他部局との連携の中から、直接的に大学院生を指導できる新たな研究科の設置を目指す方向性を検討する必要がある。

(4) 他大学と連携した実習の強化、実習情報の共有、実習教育技術の改善：すでに北海道大学北方生物圏フィールド科学センターと森里海連環学実習を共同開催しているが、フィールド実習における大学間、部局間の交流をさらに推進すべきである。また、実習において得られた情報を大学間、部局間で共有できる体制の構築は、実習の効率的な運営において大きな意義がある。新たな実習教育技術の導入等に関して大学間や部局間で情報交換を行い、効果的なフィールド教育コンテンツの開発を目指すシステムが求められている。

2. 2 研究活動

2.2.1 森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）

研究期間：2009 年～2013 年

研究経費の項目：概算要求事業（運営費交付金特別経費プロジェクト分）

連携研究機関等：高知県立森林技術センター、高知県環境研究センター、高知県水産実験所、京都府森と緑の公社等

木文化プロジェクトは、先行していた旧仁淀川プロジェクトと由良川／旧若狭湾海域・陸域統合プロジェクトを統合する形で、2009 年度から 2013 年度の 5 年計画で新たに開始した研究プロジェクトである。2 つの流域でサブプロジェクトを構成しており、それぞれ木文化仁淀川プロジェクト、木文化由良川プロジェクトと呼んでいる。本プロジェクトでは、荒廃していると危惧されている日本の人工林に対して間伐等を実施する際の施業面での課題、施業の森林流域環境への影響評価、流域・沿岸域社会へのインパクトなどを統合的に解明することを目的として、(1)森林施業による森林および流域環境への影響解析、(2)木質資源利用過程の追跡調査と地域資源利用方法の提案、(3)森林管理活動が流域住民の意識に及ぼす影響の解析、(4)河川と沿岸域の生態学的な連環機構の解明などに取り組んでいる。また、意識調査に関しては、2 つの流域で共通するアンケートを実施しており、国産材に対する認識や森林所有者の森林管理に関する意識を解析している。2009～2011 年度の進捗状況は以下の通りである。

【木文化仁淀川プロジェクト】

仁淀川流域を中山間地域における諸問題を克服するためのモデルケースと捉え、上流部の間伐遅れ人工林での間伐の実施が、水質や生物相等の周辺環境および中山間地域の文化と流域住民の意識に与える影響について解析を行っている。このプロジェクトでは高知県や仁淀川町等の自治体のほか、林産企業組合および森林組合等の事業体、地元 NPO、森林総合研究所四国支所等の多大な協力を得て調査を進めている。具体的な調査項目としては、間伐前後の植生・土壌・物質循環・水質・生物相の変化の把握、持続的に人工林を管理するための作業システムの評価と管理コストの予測によるゾーニングと基盤整備に関するモデル構築、伐り出された間伐材の流通の調査を行っている。間伐施業のための作業道作設によりアクセスが容易となることで山奥での祭りが活性化するという事例が観察された。間伐施業が、森林流域環境に影響を及ぼすのみならず、地域の社会や文化にも影響を及ぼし得ることが明らかとなった。

【木文化由良川プロジェクト】

由良川流域における土地利用・土地被覆と河川水質の関係性を明らかにし、河口沿岸海域での物質循環・生物生産のモデル化や、間伐施業による森林環境・河川水質への影響を評価するための伐採実験、ニホンジカによる植生の食害に関するシカ排除実験を実施している。河川水質に関しては、流域の土地利用のうち農地や市街地の割合が大きいほど、窒素栄養塩の 1 つである硝酸態窒素や溶存鉄、溶存有機物の濃度が高いことが明らかとなり、由良川水質への人間活動の影響の大きさが示唆された。一方、流域の 99%以上を森林が占めている源流域では、これらの濃度変動が大きいことも明らかとなった。由良川河口では、夏に海水が遡上する「塩水楔」と呼ばれる現象があるが、数値実験を行った結果、塩水の遡上距離は河川流量の増減にすみやかに応答していることなどが明らかとなった。河口から海域にかけての植物プランクトンの動態や一次生産、餌料プランクトン生産とそれを利用する両側回遊性魚類の生態調査も実施し、河川水質との関係の解析を進めている。

2.2.2 NaGISA (Natural Geography In Shore Area)プロジェクト

研究期間：2000～2010 年

研究経費の項目：寄付金（スローン財団：アラスカ大学フェアバンクス校、日本財団、神戸国際観光コンベンション協会、中内力コンベンション振興財団）など

連携研究機関等：国立環境研、アラスカ大学フェアバンクス校、サイモンボリバー大学、ピサ大学、インドネシア科学院海洋研究所、ブーケット海洋生物学センター、ベトナム海洋生態学研究所、フィリピン大学ベサイヤス校、マレーシア科学大学

NaGISA (Natural Geography In Shore Area) プロジェクトは、世界中に生息する海洋生物の多様性、分布、個体数を評価し解明するために企画された科学研究プログラムである海洋生物のセンサス (Census of Marine Life, CoML, <http://www.coml.org/>) プロジェクトの中のひとつのフィールドプロジェクトである。白山義久教授 (当時) が研究主任を務め、瀬戸臨海実験所を本部として北米・南米・東南アジアなどを中心に、すでに 20 カ国以上が参加している国際プロジェクトでもある。

このフィールドプロジェクトは、沿岸生物の多様性の地理的パターンを地球規模で明らかにすることを目指しており、すべての参加者が統一された方法で海洋生物を採集・分析し、そのデータを持ち寄って地域間比較をする。2010 年までに、全世界にわたるデータを集積し、今世紀初頭での世界の沿岸生態系の全体像を明らかにすると共に、今後心配される地球環境の変化に伴う海洋生態系の変化をモニターするための基礎資料を提供しようとしている。

2003～2005 年度には、本プロジェクトに参加する研究者の組織づくりと、予備的なサンプリングを各国において実施した。これらのサンプルの分析とその結果の相互検討のために、2006 年には、神戸で国際会議を開催した。この国際会議での研究発表は論文集を、2007 年上半期に瀬戸臨海実験所の出版する学術雑誌 (Publications of the Seto

Marine Biological Laboratory) として出版した。2010 年には COP10 のサイドイベントとして、国際会議を名古屋で開催した。またその際の発表論文を 2011 年に瀬戸臨海実験所の出版する学術雑誌 (Special Publication Series, Publications of the Seto Marine Biological Laboratory) として出版した。さらに、追加の論文を瀬戸臨海実験所の出版する学術雑誌 (Publications of the Seto Marine Biological Laboratory) として出版した。

その他、6 編の学術論文を PLoS One の特別セクションとして、出版した。

NaGISA の後継プロジェクトは 2012 年現在、複数実行されている。(例：地球環境推進費 S-9)



NaGISA の参加国と、各地域に設置した地域センターの場所

2.2.3 舞鶴湾ナマコ資源増殖推進事業

研究期間：2009 年度～2011 年度

研究経費の項目：受託研究

連携研究機関等：舞鶴市役所、京都府漁業協同組合等

マナマコは、舞鶴湾の漁業重要種にも関わらず、漁獲量は 1970 年代をピークに減少傾向にある。さらに、近年は中国での需要拡大にともない漁獲圧が高まっており、資源の管理がますます困難な状況にある。舞鶴湾ナマコ資源増殖推進事業は、そうした背景のもとに舞鶴湾のナマコ資源の増殖を目的として 2009 年度から 2011 年度の 3 年計画で開始した研究プロジェクトである。本プロジェクトでは、(1)人工種苗生産技術の開発、(2)効率的な天然採苗方法の確立、(3)舞鶴湾のマナマコの分布推定、(4)舞鶴湾の環境評価に取り組んだ。また、漁業者を対象とした研究報告会を毎年 1 回から 2 回実施し、資源状態の共通認識や資源管理に向けた意見交換を行った。

【1. 人工種苗生産技術の開発】

種苗放流がマナマコの資源を回復させ持続的に利用していく方法の一つであると捉え、舞鶴湾における効率的な人工種苗生産技術の開発を行った。本研究では、効率的に受精卵を確保するための産卵誘発剤の投入タイミングや受精方法、生残率をあげるための浮遊幼生と稚ナマコの飼育方法などを確立した。特に飼育方法に関しては、効率的な種苗生産技術として屋外での無給餌飼育や小型甲殻類の食害対策としてマアジとの共同飼育などが提案された。これら人工種苗生産方法は、研究報告会において漁業者らに報告したほか、マニュアル化することにより技術の伝達を行った。なお、本研究は、福井県水産試験場、長崎県水産試験場などから種苗生産技術に関する技術協力を得て実施した。

【2. 効率的な天然採苗方法の確立】

舞鶴湾での効率的な採苗場所を検討するため、舞鶴湾の湾口から湾奥の 14 地点に採苗器を設置し、稚ナマコの付着数、体重および体長を計測した。流れの穏やかな湾奥部には、マナマコの幼生が好む環境もしくはこれらを受動的に集積させる環境が存在するため、効率的な採苗が行えると考えられた。また、採苗場所の検討以外にも本研究では、採苗容器、付着材料、付着材料の量、設置深度、設置時期、回収時期の検討を行い、舞鶴湾での効率的な天然採苗方法を明らかにした。

【3. 舞鶴湾のマナマコの分布推定】

資源を評価する際に最も基本的で重要な判断材料の一つが資源量の推定である。そこで本研究では、舞鶴湾のマナマコの分布を推定した。推定は、舞鶴湾のマナマコの漁獲情報やナマコ漁師を対象に行った聞き取り調査の情報をもとに、地球統計学的手法 (ArcGIS による解析) をもちいて舞鶴湾全地点の分布密度を求めた。さらに、この分布結果をもとに、舞鶴湾の現存量を推定した。

【4. 舞鶴湾の環境評価】

海底環境は、海水の流動や有機物負荷など水域の環境要素を総合的に反映する指標となり、マナマコの生息に大きく影響している。そこで本研究では、底泥の中央粒径値、淘汰度、全有機態炭素量、全窒素量、CN 比、炭素安定同位体比、窒素安定同位体比などを指標に舞鶴湾の底質を評価し、環境に基づく水域区分を行った。その結果、舞鶴湾は東湾奥区、それ以外の沿岸区と湾中央区の3つに区分された。特に東湾奥区は、D0 が低い傾向にある区とされた。舞鶴湾の東湾奥は、流れが弱く、有機物の多い環境となっているが、D0 が低くマナマコにとっては最適な環境ではないと考えられた。

2.2.4 古座川プロジェクト

研究期間：2004 年度～

研究経費：運営費交付金

連携研究機関等：古座川流域協議会ほか

古座川の概要と現状

古座川は本州中部の紀伊半島南部に鎮座する霊峰、大塔山（標高 1,121m）を源流に持ち、緩やかに太平洋へ注ぎ込む、全長が約 56km の清流であった。小川（こがわ）、佐本川など、7 本以上のきわめて清浄な支流を持つ。古座川は古来から熊野と呼ばれている地域の南半分近くを古座川は集水域とする。流域は鬱蒼とした照葉樹林帯に覆われ、伝統的な文化構成要素が今なお息づいている。最近、熊野地方の紀伊山地と霊場が「世界遺産」に登録されたが、古座川流域および暖流黒潮とともに古座川河川水の影響を強く受ける串本湾はそうした風土的基盤の一つである。

昭和 31 年（1956 年）に古座川本流中流部に治水と発電を主な目的とした七川（しちかわ）ダムが完成、供用された。ところが、発電のための水位調節可能幅が狭小な上に、日本一の多雨地帯に近く、台風や集中豪雨に頻繁に見舞われるため、ダム施設そのものを洪水から守るために放流または緊急放流を実施してきた。この放流処置の結果、ダムの下流、特に河口域から串本湾に広がる里海の生態系に対して甚大な影響を及ぼすことになった。流域および湾岸住民からは、ダム設置やダム放流とそれに伴う水質の変容が、近年見られる魚貝類や青海苔の漁獲量の減少、ひいては流域全体の繋がりの分断化や「へたり」と関連しているのではないかと指摘されてきた。

古座川プロジェクトの目的と意義

2004 年から着手した「古座川プロジェクト」の第 1 の目的は、この古座川水系と串本湾岸域を中心に据え、森林生態系と沿岸海洋生態系の密接な関連を、自然域や里域からの影響を考慮しつつ明らかにすることにある。また、本プロジェクトから得られた研究調査成果を地域住民に還元し、社会連携しながら清浄・適正な古座川と串本湾を取り戻すことが第 2 の目的である。こうした背景のもと、本プロジェクトから得られる共生モデルが国際的に認知され評価されるように最善の努力を注ぎたいと考えてきた。

フィールド研が目指す森里海連環学の創生と醸成、発展を、フィールドに軸足を置きながら、理解されやすい形で実行するためには、対象とする自然域と里域が包含する森林、川、里、海が程よい大きさであることが望まれる。また、対象里域がもつ文化的基盤の同質性も重要である。この点で、流域面積が約 300km² の古座川水系は至適である。さらに、古座川および串本湾域とその近くには、フィールド研が擁する紀伊大島実験所や瀬戸臨海実験所だけでなく、北海道大学和歌山研究林が位置し、長期にわたる総合的研究調査にも好適である。過疎化さらには 2011 年秋の甚大な風水害にもかかわらず、住民感情は良好である。

古座川プロジェクトの総合的展開

このプロジェクトは、単なる研究プロジェクトではなく、森里海連環学術の理念を実現するモデルとして、森里海連環学の将来を担う若手研究者の養成、全学共通教育フィールド、小中高フィールド教育の場、社会人生涯教育の場などとしても整備を進めるとともに、古座川町ならびに和歌山県との多様な地域連携を進めるモデルケースを視野に入れての総合的な展開が期待される。京都大学の全学共通教育である森里海連環学関連の少人数セミナー「清流古座川に森と里と海のつながりを見る」、「森里海連環学実習 B」のほか、古座川シンポジウムや講演会など多様な取り組みを進めている。

古座川プロジェクトの実施状況と展望

2004 年度からフィールド研・初代センター長の田中克名誉教授が創始した「古座川プロジェクト」を実現・支援すべく、2005 年度から古座川シンポジウムが毎年 2 回程度、古座川合同調査が毎月に行われている。合同調査隊は地質、地震、気象、景観、顕花植物、シダ植物、蘚苔類、地衣類、昆虫、動物、鳥類、水質、文化、歴史、聞き書きなど多数の班に分かれ、全体として柔構造を取りつつ鋭意それぞれのテーマに取り組んでいる。2011 年までの活動内容は「古座川合同調査報告集 第 1 巻～第 6 巻」として既に刊行された。

一方、2005 年度における古座川流域協議会設立準備会を経て、2006 年度からは古座川流域および串本湾岸域に関連する県、地方自治体、各種団体を統合した古座川流域協議会を発足させ、総会ならびに幹事会を通して古座川プロジェクトは地域と密接な連携を取りながら、各種検討会の開催、現地共同調査を実施することにした。いずれの活動も

地域やマスコミの注目を引き、全国紙や地域紙、NHK や民放、地域ケーブルTV、紀伊大島実験所 HP などでは逐次紹介されている。

「古座川プロジェクト」は、その具体的実践結果であり、教育関係資料を提供する「古座川合同調査」、毎月の古座川合同調査報告（電子版）、さらには「古座川合同調査報告集」と共に、古座川流域ならびに串本湾岸域の方々、関係機関その他各位、手弁当で参加していただいた調査メンバー各位のご援助を受けながら、森里海環学的視座の元、古座川の清流化、関係地域の水相、生物相、文化相の診断と適正化を目指し、少なくとも 50 年間継続する予定に変更は一切ない。

2.2.5 21 世紀 COE プログラム「昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生」

研究期間：2004 年度～2008 年度

研究経費名：COE 研究拠点形成等補助金

研究組織：拠点リーダー：藤崎憲治（京都大学大学院農学研究科）

事業推進担当者所属機関：農学研究科、フィールド研

本拠点の 21 世紀 COE プログラムは、平成 16 年度に「革新的な学術分野」で採択された。地球上の動物の中で最大群を成す昆虫類は、4 億年という長大な進化史を通して、きわめて多様な形態と機能（生態）を培ってきたが、それは言わば生き延びるための“智慧”の結晶のようなものである。その智慧に学び、それを食料・環境問題など地球的課題の解決に資する教育・研究の拠点を創ろうとするのが、本プログラムの目的であった。

しかし、中間評価では「昆虫学全般にわたる課題に拡散するのではなく、絞られた当面の目標を的確に追究し、拠点形成に一層の努力を要する。」と厳しい評価を受けた。評価に従って当初計画を(1)生態調和型新規防除科学素材の開発と(2)環境インパクトの解析の2つに絞り、結果として上記2課題に関する特筆すべき以下の成果を挙げることが出来た。

(1)生態調和型新規防除科学素材の開発

- ・温暖化により日本上陸が懸念されるミバエ類誘引物質の同定
- ・脱皮ホルモン様活性化化合物による昆虫種間選択毒性発現機構の解明
- ・サソリ毒液からの殺虫性ペプチドの単離と構造決定
- ・植物に抵抗性を誘導する昆虫由来エリシターの生態学的意味の解明

(2)環境インパクトの解析

- ・温暖化に伴うミナミアオカメシの発生動態予測
- ・太陽光紫外線による、植物ダニ類に対する致死効果と、卵色の紫外線耐性への影響と母性効果の解明
- ・訪花性昆虫と彼らが運搬する花粉粒の直接遺伝解析による、生物間相互作用および環境変動インパクトの解明

この他の特徴的なプログラムと成果を示すと、

○大学院生に対する教育プログラムとして、国際性の強化を行うために、短期留学制度 9 件を採択し、英語教育(3 年間)を充実させた。一方で国際共同研究を推進した。

○副指導教員制度を導入し、フィールド教育実践のために、フィールド教育プログラム 4 回実施して、拠点の大学院生には受け身(教えられる)のみの対応や専門性だけに優れていることを目標にするのではなく、人に教える能力や総合的視野を持つ人材の育成をめざした。

○環境教育の実践を鹿児島県奄美大島で行った。京都大学・「龍郷町環境教育プロジェクト」・龍郷町教育委員会と龍郷町立全小中学校の3者が連携する「日常的な環境教育」を実現し、「産官学民連携プロジェクト」となった。

この他、5 年間に国際シンポジウム 3 回、国内シンポジウム 1 回、昆虫科学セミナー 37 回、学生セミナー 4 回、講演会 1 回の開催、TA40 名、RA108 名、COE 研究員 45 名の採用、論文 251 編、総説・解説 27 編、特許 1 件、学術上の表彰 22 編の発表などが挙げられ、本拠点の研究員・大学院生は広島大学准教授、九州大学助教、島根大学助教、大阪府立大学助教、秋田県立大学助教 2 名、大阪人間科学大学講師、千葉県職員、農業食品産業技術総合研究機構中央農業研究センター研究員、京都大学化学研究所助教等の教育研究機関に採用になっている。

2.2.6 海域陸域統合管理学プロジェクト

研究期間：2008 年度～2011 年度

研究経費の項目：寄付金・助成金

連携研究機関等：日本財団、京都府、高知県、北海道厚岸町

フィールド研では、日本財団の助成を得て、「海域陸域統合管理学研究部門」を設置し、森里海連環学を通じた沿岸域管理のあり方を考えさせ、人材育成を目的とした事業を行った。事業の全体期間は、2008 年度から 2011 年度までの 4 年間で、以下の事業を行い、海域陸域統合管理学研究、学部生・大学院生の教育、社会への情報発信を実施した。また、本事業を基盤として、2012 以降に大学院生を対象とした「森里海連環学教育プロジェクト」へ発展させた。このプロジェクトのために、2008 年 10 月に有期雇用教員（教授 1 名、准教授 1 名）を採用した。教授は沿岸環境管理学、

准教授は環境法学・経済学分野とした。また、教員の研究および教育活動を補助するために、リサーチアシスタント1名と事務補佐員1名を雇用した。

1) 講義：

全学共通科目として以下の5つの科目(1)～(5)、大学院で1科目(6)を開講し、教育を行った。

- 「海域・陸域統合管理論」「森里海連環学」「森林学」「水圏生物学入門」
- (1)水圏生物学入門(2008-2011年度)約350名(年間平均数聴講学生約)
 - (2)海域陸域統合管理学(2008-2009年度)約60名
 - (3)沿岸環境保全学(2010-2011年度)約40名
 - (4)森里海連環学(2008-2011年度)約110名
 - (5)森林学(2008-2011年度)約100名
 - (6)環境政策評価論(大学院：2010-2011年度)約15名

2) 実習：

上記講義をフィールドで実際に体験する教育のために、フィールド科学教育研究センターの施設のある京都府、和歌山県、北海道において以下の3つのコースで野外体験型実習「森里海連環学実習」を全学共通科目として学部学生を対象に実施した(2008-2011年度)。

- (1)森里海連環学実習A(由良川流域・丹後海、京都府)参加者5-13名
- (2)森里海連環学実習B(古座川流域・沿岸域、和歌山県)参加者8-16名
- (3)森里海連環学実習C(別寒辺牛川流域・厚岸湖、北海道)参加者14-19名

3) 社会連携教育：

地域連携講座

- (1)由良川地域連携講座(由良川市民講座)
 - 2008年度テーマ「自然とくらす、自然とつながる」参加者約200名
 - 2009年度テーマ「森・里・海の対話」参加者約180名
 - 2010年度テーマ「森・里・海の対話」参加者約130名
 - 2011年度テーマ「森・里・海の対話」参加者約90名
- (2)仁淀川地域連携講座
 - 2009年度テーマ「森から里を経て海に至る連環を再生するために一日本の“木文化”創出をめざして」参加者約70名
 - 2010年度テーマ「森・里・海」参加者：高校生約50名を含む200名
 - 2011年度テーマ「国際森林年を“森林・林業再生プラン”実行元年とするために」参加者約250名
- (3)別寒辺牛川地域連携講座
 - 2008年度テーマ「厚岸湖と厚岸湾はなぜ生産性が高いのか」参加者約140名
 - 2009年度テーマ「森と海をつなぐ川の環境をどう守るか」参加者約100名
 - 2010年度テーマ「流域管理と住民参加ー環境保全の担い手へー」参加者約80名
 - 2011年度テーマ「森から海へー海域環境の保全と人のくらしへー」参加者約70名
- (4)東北地域連携講座「森里海と沿岸管理ー東北沿岸の復興をどう進めるかー」参加者約200名

市民公開講座

2009年 合計2回

テーマ「海上輸送と生物多様性」「河川・海洋における化学物質の管理」参加者 約130人

4) 国際シンポジウム：

International Symposium on Integrated Coastal Management for Marine Biodiversity in Asia (アジアにおける海洋生物の多様性保全のための統合的沿岸域管理に関する国際シンポジウム)を下記のように開催した。

開催日時 2010年1月14日～15日

開催会場 京都テルサ(京都市)

参加者は、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム、バングラデシュ、インド、中国、ウクライナ、オーストラリア、イギリスからと日本の研究者、行政、NGOなどの人たち、合計63名が参加。二日間にわたって、森里海連環学、生物多様性、海洋保護区(MPA)、教育などの視点から統合的沿岸域管理(ICM)の問題で、熱心な議論が繰り広げられた。

5) ICMセミナー：

第6回～第16回まで11回開催し、12名が講演を行い、参加者と議論した。

6) 教科書：

『改訂増補 森里海連環学』の出版 2011年9月

2.2.7 環境省自然環境局生物多様性センターの生物多様性国家戦略に基づく重要生態系監視地域モニタリング事業（モニタリングサイト 1000）

研究期間：2007 年度～

研究経費の項目：寄付金

連携研究機関等：環境省、自然環境研究センター

モニタリングサイト 1000 は、日本列島の多様な生態系について、全国 1,000 カ所程度のモニタリングサイトにおいて、生態系の指標となる生物種の個体数の変化等のデータを継続的に収集していく環境省の事業である。フィールド研では、和歌山研究林・芦生研究林・上賀茂試験地が登録されている。これらのサイトでは原則として 5 年に一度の毎木調査、落葉落枝・落下種子調査、地表徘徊性甲虫調査、鳥類調査を毎年実施している。得られたデータは全国でまとめられ、長期の変動の解析に用いられる。

2.2.8 JaLTER (Japan Long-Term Ecological Research)

研究期間：2006 年度～

研究経費の項目：運営費交付金

連携研究機関等：文部科学省、参加各機関、

JaLTER は、人間社会的側面を含む生態学的研究に関する学際的な長期、大規模な調査・観測を推進することにより、社会に対して自然環境、生物多様性、生物生産、生態系サービスの保全や向上、持続可能性に寄与する適切な科学的知見を提供することを目的として設置された。国際長期生態学研究ネットワーク (International Long-Term Ecological Research Network) と密接に連携している我が国の長期生態系観測ネットワークである。フィールドセンターでは、瀬戸臨海実験所・和歌山研究林がコアサイトとして、舞鶴水産実験所が準コアサイトとして登録されている。研究テーマとして、「気候変動下における生物多様性・生態系機能の応答とフィードバック」、「陸域から海洋生態系にまたがる水文・生物地球化学過程と生態系相互作用」、「多次元スケールでの生態系観測網構築と観測技術開発」を柱としている。

2.2.9 研究成果の発表（専門誌の出版）

フィールド研では、専門誌として、森林系の研究成果を発表する「森林研究」（和英文誌）と海洋系のものを発表する英文誌「Publications of the Seto Marine Biological Laboratory」の 2 誌を出版している。前者は森林ステーションが、後者は瀬戸臨海実験所が編集を担当している。

自己点検評価期間中には次の論文が発表された。

□森林研究

Vol. 77 (2008)

— 目次 —

特集 ニホンジカの森林へのインパクト—芦生研究林

「ニホンジカの森林へのインパクト—芦生研究林」企画趣旨

(井上みずき・合田 緑・阪口 翔太・藤木 大介・山崎 理正・高柳 敦・藤崎 憲治)

京都府の多雪地におけるニホンジカ (*Cervus nippon* Temminck) によるハイイヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* var. *nana*) の採食に見られる積雪の影響 (福田 淳子・高柳 敦)

ニホンジカ (*Cervus nippon* Temminck) の採食によるチマキザサ (*Sasa palmata*) 群落の衰退について (田中 由紀・高槻 成紀・高柳 敦)

異なる光環境下における草本群落に対する防鹿柵の影響 (石川 麻代・高柳 敦)

シカの利用頻度が草本群落に及ぼす影響 (合田 緑・高柳 敦)

芦生上谷流域の植物多様性と群集構造—トランセクトネットワークによる植物群集と希少植物の検出—

(阪口 翔太・藤木 大介・井上 みずき・高柳 敦)

日本列島の冷温帯林における 30 年間の土壌動物相の変化とシカ類の影響の可能性

(齋藤 星耕・水田 瞳・菱 拓雄・塚本 次郎・金子 信博・武田 博清)

シカの食害が森林生態系の物質循環に与える影響：溪流水質の予備調査から (福島 慶太郎・徳地 直子)

芦生研究林における林道走行中のシカ目撃数のモニタリング (合田 緑・井上 みずき・高柳 敦)

(総説) 京都大学芦生研究林においてニホンジカ (*Cervus nippon*) が森林生態系に及ぼしている影響の研究—その成果と課題について (藤木 大介・高柳 敦)

(一般投稿) スギ大径並材生産を目指した強度間伐の多角的評価：徳島県における選木育林・早期仕上げ間伐を例として

(大塚 和美・長谷川 尚史・野淵 正)

(短報) 成長錐を用いた木片試料採取法の検討—道管形成の季節変化を調べる観点から— (英文)

(高橋 さやか・岡田 直紀・野淵 正)

(資料) 地産地消型木造建築システムの実践—研究林スギ間伐材を利用した大学木造施設の建設—

(小林 広英・松倉 崇・小林 正美)

□Publications of the Seto Marine Biological Laboratory

Vol. 40 (5/6) (2008)

—目次—

- Sexually dimorphic Cubomedusa *Carybdea sivickisi* (Cnidaria: Cubozoa) in Seto, Wakayama, Japan
(Lewis, C., Kubota, S., Migotto, A. E. and Collins, A. G.)
- On three monostiliferous hoplonemertean from the San Juan Archipelago, Washington State, U.S.A
(Iwata F.)
- A new genus and a new species of pelagic ostracods of subfamily Halocypridinae from the North Pacific
(Chavtur, V. G. and Stovbun, G. C.)
- Pelagic ostracods of the genera *Halocypris* and *Fellia* (subfamily Halocyprinae) from the North Pacific
(Chavtur, V. G. and Stovbun, G. C.)
- Photosymbiotic ascidians from Nakanoshima Island and Takarajima Island (the Tokara Islands, Ryukyu Archipelago, Japan) with remarks on the status of *Diplosoma midori* (Tokioka, 1954).
(Oka, A. T. and Hirose, E.)

Vol. 41 (2011)

- Assessment and characteristics of DMSP lyase activity in seawater and phytoplankton cultures
(Harada, Hyakubun and Ronald Kiene)
- Species diversity of marine sponges along Chanthaburi and Trat Provinces, the eastern coast of the Gulf of Thailand
(Putchakarn, Sumaitt)
- Nematode diversity at Thachin River mouth, Samut Sakhon, Thailand
(Suchat Sawangarreruks, Yaowasooth Patcharaporn, and Sombat Poovachiranon)
- Gut content analysis of selected commercially important species of coral reef fish in the southwest part of Iligan Bay, Northern Mindanao, Philippines
(Eya, Anna Arlene A., Dorothy G. Lacuna and Aileen S. Espira)
- Distribution of intertidal organisms in the shores of Teluk Aling, Pulau Pinang, Malaysia
(Ahmad, Omar, Tay Pei Fang and Khairun Yahya)
- Re-assessment of Sargassum beds at Hon Chong area, Nha Trang Bay, Vietnam
(Nguyen, Xuan Vy and Dai Nguyen Huu)
- Distribution and biomass of *Halophila ovalis* (R. Brown) Hook. f. at Pulau Gazumbo, Penang, Straits of Malacca
(Mohd Razalli, Norhanis, Teh Chiew Peng, Mohd. Shukri Mohd. Yusof, Jliana Mohamed, Tan Shau Hwai, Zulfigar Yasin and Anisah Lee Abdullah)

□ Publications of the Seto Marine Biological Laboratory Special Publication Series

Vol. 9.

『Selected Papers of the NaGISA Westpac Congress 2008』(H. Harada and Y. Shirayama (ed)), NaGISA 西部太平洋会議 2008 実行委員会 (京大フィールド研瀬戸臨海実験所内) 編集・発行, 日本印刷出版株式会社 印刷, 44p, 2009.

- Discrimination and Distribution of Two Tropical Short-Finned Eels (*Anguilla bicolor bicolor* and *Anguilla bicolor pacifica*) in the Indonesian Waters
(Hagi Yulia Sugeha and Sasanti R. Suharti)
- Diversity of Family Fungiidae in Malaysian Waters
(Aileen Tan Shau Hwai, Isyam Asuandi Ismail and Zulfigar Yasin)
- Tech Diversity and Abundance of the Sea Stars (Echinodermata: Asteroidea) from Coral Reefs of the Central South China Sea
(Sim Yee Kwang, Aileen Tan Shau Hwai and Zulfigar Yasin)
- Some Structural Changes of Seagrass Meadows in Taklong Island National Marine Reserve, Guimaras, Western Visayas Philippines after an Oil Spill
(Marie Frances J. Nievaes)

Vol. 10.

『Selected Papers of the NaGISA Westpac Congress 2009』(H. Harada and Y. Shirayama (ed)), NaGISA 西部太平洋会議 2009 実行委員会 (京大フィールド研瀬戸臨海実験所内) 編集・発行, 日本印刷出版株式会社 印刷, 80p, 2010.

- New Species of *Tethygenia* (Eusiridae: Amphipoda) and New Record of Algae-Living Gammarid Amphipods in South Sea Islands Marine National Park, Nakhon Si Thammarat Province, Thailand
(Koraon Wongkamhaeng, Anuchit Darakrai and Pornsilp Pholpunthin)
- The Genus *Euthalenessa* (Sigalionidae: Polychaeta) from Thai and Japanese Waters
(Charatsee Aungtonya, Danny Eibye-Jacobsen and Tetsuya Kato)
- Spatial and Temporal Variability of Intertidal Rocky Shore Molluscs in Sichang Island, East Coast of Thailand
(Sujitra Samakramana, Gray A. Williams and Monthon Ganmanee)
- Review Article
- Actual Status and Some Conservation Problems of Coastal Biodiversity in Vietnam
(Dang Ngoc Thanh)
- Baseline Assessment of Seagrass Communities of Lubang and Looc Islands, Occidental Mindoro, Philippines (Genibeth E.

Genito, Fenelyn M. Nabuab, Cristy S. Acabado, Bella Sheila Albasin and Pacifico D. Beldia II) Assessment of Marine Meiobenthic Assemblages in Transplanted Mangrove Forests along the Inner Gulf of Thailand (Chittima Aryuthaka and Chawaporn Jittanoon)

2.2.10 受賞

2008 年度

益田 玲爾・山下 洋

年月：2009 年 3 月

受賞者名：益田玲爾・山下 洋・松山 倫也

授賞内容：平成 20 年度 日本水産学会論文賞「Jack mackerel *Trachurus japonicus* juveniles use jellyfish for predator avoidance and as a prey collector」(マアジ稚魚はクラゲを捕食者回避のためおよび餌のコレクターとして利用する) Fisheries Science 74 (2): 276-284.

秋田 豊

年月日：2008 年 9 月 18 日

受賞者名：秋田 豊

授賞内容：平成 20 年度全国大学演習林協議会 第 10 回森林管理技術賞 受賞

その他

年月日：2008 年 9 月 12 日

受賞者名：舞鶴水産実験所

授賞内容：第八管区海上保安業務に関し感謝状を受贈

2009 年度

吉岡 崇仁

年月：2009 年 9 月

受賞者：谷尾陽一・大手信人・藤本将光・吉岡崇仁

授賞内容：日本陸水学会第 74 回大会 優秀ポスター賞

「二つの森林流域における溪流内での栄養塩の取り込み」

山下 洋・益田 玲爾

年月：2009 年 9 月

受賞者名：高橋 宏司・益田 玲爾・山下 洋

授賞内容：日本動物心理学会 第 69 回大会(岐阜大学) 優秀ポスター賞

「海産魚マアジの学習能力の個体発生に伴う変化」

山下 洋・益田 玲爾

年月：2009 年 10 月

受賞者名：福西 悠一・益田 玲爾・Robert, Dominique・山下 洋

受賞内容：第 33 回国際仔稚魚学会 (33rd Larval fish conference; Portland, Oregon). Honorable mentions for Sally Richardson Award (学生対象の最優秀口頭発表賞・第 2 位)

"Comparison of UV-B tolerance among wild and hatchery-reared juveniles in black sea bream (*Acanthopagrus schlegeli*) and red sea bream (*Pagrus major*)" (マダイとクロダイにおける天然稚魚と飼育稚魚の UV-B 耐性の比較)

山下 洋・上野 正博

年月：2009 年 11 月

受賞者名：富士 泰期・笠井 亮秀・鈴木 啓太・上野 正博・山下 洋

授賞内容：平成 21 年度日本水産学会近畿支部後期例会 優秀発表賞

「強成層型河口域におけるスズキ稚魚の淡水域への回遊」

山下 洋・上野 正博

年月：2009 年 11 月

受賞者名：秋山 諭・上野 正博・山下 洋

授賞内容：平成 21 年度日本水産学会近畿支部後期例会 優秀発表賞

「由良川河口域におけるニホンハマアミの行動日周性」

山下 洋・益田 玲爾

年月：2009 年 11 月

受賞者名：宮島 悠子・益田 玲爾・山下 洋

授賞内容：平成 21 年度日本水産学会中国・四国支部大会 ベストプレゼンテーション賞

「エチゼンクラゲに対するウマヅラハギの捕食圧の推定」

山下 洋・益田 玲爾

年月：2010 年 3 月

受賞者名：福西 悠一・益田 玲爾・山下 洋

授賞内容：第 57 回日本生態学会優秀ポスター賞

「初期生活史の異なるクサフグとトラフグにおける紫外線耐性の個体発生と種差」

長谷川 尚史 年月：2009 年 11 月
 受賞者：白澤 紘明・大塚 和美・長谷川 尚史
 受賞内容：森林利用学会 第 16 回学術研究発表会 学生優秀発表賞
 「植栽作業工程および初期育林経費の推算」

中山 耕至 年月：2009 年 10 月
 受賞者：鈴木 啓太・中山 耕至・田中 克
 受賞内容：日本プランクトン学会 学生優秀発表賞
 「有明海流入河川の低塩分汽水域における浮遊性カイアシ類優占種の水平分布－特産種と非特産種の比較－」

陳 炳善 年月日：2009 年 10 月 9 日
 受賞者：陳 炳善
 受賞内容：平成 21 年度岩手県三陸海域研究論文集 岩手県知事賞
 「生理生態学的特性を基礎とした宮古湾におけるクロソイの種苗生産と放流技術に関する研究」

向井 宏 年月日：2009 年 4 月 28 日
 受賞者名：向井 宏
 受賞内容：平成 21 年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰

藤井 弘明 年月日：2009 年 9 月 17 日
 受賞者名：藤井 弘明
 受賞内容：平成 21 年度全国大学演習林協議会 第 11 回森林管理技術賞 受賞

2010 年度

吉岡 崇仁・徳地 直子・向 昌宏・福島 慶太郎・今西 亜友美
 年月日：2010 年 5 月 26 日
 受賞者：福島 慶太郎・大槻 あずさ・河本 晴恵・吉岡 崇仁・徳地 直子・今西 亜友美・向 昌宏・谷尾 陽一・白澤 紘明
 受賞内容：日本地球惑星科学連合 2010 年大会 最優秀ポスター賞 「陸域の生物地球化学」セッション「由良川流下過程に伴う溶存有機物および溶存鉄の濃度変化」

田川 正朋 年月日：2011 年 3 月
 受賞者：西川 泰造・有瀧 真人・清水 大輔・和田 敏裕・田中 克・田川 正朋
 受賞内容：平成 22 年度日本水産学会論文賞
 Faster growth before metamorphosis leads to a higher risk of pseudoalbinism in juveniles of the starry flounder *Platichthys stellatus*, as suggested by otolith back-calculation.

中山 耕至 年月：2011 年 3 月
 受賞者：鈴木 啓太・杉本 亮・笠井 亮秀・中山 耕至・田中 克
 受賞内容：夏期の有明海筑後川の高濁度汽水域における粒状有機物の動態-河川流量の変動にともなう変化（水産海洋学会論文賞）

久保田 信 年月：2010 年 4 月
 受賞者：久保田 信
 受賞内容：日本生物地理学会学会賞 「刺胞動物門ヒドロ虫綱の個体発生、分布、生態を含む生活史に関する研究」

佐藤 修一 年月日：2010 年 9 月 16 日
 受賞者：佐藤 修一
 受賞内容：平成 22 年度全国大学演習林協議会 第 12 回森林管理技術賞 受賞

2011 年度

舘野 隆之輔 年月日：2012 年 3 月 27 日
 受賞内容：2012 年度日本森林学会奨励賞および財団法人林学会賞 “Nitrogen uptake and nitrogen use efficiency above and below ground along a topographic gradient of soil nitrogen availability.”

山下 洋 年月日：2012 年 3 月 18 日
 受賞者名：松井 彰子・乾 隆帝・山下 洋
 受賞内容：第 59 回日本生態学会・第 5 回東アジア生態学会（EAFES5）連合大会 ポスター講演 優秀賞 “Distribution and habitat use of three closely related gobiid fishes along coastal waters of Japan.”

山下 洋・益田 玲爾

年月日：2011 年 12 月 10 日

受賞者名：高橋 宏司・益田 玲爾・山下 洋

授賞内容：日本生態学会近畿地区 2011 年度第 2 回例会 口頭発表 奨励賞 「海産魚マアジにおける生活史戦略としての学習能力の個体発生」

山下 洋・上野 正博

年月日：2012 年 3 月 19 日

受賞者名：秋山 諭・渡辺 謙太・村角 幸樹・菅原 達也・上野 正博・山下 洋

授賞内容：第 59 回日本生態学会・第 5 回東アジア生態学会（EAFES5）連合大会 ポスター講演 優秀賞
"Food habits of sympatric coastal mysids as determined by multiple methods."

年月日：2012 年 3 月 27 日

受賞者名：鈴木 健太郎・杉本 亮・Md. Younus Mia・上野 正博・山下 洋

授賞内容：日本海洋学会平成 12 年度春季大会 最優秀ポスター賞「由良川河口域における懸濁態有機物の動態－塩水遡上に伴う炭素安定同位体比の変化」

吉岡 崇仁・福島 慶太郎

年月日：2012 年 3 月 19 日

受賞者：石井 勝之・福島 慶太郎・石原 正恵・吉岡 崇仁

授賞内容：第 59 回日本生態学会・第 5 回東アジア生態学会（EAFES5）連合大会 ポスター講演 優秀賞
"Soil carbon and nitrogen dynamics changes associated with vegetation recovery in a deer enclosure at intensively grazed Miscanthus sinensis grassland."

2.2.11 自己総合評価、課題、展望

フィールド研は専任教員が 20 名少々という小さな部局であるが、隔地のフィールド施設が立地する地域を中心として、数多くの研究プロジェクトを実施している。得られたデータと研究成果は報告書としてきちんと蓄積されているが、科学論文としては必ずしも十分には公表されていないものがある。フィールドを有しているというセンターの特徴からみて、基礎的データはできる限り迅速に公表するとともに、プロジェクトとしての成果発表を促進する必要がある。また、いくつかの研究林と瀬戸臨海実験所、舞鶴水産実験所が参画する長期生態研究（JaLTER）やモニタリングサイト 1000 などの事業において、これから数十年の長期的な環境・生態系モニタリングデータが整備され、地球環境研究に貢献することが期待される。

フィールド研が取り組む森里海連環学研究については、概算要求事業（特別経費）「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」および日本財団の助成による「海域陸域統合管理学教育研究事業」を中心に進められており、両プロジェクトの推進で参加研究者の層が厚くなり、研究の一層の進展と成果の発信が期待される。今後は森里海連環学を核にしながら、新たな研究計画の企画・立案を全センター的取組として推進していかなければならない。とくに、フィールド研が管理運営している研究林・試験地、実験所のフィールドと施設を有効活用することによって実施できる研究計画の立案が課題であろう。また、平成 25 年度で終了する木文化プロジェクトの後継事業を早急に立ち上げる必要がある。

2. 3 社会貢献

フィールド研は、“森と里と海のつながり”をキーワードに新たな統合学問領域として「森里海連環学」の創生を目指して、2003年4月に設立された。この新しい学問領域は、森と里と海の自然科学的ならびに文化的なつながりの解明とともにわが国の豊かな自然の再生にとって不可欠な“つながり”や“めぐり”の新たな価値観の創生をも目指している。このような目標を達成するためには、基礎的な研究を展開するとともに、教育ならびに社会・地域連携事業を通してこのような理念の共有化を大きく広げることが不可欠である。フィールド研では、「京都大学の社会に開かれた窓」として、また、フィールド研の理念共有化の拡大機会として、設立以来様々な社会・地域連携事業を行ってきた。

2.3.1 水族館

瀬戸臨海実験所に併設されている水族館は、昭和4年に昭和天皇が本所を訪問され、その1年後の昭和5年(1930)6月1日に昭和天皇行幸1周年を記念し、観覧設備を加えて水槽室を水族館として一般公開したのが始まりである。現在全国22箇所に国立大学法人所属の臨海臨湖実験所が設置されている。かつてそれらの実験所の多くには、水族館が併設されていたが、現存するものは、京都大学の瀬戸臨海実験所だけとなっている。主たる理由は、入館者の減少と経費負担の増加である。本水族館においても、バブルの崩壊後、入館者数が激減してきたため、所員が一丸となって入館者数の増加に取り組んでいる。一例として所員の勤務日をやりくりして、2004年度から正月期間も含めて完全年中無休化を実施した。このような努力の成果は少しずつ実を結びつつあり、一時は5万人近くまで落ち込んだ年間入館者数も少しずつ増加しており、2011年度には6万4千人を超えるまでに回復した。この数字は、水族館が京都大学のなかでもっとも大きく開いた社会への窓のひとつであることを示しており、今後もこの貴重な京都大学と市民とを結ぶチャンネルを何とか維持、拡大していきたいと考えている。

2.3.2 時計台対話集会

フィールド研が設立された翌年の2004年以降、毎年、一般聴衆を対象とした時計台対話集会を開催している。これはフィールド研が提唱する森里海連環学を社会に広めるため、かつ市民からフィールド研への期待や要望を吸収するための中核的な事業である。本調査期間も2008年(第5回)、2009年(第6回)、2010年(第7回)に開催した。

第5回時計台対話集会「森里海のつながりを生物多様性から考える」：この年の5月に国会で「生物多様性基本法」が成立し、今後すべての人間活動において「生物多様性」が重要なキーワードとなることが予想された。そこで5回目となった時計台対話集会では、「森里海連環学」を「生物多様性」という観点からあらためて捉え直すため、「生物多様性」に関して活発な研究活動を行っている京都大学生態学研究センター(以下、生態研)との共催で9月28日(日)に開催した。この回の時計台対話集会は三部構成とした。国民森林会議会長を務められている只木良也名古屋大学名誉教授から「原生林も里山も地域の宝」、向井宏北海道大学名誉教授から「水と砂の流れと生物多様性」と題して、それぞれ講演をいただいた。続くパネルディスカッションでは、フィールド研の益田玲爾准教授をコーディネーター、フィールド研の吉岡崇仁教授、上野正博助教、生態研の椿宜高教授、谷内茂雄准教授、奥田昇准教授をパネラーに迎え、最先端の研究や社会貢献について興味深い話題が紹介された。その後アウトドアライター天野礼子氏の司会で、楽しく、かつ時には辛辣な批判を含めて、会場との対話を行った。この回の時計台対話集会は、280人もの聴衆にご参集いただいた。

第6回時計台対話集会「木文化創出～森里海連環学がひらく未来社会」：2009年度はフィールド研の中核たるプロジェクト、「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」が本格始動した年でもあることから、集会のテーマを「木文化創出～森里海連環学がひらく未来社会」と題し、2009年12月19日(土)に時計台百周年記念ホールで催した。国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長のあん・まくどなるど先生より「森里海をつなぐ木文化社会」、建築家の平沼孝啓先生による「森の未来のために建築ができること」と題するご講演をそれぞれいただいた。パネルディスカッションに先駆け、フィールド研の「木文化プロジェクト」について、長谷川尚史准教授と吉岡崇仁教授から、それぞれ、仁淀川と由良川における取り組みが紹介された。それを踏まえて、フィールド研の柴田昌三教授による進行でパネル討論が展開された。恒例の「会場との対話」は、アウトドアライターの天野礼子氏の司会で非常にエキサイティングな議論が、会場の参加者も巻き込んで繰り広げられた。この回では、200名近い方々にお集まりいただくことができた。

第7回時計台対話集会「森里海をつなぐ人づくり」：時計台対話集会は今回が7回目にあたることから、中締めとなるような、未来を指向するテーマを掲げた。森里海連環学の理念を持って実践する次世代をはぐくむ教育、人づくりこそが、現役世代の責務でもある。そこで2010年11月20日(土)に、時計台対話集会「森里海をつなぐ人づくり」を開催した。京都大学の学園祭である11月祭の初日、しかも快晴の土曜日であったが210名の参加者があった。この回では、国際高等研究所フェローの田中克先生より「森里海をつなぐ人づくり 森里海連環教育の目指すところームツゴロウとオランウータンの会話」、フィールドソサイエティ事務局長の久山慶子先生より「子供達と森で学んだこと」とそれぞれ題する基調講演を頂いた。パネルディスカッションに先立ち、アウトドアライターの天野礼子氏からは「森里海連環学」と社会連携」、続いてフィールド研の上野正博助教からは「まず大人が変わらんと...日本のフィールド教育」、とそれぞれ題したお話しを伺った。パネルディスカッション、および会場との対話は、和やかな雰囲気の中、次世代の人づくりについて、理想や現実、問題点などが、会場全体で活発に議論がなされた。

以上のように時計台対話集会は、フィールド研の理念である森里海連環学の社会への浸透に大きな役割を担ってきた。フィールド研の社会連携事業の核として大変重要なイベントとなっており、各回の反省点を踏まえて徐々に開催方式の改善とテーマ拡大を図ってきたが、聴衆の固定化も懸念される。今後も継続していくことは重要であると考えられるが、フィールド研の研究進展との関連性をふまえ、毎年ではなく報告すべき内容が薄まらない程度の間隔をあげ、かつ新たな形式の採用などを工夫が必要であると考えられる。

2.3.3 公開講座

本調査対象期間においても、第18回「森のしくみとその役割－変わりゆく芦生の森と生き物たち－」（2008年7月25～27日）、第19回「森のしくみとその役割－森の動きをつかむ（Long Term Research）－」（2009年7月24～26日）、第20回「森のしくみとその役割－芦生のあゆみ」（2010年7月30日～8月1日）、第21回「今、森から考える－森のめぐみ－」（2011年7月22～24日）を開催した。

第18回には、「森のしくみとその役割－変わりゆく芦生の森と生き物たち－」と題し、33名の参加者のもとで開催した。フィールド研では専門としている教員のいない部分である森の生き物については、農学研究科の山崎理正氏より「ナラ枯れとカシノナガキクイムシ」、日本鳥類学会会員の梶田学氏より「芦生研究林の鳥類相とその変化」、農学研究科の高柳敦氏より「自然保護地域とシカ増加問題」、とそれぞれ題した講演を頂くなど、バラエティーに富む講師陣が第18回の特徴であった。

第19回には、「森のしくみとその役割－森の動きをつかむ（Long Term Research）－」と題し、35名の参加者のもとで開催した。生態系の把握には長期的な視点が不可欠である。これは対象とする研究フィールドを所有し、根気強く研究を継続しているフィールド研にとっては得意とする研究展開の一つである。由良川は芦生という源流域から舞鶴湾までを結ぶが、森から海までを研究林と水産実験所という上流側と下流側からとらえ直す構成が今回の特徴であった。

第20回は、これまでの総括として、芦生で長年、調査を行ってきた研究者や技術職員、演習林時代の歴代の林長らを講師として招き、「森のしくみとその役割－芦生のあゆみ」を開講した。受講者は24名であった。初日および3日目には、主に芦生の森を対象として、過去からの変化や研究林を利用した研究例、これからの森林管理のやバイオマスとしての木質の資源利用、山村での暮らしの未来について、時間の流れを軸とした講義が行われた。厳しい経済環境もあり参加者は減少傾向にあるが、アンケートによると、受講者の評判は非常に良く、特に近年は自然に関する講義だけでなく、限界集落の問題など、人の暮らしについても関心が高いと考えられた。公開講座における一般市民との交流は、京都大学やフィールド研、研究林が求められているものを再認識できる大変良い機会であり、21回目を迎える次年度以降も、より受講者が増加するような枠組み作りを検討しながら、積極的に開催していく方向性が確認された。

第21回は、メインテーマをこれまでの「森のしくみと働き（役割）」から「今、森から考える」と刷新し、現代社会と森林との関係についての解説を通して、これからの社会での森林と人との関係を考えてもらうことを目的とした。また若人の参加を促進するため中高校生枠を創設し、芦生研究林の学生実習施設を利用して比較的安い参加費で公開講座に参加していただけるような枠組みを構築した。本年はその一回目として、副題を「森のめぐみ」とし、現代社会が森林資源からいかに多様な「めぐみ」を享受しているか、未来社会の中で「めぐみ」を活かしていく社会をどのように実現するべきかを考えることとした。取材や問い合わせも多く、抽選の結果一般では36名を当選とした。中高校生枠にも多数の問い合わせがあったが、学校行事と重なるなどのため、最終的には1団体3名が参加した。最終的には41名という近年にない多くの参加があった。

この公開講座は、森林に対する市民の関心が高まり始めた1991年に、市民と森の架け橋として、市民にできる限り正確な森林の現状や問題点を伝えることを目的として始められたものである。その後継続して、芦生研究林において、2泊3日の日程で一般市民を対象に、初日と3日目に講義、2日目に芦生天然林の観察・解説と簡単な調査方法の実習、という形態で開催してきた。フィールド研への移行後も、フィールド研の基本理念を伝えることをも目的に付け加えて実施している。本講座経験者が、他の公開講座、時計台対話集会、公開シンポジウムに参加し、「森里海連環学」の理解者、支援者へと移行していくこともあり、今後とも本公開講座を開講する意義は大きいと考える。なお、開催経費の負担と真夏での開催が大きな問題となっており、現在、開催形態の変更を検討している。本公開講座の開催意義と参加者およびスタッフの意見を聞きながら、より有意義かつ効果的な開催時期や日程を模索していきたい。

2.3.4 地域連携講座

地域連携講座は、フィールド研が提唱している森里海連環学に関して、フィールド研の施設が存在しているそれぞれの地域において、一般住民に紹介し、住民に考えてもらう為に研究者の講演を基本に行っている。原則として毎年、北海道の別寒辺牛川流域、京都府の由良川流域、高知県の仁淀川流域を対象に開催してきた。この地域連携講座は、日本財団の助成によって開催されている。

本調査期間中には、2009年度に3件、2010年度に3件、2011年度に4件の地域連携講座を開催した。

2009 年度の由良川地域連携講座は、第 1 回由良川フォーラム「森・里・海の対話」と題して 9 月 5 日に舞鶴市総合文化会館大ホールで開催した。開会挨拶には、竹内啓雄氏（京都府中丹広域振興局長）をお招きした。基調講演として、一つ目は小野有五氏（北海道大学教授）による「自然のメッセージを聴く～森と川からの伝言～」、二つ目は植田和弘氏（京都大学教授）による「森・里・海をつなぐ環境経済学」が講演された。その後、西村悦雄氏（京都府中丹広域振興局農林商工部長）から由良川の現状報告と京都府の取り組みが紹介され、180 名近く集まった市民からも多数の意見が交わされた。

仁淀川地域連携講座は、10 月 4 日に「森から里を経て海に至る連環を再生するために－日本の“木文化”創出をめざして－」と題して高知県仁淀川町池川コミュニティセンターで開催した。講座の冒頭で、甲藤邦廣氏（高知県中央西林業事務所所長）ならびに澤田欣也氏（アサヒビール株式会社 四国地区統括本部長）の挨拶を頂いた。講演は、柴田昌三氏（フィールド研教授）と長谷川尚史氏（フィールド研准教授）から、それぞれ「仁淀川の森で、京都大学は何を実験しているのか」「“道づくり”は林業再生の鍵」と題して行われた。講演後のパネルディスカッションでは、両講演者に、竹内典之氏（京大名誉教授）と大原栄博氏（池川林産企業組合代表）も加わり、天野礼子氏の司会でパネルディスカッションがもたれ、参加した 70 名近くの地域市民からも活発な質疑があった。

別寒辺牛川地域連携講座は、「森と海をつなぐ川の環境をどう守るか」と題して 11 月 21 日に標茶町開発センターで開催した。池田裕二氏（標茶町町長）が開会挨拶を行い、中村太士氏（北海道大学教授）が「なぜ、川の周りに森は必要か？」と題する基調講演を行った。その後、真里谷隆氏（別寒辺牛川・ホマカイ川流域環境保全の協議会）が現状を報告し、館定宣氏（虹別コロカミの会）と吉岡崇仁氏（フィールド研教授）が加わり、向井宏氏（フィールド研特任教授）の司会でパネルディスカッションが行われた。100 名近くの熱心な市民も議論に加わった。

2010 年度は、第 2 回由良川地域連携講座（由良川フォーラム）「森・里・海の対話」を、福知山市ホテルロイヤルヒル福知山で、2010 年 12 月 4 日（土）に開催した。講師は、白井裕子氏（早稲田大学理工学術院准教授）と柴田昌三氏（フィールド研教授）、西村悦雄氏（京都府中丹広域振興局農林商工部長）の 3 名であった。

第 3 回別寒辺牛川地域連携講座は、2010 年 11 月 6 日（土）に、北海道厚岸町情報館の 2 階で、「流域管理と住民参加－環境保全の担い手へ」と題して、谷内茂雄氏（京都大学生態学研究センター准教授）による流域ガバナンスの実例を含めた講演を聴き、別寒辺牛川流域の環境保全について、今後の住民参加の方法について議論がなされた。

第 2 回仁淀川地域連携講座は、2010 年 10 月 30 日（土）に、京都大学同窓会高知支部の例会を兼ねて、京大総長も出席の上、高知サンライズホテルで開催された。テーマは「森・里・海」である。京都大学高知講演会とも銘打ったものとなった。京都大学の説明会が直前に行われたこともあり、高校生も多数参加して、会場は満席となった。当日の講師は、白山義久氏（フィールド研センター長）と柴田昌三氏（フィールド研教授）で、それぞれ、「海の生き物の多様性 その恵みを守り使うことを考える」「仁淀川流域で探求する森里海連環」というタイトルで講演をした。

2011 年度にも、昨年度までと同じように 3 地域で地域連携講座を行ったが、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災があったため、7 月には急遽、京都においても東北地域連携講座を開催した。それぞれの内容については、以下の通りである。

別寒辺牛川地域連携講座は、「森から海へ～海域環境の保全と人の暮らし～」と題して、厚岸町と標茶町との共催として、厚岸町情報館で 2011 年 11 月 12 日（土）に開催した。講演は、尼子直輝氏（環境省自然環境局自然環境計画課）が「海洋保護区の現状と課題」、大泰司紀之氏（北海道大学名誉教授）が「アザラシ・シカとの付き合い方」、笹森琴絵氏（「さかまた組」代表）が「厚岸・釧路沖における、エコツアーとしてのホエールウォッチングの可能性」と題して行い、その後パネルディスカッションを「海域環境の保全と森里海の連環」というテーマで行った。今回の講座では、海洋保護区、野生動物管理、観光利用や漁業への影響などを交えて、海洋環境の保全について議論した。厚岸町・標茶町・釧路市中心に 74 名が参加した。

仁淀川地域連携講座は、「仁淀川の“緑と清流”を再生する会」が設立 10 周年を迎えたこともあり、その記念事業を兼ねた共済事業として 2011 年 10 月 8 日（土）に、高知県仁淀川町池川中学校体育館で行われた。テーマは「国際森林年を“森林・林業再生プラン” 実行元年とするために」で、来賓には、皆川芳嗣氏（林野庁長官）と尾崎正直氏（高知県知事）にも出席いただいた。基調講演として、竹内典之氏（京都大学名誉教授）、岡橋清元氏（道のがっこう学長）が講演した。その後、パネルディスカッション「山から材を出す“仕事”をしっかりとつくりたい」を行った。今回の講座では、森里海連環学を交えながら、行政、企業、大学の視点から、これからの林業について議論した。仁淀川町を中心に約 280 名が参加した。

第 3 回由良川地域連携講座（市民講座）は、2011 年 9 月 24 日（土）に、福知山市三段池公園 総合体育館サブアリーナで行われた。この講座は、京都府との共催事業で、由良川・里山文化フェスティバルキックオフイベントとしても位置づけられた。テーマは「森・里・海の対話～身近な視点から生態系のつながりを考える～」講師は塩見直紀氏（半農半 X 研究所代表）、谷田一三氏（大阪府立大学教授）で、21 世紀の生き方・暮らし方としての「センス・オブ・ワンダー」「半農半 X（天職）」、河川生態系の連続性と川虫の働きなど、興味ぶかい話を聞くことができた。また、山下洋氏（フィールド研教授）からは、丹後海から由良川へと遡上するスズキ稚魚に関する研究が紹介された。京都府の他、大阪や兵庫、福井などから約 90 名が参加した。

東北地域連携講座は、7 月 16 日に京都会館会議場で開催した。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災によって、東北地

方の沿岸域は壊滅的な被害を受けた。単なる復旧ではなく、よりよい形での復興の実現には、自然と自然、人と自然、および、人と人のつながりを再構築し、真に循環的で持続的な社会を新生することが重要であるとフィールド研は考えている。このような思いから第1回東北地域連携講座を「森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興をどう進めるか～」というテーマで開催することとした。畠山重篤氏は、「森は海の恋人」運動を通して森里海連環学の実践に取り組んでおられる方であり、フィールド研とも関係が深い。その畠山氏が津波被害に遭われたため、「森は海の恋人」運動の復興を応援するとともに、新しい社会づくりに森里海連環学の立場からどのように取り組んでいくべきかを考えることを目的とした。尾池和夫氏（前京都大学総長・国際高等研究所長）より「2011年東北地方太平洋沖大地震」、高柳和史氏（水産総合研究センター本部研究推進部長）より「漁業復興へ向けての取り組み」、浅利美鈴氏（京大環境科学センター助教）より「復興に向けた災害がれきとの闘い（現地からの報告）」、前述の畠山重篤氏より「森里海連環と『森は海の恋人』運動の復興（現地からの報告）」、とそれぞれ題する講演を頂いた。残念ながら若者の参加は多くなかったが、200人近い人々が参集し、講演に耳を傾け、熱心に討論に参加した。

2.3.5 神戸大学・京都大学合同市民講座

フィールド研は森里海連環学、海域陸域統合管理論、および、実習3科目を、神戸大学海事科学部は総合海洋学を、それぞれ日本財団の助成をうけて寄付科目として開講していた。そこで2007年に、京都大学と神戸大学は、海洋およびその管理に関する市民講座を合同で開催し、社会に向けての情報発信を開始した。フィールド研が目指す森里海の連環には様々な主体が含まれるため、大学内だけの活動に留まらず、政府、市民団体、企業など関連する諸主体との積極的な連携も重要となる。とりわけ、これらの主体を直接支えている市民から十分な理解を得ることがすべての基盤になると考え、2008年度にも2回の市民公開講座を行った。

第1回は「海上輸送と生物多様性」をテーマに行われた。海域における人間行動として、特に船舶による物資の輸送に着目し、それがいかに海洋の生物多様性に影響を与えているかが解説された。そこでは、貿易の拡大に伴う海上輸送の急増、それが引き起こす海域生態系に与える諸問題が議論された。

第2回は「河川・海洋における化学物質の管理」をテーマとして開催された。第1回には船舶の塗装などに使う化学物質の問題などにも議論が発展していたため、テーマには連続性があった。河川を通じて海域に与える人間活動の影響として、医薬品の使用など市民の行動が積み重なって起こる問題などが取り上げられ、水質保全についての一人一人の関わりが身近なものとして理解が深められた。

1回目には約70名、2回目には約60名が参加した。いずれの回も、講演者からの分かり易い解説と参加者からの積極的な質疑応答が得られた。アンケートの集計結果によると、各回の参加者は高い満足をもって帰宅されたことがわかる。

2.3.6 全日本空輸株式会社（ANA）との連携

地球環境問題解決への取り組みは、学校教育現場に限らず様々な個人・団体・企業などによる多様なものへと広がっている。とりわけ、先進的な企業は環境問題への取り組みを自社の基本理念として、対外的な社会貢献活動を展開している。日本の翼を代表する全日本空輸株式会社（以下「ANA」）も環境・社会貢献部を立ち上げている。フィールド研は、2004年12月21日に締結したANAとの「森・里・海」の環境再生教育に関する合意書に基づいて活動を行っている。ANAでは自社便の就航する空港近隣において展開している「ANA『私の青空・森づくり』」活動があるが、フィールド研ではそこで開講される青空塾において講師として協力し、ANAと連携して環境再生教育を展開している。

2008年度には5回、2009年度には3回、2010年度には3回、2011年度には6回の、合計17回の青空塾を国内12空港近辺の森において開講した。参加人数や内容は開催場所により異なる。例えば、平成21年8月2日（日）、広島県庄原市にあるアサヒビール株式会社のアサヒの森にて開催された、「ANA 私の青空 広島空港アサヒの森」では、小学生とその保護者約60名の参加があった。内容としては「森里海の連環」「森は海の恋人」などの内容を含む講義を「青空塾」として行ったあとで、木質チップを使った工作や森の散策、および親子での植林作業なども行われている。

また、夏期にANAの協力を得て、大学等地域開放特別事業として、和歌山県立有田中央高等学校清水分校が芦生研究林において「森林体験学習」を実施した。これには引率教員と有田中央高等学校1年生合わせて、2008年度には22名、2009年度には20名、2010年度には54名が参加した。

これら青空塾や地域解放特別事業は、フィールド研の理念である森里海連環思想の全国的普及に大きな力を発揮している。また、活動の一部はANAの社内誌である「翼の王国」でも紹介されており、フィールド研の社会連携活動を広く社会に認識してもらう絶好の機会となっている。

2.3.7 NPO 法人エコロジー・カフェとの協定

フィールド研では、2005 年 7 月 19 日に NPO 法人エコロジー・カフェと「生物多様性保全のための市民参加型教育研究に関する協定書」に調印している。フィールド研と NPO 法人エコロジー・カフェが双方の生物保全活動に対し相互協力を行うことにより、以下のような事業を展開し、市民の種多様性および環境の保全などの活動への参加を促進すると共に、市民教育・啓蒙活動を通じて、フィールド研の教育研究およびエコロジー・カフェの活動の理念を広く普及することを目指している。

1. フィールド研は、エコロジー・カフェが展開する固有種・絶滅危惧種の保護活動に協力し、積極的に知見や情報を提供する。
2. エコロジー・カフェはフィールド研が開講する市民開放型の講座・セミナー・シンポジウムなどの企画開発に参加すると共に、実施に協力する。
3. フィールド研とエコロジー・カフェは、森林域・里域・海域の生態系を保全するための共同研究を立案し、コラボレートを実現する。

この協定に基づき、調査対象期間中には、芦生研究林や上賀茂試験地を舞台とした「エコの寺子屋」を 2008 年から 2011 年まで、南三陸町と気仙沼市においてフィールド実習を行う「森里海学びツアー in 志津川・気仙沼」を 2008 年から 2010 年まで、瀬戸臨海実験所において実習を行う「南紀白浜まなびツアー」を 2009 年と 2010 年に、また、2008 年には小笠原エコツアーを、それぞれ共催した。さらに、2010 年の NPO 法人エコロジー・カフェ関西事務所主催の公開シンポジウム「食文化と生物多様性から環境を考える」には講師派遣を行う形で協力した。なお、調査期間外ではあるが、2012 年度より NPO 法人エコロジー・カフェとの共同事業については、前年度末までに計画書を提出してもらい、社会連携委員会を中心とするフィールド研側で可否を検討する形式としたことを付記する。

以上の活動は、フィールド研が教育研究を通じて培ってきた成果を社会に発信する絶好の機会となっていると同時に、自然の中での実習を含むツアーの共催は、参加者に森里海の連環を実体験してもらえる優れた機会となっている。

2.3.8 徳山試験地・周南市連携事業

徳山試験地では 2008 年度にヒノキ人工林が文化庁の「ふるさと文化財の森(檜皮)」に選定されたことにより、2009 年に周南市教育委員会と共催で施設公開を行った。これを契機に 2010 年から地元周南市との連携事業を開始し、年 3 回の講義とフィールド見学を徳山試験地で行う「みどりの案内人」養成プロジェクト特別講座を実施した。2010 年度には中島皇講師が「森里海連環学」について、吉岡崇仁教授が「森・里・海と人々のつながり」について、坂野上なお助教が「木材を使うこと～今・昔」についての講義を行った。2011 年度からは連携講座に発展して正式に開始され、柴田昌三教授が「森里海連環学からみた里山」について、向井宏特任教授が「海を守る森」について、寄元道徳助教が「スギ、来た道と生態」についての講義を行った。毎回 20 名程度の知識欲旺盛な熱心な参加者によって狭い講義室がいっぱいになる。フィールド研が力を注いでいる森里海連環学の宣伝と試験地の利用者数の増加につながっている。

徳山試験地と周南市との連携はその後も強化され、調査期間外になるが、2012 年 9 月 27 日には、フィールド研と周南市との間に、連携協力に関する協定を締結したことを付記する。

2.3.9 高校生向け教育プログラム(SSH, SPP 事業)

フィールド研は、科学技術振興機構 (JST) から支援されるサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP)、および、文部科学省が指定するスーパーサイエンスハイスクール (SSH) の実習などについても社会連携の一環として協力を行っている。これらにおいては、対象が高校生ではあるものの、大学で行う実習や授業に近いレベルの教育を積極的に実施している。

調査対象期間中、SPP 事業としては、舞鶴水産実験所が京都府立南陽高等学校と京都府立西舞鶴高等学校の 2 校に対して計 7 件 (計 25 日) の協力を行った。また SSH 事業としては、芦生演習林が大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎に対して 1 件 (2 日)、紀伊大島実験所が和歌山県立日高高等学校と名古屋市立向陽高等学校の 2 校に対して 2 件 (計 2 日)、舞鶴水産実験所が京都教育大学附属高等学校、兵庫県立神戸高等学校、京都市立堀川高等学校の 3 校に対して計 9 件 (計 17 日)、瀬戸臨海実験所が和歌山県立向陽高等学校、奈良県立奈良高等学校、滋賀県立膳所高等学校、兵庫県立尼崎小田高等学校、奈良女子大学附属中等教育学校の 5 校に対して 17 件 (42 日) の協力を行った。

各高等学校の所在地から明らかなように、三重県以外の近畿全域から協力要請を受け付けており、フィールド研の特に海域隔地施設が、近畿圏の高等学校にとって高度な理科教育の実習施設として重要な役割を果たしていると考えられる。特定の高等学校における高度な理科教育を実施しようとする流れは今後も継続されると予想できる。それに伴い協力要請は今後も増加する可能性があるが、隔地施設の利用希望は時期的に集中することも多く、教職員の対応力の限界を越えることも危惧される。

2.3.10 その他幼稚園～高校生向け教育プログラム

前記の SPP および SSH 以外にも、数多くの教育支援を小学校から高等学校に対して精力的に実施している。フィールド研全体では、2008 年度には 75 日（33 件）、2009 年度には 75 日（30 件）、2010 年度には 68 日（33 件）、2011 年度には 55 日（31 件）の受け入れを行っている。さらに保育所や幼稚園に対応した催しも実施している。対象校名は省略するが、それぞれの隔地施設の比較的近隣の学校であることが多い。一方で、奈良県のように海のない県の学校が、瀬戸臨海実験所を利用して臨海実習を実施している例もある。

生物や環境などの身近な自然は、幼児や児童、生徒の理科教育にとって不可欠な対象である。京都大学の数多い研究施設の中でも、生物や環境こそがフィールド研の強みである。まず触れさせ体感させるという実習が最も教育効果を発揮できるのは大学生以前の感受性豊かな子供である。安全の確保や実施責任などの問題もあるが、子供（あるいは教師）の理科離れという、技術立国としては危機的な状況を改善する上で、かつ、親しみやすい京都大学像を形成する上で、小中学生、高校生への教育支援は今後ますます重要視されるべきであろう。

これらに加え、一般向けの教育プログラムも数多く実施、協力、あるいは受け入れを行っている。実施件数は、200 年度には 29 件、2009 年度には 40 件、2010 年度には 25 件、2011 年度には 38 件である。実施形態や目的、規模はさまざまであり、中には 120 日におよぶ約 3,000 人もの参加者をあつめたものも見られる。京都大学が国立大学法人であり、主として国税により運営されていることを考えると、教育効果だけではなく大学およびフィールド研に対する社会一般からの理解を得ることは不可欠である。特定の組織からの度重なる利用や、利用者に若者が少ないなど、改善が望まれる事項もあるが、京都大学やフィールド研にとって意味のある事業であることは確実である。

2.3.11 東北復興支援学生ボランティア

東北復興支援学生ボランティアは、畠山重篤氏と松本紘総長ならびに柴田昌三センター長の懇談に基づき、京都大学全学として気仙沼地域の支援を進めることを前提としながら、同時に教育的配慮を加味したものとしてのボランティア派遣事業である。従って、活動内容も、「海の回復は森の回復から」という森里海連環学のコンセプトをなぞるものとし、労働ボランティアだけでなく、地域の復旧に資するような調査を進める研究ボランティアも組織された。フィールド研が京都大学の窓口となり、学生 20 名程度と教員、技術職員、事務職員数名を組織し、宮城県気仙沼市の西舞根地区に東北復興支援学生ボランティアとして派遣した。気仙沼は、フィールド研社会連携教授の畠山重篤氏が「森は海の恋人」運動を展開する拠点であることから、京都大学ならびにフィールド研としては、その復旧・復興を切に願う地域である。

第 1 回は、2011 年 8 月 26 日から 30 日までの間、学生 21 名と教員 1 名、技術職員 2 名、事務職員 1 名にて、「ひこばえの森交流センター」を宿泊地として実施した。広葉樹約 70 本を「ひこばえの森」に植樹する活動、および、舞根湾にて、津波により消失した養殖筏を製作するための杉丸太の山出し作業などに従事した。

第 2 回は、2012 年 3 月 19 日から 23 日までの間、学生 23 名・教員 2 名・技術職員 2 名・事務職員 1 名にて、唐桑半島の国民宿舎を宿泊地として実施した。宮城県気仙沼市西舞根地区での森林間伐作業ならびに伐採された木材の運搬作業に従事したのち、カキ養殖補助を行った。技術職員は、より難関な場所での杉の伐採に従事した。現地での最終日には、学生が自主的に企画して気仙沼高校の生徒との交流を行った。進学のための学習方法や大学での生活や研究についてのガイダンスなど、京大の学生ならではの支援が行われた。研究ボランティアとして参加した 2 名の学生は津波と地盤沈下の被害を受けた西舞根川沿いの土壌ならびに渓流水調査を行った。

この事業の主役は学生である。しかし、フィールド研が積極的に場を設定し提供することにより、まさに適切なタイミングで、切実に補助が必要とされる方々への社会貢献が可能となっている例である。

2.3.12 芦生地域有害鳥獣対策協議会と芦生研究林との共同イベント

この協議会は、芦生研究林および周辺地域で顕著となってきたニホンジカによる植生被害を軽減するために、地元関係者、南丹市、芦生研究林を主な母体として 2008 年 9 月 29 日に設置された。事務局は、京都府南丹広域振興局農林商工部におかれ、発足当初から、フィールド研森林生物圏部門の教授である吉岡崇仁が協議会長を務めている。協議会では、鳥獣保護区を含む芦生研究林内でのニホンジカに限定した有害捕獲事業を安全かつ効果的に進めるための方策を検討し、実施している。協議会メンバーへの啓発を目的として、シカ食害に関する勉強会や芦生研究林現地視察等を行っている。また、2011 年度からは、研究林と協働して、市民ボランティアによるシカ排除実験を始めたほか、協議会の活動を広く周知するためのシンポジウム「知ろう、守ろう芦生の森」をフィールド研等との共催で開催している。

2011 年 10 月 15 日に、フィールド研と芦生地域有害鳥獣対策協議会、および京都府南丹広域振興局との共催で、公開シンポジウム「知ろう、守ろう芦生の森-芦生の森が問いかけているもの-」を美山文化ホールにて開催し、約 80 名の参加があった。芦生研究林では、シカ排除柵を設置するという植生保護ボランティア活動を 2011 年度から開始している。そこで、芦生研究林の植生や周辺地域での農作物に対するシカ食害を防ぐために行っているこれらの有害捕獲事業を、広く市民・府民に知っていただくための活動としてこのシンポジウムが開催された。渡辺弘之京大名誉教授による基調講演で芦生の森の昔と今が紹介されたあと、研究林で実施されているニホンジカの有害捕獲や、市民ボランティアによるシカ防除柵の設置などの取り組みに関わっている様々な立場の方からの報告があった。パネルディスカッションでは会場との質疑応答も活発で、シカ食害や芦生研究林への関心がとても高く、今回のような産官学、様々な立場の関係者が協働した企画が重要であるという意見もでた。予算の関係もあるが、有害捕獲事業は今後も継続するため、シンポジウムとボランティア活動についても継続して実施する計画である。なお調査対象期間外であるが、2012 年 12 月 8 日には、第 2 回目のシンポジウムにあたる「知ろう、守ろう芦生の森 -豊かな森の再生に向けて-」を開催したことを付記する。

2.3.13 「東京で学ぶ 京大の知」

2011 年 1 月から 2 月にかけて、京都大学東京オフィスにおいて、連続講演会「東京で学ぶ京大の知」シリーズ 2～生きものの多様な世界～が開催され、フィールド研から 4 人の教員が話題を提供した。主催は京都大学、後援は朝日新聞社である。「京大の知」と題したシリーズは 2 度目の試みであり、毎回 100 名程度の聴講者があるという。年齢層としては 60 代、職業は会社員または退職者が多く、男女比は 2 : 1 程度である。

初回の 1 月 15 日には、久保田信准教授が「人類の夢、不老不死のベニクラゲの神秘」と題して講演した。自作の「ベニクラゲ音頭」を歌い、また DVD を上映するなど、視聴覚機材を駆使したプレゼンテーションとなった。第 2 回の 1 月 29 日には、益田玲爾准教授が「海洋生物の行動学」と題して話した。若狭湾の各地で出会った水中の様々な生物についても、水中写真を示すとともに、その生態や料理法にまつわる話題などを提供した。第 3 回の 2 月 5 日は安藤信准教授が「マツ枯れナラ枯れ」と題して講演した。マツ枯れとナラ枯れについて、被害の実態と防御の試み、そして森林再生への取り組みについて紹介した。最終回の 2 月 12 日は、白山義久教授（当時）が「海洋生物の生物多様性」と題して講演した。白山教授は CENSUS of Marine Life プロジェクトを通して映画「オーシャンズ」の監修にもたずさわっており、これについても紹介した。

京大東京オフィスは品川駅前にあり、京大の教育や研究について首都圏の市民に情報発信する機能を持つ。森と里と海の身近な自然から生態系を考え、そのつながりを理解しようとするフィールド研の姿勢は、市民には一般に受け入れられやすい。こうした広報活動は、これまで主にフィールドのある地方あるいは関西圏で展開してきた。しかし、我が国全体への影響、特に公共政策へのインパクト等を考えると、今後とも同様の機会を利用して、首都圏の市民にも積極的に情報発信を行っていく必要がある。

2.3.14 その他の社会貢献事業

フィールド研は、上記以外にも、隔地付近の合同調査、公開シンポジウム、公開講座、放送大学面接授業、など、多岐にわたる社会貢献事業を実施、あるいは実施に協力してきた。結果として調査対象期間だけでも、総合計では 263 件に達している。加えて全てを把握することは困難であるが、教員が個人として学校や団体、あるいは一般に対して講演などを行うことも数多い。これら全てのフィールド研の活動は、総体として「京都大学の社会に開かれた窓」としてのフィールド研の役割を果たすことに貢献してきたと考えられる。

2.3.15 自己総合評価、課題、展望

フィールド研は教員数約 20 名の京大内では小規模な部局である。また、遠隔地施設を主体とするため、施設の維持管理や地元への協力にも非常に多くの時間が必要となる。このことは社会貢献を行う上でもメリットとデメリットの両側面がある。地域への社会貢献としては、常日頃からの良好な関係により地元のニーズを把握しやすく、きめ細かな対応が可能となっている。それが各遠隔地施設ならではの社会貢献として実を結びつつある。一方、京都地区や遠隔地施設のない場所でおこなう事業では、もともと少ない教員数および日常業務に割くべき時間の多さのため、直接

に協力できる教職員数の少なさが部分的には障害にも感じられる。

2011 年 3 月に発生した東日本大震災以降に開始した社会連携事業も数多い。たとえば東北地域連携講座「森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興をどう進めるか～」や東北復興支援学生ボランティアの実施である。また、田中名誉教授を中心とした、関連シンポジウムや講演会、あるいは被災地域の自然環境モニタリングである。これらはフィールド研が標榜している森里海連環学を柱とし、より効率的な東日本大震災被災地の復興を考える上で、特に自然環境の復興利用に指針を与えるものになったと考えられる。まさにフィールド研が京大の窓口として十分に機能を果たしている。

概して言えば、農学研究科などの教育と研究を主な業務とする大規模部局、あるいは博物館のように社会貢献と研究を主な業務とする部局、などに匹敵するほどの数の社会貢献事業を、わずかな教職員数で実施していると総括できよう。現有の人的資産においては、現在でもおそらく最大限の社会貢献活動を行っていると自負している。

一方、教員の本分は学生の教育と研究である。過度に社会貢献に時間を割くことは、大学教員としての本来果たすべき社会的責任を阻害する可能性がある。職員についても同様であり、本来の職務に費やす時間の減少は不可避である。現時点では直接的な問題は認識されていないが、今後も現在のペースで社会貢献事業を維持、あるいは増加させるならば、徐々に本来業務の遂行には質的な低下が生じる可能性が高い。

別の問題点としては、社会貢献事業の中には個人ベースで受け入れられているものが比較的多いことがある。これらの事業では対応する教職員がその個人に限定されてしまうため、特定の教職員に負担が集中してしまいかねない。教職員は社会貢献事業によって評価されることは少なく、やはり本務の業務で評価される。一方、社会貢献事業を遂行していることは、フィールド研という組織の評価を高めることにつながっている。この不整合性を何らかの方法で解消あるいは軽減する必要がある。

従って、社会貢献と本務の業務遂行を、どのようにしてバランスを取るかについては、フィールド研教職員内でのオープンな議論が不可欠ではなかろうか。フィールド研として適正な社会貢献事業量、および、各教職員の本務業務の質や量に配慮した上での個人の負担の公平化、について、構成員の合意を得る必要があろう。

これまでは最大限のエネルギーで求められる社会貢献をこなしてきたように思う。これは決して悪いことではなかった。しかし、今後は、組織としてのフィールド研が、京都大学や社会から何をどれだけ求められているかを過不足なく把握したうえで、教育、研究、および社会貢献など、それぞれに振り向けることのできる努力量を構成員の合意のもとで決定することが理想であろう。

2. 4 外部資金

運営費交付金が漸減の状態にある現在、フィールド研では、各教員に積極的に外部資金を獲得するように働きかけを行っている。評価期間に獲得された外部資金は以下にまとめた通りである。

2.4.1 科学研究費補助金

科学研究費補助金の研究種目ごとの件数（分担、継続を含む）と受託額

（単位：千円）

科学研究費補助金 研究種目	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件数	受託額合計	件数	受託額合計	件数	受託額合計	件数	受託額合計
基盤研究（S）					1	575	1	345
基盤研究（A）一般	4	12,935	3	2,070	2	1,040	4	5,732
基盤研究（A）海外学術調査	2	19,045	1	8,970	1	8,970	1	9,230
基盤研究（B）一般	4	14,105	5	20,150	6	23,260	3	6,240
基盤研究（B）海外学術調査			1	130	1	130	2	1,880
基盤研究（C）	4	4,391	3	3,887	3	2,938	5	8,320
若手研究（B）	4	5,460	3	3,393	2	3,380	3	4,550
萌芽研究	2	2,200						
挑戦的萌芽研究			3	1,750	1	1,000	1	2,210
奨励研究					1	430		
研究活動スタート支援							1	1,690
循環型社会形成推進 科学研究費補助金(環境省)					1	421		
合計	20	58,136	19	40,350	19	42,144	21	40,197

（平成 20～23 年度合計 ： 180,827 千円）

科学研究費補助金特別研究員奨励費の件数と受託額

（単位：千円）

科学研究費補助金 (特別研究員奨励費) 職種	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件数	受託額合計	件数	受託額合計	件数	受託額合計	件数	受託額合計
特別研究員(PD)	1	800	1	800	1	800	1	900
特別研究員(DC1)					1	700	2	1,400
特別研究員(DC2)	1	600	1	600			1	700
特別研究員(SPD)					1	2,500		
外国人特別研究員	2	1,700	1	493				
合計	4	3,100	3	1,893	3	4,000	4	3,000

（平成 20～23 年度合計 ： 11,993 千円）

2.4.2 受託研究

(単位：千円)

受託研究 委託者	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件数	受託額合計	件数	受託額合計	件数	受託額合計	件数	受託額合計
京都市	1	440			1	547		
水産庁	1	1,000	1	1,000				
広島大学	1	2,500	1	2,500	1	2,300	1	2,300
(独)国立環境研究所	1	7,800	1	6,000	1	7,500		
(独)水産大学校	1	996	1	996				
(独)科学技術振興機構	1	2,800	1	2,900	1	3,100		
舞鶴市			1	3,780	1	11,999	1	12,810
(株)三菱総合研究所			1	9,340	1	10,000		
(独)水産総合研究センター					1	1,500		
九州大学					1	1,772		
全国漁業協同組合連合会					1	1,574		
千葉県水産総合研究センター					1	3,600		
東京大学							1	16,310
NPO 法人 水産業・漁村活性化推進機構							1	6,227
京都伝統文化の森推進協議会							1	525
環境省							2	20,285
千葉県							1	1,700
合計	6	15,536	7	26,516	10	43,893	8	60,157

(平成 20～23 年度合計 : 146,102 千円)

2.4.3 共同研究

(単位：千円)

共同研究 委託者	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件数	受託額合計	件数	受託額合計	件数	受託額合計	件数	受託額合計
柳田産業(株)					1	3,300		
マリンバイオ共同推進機構 (JAMBIO)					1	100	1	100
京都大学生存圏研究所 生存圏科学萌芽研究							1	314
合計					2	3,400	2	414

(平成 20～23 年度合計 : 3,814 千円)

2.4.4 機関経理金

(単位：千円)

機関経理補助金 委託者	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件数	受託額合計	件数	受託額合計	件数	受託額合計	件数	受託額合計
和歌山県							1	1,109
合計							1	1,109

(平成 20～23 年度合計 : 1,109 千円)

2.4.5 寄付金

(単位：千円)

寄付金 寄付者（団体）	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件数	受託額 合計	件数	受託額 合計	件数	受託額 合計	件数	受託額 合計
(財)阪本奨学会	5	3,600	5	2,700	3	1,500	3	1,500
(株)村田製作所	2	4,000						
(公財)日本財団	3	42,160	2	105,900	1	17,622	1	28,880
アラスカ大学フェアバンクス校	1	12,715	2	16,143				
(財)京都理学研究協会	1	400	1	400	1	6,180		
(財)自然環境研究センター	3	5,100	3	5,100	3	5,100	3	5,100
(財)美山町自然文化村	1	350			2	425	1	200
芦生山の家	1	243			2	306	1	120
サントリー(株)	1	1,000						
和歌山県	2	402						
エスベック地球環境研究・技術基金			1	410				
(財)日本生命財団			1	1,000				
徳地直子			1	294				
京都伝統文化の森推進協議会			1	500				
サントリービジネスエキスパート(株)			1	1,000				
サントリーホールディングス(株) 水科学研究所			1	1,500	2	2,000	1	1,000
針畑ルネサンスセンター					2	100	1	40
(財)河川環境管理財団					1	1,300	1	1,100
柴田昌三					1	196		
(一社)林業機械化協会					1	1,000		
(財)斎藤報恩会							1	480
(株)毎日放送							1	300
(公財)藤原ナチュラルヒストリー振興財団							1	550
合計	20	69,970	19	134,947	19	35,729	15	39,270

(平成20～23年度合計：279,916千円)

2.4.6 自己総合評価、課題、展望

科学研究費補助金については、フィールド研教職員が代表者となる課題だけで、毎年11～14件が新規採択・継続された。教職員一人あたり年間約0.5件を担当していることになる。科研費の平均的な採択率が約28%であることを考えると、比較的良好な状態である。しかしながら、少額の研究種目が多いことから、補助金額総額は必ずしも多くなく、しかも減少傾向にある。研究費が不十分であるにもかかわらず、科研費を申請していない教員がいることが問題点として指摘される。引き続き、科学研究費補助金への積極的な申請、とくに、基盤研究(A)や(B)への申請件数を増加させる努力が必要と考えられる。

平成20年度以降の特徴として、受託研究費が急激に増加し平成22年度には科研費の総額を超えたことがあげられる。科研費と受託研究費が一部の分野に集中する傾向が見られることから、研究費獲得の少ない分野において、積極的な外部資金獲得の努力が求められる。

「NaGISAプロジェクト」が実施された平成21年度まで、アラスカ大学と日本財団から高額の研究費寄付金を受領した。平成22年度以降、日本財団から「海域陸域統合管理教育研究事業」への支援を受け、この事業は平成23年度から「森里海連環学教育プログラム事業」へ展開される計画である。

大学院生及びポストドクターのための科学研究費補助金特別研究員奨励費や民間の研究助成金など、教育と連動した研究費の獲得も今後の重要な課題である。

外部資金ではないのであげられていないが、文部科学省概算要求プロジェクト(特別経費)として、平成21年度より「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」が実施されている。研究活動として森里海連環学を推進するために、この様な大型研究プロジェクトの企画立案と実施が重要である。今後も科研費はもとより、概算要求プロジェクトや地球環境研究総合推進費などの大型プロジェクトを、他部局・機関とも連携して申請していくことが重要である。

2. 5 国際交流

2.5.1 国際シンポジウム

2010年1月14～15日、フィールド研の海域陸域統合管理学研究部門の主催により、京都市内の京都テルサにおいて国際シンポジウム「International Symposium on Integrated Coastal Management for Marine Biodiversity in Asia」を開催した。参加者は、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム、バングラデシュ、インド、中国、ウクライナ、オーストラリア、イギリスおよび日本から、研究者・行政・NGOのスタッフ等、合計63名である。2日間にわたって、森里海の連環や生物多様性、海洋保護区、環境教育といった話題で、活発な議論が交わされた。

2.5.2 海外調査

2008～2011年度までに行われた海外フィールド調査の主なものは以下の通りである。

2008年度

- 中島 皇 寒地における森林と環境に関する調査・資料収集／カナダ国の国立公園における森林保全に関する調査・資料収集（カナダ・アルバータ大学／ジャスパー国立公園，2009年2月20日～3月2日）
- 柴田 昌三 台湾の竹産業視察（台湾・南投県，2008年11月20～21日）
竹類開花地における調査（インド・ミゾラム大学，2008年4月19～24日）
竹類開花に関する情報収集及びボカラ山岳博物館訪問（ネパール・カトマンズ及びボカラ，2008年12月1～6日）
竹類開花地における調査（インド・ミゾラム大学，2009年2月22日～3月4日）
- 長谷川 尚史 ミゾラム州における竹類の一斉開花枯死の調査（インド・ミゾラム大学，10月2～9日）
- 中西 麻美 農業生態系，特に焼畑休閑林の変化解析のための資料収集（ラオス・ウドムサイ周辺，2009年2月24～28日）
- 甲斐 嘉晃 カサゴ目魚類の標本調査（米国・ワシントンDC 国立自然史博物館，2008年11月9～15日）

2009年度

- 安藤 信 北方林の植生に関する資料収集（ロシア イルクーツク自然保護区，2009年9月21～25日）
- 山下 洋 エコフィジオロジーモデルプロジェクト（米国・North Carolina State University，2010年3月10～18日）
- 柴田 昌三 竹類の一斉開花枯死に関する植生調査（バングラデシュ チッタゴン東部丘陵地帯竹林，2009年4月19～22日）
竹類の一斉開花枯死に関する植生調査（インド ナガランド地帯竹林，2009年4月23～25日）
ミゾラム州における竹類の一斉開花枯死の調査（インド ミゾラム大学，2009年11月16～24日）
共同フィールド研究サイト選定のための予備踏査（ベトナム フエ，2010年3月5～6日）
地球環境学堂インドシナ地域ワークショップへの参加，研究打ち合わせ（カンボジア シェムリアップ，2010年3月3～4日）
ネパールにおける竹類の一斉開花枯死の調査（ネパール トリブバン大学，2010年3月19～22日）
- 白山 義久 沿岸海洋学拠点校セミナーに出席（ベトナム Hai Phong Convention Center，2009年10月26～29日）
海洋生物多様性に関する研究打ち合わせ（シンガポール ラッフル生物多様性研究博物館，2010年3月4日）
- 甲斐 嘉晃 クサウオ科魚類の標本調査（米国 ワシントン大学，2009年9月18～24日）
- 向井 宏 国際シンポジウムについての打ち合わせ及びクラマン川流域と沿岸域の環境調査（フィリピン・ミンダナオ，2009年5月18～24日）
- Antonio, Emily Sucaldito 国際シンポジウムについての打ち合わせ及びクラマン川流域と沿岸域の環境調査（フィリピン・ミンダナオ，2009年5月18～24日）
- 今西 亜友美 ラオスにおける水田の生物多様性調査（ラオス チャンパサック大学，2009年12月10～18日）

2010年度

- 安藤 信 ニュージーランドの南極ブナ・マキ科樹木の植生調査，情報収集（ニュージーランド，Mt. Cook 国立公園・オークランド植物園他，2010年12月17～28日）
- 徳地 直子 東南アジア熱帯地域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究（マレーシア・クチン，2010年8月12～23日）
- 長田 典之 ウォーカー循環系における大気振動と山岳の森林限界の形成に関する調査（マレーシア・キナバル公園局，2011年2月19日～3月3日）
- 山下 洋 ナマコの種苗生産と養殖技術に関する視察調査（中国・大連，2010年10月19～22日）
- 柴田 昌三 インド北東州における竹類の一斉開花枯死の調査（インド・インド北東州竹林，ミゾラム大学，2010年5月31日～6月5日）

- ミゾラム州における竹類の一斉開花枯死の調査（インド・ミゾラム大学，2010 年 11 月 22～28 日）
 ネパールにおける竹類の一斉開花枯死の調査（インドミゾラム州周辺広域の追跡調査），情報収集（ネパール・トリブヴァン大学自然史博物館，2011 年 2 月 20～22 日）
 ブータンにおける竹類の一斉開花枯死の調査（インドミゾラム州周辺広域の追跡調査），情報収集（ブータン・インド国境付近の竹林，2011 年 3 月 24～31 日）
- 長谷川 尚史 伐採・集材の実演，風害跡地・森林路網の視察，「バイオマス利用に関する研究」について現地関係者と情報交換（ドイツ・クライルスハイム市の森林，フライブルグ市の森林，2010 年 5 月 8～10 日）
 「バイオマス利用」に関する林業（路網と架線集材）の視察，現地関係者と情報交換（スイス，2010 年 5 月 11～12 日）
 「バイオマス利用」に関する林業（路網と架線集材）の視察（ドイツ Hessen Forst，2010 年 5 月 13～14 日）
- 大嶋 真謙 ナマコの種苗生産と養殖技術に関する視察調査（中国・大連，2010 年 10 月 19～22 日）
 南 憲史 ナマコの種苗生産と養殖技術に関する視察調査（中国・大連，2010 年 10 月 19～22 日）
 白山 義久 CBD(生物多様性条約)科学者会合に出席（ケニア・ナイロビ サファリクラブ，2010 年 5 月 8～15 日）
 Census of Marine Life(CoML)科学推進会議に出席（アメリカ・ロックフェラー大学，2010 年 6 月 1～6 日）
 生物多様性の保全と持続可能な利用のための分類学能力構築及びガバナンス会合に出席（フィリピン・Dusit Thani Hotel，2010 年 8 月 31 日～9 月 2 日）
 サンゴ分類能力育成ワークショップに出席（マレーシア・マレーシア科学大学，2010 年 12 月 4～9 日）
- 久保田 信 刺胞動物化石の共同研究（中国 Northwest University，2010 年 4 月 22～27 日）
 エチゼンクラゲの研究調査（韓国 Ewha Womans University，2010 年 5 月 7～12 日）
 エチゼンクラゲの研究調査（韓国 Ewha Womans University，2010 年 6 月 10～14 日）
- 向井 宏 河川沿岸，水，底生生物の調査（フィリピン・クラマン川，イリガン川，2010 年 4 月 15～20 日）
 ラグーン調査，Bo 川上流域調査，フエ市内の市場視察（ベトナム・フエ，2011 年 2 月 14～16 日）
 ジュゴン個体群の生態と河川生態系の影響の研究調査，「Dugon Forum」に出席（フィリピン・マリタ市 New Algaos，マティ市 Pujada 湾，ダバオ州立大学，2011 年 2 月 26 日～3 月 4 日）
- Antonio, Emily Sucaldito 河川沿岸，水，底生生物の調査（フィリピン・クラマン川，イリガン川，2010 年 4 月 15～20 日）
 ジュゴン個体群の生態と河川生態系の影響の研究調査，「Dugon Forum」に出席（フィリピン・マリタ市 New Algaos，マティ市 Pujada 湾，ダバオ州立大学，2011 年 2 月 26 日～3 月 4 日）
- 福島 慶太郎 サラワク州における流域河川水質調査会議と視察（マレーシア・クチン，2010 年 7 月 27～29 日）
 向 昌宏 ジュゴン個体群の生態と河川生態系の影響の研究調査，「Dugon Forum」に出席（フィリピン・マリタ市 New Algaos，マティ市 Pujada 湾，ダバオ州立大学，2011 年 2 月 26 日～3 月 4 日）

2011 年度

- 安藤 信 西オーストラリアのユーカリ林調査（オーストラリア 国立公園，2011 年 09 月 17～27 日）
 中島 皇 国立公園における森林保全に関する資料収集（オーストラリア，ケアンズ近郊の国立公園，2011 年 09 月 16～23 日）
- 徳地 直子 プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関する情報収集および現地調査，河川水の採水（マレーシア，ビントゥル開発局，2011 年 8 月 13～23 日）
 プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関する情報収集および現地調査，河川水の採水（マレーシア，ビントゥル開発局，2012 年 3 月 7～15 日）
- 柴田 昌三 インド・シッキム州における竹類の一斉開花枯死の調査（インド シッキム大学，ケディエコツアーズム促進協会，ロイド植物園，2011 年 5 月 25 日～6 月 2 日）
 竹の開花に関する資料・情報の収集（ネパール カトマンズ トリブヴァン大学自然史博物館スワヤンブ環境公園，2011 年 8 月 26～29 日）
 ミゾラム州における竹類の一斉開花枯死の調査（インド ミゾラム大学，2011 年 11 月 26 日～12 月 1 日）
- 長谷川 尚史 ミゾラム州における竹類の一斉開花枯死の調査（インド ミゾラム大学，2011 年 11 月 28 日～12 月 2 日）
 久保田 信 カイヤドリヒドラ類の生物学的研究（USA フロリダ タンパ周辺海域，2011 年 11 月 18～20 日）
 向井 宏 ジュゴン個体群の生態と森里海連環学研究，プハダ湾およびマヨ湾におけるジュゴンの摂餌生態の研究（フィリピン ニューアルガオ，マティ市内，2011 年 12 月 8～15 日）
- 福島 慶太郎 プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関する情報収集および現地調査，河川水の採水（マレーシア，ビントゥル開発局，2011 年 8 月 13～23 日）

2.5.3 国際学会発表

フィールド研の教員が運営または参加した国際学会の主たるものを以下に挙げる。

2008 年度

- 芝 正己 IUFRO DIV3 国際シンポ（日本・札幌，2008 年 6 月 15～21 日）
- 柴田 昌三 4th International Conference on Landscape and Ecological Engineering（台湾・台北 中国文化大学，2008 年 11 月 22～24 日）
- 長谷川 尚史 IUFRO All-D3 国際シンポ（日本・札幌，2008 年 6 月 15～21 日）
- 田川 正朋 第 5 回世界水産学会議（日本・横浜，10 月 20～24 日）
- 山下 洋 第 7 回国際異体類生態学シンポジウム（ポルトガル・セシンプラ Cine Teatro Joao Mota，2008 年 11 月 2～8 日）
- 第 5 回世界水産学会議（日本・横浜，2008 年 10 月 20～24 日）
- 深見 裕伸 国際サンゴ礁学会 11th International Coral Reef Symposium（国際珊瑚礁シンポジウム）2008（米国・マイアミ Broward County Convention Center，2008 年 7 月 7～11 日）
- 白山 義久 第 5 回世界水産学会議 セッション議長（日本・横浜，2008 年 10 月 20～24 日）
- 鈴木 豪 11th International Coral Reef Symposium（国際珊瑚礁シンポジウム）2008 において発表後，エクスカーションに参加（米国・フロリダ Broward County Convention Center，2008 年 7 月 5～18 日）
- 向井 宏 第 5 回世界水産学会議（日本・横浜，2008 年 10 月 20～24 日）
- 益田 玲爾 第 5 回世界水産学会議（日本・横浜，2008 年 10 月 20～24 日）
- 杉本 亮 第 8 回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス）において，伊勢湾の窒素循環に関する研究成果の発表（中国・上海エバーブライト国際会議場，2008 年 10 月 26～30 日）

2009 年度

- 吉岡 崇仁 International Symposium of Integrated Coastal Management for Marine Biodiversity in Asia 参加（京都市，2010 年 1 月 14～15 日）
- 芝 正己 IUFRO 国際森林研究機関連合ワークショップ参加（イタリア 地中海大学，2009 年 6 月 17～19 日）
- 徳地 直子 BIOGEMON2009 6th International Symposium on Ecosystem Behavior 参加・発表（フィンランド ヘルシンキ大学，2009 年 6 月 28 日～7 月 3 日）
- Nitrogen Deposition and Natura 2000 Workshop 参加・発表，情報収集（英国エジンバラ，2009 年 11 月 15～19 日）
- 中島 皇 砂防ワークショップ参加・講演，資料収集（韓国 忠北大学校，2009 年 11 月 13～15 日）
- 山下 洋 International Symposium of Integrated Coastal Management for Marine Biodiversity in Asia 参加（京都市，2010 年 1 月 14～15 日）
- 柴田 昌三 International Conference on VIII World Bamboo Congress 2009 出席発表及び各地竹林視察（タイ・バンコク インペリアルクイーンズパークホテル，2009 年 9 月 15～23 日）
- 地球環境学堂インドシナ地域ワークショップへの参加，研究打ち合わせ（ベトナム フエ，2010 年 3 月 5～6 日）
- International Symposium of Integrated Coastal Management for Marine Biodiversity in Asia 参加（京都市，2010 年 1 月 14～15 日）
- 甲斐 嘉晃 8th Indo-Pacific Fish Conference（オーストラリア パース，2009 年 6 月 1～5 日）
- 白山 義久 CoML 科学推進委員会に出席（南アフリカ ケープタウン，2009 年 6 月 13～16 日）
- 第 32 回ロンドン条約科学者会議及び第 3 回ロンドン議定書科学者会議に出席（イタリア Food and Agriculture Organization of UN，2009 年 5 月 25～29 日）
- 生物多様性条約に関する専門ワークショップに出席（カナダ オタワ，2009 年 9 月 28 日～10 月 2 日）
- NaGISA ワークショップに参加（インドネシア Hotel Formosa Manado，2010 年 3 月 3～3 日）
- 深見 裕伸 BioDiversity Synthesis Group に出席し情報収集（米国 L'Enfant Plaza Hotel，2009 年 6 月 14～19 日）
- 向井 宏 日韓干潟シンポジウムに出席（韓国・順天市，2009 年 6 月 20～22 日）
- International Symposium of Integrated Coastal Management for Marine Biodiversity in Asia 実行委員（京都市，2010 年 1 月 14～15 日）
- 佐藤 真行 European Association of Environmental and Resource Economists で発表，討論，意見交換（オランダ Vrije University, Amsterdam，2009 年 6 月 24～27 日）
- International Conference "From GDP to Well-being" 参加，討議，情報収集（イタリア Universita Plitecnica Delle Marche，2009 年 12 月 3～5 日）
- International Symposium of Integrated Coastal Management for Marine Biodiversity in Asia 参加（京都市，2010 年 1 月 14～15 日）

- 福島 慶太郎 BIOGEOMON2009 6th International Symposium on Ecosystem Behavior 参加・発表（フィンランド ヘルシンキ大学，2009 年 6 月 28 日～7 月 3 日）
- 原田 百聞 JSPS-NaGISA Western Pacific Sponge Taxonomy Training Workshop に出席（タイ プラパ大学，2009 年 5 月 30 日～6 月 2 日）
 IOC/WESTPAC Workshop on Marine Invasive Species and Management in the Western Pacific Region に出席（タイ チュラロンコン大学，2009 年 6 月 4～5 日）
 NaGISA Sampling Protocol Training Workshop に出席（ベトナム Nha Trang Oceanography Institute, 2009 年 8 月 27～31 日）
 NaGISA-JSPS Western Pacific Marine Biodiversity Conference に参加（国連大学（東京），2009 年 12 月 15～16 日）
 NaGISA-LIPI Western Pasafic Sampling Protocol Training Workshop に参加（インドネシア LIPI Bitung, 2010 年 2 月 28 日～3 月 5 日）

2010 年度

- 中島 皇 XXIII IUFRO World Congress（韓国 ソウル，2010 年 8 月 23～28 日）
 砂防ワークショップ参加・講演，資料収集（韓国 忠北大学校，COEX 2010 年 11 月 13～15 日）
- 柴田 昌三 2nd Intl. Conference of Urban Biodiversity & Design (URBIO2010)（日本・名古屋市ウインクあいち，2010 年 5 月 18～22 日：監事及び発表 5 件）
- 益田 玲爾 34th Annual Larval Fish Conference に参加（米国 Fort Marcy Hotel Suites, 2010 年 5 月 29 日～6 月 4 日）
- 白山 義久 IPBES(生物多様性と生態系サービスに関する政府間科学プラットフォーム)ワークショップに参加(アメリカ National Center Training Center, 2010 年 5 月 3～7 日)
 Census of Marine Life 2010: A Decade of Discovery (イギリス The Royal Institution of Great Britain, The Royal Society, 2010 年 10 月 3～8 日)
- 久保田 信 7th Workshop of the Hydrozoan Society に出席（イタリア University of Salento, 2010 年 9 月 9～19 日）
- 深見 裕伸 2nd Asia Pacific Coral Reef Symposium に出席，サンゴ類に共生する大型無脊椎動物の多様性に関する情報収集および打合せ（タイ・プーケット ROYAL PHUKET CITY HOTEL, 2010 年 6 月 20～24 日）
- 原田 百聞 Training Workshop on Corals Taxonomy に出席，NaGISA プロジェクトの引継業務（マレーシア Universiti Sains Malaysia, 2010 年 12 月 4～9 日）
 Census of Marine Life 2010: A Decade of Discovery (イギリス The Royal Institution of Great Britain, The Royal Society, 2010 年 10 月 3～8 日)
- 向井 宏 The World Seagrass Conference に出席（タイ The Club Andaman Beach Resort Hotel, 2010 年 11 月 22～24 日）
 International Symposium for the convention on biological diversity（東京，2010 年 7 月 26～28 日）
- 佐藤 真行 4th World Congress of Environmental and Resource Economists に出席，発表（カナダ Universite du Quebec a montreal, 2010 年 6 月 28 日～7 月 3 日）
- Antonio, Emily Sucaldito ECSA47 Symposium に出席，発表，プラント川からモンデゴ河口にかけて生物や植物を調査（ポルトガル CAE, 2010 年 9 月 14～19 日）

2011 年度

- 山下 洋 INTERNATIONAL FLATFISH SYMPOSIUM 2011（オランダ Ijmuiden, 2011 年 11 月 5～11 日）
 EML 国際シンポジウム(中国 深圳, 2011 年 12 月 10～12 日)
- 柴田 昌三 International workshop on bamboo cultivation and utilization, “Cultivation and utilization of bamboos in temperate zone, Japan -Traditional methods and innovative trial for new use- “（カセサート大学, Bangkok, Thailand, 2012 年 1 月 14～18 日）
- 益田 玲爾 フィリピン・イロイロ島の Southeast Asian Fisheries Development Center において Internatnial Training Course on Community-Based Resource Enhancement の講師として参加（2011 年 7 月 13～17 日）
- 河村 真理子 「第 8 回日中韓大型クラゲ国際ワークショップ」に出席（中国 三亚海域中央度假酒店, 2011 年 12 月 16～18 日）
- 佐藤 真行 European Association of Environmental and Resource Economists において，学会発表（イタリア University of Rome, 2011 年 6 月 28 日～7 月 3 日）
 EAAERE2012 において，学会発表（インドネシア Padjadjaran University, 2012 年 2 月 2～4 日）

福島 慶太郎 AUG2011 において、学会発表(米国サンフランシスコ Moscone Center, 2011 年 12 月 4～7 日)
佐藤 拓哉 American Fisheries Society 141st Annual Meeting において、学会発表(米国 Washington State Convention, 2011 年 9 月 5～8 日)

2.5.4 在外研究

2008 年度

田中 克(名誉教授)

アカメ仔稚魚の塩分適応に関する実験 (マレーシア サバ大学, 2008 年 5 月 13～29 日)
久保田 信 刺胞動物門の系統分類学的研究 (中国・西北大学, 2008 年 4 月 17～20 日)
大型クラゲの発生調査研究 (韓国・ソウル周辺海域, 2008 年 9 月 22～26 日)
大和 茂之 台湾におけるカワリヌマエビ属及び共生動物の研究打ち合わせ及び採集調査 (台北・大甲溪・雲林・高雄周辺) (科研費基盤研究 B 課題番号 1931050 「外来個体群の進入・分散に伴う淡水エビ類の遺伝子汚染と共生システムの攪乱」) (台湾・台湾特有生物研究保育中心, 2008 年 9 月 8～16 日)

2009 年度

久保田 信 共同研究 (中国・西北大学およびアモイ大学)
大型クラゲの共同研究 (韓国・大邱大学)
青山 弘 NaGISA 研究のデータベース作成に関する打ち合わせ (カナダ Bedford 海洋研究所, 2010 年 1 月 27～29 日)

2010 年度

久保田 信 ベニクラゲの生物学的研究 (イタリア universita' del Salento, 2010 年 5 月 24～27 日)

2011 年度

宮崎 勝己 京大ウィーン大学間学術交流協定に基づく派遣研究 (オーストリア ウィーン大学, 2012 年 1 月 12～25 日)
佐藤 拓哉 溪流生態系に関する野外実験研究 (カナダ コロンビア大学, 2011 年 6 月 1 日から長期滞在)

2.5.5 外国人の受け入れ

フィールド研では先進国・途上国を問わず、幅広い国から研究者および留学生を受け入れてきた。

2008 年度 招聘外国人学者

Gwak Woo-Seok (郭 又哲 カク ウ ソク) (日本学術振興会) / 「スズキ属魚類の核 DNA の分析: 交雑個体群の探索」に関する研究 (韓国・国立慶尚大学校 海洋科学大学 海洋生命科学科助教授 (京大農学部博士課程卒業), 2008 年 6 月 24 日～8 月 19 日, 受入教員: 中山 耕至)

2009 年度 招聘外国人学者

Hassan-Zaki Pakhriazad (ハッサン-ザキ パクリアザド) / マレーシアにおける FSC(森林管理協議会) 認証の森林施業体系について (マレーシア プトラマレーシア大学講師, 2009 年 9 月 1 日～, 受入教員: 芝 正己)
Gwak Woo-Seok (日本学術振興会) / 「DNA 分析による海産魚類の遺伝子的多様性と集団分析に関する検討」(韓国 国立慶尚大学校 海洋科学大学 海洋生命科学科助教授, 2010 年 1 月 4 日～2 月 28 日, 受入教員: 中山 耕至)

2010 年度 招聘外国人学者

Hassan-Zaki Pakhriazad マレーシアにおける FSC(森林管理協議会) 認証の森林施業体系について (マレーシア プトラマレーシア大学講師, 2009 年 10 月 30 日～2010 年 4 月 19 日, 受入教員: 芝 正己)
Suriyan Tunkijjanukij (スリヤン ツンキジャヌキ) / タイにおける沿岸管理学 (タイ Kasetsart University 水産学部長, 2011 年 2 月 21～22 日, 受入教員: 向井 宏)

2011 年度 招聘外国人学者

MIA Md. Younus (ミア エムディー ユーヌス) / 丹後海の生物生産構造における鍵生物群としてのアミ類の摂餌生態 (バングラデシュ モラナーバシャナ科学技術大学 准教授, 2011-05-01/2012-02-29, 受入教員: 山下 洋)
Gwak Woo-Seok 「DNA 分析による海産魚類の遺伝子的多様性と集団分析に関する検討」(韓国 国立慶尚大学校 海洋科学大学 海洋生命科学科 助教授, 2011 年 7 月 19～29 日および 2012 年 2 月 13～19 日, 受入教員: 中山 耕至)

2008 年度 外国人共同研究員

Md. Shahidul Islam	日本学術振興会外国人特別研究員（バングラディシュ，受入教員：山下 洋）
Robert, Dominique	日本学術振興会外国人特別研究員／海産仔稚魚に対するクラゲの補食圧とその加入強度に関する影響（カナダ・Laval 大学 生物学部博士課程修了，2008 年 7 月 16 日～，受入教員：益田 玲爾）
Reft Abigail Julia	日本学術振興会国際交流事業（サマープログラム）（米国・カンサス大学 海洋生物学専攻大学院生，2008 年 6 月 28 日～8 月 19 日，受入教員：久保田 信）

2009 年度 外国人共同研究員

Robert, Dominique	日本学術振興会外国人特別研究員／海産仔稚魚に対するクラゲの補食圧とその加入強度に関する影響（カナダ・Laval 大学 生物学部博士課程修了，2008 年 7 月 16 日～2009 年 11 月 2 日，受入教員：益田 玲爾）
Zeina Amr Farag Abdel Kader Mohamed	（ゼイナ アムル ファラグ アブドル カデル モハメド）／「海産藻類群集の生態学的研究」（エジプト Al-AZHAR 大学 Marine and Fish laboratory・Assistant Lecturer，2009 年 4 月 27 日～，受入教員：白山 義久）

2010 年度 外国人共同研究員

Zeina Amr Farag Abdel Kader Mohamed	「海産藻類群集の生態学的研究」（エジプト Al-AZHAR 大学 Marine and Fish laboratory・Assistant Lecturer，2010 年 4 月 15 日～9 月 30 日 および 11 月 1 日～2011 年 4 月 14 日，受入教員：白山 義久）
MARUF KASIM（マルーフ カシム）	／緯度に沿った河口域生態系における植物プランクトン群集の役割（インドネシア・ハルオレオ大学講師兼研究員，2010 年 11 月 20 日～2011 年 1 月 28 日，受入教員：向井 宏）

2011 年度 外国人共同研究員

Adams, Jonathan Miles（アダムス ジョナサン マイルズ）	／メタゲノム解析を用いた東アジアの緯度系列に沿った土壌微生物群集の多様性比較（ソウル国立大学 助教，2012 年 1 月 29 日～2 月 28 日，受入教員：館野 隆之輔）
--	---

2008 年度 留学生

呉 初平	私費留学生（農学研究科博士課程 3 年）（中国，柴田 昌三／安藤 信）
Alex Souza	国費留学生（ブラジル，柴田 昌三／長谷川 尚史）
陳 炳善	私費留学生（韓国，山下 洋）
Emily Sucaldito Antonio	国費留学生（フィリピン，山下 洋）
Chaitanya Kumar Bhandare	国費留学生（インド，山下 洋）
Yi-Ting Lien（連怡婷）	私費留学生（台湾，山下 洋）

2009 年度 留学生

呉 初平	私費留学生（農学研究科博士課程 4 年）（中国，柴田 昌三／安藤 信）
Alex Souza	国費留学生（ブラジル，柴田 昌三／長谷川 尚史）
Chaitanya Kumar Bhandare	国費留学生（インド，山下 洋）
Yi-Ting Lien（連怡婷）	私費留学生（台湾，山下 洋）
Michelle Lynn Walsh	フルブライト研究員（特別研究学生，米国，山下 洋）
陳 炳善	研修員（7 月 1 日～9 月 30 日，韓国，山下 洋）

2010 年度 留学生

Alex Souza	国費留学生（ブラジル，柴田 昌三／長谷川 尚史）
Chaitanya Kumar Bhandare	私費留学生（インド，山下 洋）
Yi-Ting Lien（連怡婷）	私費留学生（台湾，山下 洋）
Michelle L. Walsh	フルブライト研究員（米国，山下 洋）

2011 年度 留学生

Alex Souza Bastos	国費留学生（ブラジル，柴田 昌三／長谷川 尚史）
Chaitanya Kumar Bhandare	私費留学生（インド，山下 洋）
Yi-Ting Lien（連怡婷）	私費留学生（台湾，山下 洋）
Michelle L. Walsh	フルブライト研究員（米国，山下 洋）

2.5.6 21 世紀 COE プログラム「昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生」

フィールド研の教員が構成員の一部となって 2008 年度までの 5 ヶ年で実施した 21 世紀 COE プログラム「昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生」(2.2.5 参照)では、最終年度の 2008 年 11 月 10 日から 12 日に、京都大学芝蘭会館において、第 3 回 COE 昆虫科学国際シンポジウム “Construction of the Novel Model of Pest Management Based on Biological Interactions”を開催した。このシンポジウムは次の 6 つのセッションから構成され、Vincent Henrich (University of North Carolina, USA), Robert Hormann (Intrexon Corp, USA), Lesley Hughes (Macquarie University, Australia) らの当該分野を世界的に代表する研究者による講演があり、活発な議論が行われた。

Session 1: Molting mechanisms in insects

Session 2: Insect-produced elicitors: Recent progress

Session 3: Impacts of global warming on insects

Session 4: Micro-habitat condition and herbivore-predator interaction

Session 5: Insect-plant pollination system in forests under changing environment

Session 6: Entomomimetics: perspectives of insect biomimicry

2.5.7 マレーシア サバ大学との学術協力協定

2006 年 7 月、マレーシア・サバ大学ボルネオ海洋研究所と当センターとの間で学術協定が締結された。ボルネオ海洋研究所は観光地としても知られているコタキナバルの郊外に位置し、学生の交流ならびに仔稚魚の初期生活史研究や生物多様性研究での協同が行われている。なお、前センター長である田中克名誉教授が、2007 年から 2008 年まで、ボルネオ海洋研究所の客員教授として研究活動を行い、その後も同大学持続農学部客員教授となられた。現在に至るまで、サバ大学のスタッフおよび大学院生と当センターのスタッフの間では、研究と教育の両面で、頻繁に情報交換がなされている。

2.5.8 自己総合評価、課題、展望

これまで示してきた通り、フィールド研では国際学会を開催するとともに、海外各地のフィールドで調査を行い、そして多くの外国人研究員を受け入れてきた。海外のフィールドとしては、東南アジア諸国が多いものの、ヨーロッパ、北・南米、豪州、そしてアフリカと、南極以外のすべての大陸にわたっている。これと呼応して、フィールド研を訪れる研究者や留学生の出身国もまた極めて多様である。これは、森里海連環学というフィールド研の掲げるコンセプトへの関心が、世界的な広がりを見せている証左とも言える。

環境問題が特に切迫しているのは、先進国よりもむしろ途上国である。特にアジア諸国では、過剰な開発がもたらす生活環境の悪化に加えて、急激な人口増加、そして食料不足といった問題を抱える。こうした諸問題解決の糸口をも、森里海連環学は提供しうる。各国からの留学生や研究者が母国に戻った後も、コンタクトを密にとることにより、強大なネットワークを構築することが可能である。

3 管理と運営

3. 1 教授会

フィールド研では、教授会を月に 1 回の割合で開催し、部局の重要事項について議論を重ねている。教授会の構成員は、全教授と農学部等事務部の事務部長・総務課長・経理課長・研究協力課長・フィールド研担当専門員・総務掛長である。

平成 19 年 5 月の教授会からは、講師以上の教員によって構成される会議となっている。また、教授会の議事録等は、フィールド研構成員専用ウェブページで全構成員と情報共有している。

3. 2 教員会議

全教員から構成される教員会議は、発足当初は、隔地施設などを巡回しながら開催していたが、平成 19 年 5 月から教授会の構成員が拡大され、また、各施設での開催も一巡したため、平成 19 年度からは、年 1 回程度の開催としている。

3. 3 運営委員会

学内の有識者からなる運営委員会は、フィールド研の管理運営についての重要事項に関して、センター長から諮問を受け助言をすることを主たる目的としている。フィールド研の外部からの忌憚のない指摘を受け、センター長をはじめとする教授会のメンバーは、提言を参考にしながらフィールド研の運営方針を立案修正にあたっている。

各年度の運営委員は、下記のとおりである。

区分		2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度
議長	フィールド研 センター長	白山 義久	白山 義久	白山 義久	柴田 昌三
1 号	フィールド研 教授	山下 洋	山下 洋	山下 洋	山下 洋
	フィールド研 教授	柴田 昌三	柴田 昌三	柴田 昌三	吉岡 崇仁
	フィールド研 教授	吉岡 崇仁	吉岡 崇仁	吉岡 崇仁	朝倉 彰 (2012. 1. 1. ～)
2 号	理学研究科 准教授	渡辺 勝敏	渡辺 勝敏	渡辺 勝敏	渡辺 勝敏
	農学研究科 教授	谷 誠	谷 誠	北山 兼弘	北山 兼弘
	地球環境学堂 教授	森本 幸裕	森本 幸裕	森本 幸裕	森本 幸裕
	生態学研究センター 教授	椿 宜高	高林 純示	高林 純示	高林 純示
	総合博物館	大野 照文	大野 照文	本川 雅治	本川 雅治
	東南アジア研究所	河野 泰之	河野 泰之	安藤 和雄	安藤 和雄

3. 4 協議員会

フィールド研の最高議決機関である協議員会は、フィールド研の全教授と学内関連部局の長を中心とした関連教員から構成される。センター長の選任、教員人事の決定、概算要求事項の承認、組織の改編にかかわる事項の承認を行う。それ以外の事項については、原則として教授会に決定を委任している。もっとも重要な事項である、センター長の選任と人事の承認は、2/3 以上の出席が必要で、人事については 3/4 以上の承認を必要とする。

各年度の協議員は、下記のとおりである。

区分	職名	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度
1 号	フィールド研センター長	白山 義久	白山 義久	白山 義久	柴田 昌三
2 号	フィールド研教授	山下 洋	山下 洋	山下 洋	山下 洋
	フィールド研教授	柴田 昌三	柴田 昌三	柴田 昌三	吉岡 崇仁
	フィールド研教授	吉岡 崇仁	吉岡 崇仁	吉岡 崇仁	朝倉 彰 (2012. 1. 1. ～)

3号	高等教育研究開発推進機構長	北村 隆行	山本 行男	山本 行男 (～2010.9.30) 淡路 敏之 (2010.10.1～)	淡路 敏之
	理学研究科長	加藤 重樹	吉川 研一	吉川 研一	山極 壽一
	理学研究科動物学教室	堀 道雄	堀 道雄	堀 道雄	堀 道雄
	農学研究科長	奥村 正悟	遠藤 隆	遠藤 隆	遠藤 隆
	農学研究科附属農場長	米森 敬三	米森 敬三	米森 敬三	米森 敬三
	地球環境学堂長	嘉門 雅史 (～2008.9.30)	小林 慎太郎	小林 慎太郎	小林 慎太郎
		小林 慎太郎 (2008.10.1～)			
	学術情報メディアセンター教授	中村 裕一	中村 裕一	中村 裕一	中村 裕一
	生態学研究センター	大串 隆之	椿 宜高	椿 宜高	椿 宜高
	総合博物館長	山中 一郎	大野 照文	大野 照文	大野 照文

3. 5 部局内常設委員会

各種常設委員会の構成員は以下のとおりである。

2011年4月13日現在

<教授が担う委員会>

将来構想企画委員会 柴田・山下・吉岡・向井
教育研究評価委員会 柴田・山下・吉岡・向井
施設・設備整備委員会 柴田・山下・吉岡・向井

<教授が当面委員長を務める委員会>

教育プログラム委員会 ○山下・徳地・田川・長谷川・中島・宮崎・佐藤
研究プログラム委員会 ○吉岡・安藤・梅本・益田
広報委員会 ○吉岡・久保田・梅本・寄元・坂野上・甲斐・佐藤・榎田
人権問題対策検討委員会 ○柴田・山下・吉岡・徳地・益田・和田
情報セキュリティ委員会 ○柴田・上野(幹事)・中山・榎田

<准教授・講師・助教が委員長を務める委員会>

施設・設備整備委員会ワーキンググループ
遠隔講義システム等整備WG ○安藤・館野・宮崎・坂野上・上野
連携棟新営WG ○梅本・久保田・田川・中西
社会連携委員会 ○田川・長谷川・中島・益田・大和・中山・寄元・中西
国際委員会 ○佐藤・益田・中西・中野
労働安全衛生委員会 ○徳地・坂野上・甲斐・大和・吉岡・向

(○は、委員長)

技術職員の在り方検討委員会(役職指定) センター長・副センター長・総務課長・技術長・森林系教授
危機管理委員会 全教授・各施設長・技術職員(若干名)

3. 6 教授懇談会

2007年の教授会構成メンバーの拡大に伴い、フィールド研における執行部的役割、財務委員会的な役割、等を具体的に担うために、教授懇談会が設置された。本会は、センター長候補者の推薦等の役割も担っている。また、教授会において検討される様々な議題の検討・提案も行っている。その構成員は、フィールド研教授及び連携教授である。

3. 7 自己総合評価、課題、展望

基本的には多くの委員会が、それぞれの役割に応じて機能し、円滑に動いていると考えられる。一部に機能していない委員会があるが、これは二つのタイプに分けて考えることができる。一つは将来的に再度機能することが期待される委員会であり、連携棟新営WG等が考えられる。もう一つは他の委員会がすでにその機能を果たしているものであり、その機能の多くを教授懇談会が果たしている教授がになる三委員会である。これに関しては、今後その在り方を検討する必要がある。

フィールド研では今後、矢継ぎ早に学内で提示される改革方針に対して、小部局としてどのように対応していくか、

が重要な案件であると考えられ、これに即応できるような委員会、あるいはWGが臨機応変に設置されることが望まれる。また、社会情勢の変化により、委員会が所掌すべき内容が多岐にわたっている委員会もある。その代表として考えられるのは社会連携委員会であり、本委員会の下にもWGや小委員会を設ける努力が必要である。

フィールド研では、日本財団による特任教員や白眉センター特任助教を連携教員として受け入れ、フィールド研の活動の一翼をお願いしている。特に、日本財団による特任教員に関しては、フィールド研が展開する地域連携事業に関連する諸委員会において協力をお願いしてきた。今後も、このような協力体制は維持していく必要がある。

4 各施設における課題

フィールド研は2012年度が設立10年目となる。その間、教育研究の体制を整えてきたが、多数の隔地施設の統合部局であるので、分散した各施設には特有の課題がある。そこで、本章ではそれぞれの施設の課題と展望をまとめた。

4. 1 芦生研究林

課題

1. 施設

施設全体が老朽化しており、多数の課題があるが、一部は改修工事が実施または予定されており、少しずつではあるが改善されてきている。それでもなお非常に古い施設が多く、課題は多い。

(1) 宿泊所（1923年、1931年築）

- ・実習・調査における女性利用者の増加により専用トイレの整備と浴室の拡張が必要である。
- ・現在は大部屋が多く、時期によっては部屋数が足りずに利用を断るケースがある。より多くのグループを受け入れることができるよう、大部屋に仕切りを設置するなどの対策が必要である。
- ・炊事施設は利用者自炊専用となっているが、学生実習などでは食事提供の要望が多い。衛生管理が整った特定給食施設としての炊事室の整備と人員の確保が必要である。
- ・夜間の火災等、非常時における非常灯および非常口誘導灯の設置が必要である。
- ・屋根の構造が積雪地用に設計されておらず、雪下ろし作業に手間がかかり、また度々、大雪による損傷が生じている。根本的な改修が必要である。

(2) 事務室（1931年築）

- ・トイレが男性向けに設計されており、女性用トイレの整備が必要である。ただしスペースの問題があり、改修での対応は難しく、当面は壁の設置など応急処置で対応せざるを得ない。
- ・廊下及び階段の壁が老朽化しており、張替が必要である。
- ・壁を追加する耐震補強工事が予定されているが、現状でも技術班の部屋が狭く、避難経路の確保の観点からも、何らかの改修が必要である。

(3) 自動車庫（1981年築）

- ・照明が暗く、照明機器の増設が必要である。

(4) 物品倉庫（1983年築）

- ・鉄製外階段が老朽化しており、危険な状況になっている。早急な改修が必要である。
- ・積雪圧により1階外壁および庇の損傷が著しく、改修・修理が必要である。

(5) 危険物倉庫（1974年築）

- ・スレート屋根老朽化のため改修が必要である。

(6) 公用車簡易給油装置（軽油専用）

- ・老朽化により故障が絶えず更新が必要である。

(7) 製材室、木工小屋及び目立室（1936年、1937年築）

- ・現在は講義室および木工室として使用しており、耐震補強工事が予定されているが、建物自体の本来の使用目的が異なるため、本格的な改修工事が必要である。
- ・長期滞在者用研究室および化学実験室の設置の要望が強く、木工室の一部および目立室を利用して、要望にあった改修を行う必要がある。

(8) 木材乾燥室（1970年築）

- ・現在は生物実験室として使用されているが、本格的な改修を行う必要がある。
- ・屋内天井が損傷しており、落下の危険がある。安全のため早急な補修が必要である。

(9) 長治谷宿泊所炊事室（1972年築）

- ・当地は構内よりもさらに積雪が多く、外壁や庇等、建物の損傷が著しい。本格的な改修を行う必要がある。

(10) 林道

- ・総延長34kmの林道を維持管理していくため大型建設機械による作業の効率化を図っているが、導入から37年が経過するブルドーザ（昭和50年式）をはじめ、重機の老朽化が著しく、多額の維持費がかかっている。早急に、より効率的で維持費のかからない機種への更新が必要である。

(11) 構内

- ・例年、除雪作業に多大な労力が必要になっている。雪下ろし不要な建物形状への改修や、除雪の際の導線確保のための建物配置など、構内施設の根本的な見直しが必要である。
- ・除雪に用いる重機も老朽化しており、早急に、より効率的で維持費のかからない機種への更新が必要である。
- ・事務所脇のドイツトウヒなど、構内の樹木が枯死するケースが多くなっている。これらを放置すると、建物等に損傷を与えかねず、早急な枯死木の処理が必要である。

2. 教育・研究設備

- (1) 近年、長期研究調査利用が増加傾向にあり、それに対応できる生物系及び化学系の一次処理実験室が無いため、教員・学生が毎日京都市内から通っている。効率良く研究調査を行うには一次処理実験施設が必要不可欠である（施設の項の(7)(8)参照）。
- (2) 旧製材所を職員の手で 50 人定員の仮設講義室に改修し、公開講座や学生実習などに使用しているが、雨漏れやすきま風が入り込むほか、周囲の雑音も入り、講義室としての環境が整っていない。また、断熱性も低く、冬期間および真夏の使用が困難となっている（施設の項の(7)参照）。
- (3) 長期滞在者が研究に用いることができる研究室がなく、強い要望があがっている（施設の項の(7)参照）。
- (4) 研究林内には約 250ha の人工林があり、学生実習や研究等に使用されているが、近年の予算削減により間伐等の手入れがほとんど実施されておらず、教育・研究の両面で支障が生じているほか、土壌流出による水質悪化など、周辺環境への影響も地域住民から指摘されている。また近年は植林も行われていないため、若齢林分がなく、多様な教育・研究に対応するフィールド整備ができていない。
- (5) 近年、ナラ枯れおよびニホンシカによる植生被害の影響が大きくなっており、一部の希少動植物の絶滅が危惧されている。これらの種を保護し、将来の教育・研究のシーズを絶やさないよう、より大規模なナラ枯れ対策、シカ防除を行う必要がある。

3. 人員

- (1) 学内外の教育・研究利用者 3,500 人/年のほか、一般入林者が年間 7,300 人/年あり、これら入林に対応するための業務が非常に多くなっていることから、入林受付業務を担当する人員が必要となっている。
- (2) 学生実習や長期滞在者からの食事提供に関する要望が多いため、食事提供や宿泊室管理に専属できる有資格者が必要である。
- (3) 増加する学内外の学生実習に対応する専門の人員が必要である。できれば、長期滞在して調査・研究を行っている学生を非常勤職員等の形態で雇用し、実習の指導及び実習に関する事務作業等を行ってもらうことが望ましい。

4. 予算

現状では最低限の維持管理にかかる予算の確保にも苦慮する状況であり、これらを実施できる予算がないが、様々な機会に的確な要求を行い、少しずつでも改善を図っていききたい。

5. その他

- (1) 東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故の影響により、防災重点区域を 30km に拡張する指針が出されたが、研究林は関西電力大飯原子力発電所から 30km 圏内に位置し、事故を想定した防災計画を策定する必要がある。
- (2) 近年は学内だけでなく他大学の実習を積極的に受け入れているほか、地元の小中高やより広域の高校の実習、NPO などの研修等も受け入れている。これらは大変な労力ではあるが、地域連携、高大連携などの観点から重要な取り組みであると考えている。しかし職員が減る中、対応は年々困難になってきており、今後はより戦略的に捉える必要がある。
- (3) 2011 年度中に一般入林者の入林規則の改定準備を進め、対象期間外となる 2012 年 4 月に改定を行ったが、入林の状況と植生への影響等を踏まえ、さらなる見直しを行っていく必要がある。また、土・日、祝日の利用入林への職員対応法も再考の余地がある。
- (4) 芦生研究林の契約は 2020 年に終わり、契約終了後の体制構築について、十分に検討し、地権者と交渉していく必要がある。また数年後には国定公園化の話もあり、早急なゾーニングが必要となっている。協定団体のガイドツアーへの対応と合わせ、より戦略的な対応が必要となっている。

展望（将来計画）

1. 施設

- (1) 事務所管理棟・実験室及び宿泊施設は、新規に建替要求を提出済みであるが、引き続き予算獲得を望みたい。
- (2) 当面は、上記の老朽化対応や改修増設、枯死木の処理、除雪の効率化を図る要求を行っていく。

2. 教育・研究設備

- (1) 木材乾燥室を生物系実験室に改修し、実験台・乾燥機・顕微鏡などの設備を整える。
- (2) 旧製材所目立室を化学系実験室に改修し、純水装置・実験台・冷凍庫等の設備を整える。
- (3) 木工室の一部を改修し、長期滞在者用研究室を設置する。
- (4) 林道整備および除雪にかかる重機の更新を要求する際に、森林整備にも使用できる機種を選定し、人工林及び天然生林における路網開設との森林整備を進める。
- (5) より多くの教育・研究を誘致し、それらのプロジェクトを通じた研究設備及びデータの整備を図る。

3. 人員

- (1) 入林対応職員を配置したい。
- (2) 宿泊所管理及び食事提供が出来る専任職員を 1 名採用したい。
- (3) 実習対応専門に学生を雇用したい。

4. 予算

- (1) 芦生研究林単独での要求のほか、他研究林・試験地との合同による概算要求など、外部資金獲得による運営交付金削減分の補填に努める。
- (2) 森林整備にともなって搬出される木材の売り上げを確保し、運営交付金削減分の補填に努める。
- (3) 研究プロジェクトを誘致し、予算の都合で実行できない間伐等の森林整備、データ整備を、研究プロジェクトの中で実施するなど、様々な方策を検討する。

4. 2 北海道研究林

課題

1. 施設

標茶区の学生実習棟は1966年に建築され、今までも部分的な改修等を行ってきた。近年の実習受け入れ人数や女子学生の増加に対応すべく、今後とも整備していく必要がある。特に風呂の収容定員が少ないため、学生や担当教員に負担をかけているのが現状である。白糠区については、学生実習棟がないため、実習での宿泊・講義は行われていないが、管理業務や地域貢献活動、研究利用に必要な施設維持を継続していく必要がある。

2. 教育・研究設備

教育・研究の場となる造林地の間伐等の保育作業や天然林手入れ、さらに安全に運行できる林道の整備は不可欠であるが、予算・人員削減により困難になりつつあるのが現状である。また教育・研究利用促進のため、実験室の整備が不可欠である。

3. 人員

90km離れた標茶区・白糠区の2つの研究林を管理し、効率の良い業務を行うために、職員の確保と体制作りが重要である。また研究活動推進のため、研究員・研究補助員などの配置が望まれる。京都から離れた寒冷地に位置するため、職員の生活環境の改善、研修参加などの移動費用を確保するための予算の要求等、今後検討する課題は多い。

4. 予算

上記の課題の解決に向けて十分な予算が確保出来ていないのが現状であるため、学内外からの予算獲得に向けた一層の努力が必要である。また予算の執行に関して、北海道研究林では冬季に積雪があるため、造林や土木関連の請負事業の多くは夏場に行う必要があるが、予算配分の決定が遅れることや冬季に追加配当が行われるなどにより、効率的な事業の遂行に支障が出ている。地域性や業務の特性に配慮して夏季の事業予算の執行に柔軟に対応できる仕組みを作ってもらえるように関係部署へ働きかける必要がある。

5. その他

地域貢献・社会教育事業の増加、実習受け入れ数の増加、研究林における組織的研究に取り組むためにも、人員配置ならびに業務の見直し等が必要である。

展望（将来計画）

1. 施設・設備整備

標茶区の学生実習棟の風呂の増改築など、学生実習施設の拡充整備を行う。老朽化した大型機械の整備と順次更新を行う。構内および実習等で利用される林道や遊歩道の整備を行う。

2. 予算の確保

間伐計画による収入を継続的に確保するとともに造林補助制度の活用に向けて森林経営計画の策定を行う必要がある。また研究・地域貢献活動に対する学内外からの資金の獲得に努める。

3. 人員の充実

適正な人員の確保と、作業の効率化を図る。研究員・研究補助員などの確保に努める。

4. その他

小・中・高校、教育委員会等、地域社会と連携して、社会貢献事業（植物観察会・木工体験学習等）を推進する。技術職員が積極的に取り組むべき研究テーマを整理し、推進する。

4. 3 和歌山研究林

課題

1. 施設

2011年9月の台風により研究林内は壊滅的な被害を受け、災害規模の大きさならびに災害により重機も損害を受けたため自力の復旧は及ばず、いまだにほとんど復旧がなされていない状態である。本研究林の直面する最大の課題と

いえる。これまで指摘されてきた事務所がプレハブ（仮事務所）である点、作業機械が不十分である点などについても改善は行われておらず、同時に解決する必要がある。職員宿舎がないことも問題で、今後の職員の借家確保も困難である。

2. 教育・研究設備

講義室・実験室の充実が必要である点、測量機器が不十分である点、宿泊施設のない点、林道路網密度が低いことなどがあげられる。

3. 人員

事務職員がいらないことが最大の問題である。

展望（将来計画）

どれもすべての問題が予算とかかわるので、今後予算の獲得に取り組みたい。

4. 4 上賀茂試験地

課題

1. 施設

1949年に現在地に移転する前年の1948年に事務室、実験室、1959年に標本室、1961年に温室が建築され、これらが本試験地の主要施設である。温室は2009年に改築されたが、それ以外の施設は大きな増改築を行わずに使用されてきた。その間、農学部森林科学科（旧林学科）の学生定員は20名から60名に増加し女子学生の比率も高くなった。また他学部や他大学の実習やイベント、市民に一般公開される機会も多くなった。各施設ともに老朽化が進み、これらの利用に対応できない状況にある。

2. 教育・研究設備

事務所内にある講義室（定員40名）はきわめて手狭で視聴覚機器や設備も不十分であるため、教育を行う上で支障をきたしている。トイレなども早急に増設する必要がある。近年改築された温室は、本試験地の研究・業務の柱となる、外国産樹木の導入・育成に有効に利用されている。しかし標本館は、標本と研究資材が混在し、展示物を活用できていない。実験室は研究室としても使用されているが、機能的でなく、実験機器やフィールド研究・教育に必要な機材も不足し、定期的な更新も行われていない。

3. 人員

見本林の整備や気象観測など、長年続けられてきた業務に加え、近年、ナラ枯れや再発したマツ枯れ被害木の処分、さらに周辺地域や林内の風水害、樹木の大径化に伴う境界部に隣接する住宅との諸問題など、新たな業務を抱えている。現在、職員と他の研究林試験地からの応援や、請負化で乗り切っているが、すでに見本林の整備等に影響が現れている。

4. 予算

不測の業務にかかる経費も多く、良好な教育・研究施設や設備、フィールドを維持していくことは困難である。

5. その他

試験地は大学本部から至近の距離にあり市街地に位置することから、利用者がきわめて多い。平日の利用に加え、土日、祝日の教育や社会貢献に対する要望も多い。

展望（将来計画）

1. 施設・設備整備

現有施設のうち、事務所、実験室、標本館は利用が多く文化的価値が高い建造物でもあることから、2012年度に耐震工事が施工される予定である。これらの建物を維持しつつ、充実した教育・研究を行うために、将来的には新たな事務・研究棟を建築する構想をもつ。標本館については、工事終了後に展示室と資料室を分離し、整備していく計画である。

2. 予算の確保

予算の確保は大きな問題である。当面は学内資金や外部資金を獲得し、運営していく予定である。

3. 人員の充実

他の施設同様に、職員の増員を望むことはきわめて困難と考えられる。作業の能率化、請負化、施設間の交流で補っていく必要がある。

4. 5 徳山試験地

課題

1. 施設

約 40ha の森林が、瀬戸内の人口密度が高い地域に位置しているため、森里海連環学を地域(例えば周南市を主な相手方として)と共に実践していくのに絶好の場所である。また、80 年生のヒノキ人工林や天然林が試験地内にあることも魅力の一つである。(1)事務所、(2)作業所、(3)給水施設のうち特に給水施設の更新が必須である。

2. 教育・研究設備

過去に開講されていたポケゼミが行われなくなっていたが、平成 21 年度から復活させた。平成 23 年度で 3 年間継続的に開講している。試験地は実習施設としては、不十分であるが夏季・短期間との条件(キャンプ)での対応で、実施している。これまで利用していた井戸水や谷水が涸れることがあり、早急にボーリング等による給水施設の確保が必要である。

教育研究利用者が少ないので、利用者数の増加を促す企画として、周南市の教育委員会や公園花とみどり課と協働で、文化庁の「ふるさと文化財の森(檜皮)」に選定されたことを契機に試験地公開、みどりの案内人事業の特別講座、周南市連携講座を開催し、地域連携や社会貢献にも力を注いでいる。

3. 人員

管理・運営のための常勤職員数は現在再雇用の職員を含めて 2 名である。これ以上の職員減少は問題である。

4. 予算

森林系施設の全体的な予算減をうけて、元々予算規模が小さいためにその影響は大きい。地域や外部からの資金獲得に努める必要がある。

展望(将来計画)

1. 施設・設備整備

教育利用の一層の充実を図ると同時に社会貢献に向けて地域に開かれた試験地をめざしていく。周南市との連携協定を締結するべく調整を進めている。森里海連環学は学問のみでなく、社会での実践も不可欠であり、フィールド研究や活動に基づいた地域での活動が重要である。特に森里海が揃い、古くから人々が活動してきた地域の地方の中核都市で実践されれば大きな意味を持つ。瀬戸内地域における森里海連環学を実践しながら、広めていく 1 つの拠点になれば有効であろう。

2. 予算の確保

森林系施設として、全体から見た十分な対応が必要である。同時に、外部資金獲得への努力が必要である。

3. 人員の充実

屋外作業等には複数職員の対応が必要である。一人での作業では危険がある場合が多く、少なくとも技術職員 2 名体制は必要である。

4. 6 北白川試験地

課題

1. 施設

本試験地は、主に樹木実習用見本林としての役割を担っているが、年々見本園の高齢化(大径・高木化)に伴う風倒の危険性が増加し、この処理に迫られている。全体として高齢化し風倒の危険性のある樹木の除去と、同種の若令木の更新が必要である。

2. 人員

現在の陣容は、試験地長 1・技術職員 2(うち 1 名は再雇用)であり、非常勤職員 1 名を雇用している。今後、他の施設への人員異動などで減員が生じれば施設管理ができなくなる恐れがある。

3. 予算

高齢化した危険な風倒木の除去は、直営では技術職員に危険が伴うので、風倒の危険性のある木の強剪定や伐倒作業を業者委託する費用を必要としている。また、日常的な境界見回り、整備にも予算が必要である。

展望(将来計画)

1. 施設

高齢化した樹木の除去と、同種の若令木の更新作業を、予算との絡みで、出来る範囲で着々と行いたい。また、植物を用いた実験圃場としての機能を果たすために、区画の整理や植え込みの選定などによる周辺環境の改善など、各

種の整備を行いたい。

2. その他

本試験地は、大学の北部構内に位置しており、貴重な憩いの場所として大学全体に貢献することができる可能性を持っている。今後はこの機能の充実のために、ベンチなどの設備の充実を図りたい。

4. 7 紀伊大島実験所

課題

1. 施設

研究棟ならびに実習・講義棟、格納庫についてはフィールド研への移行に伴い、若干の整備が行われたが、その際に見送られた構内道路や旧官舎の劣化や腐朽がはなはだしい。

2. 教育・研究設備

フィールド研への移行に伴い、かなりの規模で改善された。

3. 人員

古座川プロジェクト開始と長期展開に伴い、現地専任または他施設からの支援教員ならびに他施設からの技術職員による臨機即応的支援の不足が否めない。

展望（将来計画）

1. 施設・設備整備

来るべき南海・東南海地震に備えた耐震補強、古座川プロジェクトならびに黒潮文化資料館開設のための準備、構内道路の整備ならびに県道からの引込みライフラインの補強を計画している。なお、旧官舎については早急な撤去が必要である。

4. 8 舞鶴水産実験所

課題

1. 施設

(1) 調査船緑洋丸は 1990 年に建造され、すでに危機的なまでに老朽化してきた。最近故障の頻度が急激に増加しており、補修・維持費の増大が深刻になりつつある。また、教育研究活動における安全性からも重大な問題である。緑洋丸では入れないより浅海域での調査に使用している白浪丸、ブルーフィン、パグラスの 3 隻の小型船はいずれも船齢 30 年以上で、緑洋丸よりさらに老朽化している。

(2) 高圧受電設備が老朽化し、電気性能の低下と機能の劣化により事故に至る確率が高まる危険性がある。早急な機器の更新が必要である。

(3) その他：大型水槽などの飼育機材が野ざらしになっており劣化が著しく、大型機材倉庫が必要であること、道路との間にフェンスのない場所があり人や動物（イノシシなど）が進入する、などの問題が残されている。

2. 教育・研究設備

(1) 標本館には、30 万点にのぼる魚類標本が所蔵されているが、容器および固定液の劣化が進行している。容器および固定液の交換が急務であるが、予算措置が全くないために困難な状況にある。標本棚と標本容器は十分な耐震対策が行われておらず、地震発生時には有害な固定液の飛散が予想されるため、早期に対策が必要である。さらに、ホルマリンを安全に扱うための局所排気装置を設置する予算が得られていない。また、標本情報のデータベース化が求められているが、これについても予算が不足している。

(2) 安定同位体分析装置、ICP-MASS、DNA シーケンサー、走査型電子顕微鏡、凍結乾燥機など、フィールド施設として必要な高度調査・分析機器がいまだに整備されていない。

3. 人員

特になし。

4. 予算

教員による科学研究費補助金を中心とした外部資金の獲得額はかなり増加した。しかし、運営交付金だけでは水産実験所の維持そのものが困難であり、維持費に外部資金を持ち出さざるを得ない状況にある。このため、標本管理や教育研究機材の整備などに支障が生じているだけでなく、最近故障が急増している緑洋丸の修理費の捻出が困難になりつつある。

また、京都キャンパスで開催される会議（本部関係、農学研究科関係、フィールド研関係）や講義（全学共通科目）へ参加するための旅費が支給されない場合が多く、相当額の旅費を水産実験所予算から支出している。これは本来あ

るべきことではない。また、今後の外部資金獲得状況によっては、講義・会議等のために京都へ行くことが難しくなる事態も予想される。

5. その他

京都キャンパスでの会議等が多く、予算的にもまた時間的にも大きな負担である。

展望（将来計画）

1. 施設

- (1) 調査船緑洋丸の修理予算を安定的に確保し、将来的には代船の建造を目指す。また、白浪丸、ブルーフィン、パグラスについても代船の整備を目指す。
- (2) 高圧受電設備機器の更新をする。
- (3) 大型機材倉庫の設置、境界全域にフェンスを設置する。

2. 教育・研究設備

- (1) 魚類標本棚を免震装置付きのものへ更新、標本瓶・固定液の更新、局所排気装置の設置、データベース化に努める。
- (2) 高度調査・分析機器の整備に努める。

3. 人員

特になし。

4. 予算

水産実験所の維持に足るだけの運営交付金の確保に努める。大型プロジェクト（外部資金）を確保し、標本管理体制や高額な高度研究機器の整備をはかる。また、京都キャンパスで開催される会議等については、主催部局が旅費を支給する制度を求める。

5. その他

京都キャンパスで開催される会議への往復を減らすために、テレビ会議システムをさらに整備し、他の部局へも普及させる。

4. 9 瀬戸臨海実験所

課題

1. 設備

(1) 大地震と大津波に対する対策

実験所は海拔わずか数メートルのところに位置しているが、最近の南海トラフ沖地震の予測では最大 16 メートルの津波が来ることが予想されている。そのため、建物の高層化（5 階建て以上）、あるいは高台への移転、防波堤の建設などを考える必要がある。

(2) 実習室・研究室の狭隘化

現在の実習研究棟の広さは、必ずしも十分ではない。特に理学研究科海洋生物学学科の学生が増えつつある現状から、研究スペースを増やす必要があり、また実習についても、現在のスペースでは、学外からの利用のニーズに十分応えることができなくなっている。したがって、これらの目的に沿った建物の新営が望まれる。

(3) 宿泊棟の整備

エアコンが 1 階部分においては最近整備されたが、2 階部分においてはまだ不十分である。これは、周辺海域で造礁珊瑚の生育が観察できるような夏季にきわめて高温になる気候に立地している瀬戸臨海実験所の宿泊設備としては、利用者に大きなストレスを与えているといえる。周辺の臨海実験所（神戸大など）の宿泊設備には、エアコンが設置されていることから、現在の標準から大きく遅れているといわざるを得ない。また冬季に東南アジアなどから瀬戸臨海実験所を訪れる外来研究者にとっても、暖房のない宿泊設備は苦痛である。これらのことを考えると、早急に空調設備を整える必要がある。またこれに伴って、電気容量が不足するため、関連設備も整備の必要がある。

(4) 水族館の整備

瀬戸臨海実験所には、一般公開されている水族館が併設されている。水族館にかかわる建物は、1992 年に改築されているが、臨海地域に設置されていること、常時内部で海水を用いていることなどから、すでにかなり老朽化が進んでおり、職員のみならず観客に対しても安心安全の観点から問題が生じつつある。特に近年行っている水族館解説ツアーでは、水槽の裏側を見せることを行っており、このような活動に対応した施設の整備が必要である。

2. 教育・研究設備

(1) 船舶

ここ数年で教育研究に必要な高度研究機器はかなり整備されてきた。また、平成 19 年度には、主力の船舶であるヤンチナを新造船にすることができた。しかし、沿岸の軽作業や潜水作業を行う場合に必須の船舶であるゾエアはいま

だに旧来のままである。ゾエアは、すでに耐用年限に近づいており、安心・安全な学生・研究者の教育研究環境を提供するという臨海実験所の本来の機能に重大な懸念がある。早急な代船の実現が必要である。

(2) 水族館駐車場・改札等

水族館の利用者のうち、自家用車による来館者は以前に比べて圧倒的多数になっている。一方駐車場は狭隘であり、十分なスペースがとられていない。さらに、水族館の観覧以外の目的で利用されるケースが多く、頭の痛い問題となっている。

水族館の入館者に対して現在は自動発券機で発券を行っているが、その後の改札は事務職員が担当している。人員の減少に伴い、常時改札に人がいる体制にはなっていないので、改札は事務職員の業務の合間に実施されており、きわめて非効率な状況となっている。

水族館の心臓部である、ポンプ・熱交換器などはどれも建物と一緒に整備されたもので、すでにほとんどのものが耐用年限を迎えており、早急な更新が必要である。

3. 人員

フィールド研発足当時、瀬戸臨海実験所には教員が6名いたが、そのうちの1名が現在定員削減の影響で欠員となっている。今後この欠員を早急に補充することが必要である。

また技術職員は現在船舶2名水族館4名の体制であるが、他の水族館に比べて一人当たりの飼育点数がはるかに多い。今後技術職員の定員削減がさらに進む可能性があるが、瀬戸臨海実験所については、これ以上の削減は施設の閉鎖につながりかねない。

4. 予算

瀬戸臨海実験所の予算の多くの部分が、水族館の維持管理に使われている。その額は水族館維持費として配当されている額を上回っており、臨海実験所本来の教育・研究のための予算をつぎ込んで、水族館を維持しているというのが、現状である。したがって、水族館の維持に必要なコストに見合う予算の配分が必要である。

5. その他

瀬戸臨海実験所には、世界的に見ても貴重な図書のコレクションがある。このコレクションの維持と管理は、実験所の予算の大きな部分を占めている。一方、将来の発生が確実とされる南海地震が発生した場合、それに伴って臨海実験所を襲うであろう津波は、この貴重な図書に壊滅的な被害を与えるであろう。

瀬戸臨海実験所は伝統的に系統分類学の研究を推進してきた。その研究成果として、模式標本が多数保存されている。これらの標本の管理も臨海実験所の世界的な義務であるが、図書同様の危機にさらされている。

これらのものを、適切に保存・管理するために、十分な耐震性と津波の被害からも守ることができる高層の建物を早急に新営する必要がある。

京都キャンパスでの会議や講義などが多く、予算的にもまた時間的にも大きな負担である。

展望（将来計画）

1. 設備

建物の新営・営繕などについては、学内の営繕・概算要求・総長裁量経費などで実現を図りたい。水族館の営繕がもっとも優先課題だが、建物の新営（実習・研究棟と水族館の増築）も、南海地震の発生が懸念される中、重点的な課題である。

2. 教育・研究設備

船舶の更新を最優先課題として取り組んでいきたいと考えている。これについては、金額からはそれほど高額でもないのに、早急に実現を図りたい。

3. 人員

もっとも重要な課題は、技術職員の確保である。この点については、フィールド研内の技術職員組織と十分な連携をとりながら、定員の確保に努めたい。

4. 予算

現在は水族館関係の維持費と入館者数とが連動しているので、瀬戸臨海実験所全体として入館者数の増加を目指すことによって、本来の運営費交付金の配分根拠に沿った予算の使用が可能となるよう、努力をしたい。また、間接経費のある外部資金を積極的に獲得することによっても、運営費交付金の増額につなげていきたい。

5. その他

京都キャンパスでの講義のための遠隔操作講義システム（テレビ講義）を導入したい。

5 フィールド研教員の業績

5. 1 原著論文・総説（査読あり）

2008 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

藤平 和俊・大須賀 公一・吉岡 崇仁・林 直樹:制御理論を応用した持続可能な開発のための教育の方法論とその有効性の確認, 環境教育, 18 (1), 17-28, 2008.

Takano, K., Ishikawa, Y., Mikami, H., Igarashi, S., Hino, S. and Yoshioka, T. : Fungal infection for cyanobacterium *Anabaena smithii* by two chytrids in eutrophic region of large reservoir Lake Shumarinai, Hokkaido, Japan. , Limnology, 9, 213-218, 2008.

■芝 正己

千葉 巨樹・板谷 明美・石川 知明・芝 正己:わが国の地形を考慮した水辺管理区域の設定とその影響- 三重研宮川流域を対象として, 中部森林研究, 57, 215-218, 2008.

坂本 朋美・芝 正己・川村 誠:日吉型団地化施業の導入における現状と課題, 森林利用学会誌, 23(1), 3-10, 2008.

■徳地 直子

Tokuchi, N., and Fukushima, K. : Long-term influence of stream water chemistry in Japanese cedar plantation after clear-cutting using the forest rotation in central Japan, Forest Ecology and Management, 257(8), 1768-1775, 2009.

藍川 昌秀・平木 隆年・駒井 幸雄・梅本 諭・徳地 直子:集水域における硫黄の流入流出の収支バランス, 大気環境学会誌, 43(1), 23-30, 2008.

福島 慶太郎・徳地 直子:シカの食害が森林生態系の物質循環に与える影響:渓流水質の予備調査から, 森林研究, 77, 77-87, 2008.

Fukushima, K., and Tokuchi, N. : Factors controlling the acid-neutralizing capacity of Japanese cedar forest watersheds in stands of various ages and topographic characteristics, Hydrological Processes, 23(2), 271, 2009.

Ueda, U. M., Tokuchi, N., and Ogawa, R. : High nitrate reductase activity in sprouts of *Phyllostachys pubescens*, Journal of Forest Research, 14, 55-57, 2008.

Arai, S., Ishizuka, S., Ohta, S., Ansori, S., Tokuchi, N., Tanaka, N., and Hardjono, A. : Potential N₂O emissions from leguminous tree plantation soils in the humid tropics, Global Biogeochemical Cycles, 22, GB2028, 2008.

Toda, T., Takeda, H., Tokuchi, N., Ohta, S., Wacharinrat, C., and Kaitpraneet, S. : Comparison of nitrogen content in tree litterfall in three dry dipterocarp forests under different fire regime in northeast Thailand, Tropics, 17, 199-208, 2008.

Koyama, L., Tokuchi, N., Fukushima, K., Terai, M., and Yamamoto, Y. : Seasonal changes in nitrate use by three woody species: the importance of the leaf-expansion period, Trees, 22, 851-859, 2008.

■寄元 道徳

Hirayama, K. and Sakimoto, M. : Clonal structure and diversity of *Cryptomeria japonica* along a slope in a cool-temperate, old-growth mixed forest in the snowy region of Japan, Canadian Journal of Forest Research, 38, 2804-2813, 2008.

里域生態系部門

■山下 洋

Masuda, R., Yamashita, Y. and Matsuyama, M. : Jack mackerel *Trachurus japonicus* juveniles utilize jellyfish for predator avoidance and as a prey collector, Fisheries Science, 74, 276-284, 2008.

Mendiola, D., Yamashita, Y., Matsuyama, M., Alvarez, P. and Tanaka, M. : *Scomber japonicus*, H. is a better candidate species for juvenile production activities than *Scomber scombrus*, L, Aquaculture Research, 39, 1122-1127, 2008.

Okumura, Y. and Yamashita, Y. : Quantification of terrestrial dioxins discharged from four major rivers in Miyagi Prefecture into Sendai Bay, Japan, between 1999 and 2002, Fresenius Environmental Bulletin, 17 (5), 530-535, 2008.

Kanaji, Y., Watanabe, Y., Kawamura, T., Xie, S., Yamashita, Y., Sassa, C., and Tsukamoto, Y. : Multiple cohorts of juvenile jack mackerel *Trachurus japonicus* in waters along the Tsushima Warm Current, Fisheries Research, 95, 139-145, 2009.

■柴田 昌三

中西 麻美・稲垣 善之・深田 英久・柴田 昌三・大澤 直哉:ヒノキの雄花生産量に土壌条件と強度間伐が及ぼす影響:森林立地, 50(2), 167-173, 2008.

- 本江 美智子・藤原 道郎・山本 聡・大藪 崇司・美濃 伸之・柴田 昌三:淡路島北部における竹林拡大の現状と竹林タイプ別管理:Hikobia, 15, 193-204, 2008.
- 寺井 裕美・柴田 昌三・日野 輝明:草食性哺乳類がミヤコザサの地上部と地下部に与える影響 -採食排除後4年目の調査から:日本緑化工学会誌, 34, 516-523, 2009.
- 益田 玲爾
- Masuda, R. : Ontogenetic changes in the ecological function of the association behavior between jack mackerel *Trachurus japonicus* and jellyfish, *Hydrobiologia*, 616(1) , 269-277, 2008.
- Masuda, R. : Seasonal and interannual variation of subtidal fish assemblages in Wakasa Bay with reference to the warming trend in the Sea of Japan, *Environmental Biology of Fishes*, 82(4) , 387-399, 2008.
- Masuda, R., Yamashita, Y. and Matsuyama, M. : Jack mackerel *Trachurus japonicus* juveniles use jellyfish for predator avoidance and as a prey collector, *Fisheries Science*, 74(2) , 276-284, 2008.
- Bell, J., Leber, K., Blankenship, H. L., Loneragan, N. and Masuda, R. : A New Era for Restocking, Stock Enhancement and Sea Ranching of Coastal Fisheries Resources, *Reviews in Fisheries Science*, 16(1-3) , 1-9, 2008.
- 梅本 信也
- 梅本 信也:紀伊大島におけるススキとチガヤの里域植物誌, 熊野誌, 55, 163-171, 2008.
- 長谷川 尚史
- 福井 遼・杉本 和也・大塚 和美・長谷川 尚史・前田 多恵子:集材作業における繊維ロープの利用可能性, 森林利用学会誌, 23(4) , 255-258, 2009.
- 大塚 和美・長谷川 尚史・野淵 正:スギ大径並材生産を目指した強度間伐の多角的評価:徳島県における選木育林・早期仕上げ間伐を例として, 森林研究, 77, 109-121, 2008.
- Tachiki, Y., Yoshimura, T., Hasegawa, H., Sakai, T. and Nakamura, F. : DeltaForest: a navigation system for the forest resources monitoring project using PDA and GPS. , *Journal of the Japan Forest Engineering Society*, 23(2) , 41-52, 2008.
- 中西 麻美
- 中西 麻美・稲垣 善之・深田 英久・柴田 昌三・大澤 直哉:ヒノキの雄花生産量に土壤条件と強度間伐が及ぼす影響, 森林立地, 50(2) , 167-173, 2008.
- Hirota, I., Nawata, E., Nakanishi, A., and Sipasak, S. : Allometric equations to estimate the aboveground biomass of four bamboo species in shifting cultivation fields in northern Laos (北部ラオス焼畑地域に生育するタケ4種の地上部バイオマス推定式), *Bamboo Journal*, 25, 18-25, 2008.
- 中山 耕至
- Kikko, T., Kai, Y. and Nakayama, K. : Relationships among tributary length, census population size, and genetic variability of white-spotted charr, *Salvelinus leucomaenis*, in the Lake Biwa water system, *Ichthyological Research*, 56(1) , 100-104, 2009.
- Kikko, T., Kai, Y., Kuwahara, M. and Nakayama, K. : Genetic diversity and population structure of white-spotted charr (*Salvelinus leucomaenis*) in the Lake Biwa water system inferred from AFLP analysis, *Ichthyological Research*, 55(2) , 141-147, 2008.
- 甲斐 嘉晃
- Kikko, T., Kai, Y., Kuwahara, M. and Nakayama, K. : Genetic diversity and population structure of white-spotted charr (*Salvelinus leucomaenis*) in the Lake Biwa water system inferred from AFLP analysis. , *Ichthyological Research*, 55(2) , 141-147, 2008.
- Kikko, T., Kuwahara M., Iguchi, K., Kurumi, S., Yamamoto, S., Kai, Y., and Nakayama, K. : Mitochondrial DNA Population Structure of the white-spotted charr (*Salvelinus leucomaenis*) in the Lake Biwa water system Inferred from Sequences. , *Zoological Science*, 25(2), 146-153, 2008.
- Kikko, T., Harada Y., Takeuchi, D., and Kai, Y. : Interpopulation variation in egg size of fluvial white-spotted charr, *Salvelinus leucomaenis*. , *Fisheries Science*, 74, 935-937, 2008.
- Kai, Y. and Nakabo, T. : Taxonomic review of the *Sebastes inermis* species complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). , *Ichthyological Research*, 55, 238-259, 2008.
- Akihito, Akishinomiya, F., Ikeda, Y., Aizawa, M., Makino, T., Umehara, Y., Kai, Y., Nishimoto, Y., Hasegawa, M., Nakabo, T., and Gojobori, T. : Evolution of the Pacific and the Sea of Japan populations of the two gobiid species, *Pterogobius elapoides* and *Pterogobius zonoleucus*, based on morphological and molecular analyses. , *Gene*, 427, 7-18, 2008.
- Kikko T., Kai, Y., and Nakayama, K. : Relationships among tributary length, census population size and genetic variability of white-spotted charr, *Salvelinus leucomaenis*, in the Lake Biwa water system. , *Ichthyological Research*, 56(1) , 100-104, 2009.
- 上野 正博
- Iguchi, A., Ito, H., Ueno, M., Maeda, T., Minami, T. and Hayashi, I. : Molecular phylogeny of the deep-sea *Buccinum* species (Gastropoda: Buccinidae) around Japan; inter- and intraspecific relationships inferred from

mitochondrial 16SrRNA sequences, *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 44, 1342-1345, 2007.

■Robert, Dominique

Robert, D., Castonguay, M. and Fortier, L. : Effects of intra- and inter-annual variability in prey field on the feeding selectivity of larval Atlantic mackerel (*Scomber scombrus*), *Journal of Plankton Research*, 30, 673-688, 2008.

Robert, D., Castonguay, M. and Fortier, L. : Effects of preferred prey density and temperature on feeding success and recent growth in larval mackerel of the southern Gulf of St. Lawrence, *Marine Ecology Progress Series*, 377, 227-237, 2009.

Castonguay, M., Plourde, S., Robert, D., Runge, J. A. and Fortier, L. : Copepod production drives recruitment in a marine fish, *Canadian Journal of Fisheries and Aquatic Sciences*, 65, 1528-1531, 2008.

Duplisea, D. E. and Robert, D. : Prerecruit survival and recruitment of northern Gulf of St. Lawrence Atlantic cod, *ICES Journal of Marine Science*, 65, 946-952, 2008.

基礎海洋生物学部門

■白山 義久

石田 洋・渡辺 雄二・白山 義久:ベンチックチャンパーによる深海ベントス群集への CO₂ 影響 (海洋理工学会平成 19 年度春季大会シンポジウム特集 CO₂ 海洋隔離技術の進展—ケーススタディから見える有効性と課題), *海洋理工学会誌*, 14(1), 73-80, 2008

Kinjo, S., Shirayama, Y., Wada, H. : Evolutionary history of larval skeletal morphology in sea urchin Echinometridae (Echinoidea: Echinodermata) as deduced from mitochondrial DNA molecular phylogeny, *Evolution & development*, 10(5), 632-641, 2008

Suzuki, G., Hayashibara, T., Shirayama, Y. and Fukami, H. : Evidence of species specific habitat selectivity of *Acropora* corals based on identification of new recruits by two molecular markers, *Marine Ecology Progress series*, 355, 149-159, 2008.

■久保田 信

久保田 信:日本初記録の小型の鉢クラゲ *Atorella vanhoeffeni* (刺胞動物門, 鉢クラゲ綱, 冠クラゲ目), *日本生物地理学会会報*, 63, 125-127, 2008

久保田 信・秋山 仁・山崎悠介:キヨヒメクラゲ(有触手綱, カブトクラゲ目, キヨヒメクラゲ科)の第二番目の記録, *日本生物地理学会会報*, 63, 129-131, 2008

久保田 信:中国青島産コノハクラゲ (ヒドロ虫綱, 軟クラゲ目)の生活環と型の決定, *日本生物地理学会会報*, 63, 145-149, 2008

久保田 信:和歌山県白浜町“北浜”へ2007年11月に打ち上がった稀少種クロハコフグ (ハコフグ科), *漂着物学会誌*, 6, 20, 2008

久保田 信・樫山 嘉郎・中西 弘樹:和歌山県白浜町番所崎およびその近隣海岸へ夏季の短期間に集中漂着した熱帯起源の植物散布体, *漂着物学会誌*, 6, 25-27, 2008

Kubota, S. : Constant timing of medusa release in bivalve-inhabiting hydrozoans of the genus *Eugymnanthea* (Hydrozoa: Leptomedusae: Eirenidae), *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom*, 88(8), 1607-1609, 2008.

Kubota, S. : Basal-disc creeping combined with rotation, an undescribed behaviour with preferred directionality in bivalve-inhabiting hydrozoans (Cnidaria: Hydrozoa: Leptomedusae), *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom*, 88(8), 1735-1739, 2008.

Kubota, S., Pagliara, P. and Gravili, C. : Fluorescence distribution pattern allows to distinguish two species of *Eugymnanthea* (Leptomedusae: Eirenidae), *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom*, 88(8), 1743-1746, 2008.

Kawamura, M. and Kubota, S. : Influences of temperature and salinity on asexual budding by hydromedusa *Proboscoidactyla ornata* (Cnidaria: Hydrozoa: Proboscoidactylidae), *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom*, 88(8), 1601-1606, 2008.

Lewis, C., Kubota, S., Migotto, A. E. and Collins, A. G. : Sexually dimorphic cubomedusa *Carybdea sivickisi* (Cnidaria: Cubozoa) in Seto, Wakayama, Japan, *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, 40, 5/6, 1-8, 2008.

■宮崎 勝己

Kakoi, S., Kin, K., Miyazaki, K. and Wada, H. : Early development of the Japanese spiny oyster (*Saccostrea kegaki*): Characterization of some genetic markers, *Zoological Science*, 25, 455-464, 2008.

■大和 茂之

Yamaguchi, S., Yusa, Y., Yamato, S., Urano, S., and Takahashi, S. : Mating group size and evolutionarily stable pattern of sexuality in barnacles, *Journal of Theoretical Biology*, 253(1), 61-73, 2008.

Kobayashi, N., Yamato, S., Harino, H. and Kitano, M. : A bioassay using sea urchin egg development to identify organotin pollution in sea water, *Coastal marine science*, 32(1), 77-81, 2008.

Harino, H., Eguchi, S., Yamamoto, Y., Kurokawa, Y., Kawai, S., Arai, T., Ohji, M., Yamato, S., Kobayashi, N. and Miyazaki, N. : Distribution of Organotin Compounds in Representative Coastal Areas from Japan: A Review, Coastal marine science, 32(1) , 88-95, 2008.

■深見 裕伸

Fukami, H., Chen, C. A., Budd, A. F., Collins, A., Wallace, C., Chuang, Y., Chen, C., Dai, C., Iwao, K., Sheppard, C., and Knowlton, N. : Mitochondrial and Nuclear Genes Suggest that Stony Corals Are Monophyletic but Most Families of Stony Corals Are Not (Order Scleractinia, Class Anthozoa, Phylum Cnidaria) , PLoS ONE, 3(9) , e322, 2008 .

Fukami, H. : Short review: Molecular phylogenetic analyses of reef corals, Galaxea, Journal of Coral Reef Studies, 10, 47-55, 2008.

Nunes, F., Fukami, H., Vollmer, S. V., Norris, R. D., and Knowlton, N. : Re-evaluation of the systematics of the endemic corals of Brazil by molecular data, Coral Reefs, 27(2) , 423-432, 2008.

Suzuki, G., Hayashibara, T., Shirayama, Y. and Fukami, H. : Evidence of species specific habitat selectivity of *Acropora* corals based on identification of new recruits by two molecular markers, Marine Ecology Progress series, 355, 149-159, 2008.

■伊勢戸 徹

Iseto, T., Sugiyama, N. and Hirose, E. : A New Sponge-Inhabiting Loxosomella (Entoprocta: Loxosomatidae) from Okinawa Island, Japan, with Special Focus on Foot Structure, Zoological Science, 25, 1171-1178, 2008.

■鈴木 豪

Suzuki, G., Hayashibara, T., Shirayama, Y. and Fukami, H. : Evidence of species specific habitat selectivity of *Acropora* corals based on identification of new recruits by two molecular markers, Marine Ecology Progress series, 355, 149-159, 2008.

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

Sasil-Orbita, M. L. W. and Mukai, H. : Ontogenic change in the seedling photosynthetic activity of four temperate seagrass species in Northern Japan, Asia Life Sciences, 18, 99-110, 2009.

Hori, M., Suzuki, T., Monthum, Y., Srisombat, T., Tanaka, Y., Nakaoka, M. and Mukai, H. : High seagrass diversity and canopy-height increase associated fish diversity and abundance, Marine Biology (Online published) , 2009.

■佐藤 真行

佐藤真行・新山陽子：食品購買時の提示情報量と消費者の選択行動，フードシステム研究，14・3，13-24，2008.

Ida, T., Kinoshita, S., and Masayuki, S. : Conjoint Analysis of Demand for IP Telephony: the Case in Japan, Applied Economics, 40, 1279-1287, 2008.

■杉本 亮

Sugimoto, R., Kasai, A., Miyajima, T. and Fujita, K. : Nitrogen isotopic discrimination by water column nitrification in a shallow coastal environment, Journal of Oceanography, 64, 39-48, 2008.

Sugimoto, R., Kasai, A., Miyajima, T. and Fujita, K. : Nitrogen isotope ratios of nitrate as a clue to the origin of nitrogen on the pacific coast of Japan, Continental Shelf Research, 29, 1303-1309, 2009.

管理技術部

■境 慎二郎

Tsujita, K., Sakai, S., and Kikuzawa, K. : Does individual variation in fruit profitability override color differences in avian choice of red or white *Ilex serrata* fruits?, Ecological Research, 23(2), 445-450, 2008.

■佐藤 修一

高橋 絵里奈・高橋 さやか・柳本 順・柳 直文・佐藤 修一・竹内 典之：エゾシカ防除柵内外のササ稈数の推移と実生の消長ー京都大学フィールド科学教育研究センター北海道研究林白糠区における10年間の推移ー，日本森林学会北海道支部論文集，57，61-63，2009.

■柳 直文

高橋 絵里奈・高橋 さやか・柳本 順・柳 直文・佐藤 修一・竹内 典之：エゾシカ防除柵内外のササ稈数の推移と実生の消長ー京都大学フィールド科学教育研究センター北海道研究林白糠区における10年間の推移ー，日本森林学会北海道支部論文集，57，61-63，2009.

■柳本 順

高橋 絵里奈・高橋 さやか・柳本 順・柳 直文・佐藤 修一・竹内 典之：エゾシカ防除柵内外のササ稈数の推移と実生の消長ー京都大学フィールド科学教育研究センター北海道研究林白糠区における10年間の推移ー，日本森林学会北海道支部論文集，57，61-63，2009.

2009 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

松川 太一, 吉岡 崇仁, 鄭 躍軍. 森林-農地-水系に関する関心事調査. 社会と調査. 2009, (3), p. 59-64.

永田 素彦, 吉岡 崇仁, 大川 智船. 流域環境の多様な属性に対する住民の選好評価のためのシナリオアンケート手法の開発: 北海道朱鞠内湖集水域をフィールドに. 実験社会心理学研究. 2010. 49(2), p. 170-179.

Katsuyama, M.; Shibata, H.; Yoshioka, T.; Yoshida, T.; Ogawa, A.; Ohte, N. Applications of a hydro-biogeochemical model and long-term simulations of the effects of logging in forested watersheds. Sustainability Science. 2009. 4(2), p. 179-188.

Tateno, Ryunosuke; Fukushima, Keitaro; Fujimaki, Reiji; Shimamura, Tetsuya; Ohgi, Masami; Arai, Hirotugu; Ohte, Nobuhito; Tokuchi, Naoko; Yoshioka, Takahito. Biomass allocation and nitrogen limitation in a *Cryptomeria japonica* plantation chronosequence. Journal of Forest Research. 2009. 14(5), p. 276-285.

■芝 正己

三浦 きさと, 芝 正己. 森林組合の木材製品販売事業への森林認証制度の影響について - 森林管理協議会 FSC の CoC 認証取得の 5 森林組合を事例に. 森林応用研究. 2009, 18(1), p. 15-20.

坂本 朋美, 芝 正己. 日本における CoC 認証市場の展開 - 紙パルプ業界における FSC-CoC 認証を中心に. 森林応用研究. 2009, 18(1), p. 1-8.

坂本 朋美, 芝 正己. 日本における RMZ (Riparian Management Zone) 管理 - FSC 認証森林事例からの提言 -. 日本森林学会誌. 2010, 92(1), p. 8-15.

坂本 朋美, 芝 正己. 森林の経営管理に与える認証制度の影響について - 国内の 2 認証スキーム (SGEC・FSC) の認証審査結果から. 森林応用研究. 2009, 18(1), p. 9-14.

■安藤 信

呉 初平, 安藤 信. 京都市大文字山におけるアカマツ実生の定着と成長に及ぼす地表処理効果. 日本緑化工学会誌. 2009, 34(4), p. 623-630.

呉 初平, 安藤 信. 京都市のマツ枯れ被害林における 10 年間の林分動態. 日本緑化工学会誌. 2010, 35(3), p. 440-447.

■徳地 直子

Ueda, U. M.; Mizumachi, E.; Tokuchi, Naoko. Allocation of nitrogen within the crown during leaf expansion in *Quercus serrata* saplings. Tree physiology. 2009. 29, p. 913-919.

Tateno, Ryunosuke; Fukushima, Keitaro; Fujimaki, Reiji; Shimamura, Tetsuya; Ohgi, Masami; Arai, Hirotugu; Ohte, Nobuhito; Tokuchi, Naoko; Yoshioka, Takahito. Biomass allocation and nitrogen limitation in a *Cryptomeria japonica* plantation chronosequence. Journal of Forest Research. 2009. 14(5), p. 276-285.

■中島 皇

森田 えみ, 永野 純, 福田 早苗, 中島 皇, 岩井 吉彌, 山本 博一, 浜島 信之. 森林に行く頻度と主観的健康状態に関する横断的研究. 日本生気象学会雑誌. 2009, 46(4), p. 99-107.

■寄元 道徳

Matsuyama, Shuhei; Osawa, Naoya; Sakimoto, Michinori. Generalist pollinators in the dioecious shrub *Rhus trichocarpa* Miq. (Anacardiaceae) and their role in reproductive success. Plant Species Biology. 2009, 24(3), p. 215-224.

Yamasaki, Michimasa; Sakimoto, Michinori. Predicting oak tree mortality caused by the ambrosia beetle *Platypus quercivorus* in a cool-temperate forest. Journal of Applied Entomology. 2009, 133(9-10), p. 673-681.

里域生態系部門

■山下 洋

Fukunishi, Y.; Masuda, R.; Yamashita, Y. Exposure of eggs to solar UV-B leads to reduced hatching rates in two sparid fishes, red sea bream *Pagrus major* and black sea bream *Acanthopagrus schlegelii*. Journal of Fish Biology. 2010, 76(3), p. 734-741.

Islam, Md; Suzuki, Keita; Yamashita, Yoh. Selective mortality of larval Japanese seabass in Ariake Bay, Japan. Aquatic Ecology. 2010, 44(1), p. 309-316.

Islam, Md S.; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Otolith microstructure of Japanese sea bass larvae and juveniles: interpretation and utility for ageing. Journal of Applied Ichthyology. 2009. 25(4), p. 423-427.

Kasai, Akihide; Kurikawa, Yoshiro; Ueno, Masahiro; Robert, Dominique; Yamashita, Yoh. Salt-wedge intrusion of seawater and its implication for phytoplankton dynamics in the Yura Estuary, Japan. Estuarine, Coastal and Shelf Science. 2010, 86(3), p. 408-414.

Mendiola, Diego; Yamashita, Yoh; Matsuyama, Michiya; Masuda, Reiji; Okamoto, K.; Alvarez, P.; Tanaka, Masaru. Estimation of the daily food intake and gross growth efficiency of chub mackerel (*Scomber japonicus*) larvae under various temperatures (マサバ仔魚の日間摂餌量と成長効率に対する水温の影響). Aquaculture Science (水産増殖). 2009, 57(2), p. 291-299.

- Oshima, Masakane; Kato, Yoshiki; Masuda, Reiji; Kimura, Shingo; Yamashita, Yoh. Effect of turbulence on feeding intensity and survival of Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* pelagic larvae. *Journal of Fish Biology*. 2009, 75(7), p.1639-1647.
- Tomiyama, Takeshi; Yamashita, Yoh; Tanaka, Masaru. Occurrence of juvenile Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* in brackish estuaries. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*. 2009, 85(4), p.661-665.
- Antonio, Emily S.; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Kurikawa, Yoshiro; Tsuchiya, Kanako; Toyohara, Haruhiko; Ishihi, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Consumption of terrestrial organic matter by estuarine molluscs determined by analysis of their stable isotopes and cellulase activity. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*. 2010, 86(3), p.401-407.
- Oshima, Masakane; Robert, Dominique; Kurita, Yutaka; Yoneda, Michio; Tominaga, Osamu; Tomiyama, Takeshi; Yamashita, Yoh; Uehara, Shinji. Do early growth dynamics explain recruitment success in Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* off the Pacific coast of northern Japan? *Journal of Sea Research*. 2010, 64, p.94-101. (2009 オンライン公開 doi: 10.1016/j.seares.2009.12.002)
- 柴田 昌三
- 柴田 昌三. タケ類 *Melocanna baccifera* (Roxburgh) Kurz ex Skeels の開花—その記録と48年の周期性に関する考察—. *日本生態学会誌*. 2010, 60(1), p.51-62.
- Shibata, Shozo. "Succession of bamboo (*Phyllostachys bambusoides* Sieb. Et Zuc.) riparian forest vegetation after gregarious flowering". 8th World Bamboo Congress Proceedings, 4. 2009, p.139-148.
- Shibata, Shozo. "Consideration of the flowering periodicity of *Melocanna baccifera* through past records and recent flowering with a 48-year interval". 8th World Bamboo Congress Proceedings, 5. 2009, p.90-99.
- 阿部 佑平, 柴田 昌三. 天王山における放置モウソウチク林の林分構造と整理伐後3年間の動態. *日本緑化工学会誌*. 2009, 35(1), p.57-62.
- 深町 加津枝, 大岸 万里子, 奥 敬一, 三好 岩生, 堀内 美緒, 柴田 昌三. 丹後半島山間部の棚田景観の変遷と棚田の残存要因に関する研究. *農村計画学会誌*. 2010, 28, p.315-320.
- 今西 亜友美, 柴田 昌三, 今西 純一, 寺井 厚海, 中西 麻美, 境 慎二郎, 大澤 直哉, 森本 幸裕. ヒノキ林化した都市近郊二次林における小面積伐採後初期の木本種組成の変化. *日本緑化工学会誌*. 2009, 34(4), p.641-648.
- 陶山 佳久・齋藤 智之・西脇 亜也・蒔田 明史・長谷川 尚史・柴田 昌三. 48年周期で一斉開花するタケ：インド・ミゾラム州における *Melocanna baccifera* の開花周期記録. *時間生物学*. 2009, 15(2), p.12-16.
- Murata, Hiroshi; Hasegawa, Hisashi; Kanzaki, Mamoru; Shibata, Shozo. "Gregarious flowering of *Melocanna baccifera* around north east India - Extraction of the flowering event by using satellite image data -". 8th World Bamboo Congress Proceedings, 5. 2009, p.100-106.
- Nakanishi, Asami; Inagaki, Yoshiyuki; Osawa, Naoya; Shibata, Shozo; Hirata, Keiichi. Effects of patch cutting on leaf nitrogen nutrition in hinoki cypress (*Chamaecyparis obtusa* Endlicher) at different elevations along a slope in Japan. *Journal of Forest Research*. 2009, 14(6), p.388-393.
- Inagaki, Yoshiyuki; Okuda, Shiro; Sakai, Atsushi; Nakanishi, Asami; Shibata, Shozo; Fukata, Hidehisa. Leaf-litter nitrogen concentration in hinoki cypress forests in relation to the time of leaf fall under different climatic conditions in Japan. *Ecological Research*. 2010, 25(2), p.429-438.
- 田川 正朋
- Nakamura, Mitsuo; Seikai, Tadahisa; Aritaki, Masato; Masuda, Reiji; Tanaka, Masaru; Tagawa, Masatomo. Dual appearance of xanthophores, and ontogenetic changes in other pigment cells during early development of Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*. *Fisheries Science*. 2010, 76(2), p.243-250.
- 益田 玲爾
- Masuda, Reiji. Behavioral Ontogeny of Marine Pelagic Fishes with the Implications for the Sustainable Management of Fisheries Resources. *Aqua-BioScience Monographs*. 2009, 2(2), p.1-56.
- Masuda, Reiji. Ontogenetic changes in the ecological function of the association behavior between jack mackerel *Trachurus japonicus* and jellyfish. *Hydrobiologia*. 2009, 616(1), p.269-277.
- Zenitani, Hiromu; Kono, Naoki; Tsukamoto, Youichi; Masuda, Reiji. Effects of temperature, food availability, and body size on daily growth rate of Japanese anchovy *Engraulis japonicus* larvae in Hiuchi-nada. *Fisheries Science*. 2009, 75(5), p.1177-1188.
- Fukunishi, Y.; Masuda, R.; Yamashita, Y. Exposure of eggs to solar UV-B leads to reduced hatching rates in two sparid fishes, red sea bream *Pagrus major* and black sea bream *Acanthopagrus schlegelii*. *Journal of Fish Biology*. 2010, 76(3), p.734-741.
- Mendiola D; Yamashita, Yoh; Matsuyama M; Masuda, Reiji; Okamoto K; Alvarez P, Tanaka M. Estimation of the daily food intake and gross growth efficiency of chub mackerel (*Scomber japonicus*) larvae under various temperatures. *Aquaculture Science*. 2009, 57(2), p.291-299. (マサバ仔魚の日間摂餌量と成長効率に対する水温の影響. *水産増殖* 57(2))

Nakamura, Mitsuo; Seikai, Tadahisa; Aritaki, Masato; Masuda, Reiji; Tanaka, Masaru; Tagawa, Masatomo. Dual appearance of xanthophores, and ontogenetic changes in other pigment cells during early development of Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*. Fisheries Science. 2010. 76(2), p. 243-250.

■梅本 信也

道下 雄大, 梅本 信也, 山口 裕文. 西南日本の民家庭園に生育する RDB 掲載植物の現状. 保全生態学研究. 2009, 14(1), p. 81-89.

藤井 伸二, 梅本 信也. コナミキ (シソ科) の和歌山県那智勝浦町における新産記録. 南紀生物. 2009, 51 (2), p. 81-82.

藤井 伸二, 梅本 信也. 和歌山県におけるヒメナミキ (シソ科) の産地記録. 関西自然保護機構会誌. 2009, 31(2), p. 141-145.

■長谷川 尚史

杉本 和也, 新永 智士, 長谷川 尚史. システムダイナミクスによる連携集材作業の検討 (特集 システム化林業への挑戦). 森林利用学会誌. 2010, 25(1), p. 5-14.

陶山 佳久・齋藤 智之・西脇 亜也・蒔田 明史・長谷川 尚史・柴田 昌三. 48 年周期で一斉開花するタケ: インド・ミゾラム州における *Melocanna baccifera* の開花周期記録. 時間生物学. 2009, 15(2), p. 12-16.

Murata, Hiroshi; Hasegawa, Hisashi; Kanzaki, Mamoru; Shibata, Shozo. "Gregarious flowering of *Melocanna baccifera* around north east India - Extraction of the flowering event by using satellite image data -". 8th World Bamboo Congress Proceedings, 5. 2009, p. 100-106.

■中西 麻美

Nakanishi, Asami; Inagaki, Yoshiyuki; Osawa, Naoya; Shibata, Shozo; Hirata, Kei'ichi. Effects of patch cutting on leaf nitrogen nutrition in hinoki cypress (*Chamaecyparis obtusa* Endlicher) at different elevations along a slope in Japan. Journal of Forest Research. 2009. 14(6), p. 388-393.

今西 亜友美, 柴田 昌三, 今西 純一, 寺井 厚海, 中西 麻美, 境 慎二郎, 大澤 直哉, 森本 幸裕. ヒノキ林化した都市近郊二次林における小面積伐採後初期の木本種組成の変化. 日本緑化工学会誌. 2009, 34(4), p. 641-648.

稲垣 善之, 橋本 徹, 金子 真司, 三浦 寛, 稲垣 昌宏, 中西 麻美. 筑波山ヒノキ人工林におけるリターフオール窒素量. 関東森林研究. 2010, 61, p. 175-178.

Inagaki, Yoshiyuki; Okuda, Shiro; Sakai, Atsushi; Nakanishi, Asami; Shibata, Shozo; Fukata, Hidehisa. Leaf-litter nitrogen concentration in hinoki cypress forests in relation to the time of leaf fall under different climatic conditions in Japan. Ecological Research. 2010. 25(2), p. 429-438.

Hirota, Isao; Nawata, Eiji; Nakanishi, Asami; Set, Sipasak. Dynamics of bamboo communities in fallow forests of northern Laos. Bamboo Journal. 2010. 27, p. 26-34.

■上野 正博

Islam, Md S.; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Otolith microstructure of Japanese sea bass larvae and juveniles: interpretation and utility for ageing. Journal of Applied Ichthyology. 2009. 25(4), p. 423-427.

Kasai, Akihide; Kurikawa, Yoshiro; Ueno, Masahiro; Robert, Dominique; Yamashita, Yoh. Salt-wedge intrusion of seawater and its implication for phytoplankton dynamics in the Yura Estuary, Japan. Estuarine, Coastal and Shelf Science. 2010, 86(3), p. 408-414.

Antonio, Emily S.; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Kurikawa, Yoshiro; Tsuchiya, Kanako; Toyohara, Haruhiko; Ishihi, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Consumption of terrestrial organic matter by estuarine molluscs determined by analysis of their stable isotopes and cellulase activity. Estuarine, Coastal and Shelf Science. 2010. 86(3), p. 401-407.

Antonio, Emily S.; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Won, Nam-il; Ishihi, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Spatial variation in organic matter utilization by benthic communities from Yura River-Estuary to offshore of Tango Sea, Japan. Estuarine, Coastal and Shelf Science. 2010. 86(1), p. 107-117.

■中山 耕至

鈴木 啓太, 杉本 亮, 笠井 亮秀, 中山 耕至, 田中 克. 夏季の有明海筑後川の高濁度汽水域における粒状有機物の動態—河川流量の変動にともなう変化. 水産海洋研究. 2009, 73(3), p. 149-160.

Suzuki, Keita W.; Nakayama, Kouji; Tanaka, Masaru. Horizontal distribution and population dynamics of the dominant mysid *Hyperacanthomysis longirostris* along a temperate macrotidal estuary (Chikugo River estuary, Japan). Estuarine, Coastal and Shelf Science. 2009. 83(4), p. 516-528.

Suzuki Keita, Gwak Woo-Seok, Nakayama Kouji, Tanaka Masaru. Instability of the turbidity maximum in the macrotidal Geum River estuary, western Korea. Limnology. 2009 (オンライン公開 doi:10.1007/s10201-009-0303-7).

Yagishita, Naoki; Miya, Masaki; Yamanoue, Yusuke; Shirai, Shigeru M.; Nakayama, Kouji; Suzuki, Nobuaki; Satoh, Takashi P.; Mabuchi, Kohji; Nishida, Mutsumi; Nakabo, Tetsuji. Mitogenomic evaluation of the unique facial nerve pattern as a phylogenetic marker within the perciform fishes (Teleostei: Percomorpha). Molecular phylogenetics and evolution. 2009. 53(1), p. 258-266.

■甲斐 嘉晃

Kai, Yoshiaki; Nakabo, Tetsuji. Taxonomic review of the genus *Cottiusculus* (Cottoidei: Cottidae) with description of a new species from the Sea of Japan. Ichthyological Research. 2009. 56(3), p.213-226.

Kai, Yoshiaki; Soes, D. Menno. A record of *Sebastes schlegelii* Hilgendorf, 1880 from Dutch coastal waters. Aquatic Invasions. 2009. 4(2), p.417-419.

■大嶋 真謙

Oshima, Masakane; Kato, Yoshiki; Masuda, Reiji; Kimura, Shingo; Yamashita, Yoh. Effect of turbulence on feeding intensity and survival of Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* pelagic larvae. Journal of Fish Biology. 2009. 75(7), p. 1639-1647.

Oshima, Masakane; Robert, Dominique; Kurita, Yutaka; Yoneda, Michio; Tominaga, Osamu; Tomiyama, Takeshi; Yamashita, Yoh; Uehara, Shinji. Do early growth dynamics explain recruitment success in Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* off the Pacific coast of northern Japan? Journal of Sea Research. 2010, 64, p.94-101 (2009 オンライン公開 doi: 10.1016/j.seares.2009.12.002)

基礎海洋生物学部門

■白山 義久

諏訪 僚太・中村 崇・井口 亮・中村 雅子・守田 昌哉・加藤 亜記・藤田 和彦・井上 麻夕里・酒井 一彦・鈴木 淳・小池 勲夫・白山 義久・野尻 幸宏. 海洋酸性化がサンゴ礁域の石灰化生物に及ぼす影響. 海の研究. 2010, 19(1), p. 21-40

座安 佑奈・野村 恵一・鈴木 豪・白山 義久・深見 裕伸. 和歌山産ヒラタオオトゲキクメイシに見られる生時の形態多型は種内変異か種間変異か?. 日本サンゴ礁学会誌 Journal of the Japanese Coral Reef Society. 2009, 11, p. 33-37.

Nishimoto Atsushi, Mito Saeko, Shirayama Yoshihisa. Organic carbon and nitrogen source of sunken wood communities on continental shelves around Japan inferred from stable isotope ratios. Deep Sea Research Part II: Topical Studies in Oceanography. 2009, 56(19-20), p.1683-1688.

Kim Dongsung, Shirayama Yoshihisa. Use of colloidal iron as a tracer to measure the ingestion rates of free-living marine nematodes. Journal of Oceanography. 2010, 66(2), p.299-305.

■久保田 信

久保田 信. 絶食させたベニクラゲモドキ *Oceania armata Kolliker* (ベニクラゲモドキ科) 若返りをおこさず. 南紀生物. 2009, 51(1), p.35-36.

久保田 信. 和歌山県田辺湾に長期間迷入したマッコウクジラ. 漂着物学会誌. 2009, 7, p.47-49.

久保田 信. 四度若返ったベニクラゲ *Turritopsis* sp. (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目). 日本生物地理学会会報. 2009, 64, p.97-99.

北尾 芳樹, 久保田 信. 和歌山県で発見された巨大カメノテ (甲殻類). 南紀生物. 2009, 51(2), p.153.

新稲 一仁, 久保田 信. ダイダイウミウシ (後鰓亜綱, クロシタナシウミウシ科) の幼若体. 南紀生物. 2009, 51(1), p.51-52.

林 公義, 久保田 信, 田名瀬 英朋, 中坊 徹次. 稀少種ヌメリテンジクダイ *Pseudania gelatinosa* (テンジクダイ科) 未成魚の和歌山県白浜町の海岸への漂着. 南紀生物. 2009, 51(1), p.56-57.

橋本 伊勢雄, 樫山 嘉郎, 久保田 信. 和歌山県西牟婁郡白浜町で採取された生きたスイジガイ *Lambis (Harpago) chiragra* (盤足目, ソデボラ科) の亜成貝. 南紀生物. 2009, 51(1), p.58.

田名瀬 英朋, 久保田 信. 和歌山県みなべ町で最近発見された大形のグンバイヒルガオ (ヒルガオ科). 南紀生物. 2009, 51(1), p.22-23.

秋山 仁, 山崎 悠介, 河村 真理子, 久保田 信. わが国で確認された *Koellikerina constricta* (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目, エダクラゲ科) のクラゲの大形個体. 日本生物地理学会会報. 2009, 64, p.101-103.

新稲 一仁, 久保田 信. 和歌山県白浜町の海岸へのハチジョウダカラ *Cypraea mauritiana* (腹足綱, タカラガイ科) の出現. 南紀生物. 2009, 51(2), p.144-145.

Kobayashi, Arei; Kubota, Shin. Relation between expanding range of bivalve-inhabiting hydrozoans and water temperature. Biogeography(日本生物地理学会). 2009, (11), p.23-31.

■宮崎 勝己

宮崎 勝己, 小林 豊, 鳥羽 光晴. アサリに内部寄生し漁業被害を与えるカイヤドリウミグモの生物学. タクサ. 2010, (28), p.45-54.

■大和 茂之

Urano, Satoru; Yamaguchi, Sachi; Yamato, Shigeyuki; Takahashi, Satoshi; Yusa, Yoichi. Evolution of dwarf males and a variety of sexual modes in barnacles: an ESS approach. Evolutionary Ecology Research. 2009. 11(5), p.713-729.

■深見 裕伸

深見 裕伸・野村 恵一. 和歌山産タカクキクメイシ *Montastraea valenciennesi* (Milne Edwards and Haime, 1848) の隠蔽種の存在. 日本サンゴ礁学会誌 Journal of the Japanese Coral Reef Society. 2009, 11 p.25-31.

座安 佑奈・野村 恵一・鈴木 豪・白山 義久・深見 裕伸. 和歌山産ヒラタオトゲキクメイシに見られる生時の形態多型は種内変異か種間変異か?. 日本サンゴ礁学会誌 Journal of the Japanese Coral Reef Society. 2009, 11, p. 33-37.

■諏訪 僚太

Suwa, Ryota; Nakamura, Masako; Morita, Masaya; Shimada, Kazuaki; Iguchi, Akira; Sakai, Kazuhiko; Suzuki, Atsushi. Effects of acidified seawater on early life stages of scleractinian corals (Genus *Acropora*). Fisheries Science. 2010. 76(1), p. 93-99.

Morita, Masaya; Suwa, Ryota; Iguchi, Akira; Nakamura, Masako; Shimada, Kazuaki; Sakai, Kazuhiko; Suzuki, Atsushi. Ocean acidification reduces sperm flagellar motility in broadcast spawning reef invertebrates. Zygote. 2010. 18(02), p. 103-107.

諏訪 僚太・中村 崇・井口 亮・中村 雅子・守田 昌哉・加藤 亜記・藤田 和彦・井上 麻夕里・酒井 一彦・鈴木 淳・小池 勲夫・白山 義久・野尻 幸宏. 海洋酸性化がサンゴ礁域の石灰化生物に及ぼす影響. 海の研究. 2010, 19(1), p. 21-40

諏訪 僚太. 海洋酸性化とサンゴ礁域の生物. Lagoon (環境省国際サンゴ礁研究モニタリングセンター). 2010, 14, p. 7-9.

■原田 百聞

Harada, Hyakubun; Vila-Costa, Maria; Cebrian, Just; Kiene, Ronald P. Effects of UV radiation and nitrate limitation on the production of biogenic sulfur compounds by marine phytoplankton. Aquatic Botany. 2009. 90(1), p. 37-42.

Rellinger, Alison N.; Kiene, Ronald P.; del Valle, Daniela A.; Kieber, David J.; Slezak, Doris; Harada, Hyakubun; Bisgrove, John; Brinkley, Jordan. Occurrence and turnover of DMSP and DMS in deep waters of the Ross Sea, Antarctica. Deep Sea Research Part I: Oceanographic Research Papers. 2009. 56(5), p. 686-702.

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

向井 宏. ジュゴンの摂餌生態: 現状と展望(海洋理工学会平成20年度秋季大会シンポジウム特集 ジュゴンと漁業の共存のための技術開発). 海洋理工学会誌. 2009, 15, p. 73-87.

Kasim Ma'ruf, Mukai Hiroshi. Food sources of the oyster (*Crassostrea gigas*) and the clam (*Ruditapes philippinarum*) in the Akkeshi-ko estuary. Plankton and Benthos Research. 2009, 4(3), p. 104-114.

Sasil-Orbita, M. L. W.; Mukai, H. Effects of epiphyte density on seagrass leaf turnover rate. Philippine Journal of Science. 2009, 138, p. 75-80.

■佐藤 真行

佐藤 真行. 食に関する情報と消費 (特集 生活の中の食). 家計経済研究. 2009, 0(83), p. 48-57.

■Antonio, Emily S.

Antonio, Emily S.; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Kurikawa, Yoshiro; Tsuchiya, Kanako; Toyohara, Haruhiko; Ishihi, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Consumption of terrestrial organic matter by estuarine molluscs determined by analysis of their stable isotopes and cellulase activity. Estuarine, Coastal and Shelf Science. 2010. 86(3), p. 401-407.

Antonio, Emily S.; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Won, Nam-il; Ishihi, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Spatial variation in organic matter utilization by benthic communities from Yura River-Estuary to offshore of Tango Sea, Japan. Estuarine, Coastal and Shelf Science. 2010. 86(1), p. 107-117.

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

柴田 英昭, 戸田 浩人, 福島 慶太郎, 谷尾 陽一, 高橋 輝昌, 吉田 俊也. 日本における森林生態系の物質循環と森林施業との関わり. 日本森林学会誌. 2009, 91(6), p. 408-420.

Tateno, Ryunosuke; Fukushima, Keitaro; Fujimaki, Reiji; Shimamura, Tetsuya; Ohgi, Masami; Arai, Hirotugu; Ohte, Nobuhito; Tokuchi, Naoko; Yoshioka, Takahito. Biomass allocation and nitrogen limitation in a *Cryptomeria japonica* plantation chronosequence. Journal of Forest Research. 2009. 14(5), p. 276-285.

Tokuchi, Naoko, Hirobe, M., Kondo, K., Arai, H., Hobara, S., Fukushima, Keitaro, Matsuura, Y. "Soil nitrogen dynamics in larch ecosystem". Permafrost Ecosystems: Siberian Larch Forests. Ecological studies. Osawa, A., Zyryanova, OA, Matsuura, Y., Kajimoto, T., Wein, RW eds., Springer, 2010, p. 229-243.

■今西 亜友美

今西 亜友美, 柴田 昌三, 今西 純一, 寺井 厚海, 中西 麻美, 境 慎二郎, 大澤 直哉, 森本 幸裕. ヒノキ林化した都市近郊二次林における小面積伐採後初期の木本種組成の変化. 日本緑化工学会誌. 2009, 34(4), p. 641-648.

Imanishi, Ayumi; Morimoto, Junko; Imanishi, Junichi; Shibata, Shozo; Nakanishi, Asami; Osawa, Naoya; Sakai, Shinjiro. Sprout initiation and growth for three years after cutting in an abandoned secondary forest in Kyoto, Japan. Landscape and Ecological Engineering. 2009 (オンライン公開 doi: 10.1007/s11355-009-0090-7).

Ishii, Hiroaki; Manabe, Tohru; Ito, Keitaro; Fujita, Naoko; Imanishi, Ayumi; Hashimoto, Daisuke; Iwasaki, Ayako. Integrating ecological and cultural values toward conservation and utilization of shrine/temple forests as urban green space in Japanese cities. Landscape and Ecological Engineering. 2010 (オンライン公開 doi: 10.1007/s11355-010-0104-5) .

Imanishi, Junichi; Nakayama, Aki; Suzuki, Yoko; Imanishi, Ayumi; Ueda, Nobuyuki; Morimoto, Yukihiro; Yoneda, Minoru. Nondestructive determination of leaf chlorophyll content in two flowering cherries using reflectance and absorptance spectra. Landscape and Ecological Engineering. 2010 (オンライン公開 doi: 10.1007/s11355-009-0101-8)

管理技術部

■加藤 哲哉

Nishi, Eijiroh; Kato, Tetsuya. Longibrachium arariensis, a new species of Onuphidae (Annelida: Polychaeta) from the shallow water of Izu Peninsula, central Japan, with notes on its feeding behavior. Zootaxa. 2009, (2081), p. 46-56.

Ohta, Yuri; Kobayashi, Norio; Suzuki, Seizi; Kato, Tetsuya; Hori, Shigehisa; Yamauchi, Satoshi; Katakura, Haruo. Evolution of Flight-Muscle Polymorphism in the Dung Beetle *Phelotrupes laevistriatus* (Coleoptera: Geotrupidae): A Phylogeographic Analysis. 2009, 102(5), p. 9.

■境 慎二郎

今西 亜友美, 柴田 昌三, 今西 純一, 寺井 厚海, 中西 麻美, 境 慎二郎, 大澤 直哉, 森本 幸裕. ヒノキ林化した都市近郊二次林における小面積伐採後初期の木本種組成の変化. 日本緑化工学会誌. 2009, 34(4), p. 641-648.

2010 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

吉岡 崇仁; Mostofa, K. M. G. 琵琶湖およびバイカル湖とその集水域における溶存有機物の動態. 日本腐植物質学会誌. 2010, 7, p. 5-14.

佐々木 尚子, 吉岡 崇仁, 小川 安紀子, 勝山 正則, 日野 修次, 高原 光. 鉛-210・セシウム-137 法による年代測定ならびに花粉分析に基づく朱鞠内湖集水域における過去 50 年間の植生復元. 日本花粉学会会誌. 2010, 56(1), p. 31-43.

Anawar, Hossain; Yoshioka, Takahito; Konohira, Eiichi; Akai, Junji; Freitas, M.; Tareq, Shafi. Sources of organic carbon and depositional environment in the Bengal delta plain sediments during the Holocene period. Limnology. 2010, 11(2), p. 133-142.

Tobari, Y.; Koba, K.; Fukushima, K.; Tokuchi, N.; Ohte, N.; Tateno, R.; Toyoda, S.; Yoshioka, T.; Yoshida, N. Contribution of atmospheric nitrate to stream-water nitrate in Japanese coniferous forests revealed by the oxygen isotope ratio of nitrate. Rapid Communications in Mass Spectrometry. 2010, 24(9), p. 1281-1286.

■芝 正己

Masuda, Reiji; Shiba, Masami; Yamashita, Yoh; Ueno, Masahiro; Kai, Yoshiaki; Nakanishi, Asami; Torikoshi, Masaru; Tanaka, Masaru. Fish assemblages associated with three types of artificial reefs: density of assemblages and possible impacts on adjacent fish abundance. Fishery Bulletin. 2010, 108(2), p. 162-173.

■安藤 信

呉 初平, 安藤 信. マツ枯れ被害林におけるアカマツ実生, 稚樹, 幼樹の分布と立地環境. 日本緑化工学会誌. 2010, 36(2), p. 304-310.

■徳地 直子

徳地 直子, 臼井 伸章, 上田 実希, 福島 慶太郎. 里山の植生変化と物質収支: 竹林拡大に関する天王山における考察. 水利科学. 2010, 54, p. 90-103.

大手 信人, 徳地 直子, 藤本 将光. N03-流出の季節変動を制御する要因. 水利科学. 2010, 54(1), p. 1-16.

Arai, Hirotsugu; Tokuchi, Naoko. Soil organic carbon accumulation following afforestation in a Japanese coniferous plantation based on particle-size fractionation and stable isotope analysis. Geoderma. 2010, 159(3-4), p. 425-430.

Arai, Hirotsugu; Tokuchi, Naoko. Factors contributing to greater soil organic carbon accumulation after afforestation in a Japanese coniferous plantation as determined by stable and radioactive isotopes. Geoderma. 2010, 157(3-4), p. 243-251.

Ohte, Nobuhito; Tokuchi, Naoko; Fujimoto, Masamitsu. Seasonal Patterns of Nitrate Discharge from Forested Catchments: Information Derived from Japanese Case Studies. Geography Compass. 2010, 4(9), p. 1358-1376.

Tobari, Y.; Koba, K.; Fukushima, Keitaro; Tokuchi, Naoko; Ohte, N.; Tateno, R.; Toyoda, S.; Yoshioka, Takahito; Yoshida, N. Contribution of atmospheric nitrate to stream-water nitrate in Japanese coniferous forests revealed by the oxygen isotope ratio of nitrate. Rapid Communications in Mass Spectrometry. 2010, 24(9), p. 1281-1286.

Ueda, Miki; Mizumachi, Eri; Tokuchi, Naoko. Winter nitrate uptake by the temperate deciduous tree *Quercus serrata*. Journal of Forest Research. 2010, 15(6), p.411-414.

■寄元 道德

Matsuyama, Shuhei; Sakimoto, Michinori. Sexual dimorphism of reproductive allocation at shoot and tree levels in *Zanthoxylum ailanthoides*, a pioneer dioecious tree. Botany. 2010, 88(10), p.867-874.

■坂野上 なお

坂野上 なお. 木材生産・流通に影響を与える需要側の変化を追って—林業経済研究は木材需要の行方をどのように捉えるか ([林業経済学会]2011 年春季大会論文 林業経済研究は森林セクターにどう貢献するか—気鋭の研究者はこう考える). 林業経済研究. 2011, 57(1), p.19-26.

■佐藤 拓哉

Sato, Takuya; Watanabe, Katsutoshi; Kanaiwa, Minoru; Niizuma, Yasuaki; Harada, Yasushi; Lafferty, Kevin. Nematomorph parasites drive energy flow through a riparian ecosystem. Ecology. 2011, 92(1), p.201-207. (2010 オンライン公開 doi: 10.1890/09-1565.1)

Sato, Takuya. Adult hairworms face the risk of ingestion by stream salmonids via predation on their cricket hosts. Limnology. 2011, 12(1), p.83-88.

Sato, Takuya; Gwo, Jin-Chywan. Demographic and genetic consequences of population subdivision in Formosa land-locked salmon *Oncorhynchus masou formosanus*, the southernmost subspecies of the salmonids. Ichthyological Research. 2011, p.1-8.

Sato, Takuya; Demise, Teruko; Kubota, Hitoshi; Nagoshi, Makoto; Watanabe, Katsutoshi. Hybridization, Isolation, and Low Genetic Diversity of Kirikuchi Char, the Southernmost Populations of the Genus *Salvelinus*. Transactions of the American Fisheries Society. 2010, 139(6), p.1758.

■長田 典之

Osada, Noriyuki; Onoda, Yusuke; Hikosaka, Kouki. Effects of atmospheric CO₂ concentration, irradiance, and soil nitrogen availability on leaf photosynthetic traits of *Polygonum sachalinense* around natural CO₂ springs in northern Japan. Oecologia. 2010, 164(1), p.41-52.

Osada, Noriyuki. Height-dependent changes in shoot structure and tree allometry in relation to maximum height in four deciduous tree species. Functional Ecology. 2011 (2011 オンライン出版 doi: 10.1111/j.1365-2435.2011.01833.x)

里域生態系部門

■山下 洋

山下 洋. 森・里・海とつながる生態系. 沿岸海洋研究. 2011, 48, p.131-138.

藤浪 祐一郎, 山下 洋. ヒラメ: 放流効果低迷の原因を考える. 日本水産学会誌. 2010, 76(2), p.256-257.

Chin, Byung-Sun; Nakagawa, Masahiro; Tagawa, Masatomo; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. Ontogenetic changes of habitat selection and thyroid hormone levels in black rockfish (*Sebastes schlegelii*) reared in captivity. Ichthyological Research. 2010, 57(3), p.278-285.

Fuji, Taiki; Kasai, Akihide; Suzuki, Keita; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Freshwater migration and feeding habits of juvenile temperate seabass *Lateolabrax japonicus* in the stratified Yura River estuary, the Sea of Japan. Fisheries Science. 2010, 76(4), p.643-652.

Islam, Md Shahidul; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Growth-dependent survival mechanisms during the early life of a temperate seabass (*Lateolabrax japonicus*): field test of the 'growth-mortality' hypothesis. Fisheries Oceanography. 2010, 19(3), p.230-242.

Kanaji, Y.; Kishida, M.; Watanabe, Y.; Kawamura, T.; Xie, S.; Yamashita, Y.; Sassa, C.; Tsukamoto, Y. Variations in otolith patterns, sizes and body morphometrics of jack mackerel *Trachurus japonicus* juveniles. Journal of Fish Biology. 2010, 77(6), p.1325-1342.

Kishida, Munenori; Kanaji, Yu; Xie, Songguang; Watanabe, Yoshiro; Kawamura, Tomohiko; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. Ecomorphological dimorphism of juvenile *Trachurus japonicus* in Wakasa Bay, Japan. Environmental Biology of Fishes. 2011, 90(3), p.301-315.

Masuda, Reiji; Shiba, Masami; Yamashita, Yoh; Ueno, Masahiro; Kai, Yoshiaki; Nakanishi, Asami; Torikoshi, Masaru; Tanaka, Masaru. Fish assemblages associated with three types of artificial reefs: density of assemblages and possible impacts on adjacent fish abundance. Fishery Bulletin. 2010, 108(2), p.162-173.

Miyajima, Y.; Masuda, R.; Kurihara, A.; Kamata, R.; Yamashita, Y.; Takeuchi, T. Juveniles of threadsail filefish, *Stephanolepis cirrifer*, can survive and grow by feeding on moon jellyfish *Aurelia aurita*. Fisheries Science. 2011, 77(1), p.41-48.

Miyajima, Yuko; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. Feeding preference of threadsail filefish *Stephanolepis cirrifer* on moon jellyfish and lobworm in the laboratory. Plankton and Benthos Research. 2011, 6(1), p.12-17.

Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Ueno, Masahiro; Fukunishi, Yuichi; Yamashita, Yoh. Effects of turbidity on survival of larval ayu and red sea bream exposed to predation by jack mackerel and moon jellyfish. Fisheries Science.

2011, 77(2), p.207-215.

Omoto, Naotaka; Koya, Yasunori; Chin, Byungsun; Yamashita, Yoh; Nakagawa, Masahiro; Noda, Tsutomu. Gonadal sex differentiation and effect of rearing temperature on sex ratio in black rockfish (*Sebastes schlegelii*). Ichthyological Research. 2010, 57(2), p.133-138.

Takahashi, K.; Masuda, R.; Yamashita, Y. Ontogenetic changes in the spatial learning capability of jack mackerel *Trachurus japonicus*. Journal of Fish Biology. 2010, 77(10), p.2315-2325.

Wada, T.; Yamada, T.; Shimizu, D.; Aritaki, M.; Sudo, H.; Yamashita, Yoh; Tanaka, M. Successful stocking of a depleted species, spotted halibut *Verasper variegatus*, in Miyako Bay, Japan: evaluation from post-release surveys and landings. Marine Ecology Progress Series. 2010, 407, p.243-255.

■田川 正朋

Chin, Byung-Sun; Nakagawa, Masahiro; Tagawa, Masatomo; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. Ontogenetic changes of habitat selection and thyroid hormone levels in black rockfish (*Sebastes schlegelii*) reared in captivity. Ichthyological Research. 2010, 57(3), p.278-285.

Nishikawa, Taizo; Aritaki, Masato; Shimizu, Daisuke; Wada, Toshihiro; Tanaka, Masaru; Tagawa, Masatomo. Faster growth before metamorphosis leads to a higher risk of pseudoalbinism in juveniles of the starry flounder *Platichthys stellatus*, as suggested by otolith back-calculation. Fisheries Science. 2010, 76(5), p.827-831.

■益田 玲爾

益田 玲爾. 魚類の群れ行動の個体発生: 反射の連鎖から社会の形成まで. 日本水産学会誌. 2011, 77(1), p.117.

Masuda, Reiji; Shiba, Masami; Yamashita, Yoh; Ueno, Masahiro; Kai, Yoshiaki; Nakanishi, Asami; Torikoshi, Masaru; Tanaka, Masaru. Fish assemblages associated with three types of artificial reefs: density of assemblages and possible impacts on adjacent fish abundance. Fishery Bulletin. 2010, 108(2), p.162-173.

Chin, Byung-Sun; Nakagawa, Masahiro; Tagawa, Masatomo; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. Ontogenetic changes of habitat selection and thyroid hormone levels in black rockfish (*Sebastes schlegelii*) reared in captivity. Ichthyological Research. 2010, 57(3), p.278-285.

Ito, Yusuke; Yasuma, Hiroki; Masuda, Reiji; Minami, Kenji; Matsukura, Ryuichi; Morioka, Saho; Miyashita, Kazushi. Swimming angle and target strength of larval Japanese anchovy (*Engraulis japonicus*). Fisheries Science. 2011, 77(2), p.161-167.

Kishida, Munenori; Kanaji, Yu; Xie, Songguang; Watanabe, Yoshiro; Kawamura, Tomohiko; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. Ecomorphological dimorphism of juvenile *Trachurus japonicus* in Wakasa Bay, Japan. Environmental Biology of Fishes. 2011, 90(3), p.301-315.

Miyajima, Y.; Masuda, R.; Kurihara, A.; Kamata, R.; Yamashita, Y.; Takeuchi, T. Juveniles of threadsail filefish, *Stephanolepis cirrifer*, can survive and grow by feeding on moon jellyfish *Aurelia aurita*. Fisheries Science. 2011, 77(1), p.41-48.

Miyajima, Yuko; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. Feeding preference of threadsail filefish *Stephanolepis cirrifer* on moon jellyfish and lobworm in the laboratory. Plankton & benthos research. 2011, 6(1), p.12-17.

Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Ueno, Masahiro; Fukunishi, Yuichi; Yamashita, Yoh. Effects of turbidity on survival of larval ayu and red sea bream exposed to predation by jack mackerel and moon jellyfish. Fisheries Science. 2011, 77(2), p.207-215.

Takahashi, K.; Masuda, R.; Yamashita, Y. Ontogenetic changes in the spatial learning capability of jack mackerel *Trachurus japonicus*. Journal of Fish Biology. 2010, 77(10), p.2315-2325.

■梅本 信也

梅本 信也. 和歌山県那智勝浦町ぶつづ川の里域植物誌. 熊野誌. 2010, 57(1), p.116-127.

Umemoto, Shinya. Linkage Equilibrium of Human Ecosystem and its Transformation in Laurel Forest of Guizhou Province, China. Genetic Assay and Study of Crop Germplasm in and around China(4th). 2010, p.11-20.

■中西 麻美

Masuda, Reiji; Shiba, Masami; Yamashita, Yoh; Ueno, Masahiro; Kai, Yoshiaki; Nakanishi, Asami; Torikoshi, Masaru; Tanaka, Masaru. Fish assemblages associated with three types of artificial reefs: density of assemblages and possible impacts on adjacent fish abundance. Fishery Bulletin. 2010, 108(2), p.162-173.

■上野 正博

Fuji, Taiki; Kasai, Akihide; Suzuki, Keita; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Freshwater migration and feeding habits of juvenile temperate seabass *Lateolabrax japonicus* in the stratified Yura River estuary, the Sea of Japan. Fisheries Science. 2010, 76(4), p.643-652.

Islam, Md Shahidul; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Growth-dependent survival mechanisms during the early life of a temperate seabass (*Lateolabrax japonicus*): field test of the 'growth-mortality' hypothesis. Fisheries Oceanography. 2010, 19(3), p.230-242.

Masuda, Reiji; Shiba, Masami; Yamashita, Yoh; Ueno, Masahiro; Kai, Yoshiaki; Nakanishi, Asami; Torikoshi, Masaru; Tanaka, Masaru. Fish assemblages associated with three types of artificial reefs: density of assemblages

and possible impacts on adjacent fish abundance. Fishery Bulletin. 2010, 108(2), p.162-173.

Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Ueno, Masahiro; Fukunishi, Yuichi; Yamashita, Yoh. Effects of turbidity on survival of larval ayu and red sea bream exposed to predation by jack mackerel and moon jellyfish. Fisheries Science. 2011, 77(2), p.207-215.

■中山 耕至

日比野 学, 河根 三雄, 植村 宗彦, 三宅 佳亮, 中山 耕至. マイクロサテライト DNA 分析を用いた放流用アユ人工種苗の遺伝的評価. 水産増殖. 2010, 58(2), p.195-202.

Iseki, Tomoaki; Mizuno, Kouki; Ohta, Taro; Nakayama, Kouji; Tanaka, Masaru. Current status and ecological characteristics of the Chinese temperate bass *Lateolabrax* sp., an alien species in the western coastal waters of Japan. Ichthyological Research. 2010, 57(3), p.245-253.

Nakabo, Tetsuji; Nakayama, Kouji; Muto, Nozomu; Miyazawa, Masayuki. *Oncorhynchus kawamurae* “Kunimasu,” a deepwater trout, discovered in Lake Saiko, 70 years after extinction in the original habitat, Lake Tazawa, Japan. Ichthyological Research. 2011, p.1-4.

■甲斐 嘉晃

Katafuchi, Hiroshi; Kai, Yoshiaki; Nakabo, Tetsuji. “Genetic divergence in *Ditrema jordani* (Perciformes: Embiotocidae) from the Pacific coast of southern Japan, as inferred from mitochondrial DNA sequences”. Ichthyological Research. 2010, p.1-5.

Masuda, Reiji; Shiba, Masami; Yamashita, Yoh; Ueno, Masahiro; Kai, Yoshiaki; Nakanishi, Asami; Torikoshi, Masaru; Tanaka, Masaru. Fish assemblages associated with three types of artificial reefs: density of assemblages and possible impacts on adjacent fish abundance. Fishery Bulletin. 2010, 108(2), p.162-173.

■南 憲吏

Minami, Kenji; Hamano, Akira; Nakamura, Takeshi. Shape and target strength of vesicles of two *Sargassum* species common to the coastal waters of Japan. 海洋音響学会誌. 2010, 37(3), p.147-155.

Minami, Kenji; Yasuma, Hiroki; Tojo, Naoki; Fukui, Shin-ichi; Ito, Yusuke; Nobetsu, Takahiro; Miyashita, Kazushi. Estimation of kelp forest, *Laminaria* spp., distributions in coastal waters of the Shiretoko Peninsula, Hokkaido, Japan, using echosounder and geostatistical analysis. Fisheries Science. 2010, 76(5), p.729-736.

Ito, Yusuke; Yasuma, Hiroki; Masuda, Reiji; Minami, Kenji; Matsukura, Ryuichi; Morioka, Saho; Miyashita, Kazushi. Swimming angle and target strength of larval Japanese anchovy (*Engraulis japonicus*). Fisheries Science. 2011, 77(2), p.161-167.

■陳 炳善

陳 炳善, 野田 勉. クロソイ:栽培漁業による資源増殖の現状と将来展望. 日本水産学会誌. 2010, 76(2), p.254-255.

Omoto, Naotaka; Koya, Yasunori; Chin, Byung-sun; Yamashita, Yoh; Nakagawa, Masahiro; Noda, Tsutomu. Gonadal sex differentiation and effect of rearing temperature on sex ratio in black rockfish (*Sebastes schlegelii*). Ichthyological Research. 2010, 57(2), p.133-138.

Chin, Byung-Sun; Nakagawa, Masahiro; Tagawa, Masatomo; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. Ontogenetic changes of habitat selection and thyroid hormone levels in black rockfish (*Sebastes schlegelii*) reared in captivity. Ichthyological Research. 2010, 57(3), p.278-285.

基礎海洋生物学部門

■白山 義久

Benedetti-Cecchi, Lisandro; Iken, Katrin; Konar, Brenda; Cruz-Motta, Juan; Knowlton, Ann; Pohle, Gerhard; Castelli, Alberto; Tamburello, Laura; Mead, Angela; Trott, Tom; Miloslavich, Patricia; Wong, Melisa; Shirayama, Yoshihisa; Lardicci, Claudio; Palomo, Gabriela; Maggi, Elena. Spatial Relationships between Polychaete Assemblages and Environmental Variables over Broad Geographical Scales. PLoS ONE. 2010, 5(9), p.e12946.

Cruz-Motta, Juan; Miloslavich, Patricia; Palomo, Gabriela; Iken, Katrin; Konar, Brenda; Pohle, Gerhard; Trott, Tom; Benedetti-Cecchi, Lisandro; Herrera, César; Hernández, Alejandra; Sardi, Adriana; Bueno, Andrea; Castillo, Julio; Klein, Eduardo; Guerra-Castro, Edlin; Gobin, Judith; Gómez, Diana Isabel; Riosmena-Rodríguez, Rafael; Mead, Angela; Bigatti, Gregorio; Knowlton, Ann; Shirayama, Yoshihisa. Patterns of Spatial Variation of Assemblages Associated with Intertidal Rocky Shores: A Global Perspective. PLoS ONE. 2010, 5(12), p.e14354.

Fujikura, Katsunori; Lindsay, Dhugal; Kitazato, Hiroshi; Nishida, Shuhei; Shirayama, Yoshihisa. Marine Biodiversity in Japanese Waters. PLoS ONE. 2010, 5(8), p.e11836.

Iken, Katrin; Konar, Brenda; Benedetti-Cecchi, Lisandro; Cruz-Motta, Juan; Knowlton, Ann; Pohle, Gerhard; Mead, Angela; Miloslavich, Patricia; Wong, Melisa; Trott, Thomas; Mieszkowska, Nova; Riosmena-Rodríguez, Rafael; Airolidi, Laura; Kimani, Edward; Shirayama, Yoshihisa; Frascchetti, Simonetta; Ortiz-Touzet, Manuel; Silva, Angelica. Large-Scale Spatial Distribution Patterns of Echinoderms in Nearshore Rocky Habitats. PLoS ONE. 2010, 5(11), p.e13845.

Konar, Brenda; Iken, Katrin; Cruz-Motta, Juan; Benedetti-Cecchi, Lisandro; Knowlton, Ann; Pohle, Gerhard; Miloslavich, Patricia; Edwards, Matt; Trott, Thomas; Kimani, Edward; Riosmena-Rodriguez, Rafael; Wong, Melisa; Jenkins, Stuart; Silva, Angelica; Pinto, Isabel Sousa; Shirayama, Yoshihisa. Current Patterns of Macroalgal Diversity and Biomass in Northern Hemisphere Rocky Shores. PLoS ONE. 2010, 5(10), p. e13195.

■久保田 信

久保田 信, 樫山 嘉郎, 田名瀬 英朋. 和歌山県白浜町の3箇所に発育したグンバイヒルガオ(ヒルガオ科)は初回の越冬できず. 南紀生物. 2010, 52(1), p. 61-62.

久保田 信, 樫山 嘉郎, 山本 泰司, 田名瀬 英朋, 湊 宏, 小山 安生. 和歌山県白浜町沿岸へのオウムガイ(オウムガイ科)の漂着記録4例. 南紀生物. 2010, 52(1), p. 79-80.

久保田 信, 大藪 健. “大型”のベニクラゲ(ヒドロ虫綱, 花クラゲ目)の千葉県沿岸への初出現. 南紀生物. 2010, 52(2), p. 149-150.

Kubota, Shin; Hyakutake, Kanako; Akiyama, Hisashi. First occurrence of the hydromedusa *Paralovenia bitentaculata* (Hydrozoa: Leptomedusae) in Japan. Biogeography. 2010, 12, p. 143-144.

Kubota, Shin; Lee, Ji Min; Chang, Cheon Young. Later appearance of giant jelly fish, *Nemopilema nomurai* (Scyphozoa: Rhizostomeae) in the inshore waters at the Jindo Island and the Jeju Island, Korea in November, 2009. Biogeography. 2010, 12, p. 9-11.

Kubota, Shin; Nomaru, Eriko; Uchida, Hiroko; Murakami, Akio. Distribution pattern of GFP (green fluorescent protein) in a bivalve-inhabiting hydrozoan, *Eutima japonica* (Leptomedusae: Eirenidae). Journal of the Marine Biological Association of the UK. 2010, 90, p. 1371-1374.

秋山 仁, 堀之内 詩織, 山崎 悠介, 辻田 明子, 久保田 信. わが国で確認されたキヨヒメクラゲ(有触手綱, カブトクラゲ目、キヨヒメクラゲ科)の飼育と観察および最大個体について. 日本生物地理学会会報. 2010, 65, p. 97-99.

宇井 賢二郎, 久保田 信. 秋田県男鹿半島で記録された稀少なハナクラゲモドキ *Merceritum octocostatum* (軟クラゲ目、ハナクラゲモドキ科). 南紀生物. 2010, 52(2), p. 111-112.

森 喜信, 久保田 信, 上野 俊士郎. 和歌山県みなべ町沿岸で小型魚類を捕食した稀少種ヒクラゲ(刺胞動物門, 箱虫綱, アンドンクラゲ科). 南紀生物. 2010, 52(1), p. 16-17.

Han, Jian; Kubota, Shin; Uchida, Hiro-omi; Stanley, George D. Jr; Yao, Xiaoyong; Shu, Degan; Li, Yong; Yasui, Kinya. Tiny sea anemone from the Lower Cambrian of China. PLoS ONE. 2010, 5(10), p. e13276.

■宮崎 勝己

Miyazaki, Katsumi; Makioka, Toshiki. Structure of the adult female reproductive system in the sea spider, *Propallene longiceps* (Pycnogonida, Callipallenidae) and its functional and evolutionary significance. Invertebrate Reproduction and Development. 2010, 54(1), p. 35-39.

Yusa, Yoichi; Takemura, Mayuko; Miyazaki, Katsumi; Watanabe, Tetsuya; Yamato, Shigeyuki. Dwarf males of *Octolasmis warwickii* (Cirripedia: Thoracica): The first example of coexistence of males and hermaphrodites in the suborder Lepadomorpha. Biological Bulletin. 2010, 218(3), p. 259-265.

■大和 茂之

Inatsuchi, Ayano; Yamato, Shigeyuki; Yusa, Yoichi. Effects of temperature and food availability on growth and reproduction in the neustonic pedunculate barnacle *Lepas anserifera*. Marine Biology. 2010, 157(4), p. 899-905.

Yusa, Yoichi; Takemura, Mayuko; Miyazaki, Katsumi; Watanabe, Tetsuya; Yamato, Shigeyuki. Dwarf males of *Octolasmis warwickii* (Cirripedia: Thoracica): The first example of coexistence of males and hermaphrodites in the suborder Lepadomorpha. Biological Bulletin. 2010, 218(3), p. 259-265.

■深見 裕伸

深見 裕伸, 立川 浩之, 鈴木 豪, 永田 俊輔, 杉原 薫. 日本における造礁性イシサンゴ類の同定の現状とその分類学的問題点. 日本サンゴ礁学会誌. 2010, 12p. 1-15.

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

Whanpetch, Napakhwan; Nakaoka, Masahiro; Mukai, Hiroshi; Suzuki, Takao; Nojima, Satoshi; Kawai, Takashi; Aryuthaka, Chittima. Temporal changes in benthic communities of seagrass beds impacted by a tsunami in the Andaman Sea, Thailand. Estuarine, Coastal and Shelf Science. 2010, 87(2), p. 246-252.

■佐藤 真行

Sakagami, Masaji; Sato, Masayuki; Ueta, Kazuhiro. A Study on Japanese Consumers Preferences for Agricultural Spinach as Fresh Foods. Current Nutrition and Food Science. August 2010, 6, p. 200-203.

Tokimatsu, Koji; Yamaguchi, Rintaro; Sato, Masayuki; Yasuoka, Rieko; Nishio, Masahiro; Ueta, Kazuhiro. Measuring future dynamics of genuine saving with changes of population and technology: application of an integrated assessment model. Environment, Development and Sustainability. 2011, p. 1-23.

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

徳地 直子, 臼井 伸章, 上田 実希, 福島 慶太郎. 里山の植生変化と物質収支: 竹林拡大に関する天王山における考察. 水利科学. 2010, 54, p. 90-103.

Tobari, Y.; Koba, K.; Fukushima, Keitaro; Tokuchi, Naoko; Ohte, N.; Tateno, R.; Toyoda, S.; Yoshioka, Takahito; Yoshida, N. Contribution of atmospheric nitrate to stream-water nitrate in Japanese coniferous forests revealed by the oxygen isotope ratio of nitrate. Rapid Communications in Mass Spectrometry. 2010. 24(9), p. 1281-1286.

■石原 正恵

Ishihara, Masae; Iwamoto; Hiura, Tsutom. Modeling leaf area index from litter collection and tree data in a deciduous broadleaf forest. Agricultural and Forest Meteorology. 2011, 151(7), p. 1016-1022.

2011 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

Lee, J.; Yoshioka, T.; Ra, K.; Owen, J.; Kim, B. Stable carbon and nitrogen isotope composition of co-existing herbivorous zooplankton species in an oligo-dystrophic lake (Shirakoma-ike, Japan). New Zealand Journal of Marine and Freshwater Research. 2011, 45(1), p. 29.

Mostofa, Khan M. G.; Wu, Fengchang; Liu, Cong-Qiang; Vione, Davide; Yoshioka, Takahito; Sakugawa, Hiroshi; Tanoue, Eiichiro. Photochemical, microbial and metal complexation behavior of fluorescent dissolved organic matter in the aquatic environments. Geochemical Journal. 2011, 45(3), p. 235-254.

■徳地 直子

徳地 直子, 大手 信人, 臼井 伸章, 福島 慶太郎. 窒素負荷に伴う森林生態系の窒素循環過程の検討. 日本生態学会誌. 2011-11-30, 61(3), p. 275-290.

徳地 直子, 金子 有子, 福島 慶太郎. 森林施業に伴う河川水質への影響の緩和に関する検討. 水利科学. 2011, 55(4), p. 23-36.

Fukushima, Keitaro; Tateno, Ryunosuke; Tokuchi, Naoko. Soil nitrogen dynamics during stand development after clear-cutting of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) plantations. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 394-404.

Mizumachi, Eri; Mori, Akira; Akiyama, Reiko; Tokuchi, Naoko; Osawa, Naoya. Variation in herbivory-induced responses within successively flushing *Quercus serrata* seedlings under different nutrient conditions. Journal of Forest Research. 2012, 17(2), p. 175-183.

Osada, Noriyuki; Tokuchi, Naoko; Takeda, Hiroshi. Continuous and Fluctuating Leaf Phenology of Adults and Seedlings of a Shade-tolerant Emergent Tree, *Dipterocarpus sublamellatus*, in Malaysia. Biotropica. 2012. (オンライン公開 doi: 10.1111/j.1744-7429.2011.00843.x)

Sato, Takuya; Watanabe, Katsutoshi; Tokuchi, Naoko; Kamauchi, Hiromitsu; Harada, Yasushi; Lafferty, Kevin D. A nematomorph parasite explains variation in terrestrial subsidies to trout streams in Japan. Oikos. 2011, 120(10), p. 1595-1599.

Ueda, Miki U.; Mizumachi, Eri; Tokuchi, Naoko. Foliage nitrogen turnover: differences among nitrogen absorbed at different times by *Quercus serrata* saplings. Annals of Botany. 2011, 108(1), p. 169-175.

■舘野 隆之輔

Fukushima, Keitaro; Tateno, Ryunosuke; Tokuchi, Naoko. Soil nitrogen dynamics during stand development after clear-cutting of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) plantations. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 394-404.

Kuroiwa, Megumi; Koba, Keisuke; Isobe, Kazuo; Tateno, Ryunosuke; Nakanishi, Asami; Inagaki, Yoshiyuki; Toda, Hiroto; Otsuka, Shigeto; Senoo, Keishi; Suwa, Yuichi; Yoh, Muneoki; Urakawa, Rieko; Shibata, Hideaki. Gross nitrification rates in four Japanese forest soils: heterotrophic versus autotrophic and the regulation factors for the nitrification. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 363-373.

Shi, Wei-Yu; Tateno, Ryunosuke; Zhang, Jian-Guo; Wang, Yi-Long; Yamanaka, Norikazu; Du, Sheng. Response of soil respiration to precipitation during the dry season in two typical forest stands in the forest-grassland transition zone of the Loess Plateau. Agricultural and Forest Meteorology. 2011, 151(7), p. 854-863.

Shibata, Hideaki; Urakawa, Rieko; Toda, Hiroto; Inagaki, Yoshiyuki; Tateno, Ryunosuke; Koba, Keisuke; Nakanishi, Asami; Fukuzawa, Karibu; Yamasaki, Ayaka. Changes in nitrogen transformation in forest soil representing the climate gradient of the Japanese archipelago. Journal of Forest Research. 2011, 16(5),

p. 374-385.

Yamasaki, Ayaka; Tateno, Ryunosuke; Shibata, Hideaki. Effects of carbon and nitrogen amendment on soil carbon and nitrogen mineralization in volcanic immature soil in southern Kyushu, Japan. *Journal of Forest Research*. 2011, 16(5), p. 414-423.

■寄元 道德

Ishihara, Masae; Suzuki, Satoshi; Nakamura, Masahiro; Enoki, Tsutomu; Fujiwara, Akio; Hiura, Tsutomu; Homma, Kosuke; Hoshino, Daisuke; Hoshizaki, Kazuhiko; Ida, Hideyuki; Ishida, Ken; Itoh, Akira; Kaneko, Takayuki; Kubota, Kaname; Kuraji, Koichiro; Kuramoto, Shigeo; Makita, Akifumi; Masaki, Takashi; Namikawa, Kanji; Niiyama, Kaoru; Noguchi, Mahoko; Nomiya, Haruto; Ohkubo, Tatsuhiko; Saito, Satoshi; Sakai, Takeshi; Sakimoto, Michinori; Sakio, Hitoshi; Shibano, Hirofumi; Sugita, Hisashi; Suzuki, Mitsuo; Takashima, Atsushi; Tanaka, Nobuyuki; Tashiro, Naoaki; Tokuchi, Naoko; , Yakushima Forest Environment Conservation Center; Yoshida, Toshiya; Yoshida, Yumiko. Forest stand structure, composition, and dynamics in 34 sites over Japan. *Ecological Research*. 2011, 26(6), p. 1007-1008.

■長田 典之

Osada, Noriyuki. Crown exposure to light and tree allometry of 11 tree species in a snowy cool-temperate forest in Japan. *Plant Ecology*. 2012, 213(5), p. 783-794.

Osada, Noriyuki; Tokuchi, Naoko; Takeda, Hiroshi. Continuous and Fluctuating Leaf Phenology of Adults and Seedlings of a Shade-tolerant Emergent Tree, *Dipterocarpus sublamellatus*, in Malaysia. *Biotropica*. 2012. (オンライン公開 doi: 10.1111/j.1744-7429.2011.00843.x)

里域生態学部門

■山下 洋

多賀 真, 山下 洋. トラフグ仔稚魚の成長における低塩分の有効性とその要因. *水産増殖*. 2011, 59(2), p. 225-233.
松井 彰子, 上野 正博, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. 絶滅危惧種タビラクチの京都府舞鶴湾からの記録と生息環境. *魚類学雑誌*. 2011, 58(2), p. 209-211.

Antonio, Emily S.; Kasai, Akihiko; Ueno, Masahiro; Ishihara, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Diet Shift In the Sand Shrimp *Crangon uritai* Along the Estuary-Marine Gradient. *Journal of Crustacean Biology*. (4), p. 635.

Fuji, T.; Kasai, A.; Suzuki, K. W.; Ueno, M.; Yamashita, Y. Migration ecology of juvenile temperate seabass *Lateolabrax japonicus*: a carbon stable-isotope approach. *Journal of Fish Biology*. 2011, 78(7), p. 2010-2025.

Fujita, J.; Yamasaki, A.; Drumm, D.; Nakayama, K.; Kai, Y.; Yamashita, Y. Genetic divergence of *Argis lar* and *A. hozawai*, distinct sibling species of deep-sea crangonid shrimp from the Sea of Japan. *Plankton and Benthos Research*. 2012, 7(1), p. 29-32.

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Geographical Distributions of Mitochondrial DNA Lineages Reflect Ancient Directions of River Flow: A Case Study of the Japanese Freshwater Shrimp *Neocaridina denticulata denticulata* (Decapoda: Atyidae). *Zoological Science*. 2011, 28(10), p. 712-718.

Islam, Md; Yamashita, Yoh; Tanaka, Masaru. A review on the early life history and ecology of Japanese sea bass and implication for recruitment. *Environmental Biology of Fishes*. 2011, 91(4), p. 389-405.

Kato, Yoshiki; Ohshima, Masakane; Yamashita, Yoh; Kitagawa, Takashi; Kimura, Shingo. Effects of larval ontogeny, turbulence, and prey density on survival in red sea bream *Pagrus major* larvae. *Coastal Marine Science*. 2012, 35(1), p. 262-268.

Matsui, Shoko; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Yamashita, Yoh. Genetic divergence among three morphs of *Acentrogobius pflaumi* (Gobiidae) around Japan and their identification using multiplex haplotype-specific PCR of mitochondrial DNA. *Ichthyological Research*. 2012, 59(3), p. 216-222. (2012-02-29 オンライン出版 doi:10.1007/s10228-012-0276-0)

Ohata, R.; Masuda, R.; Yamashita, Y. Ontogeny of antipredator performance in hatchery-reared Japanese anchovy *Engraulis japonicus* larvae exposed to visual or tactile predators in relation to turbidity. *Journal of Fish Biology*. 2011, 79(7), p. 2007-2018.

Takahashi Kohji, Masuda Reiji, Yamashita Yoh. "School for learning: sharing and transmission of feeding information in jack mackerel *Trachurus japonicus* juveniles". *Fisheries Science*. 2012, 78(2), p. 269-276.

■柴田 昌三

Abe, Yuhei; Shibata, Shozo. Spatial and temporal flowering patterns of the monocarpic dwarf bamboo *Sasa veitchii* var. *hirsuta*. *Ecological Research*. 2012, 27(3), p. 625-632.

青木 達司, 柴田 昌三, 森本 幸裕. 「桂垣」と「桂垣」裏ハチク林に関する研究. ランドスケープ研究. 2011, 74(5), p. 447-450.

阿部 佑平, 柴田 昌三, 奥 敬一, 深町 加津枝. 京都市におけるササの葉の生産および流通. 日本森林学会誌. 2011, 93(6), p. 270-276.

■田川 正朋

Aritaki, Masato; Tagawa, Masatomo. Pseudoalbinism and ambicoloration in hatchery-reared pleuronectids as malformations of asymmetrical formation. Fisheries Science. 2012, 78(2), p. 327-335.

Kobayashi Yuki, Mizusawa Kanta, Chiba Hiroaki, Tagawa Masatomo, Takahashi Akiyoshi. Further evidence on acetylation-induced inhibition of the pigment-dispersing activity of α -melanocyte-stimulating hormone. General and comparative endocrinology. 2012, 176(1), p. 9-17.

Yamada, Toshiyuki; Donai, Hayato; Okauchi, Masanori; Tagawa, Masatomo; Araki, Kazuo. Induction of ambicoloration by exogenous cortisol during metamorphosis of spotted halibut *Verasper variegatus*. Comparative Biochemistry and Physiology Part B: Biochemistry and Molecular Biology. 2011, 160(4), p. 174-180.

■益田 玲爾

Masuda, R. Ontogeny of swimming speed, schooling behaviour and jellyfish avoidance by Japanese anchovy *Engraulis japonicus*. Journal of Fish Biology. 2011, 78(5), p. 1323-1335.

Ohata, R.; Masuda, R.; Yamashita, Y. Ontogeny of antipredator performance in hatchery-reared Japanese anchovy *Engraulis japonicus* larvae exposed to visual or tactile predators in relation to turbidity. Journal of Fish Biology. 2011, 79(7), p. 2007-2018.

Takahashi Kohji, Masuda Reiji, Yamashita Yoh. "School for learning: sharing and transmission of feeding information in jack mackerel *Trachurus japonicus* juveniles". Fisheries Science. 2012, 78(2), p. 269-276.

Yokota, Takashi; Machida, Masaharu; Takeuchi, Hiroyuki; Masuma, Shukei; Masuda, Reiji; Arai, Nobuaki. Anti-predatory performance in hatchery-reared red tilefish (*Branchiostegus japonicus*) and behavioral characteristics of two predators: Acoustic telemetry, video observation and predation trials. Aquaculture. 2011, 319(1-2), p. 290-297.

■梅本 信也

梅本 信也. 和歌山県串本町田原湿地の里域植物誌. 熊野誌. 2011, 58, p. 112-123.

藤井 伸二, 梅本 信也. 粉白川河口 (和歌山県那智勝浦町) の維管束相. 人間と環境. 2011, 2, p. 61-72.

■長谷川 尚史

杉本 和也, 伊東 康人, 長谷川 尚史. 兵庫県内の森林組合における職務満足度調査. 森林利用学会誌. 2011, 26(2), p. 111-115.

■中西 麻美

Inagaki, Yoshiyuki; Nakanishi, Asami; Fukata, Hidehisa. Soil properties and nitrogen utilization of hinoki cypress as affected by strong thinning under different climatic conditions in the Shikoku and Kinki districts in Japan. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 405-413.

Kuroiwa, Megumi; Koba, Keisuke; Isobe, Kazuo; Tateno, Ryunosuke; Nakanishi, Asami; Inagaki, Yoshiyuki; Toda, Hiroto; Otsuka, Shigeto; Senoo, Keishi; Suwa, Yuichi; Yoh, Muneoki; Urakawa, Rieko; Shibata, Hideaki. Gross nitrification rates in four Japanese forest soils: heterotrophic versus autotrophic and the regulation factors for the nitrification. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 363-373.

Shibata, Hideaki; Urakawa, Rieko; Toda, Hiroto; Inagaki, Yoshiyuki; Tateno, Ryunosuke; Koba, Keisuke; Nakanishi, Asami; Fukuzawa, Karibu; Yamasaki, Ayaka. Changes in nitrogen transformation in forest soil representing the climate gradient of the Japanese archipelago. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 374-385.

■上野 正博

松井 彰子, 上野 正博, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. 絶滅危惧種タビラクチの京都府舞鶴湾からの記録と生息環境. 魚類学雑誌. 2011, 58(2), p. 209-211.

Antonio, Emily S.; Kasai, Akihito; Ueno, Masahiro; Ishihi, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Diet Shift In the Sand Shrimp *Crangon uritai* Along the Estuary-Marine Gradient. Journal of Crustacean Biology. (4), p. 635.

Fuji, T.; Kasai, A.; Suzuki, K. W.; Ueno, M.; Yamashita, Y. Migration ecology of juvenile temperate seabass *Lateolabrax japonicus*: a carbon stable-isotope approach. Journal of Fish Biology. 2011, 78(7), p. 2010-2025.

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Geographical Distributions of Mitochondrial DNA Lineages Reflect Ancient Directions of River Flow: A Case Study of the Japanese Freshwater Shrimp *Neocaridina denticulata denticulata* (Decapoda: Atyidae). Zoological Science. 2011, 28(10),

p. 712-718.

■中山 耕至

- Fujita, J.; Yamasaki, A.; Drumm, D.; Nakayama, K.; Kai, Y.; Yamashita, Y. Genetic divergence of *Argis lar* and *A. hozawai*, distinct sibling species of deep-sea crangonid shrimp from the Sea of Japan. *Plankton and Benthos Research*. 2012, 7(1), p. 29-32.
- Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Geographical Distributions of Mitochondrial DNA Lineages Reflect Ancient Directions of River Flow: A Case Study of the Japanese Freshwater Shrimp *Neocaridina denticulata denticulata* (Decapoda: Atyidae). *Zoological Science*. 2011, 28(10), p. 712-718.
- Gwak, W.; Nakayama, K. Genetic variation of hatchery and wild stocks of the pearl oyster *Pinctada fucata martensii* (Dunker, 1872), assessed by mitochondrial DNA analysis. *Aquaculture International*. 2011, 19(3), p. 585-591.
- Gwak, Woo; Nakayama, Kouji. Genetic variation and population structure of the Pacific cod *Gadus macrocephalus* in Korean waters revealed by mtDNA and msDNA markers. *Fisheries Science*. 2011, 77(6), p. 945-952.
- Kai, Yoshiaki; Nakayama, Kouji; Nakabo, Tetsuji. Genetic and morphological divergence within the *Sebastes pachycephalus* complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). *Ichthyological Research*. 2011, 58(4), p. 333-343.
- Kikko, Takeshi; Kataoka, Yoshitaka; Nishimori, Katsuhiko; Fujioka, Yasuhiro; Kai, Yoshiaki; Nakayama, Kouji; Kitakado, Toshihide. Size at maturity of fluvial white-spotted charr, *Salvelinus leucomaenis*, around the Lake Biwa water system varies with habitat size. *Ichthyological Research*. 2011, 58(4), p. 370-376.
- Matsui, Shoko; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Yamashita, Yoh. Genetic divergence among three morphs of *Acentrogobius pflaumii* (Gobiidae) around Japan and their identification using multiplex haplotype-specific PCR of mitochondrial DNA. *Ichthyological Research*. 2012, 59(3), p. 216-222. (2012-02-29 オンライン出版 doi:10.1007/s10228-012-0276-0)

■甲斐 嘉晃

- 川瀬 裕司, 甲斐 嘉晃. 若狭湾から採集された魚類. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告. 2011, 12(1), p. 37-42.
- 坂井 恵一, 甲斐 嘉晃, 中坊 徹次. ミトコンドリア DNA 調節領域の塩基配列に基づく石川県のサケ個体群の遺伝的特徴. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p. 155-163.
- 松井 彰子, 上野 正博, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. 絶滅危惧種タビラクチの京都府舞鶴湾からの記録と生息環境. 魚類学雑誌. 2011, 58(2), p. 209-211.
- Kai, Yoshiaki; Nakayama, Kouji; Nakabo, Tetsuji. Genetic and morphological divergence within the *Sebastes pachycephalus* complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). *Ichthyological Research*. 2011, 58(4), p. 333-343.
- Kai, Yoshiaki; Orr, James; Sakai, Keiichi; Nakabo, Tetsuji. Genetic and morphological evidence for cryptic diversity in the *Careproctus rastrinus* species complex (Liparidae) of the North Pacific. *Ichthyological Research*. 2011, 58(2), p. 143-154.
- Kai, Yoshiaki; Sakai, Keiichi; Orr, James; Nakabo, Tetsuji. Secondary contact in the Sea of Japan: the case of the *Careproctus rastrinus* species complex (Liparidae). *Ichthyological Research*. 2011, 58(4), p. 366-369.
- Kai, Yoshiaki; Ikeguchi, Shinichiro; Nakabo, Tetsuji. A new species of the genus *Careproctus* (Liparidae) from the Sea of Japan. *Ichthyological Research*. 2011, 58(4), p. 350-354.
- Fujita, J.; Yamasaki, A.; Drumm, D.; Nakayama, K.; Kai, Y.; Yamashita, Y. Genetic divergence of *Argis lar* and *A. hozawai*, distinct sibling species of deep-sea crangonid shrimp from the Sea of Japan. *Plankton and Benthos Research*. 2012, 7(1), p. 29-32.
- Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Geographical Distributions of Mitochondrial DNA Lineages Reflect Ancient Directions of River Flow: A Case Study of the Japanese Freshwater Shrimp *Neocaridina denticulata denticulata* (Decapoda: Atyidae). *Zoological Science*. 2011, 28(10), p. 712-718.
- Kikko, Takeshi; Kataoka, Yoshitaka; Nishimori, Katsuhiko; Fujioka, Yasuhiro; Kai, Yoshiaki; Nakayama, Kouji; Kitakado, Toshihide. Size at maturity of fluvial white-spotted charr, *Salvelinus leucomaenis*, around the Lake Biwa water system varies with habitat size. *Ichthyological Research*. 2011, 58(4), p. 370-376.
- Matsui, Shoko; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Yamashita, Yoh. Genetic divergence among three morphs of *Acentrogobius pflaumii* (Gobiidae) around Japan and their identification using multiplex haplotype-specific PCR of mitochondrial DNA. *Ichthyological Research*. 2012, 59(3), p. 216-222. (2012-02-29 オンライン出版 doi:10.1007/s10228-012-0276-0)

Muto, N.; Kai, Y.; Nakabo, T. Genetic and morphological differences between *Sebastes vulpes* and *S. zonatus* (Teleostei: Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Fishery Bulletin. 2011, 109(4), p. 429-439.

■大嶋 真謙

Kato, Yoshiki; Ohshima, Masakane; Yamashita, Yoh; Kitagawa, Takashi; Kimura, Shingo. Effects of larval ontogeny, turbulence, and prey density on survival in red sea bream *Pagrus major* larvae. Coastal Marine Science. 2012, 35(1), p. 262-268.

■南 憲吏

南 憲吏, 安間 洋樹, 東条 斉興, 伊藤 祐介, 福井 信一, 野別 貴博, 宮下 和士. 音響手法を用いたコンブ場の厚さ計測. 数理水産科学誌. 2011, 9, p. 62-74.

南 憲吏, 濱野 明, 東条 斉興, 中村 武史, 安間 洋樹, 宮下 和士. 音響手法を用いた来留見ノ瀬周辺におけるガラモ場の分布推定. 日本水産学会誌. 2012, 78, p. 171-179.

Tojo, Naoki; Minami, Kenji; Matsukura, Ryuichi; Kawauchi, Yohei; Funamoto, Tetsuichiro; Chimura, Masayuki; Nishimura, Akira; Miyashita, Kazushi. Spatial Estimation of Euphausiid Biomass along the Pacific Coast of Eastern Hokkaido, Japan in Early Summer of 2008. Journal of Marine Science and Technology. 2011, 19(3), p. 294-301.

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

久保田 信. 和歌山県沿岸に漂着したサガリバナ *Barringtonia racemosa* (サガリバナ科) の果実. 南紀生物. 2011, 53(1), p. 78.

久保田 信. 和歌山県白浜町海岸へ漂着した熱帯系の海藻. 南紀生物. 2011, 53(2), p. 137.

久保田 信. 2個の口柄を有するハナガサクラゲ (刺胞動物門、ヒドロ虫綱) のたいへん稀な記録. 南紀生物. 2011, 53(2), p. 180.

久保田 信. 和歌山県田辺湾とその近隣海域におけるムラサキイガイの激減とミドリイガイの激減. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p. 75-78.

久保田 信. 和歌山県白浜町の瀬戸臨海実験所構内に大量出現した熱帯性のサツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p. 215-216.

久保田 信. 和歌山県初記録のベニクラゲ (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目) のポリプ. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p. 233-234.

久保田 信. ムラサキオカヤドカリ (甲殻類, 異尾類) の海岸での本州初の幼生の放出の確認. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p. 253-256.

久保田 信, 中坊 徹次. 稀少種ハナツノハギ *Pseudalutarius nasicornis* (カワハギ科) 成魚の和歌山県白浜町の海岸への漂着. 南紀生物. 2011, 53(1), p. 68.

久保田 信, 北田 博一, 山田 豊隆, 奥泉 和也. イカリヨツボシクラゲ (刺胞動物, ヒドロ虫類) の模式産地での 83 年ぶりの再出現と北日本からの新産地および GFP 分布パターン. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p. 57-60.

久保田 信, 北田 博一, 菅野 和彦, 斎藤 伸輔. 福島県の特大だが少数の触手を有するベニクラゲ (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目). 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p. 249-252.

久保田 信, 武藤 望生, 東海林 明, 中坊 徹次. アラハダカ *Myctophum asperum* (ハダカイワシ科) の和歌山県白浜町京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”への漂着. 南紀生物. 2011, 53(2), p. 123.

久保田 信, 田名瀬 英朋, 武藤 望生, 東海林 明, 木村 一品, 中坊 徹次. 和歌山県田辺湾における 2011 年冬季の異例の数の凍死魚の漂着. 漂着物学会誌. 2011, 9, p. 13-16.

Kubota, S. Repeating rejuvenation in *Turritopsis*, an immortal hydrozoan (Cnidaria, Hydrozoa). Biogeography. 2011, 13, p. 101-103.

Kubota, S.; Gravili, C. Rare distribution of green fluorescent protein (GFP) in hydroids from Porto Cesareo, Lecce, Italy, with reference to biological meaning of this rarity. Biogeography. 2011, 13, p. 9-11.

Kubota, S.; Imahara, Y. Northernmost geographical distribution of *Veilella veilella* (Hydrozoa: Porpitidae) in the middle of the North Pacific. Biogeography. 2011, 13, p. 87-88.

秋山 仁, 山崎 悠介, 辻田 明子, 堀之内 詩織, 久保田 信. わが国で初めて確認された *Octophialucium* sp. (ヒドロ虫綱, 軟クラゲ目) の生活環. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p. 135-139.

伊勢田 真嗣, 久保田 信. 和歌山県田辺湾の養殖ヒオウギガイ (イタヤガイ科) の稀な色彩変異個体. 日本生物地理学会会報. 2011, 66p. 211-213.

小谷野 有加, 足立 文, 島津 恒雄, 笠川 宏子, 崎山 直夫, 久保田 信. 相模湾江の島沖で得られたヒメオコゼ *Minous monodactylus* の体表上に生息するコツブクラゲ属の一種 *Podocoryna* sp. の飼育下での生活史. 南紀生物.

2011, 53(1), p. 40914.

原 竜也, 鳥越 兼治, 久保田 信. 多数のムラサキイガイが生きたケフサイソガニの体の諸所に付着. 南紀生物. 2011, 53(1), p. 85-86.

平澤 康太, 久保田 信. 和歌山県田辺湾におけるタガヤサンミナシ (イモガイ科) の異例の数の漂着. 漂着物学会誌. 2011, 9, p. 17-21.

Horita, T.; Akiyama, H.; Kubota, S. *Bathocyroe longigula* spec. nov., an undescribed ctenophore (Lobata: Bathocyroidae) from the epipelagic fauna of Japanese coastal waters. Zoologische Mededelingen. 2011, 85(1), p. 877-886.

■宮崎 勝己

Miyazaki, Katsumi. On the species validity of *Nymphonella lecalvezi* (Pycnogonida, Ascorhynchidae): A re-evaluation of some morphological characteristics. Proceedings of Arthropodan Embryological Society of Japan. 2011, 46, p. 35-37.

Fujimoto, Shinta; Miyazaki, Katsumi. Preliminary notes on the freshwater tardigrades from the Kamo River, Kyoto. Proceedings of Arthropodan Embryological Society of Japan. 2011, 46, p. 39-40.

■中野 智之■

中野 智之. 熊本県天草市牛深町におけるホシダカラ (腹足綱: タカラガイ科) の生貝の発見. Molluscan Diversity. (3), p. 1-4.

Nakano, Tomoyuki; Sasaki, Takenori. Recent advances in molecular phylogeny, systematics and evolution of patellogastropod limpets. Journal of Molluscan Studies. 77, p. 203-217.

GONZÁLEZ-WEVAR, C. A.; Nakano, Tomoyuki; CAÑETE, J. I.; POULIN, E. Concerted genetic, morphological and ecological diversification in *Nacella limpets* in the Magellanic Province. Molecular Ecology. 2011, 20(9), p. 1936-1951.

Williams, Suzanne; Apte, Deepak; Ozawa, Tomowo; Kaligis, Fontje; Nakano, Tomoyuki. Speciation and dispersal along continental coastlines and island arcs in the Indo-West Pacific turbinid gastropod genus *Lunella*. Evolution. 2011, 65(6), p. 1752-1771.

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

向井 宏. 干潟・藻場の再生事業—その問題点 (海洋環境研究の新たな展開—生態系管理の視点). 地球環境. 2011, 16(1), p. 53-60.

■佐藤 真行

佐藤 真行. 持続可能な発展の経済分析 (特集 政策大競争時代の環境経済研究). 環境研究. 2011, 161, p. 111-115.

Nakamoto, Yasuhiro; Sato, Masayuki. Loss aversion, social comparison and competitive behavior at young age. MPRA Paper. (31221).

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

Fukushima, Keitaro; Tateno, Ryunosuke; Tokuchi, Naoko. Soil nitrogen dynamics during stand development after clear-cutting of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) plantations. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 394-404.

徳地 直子, 大手 信人, 臼井 伸章, 福島 慶太郎. 窒素負荷に伴う森林生態系の窒素循環過程の検討. 日本生態学会誌. 2011-11-30, 61(3), p. 275-290.

徳地 直子, 金子 有子, 福島 慶太郎. 森林施業に伴う河川水質への影響の緩和に関する検討. 水利科学. 2011, 55(4), p. 23-36.

■石原 正恵

Ishihara, Masae; Suzuki, Satoshi; Nakamura, Masahiro; Enoki, Tsutomu; Fujiwara, Akio; Hiura, Tsutomu; Homma, Kosuke; Hoshino, Daisuke; Hoshizaki, Kazuhiko; Ida, Hideyuki; Ishida, Ken; Itoh, Akira; Kaneko, Takayuki; Kubota, Kaname; Kuraji, Koichiro; Kuramoto, Shigeo; Makita, Akifumi; Masaki, Takashi; Namikawa, Kanji; Niiyama, Kaoru; Noguchi, Mahoko; Nomiya, Haruto; Ohkubo, Tatsuhiko; Saito, Satoshi; Sakai, Takeshi; Sakimoto, Michinori; Sakio, Hitoshi; Shibano, Hirofumi; Sugita, Hisashi; Suzuki, Mitsuo; Takashima, Atsushi; Tanaka, Nobuyuki; Tashiro, Naoaki; Tokuchi, Naoko; , Yakushima Forest Environment Conservation Center; Yoshida, Toshiya; Yoshida, Yumiko. Forest stand structure, composition, and dynamics in 34 sites over Japan. Ecological Research. 2011, 26(6), p. 1007-1008.

■松山 周平

Harata Tsuyoshi, Nanami Satoshi, Yamakura Takuo, Matsuyama Shuhei, Chong Lucy, Diway Bibian M., Tan Sylvester, Itoh Akira. Fine-scale Spatial Genetic Structure of Ten Dipterocarp Tree Species in a Bornean Rain Forest. Biotropica. 2011. (2011 オンライン出版 doi:10.1111/j.1744-7429.2011.00836.x)

次世代研究者育成センター

■佐藤 拓哉

Sato, Takuya; Watanabe, Katsutoshi; Tokuchi, Naoko; Kamauchi, Hiromitsu; Harada, Yasushi; Lafferty, Kevin D. A nematomorph parasite explains variation in terrestrial subsidies to trout streams in Japan. Oikos. 2011, 120(10), p.1595-1599.

5. 2 原著論文・総説（査読なし）

2008 年度

森林生物圏部門

■芝 正己

Shiba, M. : Confronting Sustainable Forestry in an Era of Uncertainty and Change? , Invited Paper for DAAD Summer School Program in TUM, 1-11, 2008.

里域生態系部門

■山下 洋

江口 さやか・稲葉 法子・白石 有希・上野 正博・益田 玲爾・山下 洋・山本 義和 : 京都府舞鶴湾内の重金属汚染実態調査ー鉛汚染の現状把握を中心にー, 神戸女学院大学論集, 55(2), 118-131, 2008.

■柴田 昌三

柴田 昌三 : 竹林を通してみる里山再生に関する試み, ELR(応用生態工学会・日本緑化工学会・日本景観生態学会)2008 公開シンポジウム「自然再生の課題と展望」講演要旨集, 4-8, 2008.

Shibata, S., Ikeda, K., Lulmuanpuia, C., Suyama, Y., Saito, T., Hasegawa, H., Nishiwaki, A. and Makita, A. : Mautam - *Melocanna baccifera* flowering - Ecological characteristics and influence to the juhm agriculture, Proceedings of International Conference, Improvement of Bamboo Productivity and Marketing for Sustainable Livelihood, 155-161, 2008.

■梅本 信也

久保田 信・梅本 信也 : 瀬戸臨海実験所構内におけるカタバミ (カタバミ科) 花柱 3 型の季節消長, 瀬戸臨海実験所年報, 21, 37-38, 2008.

■長谷川 尚史

Shibata, S., Ikeda, K., Lulmuanpuia, C., Suyama, Y., Saito, T., Hasegawa, H., Nishiwaki, A. and Makita, A. : Mautam - *Melocanna baccifera* flowering - Ecological characteristics and influence to the juhm agriculture, Proceedings of International Conference, Improvement of Bamboo Productivity and Marketing for Sustainable Livelihood, 155-161, 2008.

■上野 正博

井口 亮・伊藤 寛治・高井 晋平・上野 正博・前田 経雄・南 卓志・豊原 治彦・林 勇夫 : 日本周辺に生息する深海性エゾバイ・エゾボラ属の遺伝的な種内分化と種間関係に関する研究 (日本海を中心に), 海洋と生物, 178, 2008.

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

久保田信・内田絃臣: 紀伊半島沿岸産サンゴモドキ類 (細胞動物門、ヒドロ虫綱) 目録, 瀬戸臨海実験所年報, 21, 39, 2008.

久保田信: 和歌山県田辺湾で 1997 年の 4 月から 9 月までに採取された日本初記録種を含むヒドロクラゲ類 (細胞動物門、ヒドロ虫綱), 瀬戸臨海実験所年報, 21, 40-48, 2008.

久保田信・梅本信也: 瀬戸臨海実験所構内におけるカタバミ (カタバミ科) 花柱 3 型の季節消長, 瀬戸臨海実験所年報, 21, 37-38, 2008.

海域陸域統合管理学研究部門

■佐藤 真行

Sato, M., Samreth, S., and Yamada, K. : A simple numerical study on sustainable development with Genuine Saving, ISER Discussion Papers, Osaka University, 728, 1-10, 2008.

Sato, M. and Samreth, S. : Assessing Sustainable Development by Genuine Saving Indicator from Multidimensional Perspectives, MPRA papers, Munich University, 9996, 1-14, 2008.

Sato, M. : Ability to Choose in Environmental Valuation Methods, KSI Communications, Kyoto University, 8, 1-18, 2008.

管理技術部

■太田 満

山本 泰司・加藤 哲哉・太田 満・荒賀 忠一:和歌山県沿岸で捕獲されたホクロヤッコとハナフエキフ, 瀬戸臨海実験所年報, 21, 35-36, 2008.

■加藤 哲哉

山本 泰司・加藤 哲哉・太田 満・荒賀 忠一:和歌山県沿岸で捕獲されたホクロヤッコとハナフエキフ, 瀬戸臨海実験所年報, 21, 35-36, 2008.

■山本 泰司

山本 泰司・加藤 哲哉・太田 満・荒賀 忠一:和歌山県沿岸で捕獲されたホクロヤッコとハナフエキフ, 瀬戸臨海実験所年報, 21, 35-36, 2008.

2009 年度

里域生態系部門

■山下 洋

江口 さやか, 薄元 志帆, 山本沙織, 吉村 碧, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾の鉛を中心とした重金属汚染実態調査(2)二枚貝を用いた現地調査と移植試験. 神戸女学院大学論集. 2009, 56(1), p. 153-164.

江口 さやか, 薄元 志帆, 山本沙織, 吉村 碧, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾の鉛を中心とした重金属汚染実態調査(3)底泥調査と陸上土壌調査. 神戸女学院大学論集. 2009-06, 56(1), p. 165-178.

■柴田 昌三

今西 亜友美, 森本 淳子, 柴田 昌三, 大澤 直哉, 中西 麻美. 里山構成樹 6 種の伐採 4 年後における萌芽枝の消長. 日本緑化工学会誌. 2009, 35(1), p. 158-161.

田中 栄爾, 田中 千尋, 柴田 昌三. 日本国内におけるタケ・ササ類のてんぐ巣症状. 日本菌学会会報. 2009, 50(1), p. 56-60.

Imanishi, Ayumi; Morimoto, Junko; Imanishi, Junichi; Shibata, Shozo; Nakanishi, Asami; Osawa, Naoya; Sakai, Shinjiro. Sprout initiation and growth for three years after cutting in an abandoned secondary forest in Kyoto, Japan. Landscape and Ecological Engineering. 2009 (オンライン公開 doi: 10.1007/s11355-009-0090-7) .

■益田 玲爾

江口 さやか, 薄元 志帆, 山本 沙織, 芳村 碧, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾内の重金属汚染実態調査 2 ～二枚貝を用いた現地調査と移植試験～. 神戸女学院大学論集. 2009, 56(1), p. 96-107.

江口 さやか, 薄元 志帆, 山本 沙織, 芳村 碧, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾内の重金属汚染実態調査 3 ～底泥調査と陸上土壌調査～. 神戸女学院大学論集. 2009, 56(1), p. 108-121.

■長谷川 尚史

Yoshimura, Tetsuhiro; Nose, Mitsuhiro; Hasegawa, Hisashi; Sakai, Tetsuro. Relationships between GPS positional errors and stand conditions. Proceedings, Environmentally Sound Forest Operations 32nd Annual Meeting of the Council on Forest Engineering. 2009, CD-ROM

■上野 正博

江口 さやか, 薄元 志帆, 山本 沙織, 芳村 碧, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾内の重金属汚染実態調査 2 ～二枚貝を用いた現地調査と移植試験～. 神戸女学院大学論集. 2009, 56(1), p. 96-107.

江口 さやか, 薄元 志帆, 山本 沙織, 芳村 碧, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾内の重金属汚染実態調査 3 ～底泥調査と陸上土壌調査～. 神戸女学院大学論集. 2009, 56(1), p. 108-121.

■中西 麻美

今西 亜友美, 森本 淳子, 柴田 昌三, 大澤 直哉, 中西 麻美. 里山構成樹 6 種の伐採 4 年後における萌芽枝の消長. 日本緑化工学会誌. 2009, 35(1), p. 158-161.

Imanishi, Ayumi; Morimoto, Junko; Imanishi, Junichi; Shibata, Shozo; Nakanishi, Asami; Osawa, Naoya; Sakai, Shinjiro. Sprout initiation and growth for three years after cutting in an abandoned secondary forest in Kyoto, Japan. Landscape and Ecological Engineering. 2009 (オンライン公開 doi: 10.1007/s11355-009-0090-7) .

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

久保田 信. 二枚貝共生性カイヤドリヒドラ類(ヒドロ虫綱, 軟クラゲ目)に関する最近の生物学的研究. 月刊海洋. 2009, 41(5), p. 236-242.

久保田 信. アケビコノハ(ヤガ科)複数個体の翅が 2008 年 11-12 月に和歌山県田辺湾の浜辺へ漂着. KINOKUNI. 2009, (75), p. 5.

久保田 信. ワモンゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科)が 2009 年 1 月に和歌山県白浜町の“北浜”へ漂着. KINOKUNI. 2009, (75), p. 6.

- 久保田 信. 二枚貝の外套腔をすみかとする不思議なカイヤドリヒドラ類の最近の話題. 阪神貝類談話会機関紙 かいなかま. 2009, 43(1), p.1-8.
- 久保田 信. 和歌山県白浜町で発見された大型のジンガサウニ (ナガウニ科). くろしお. 2009, (28), p.1-2.
- 久保田 信. 和歌山県白浜町の海岸道路で事故死したアライグマ *Procion lotor*. くろしお. 2009, (28), p.33.
- 久保田 信, 樫山 嘉郎. 南方系ヒトデ類 2 種の和歌山県白浜町の海岸への漂着. 漂着物学会会報(どんぶらこ). 2009, (31), p.3.
- 久保田 信. 瀬戸臨海実験所構内に出現した熱帯性ゴキブリ類の第 3 番目の種サツマゴキブリ (ゴキブリ目、ゴキブリ上科). 瀬戸臨海実験所年報. 2009, 22, p.36.
- 久保田 信. 不老不死のベニクラゲの神秘と人類の夢. Milsil. 2009, 3(2), p.15-17/表紙.
- 久保田 信, 榎谷 英樹. 兵庫県家島諸島で発見されたミドリイガイ. 阪神貝類談話会機関紙 かいなかま. 2009, 43(2), p.24-25.
- 久保田 信, 田中 昭太郎. 京都大学瀬戸臨海実験所構内に 2009 年に出現したクロマダラソテツシジミ (シジミチョウ科). 瀬戸臨海実験所年報. 2009, 22, p.34-35.
- 久保田 信. 海岸の波打ち際まで続くアミメアリの特異な隊列. KINOKUNI. 2009, (76), p.12-14.
- 久保田 信. 和歌山県西牟婁郡白浜町の鴨居漁港で海面を滑走した淡水アメンボ. KINOKUNI. 2009, (76), p.22.
- Kubota S. Various distribution patterns of green fluorescence in small hydromedusae. Kuroshio Biosphere. 2010, 6, p.11-14.
- 小林 亜玲, 五箇 公一, 久保田 信. 我が国の日本海沿岸へ分布拡大したコノハクラゲ (ヒドロ虫綱, 軟クラゲ目) の起源. 月刊海洋. 2009, 41(5), p.243-248.
- 河村 真理子, 久保田 信. 出芽性ヒドロクラゲの生態. 月刊海洋. 2009, 41(5), p.249-254.
- 河村 真理子, 上野 俊士郎, 久保田 信. 2001 年, 2002 年および 2004 年に和歌山県田辺湾で採集された有クラゲ類および有櫛動物. 瀬戸臨海実験所年報. 2009, 22, p.37-43.
- 川野 進, 久保田 信, 梅本 信也. 1 花柄に 8 個の果実を結実したアケビ. くろしお. 2009, (28), p.32.
- 北井 勝博, 樫山 嘉郎, 久保田 信, 梅本 信也. ロウバイ *Chimonanthus praecox* (ロウバイ科) の 2 裂性奇形葉について. くろしお. 2009, (28), p.11-12.
- 新稲 一仁, 久保田 信. 和歌山県白浜町の潮間帯に現れたオニヒトデ. Kuroshio Biosphere. 2010, 6, p.31-35.
- 山田 豊隆, 武田 曜男, 久保田 信. 兵庫県神戸市須磨海岸におけるクラゲ類の出現推移 (2003-2009 年). Kuroshio Biosphere. 2010, 6, p.27-30.

海域陸域統合管理学研究部門

■佐藤 真行

- Sato, Masayuki; Samreth, S.; Yamaguchi, R. Sustainability Dependency under International Relationships: Evidence from Genuine Savings Indicator of Japan. KSI Communications. 2010, 006, p.1-14.
- Yamaguchi, R.; Sato, Masayuki; Ueta, K. Genuine Saving with Adjustment Costs. MPRA papers. 2009, 1637, p.1-13.
- Yamada, K.; Sato, Masayuki; Nakamoto, Y. Measurement of Social Preference from Utility-based Choice Experiments. ISER Discussion Papers. 2009, 759, p.1-45.
- Tokimatsu, K.; Yamaguchi, R.; Sato, Masayuki; Nishio, M.; Ueta, K. Measuring future dynamics of Genuine Saving and comprehensive Wealth: an application of an integrated assessment model. KSI Communications. 2010, 007, p.1-20.
- Yamaguchi, R.; Sato, Masayuki. Genuine Savings of Open Economies with Renewable Resources. KSI Communications. 2010, 002, p.1-4.
- Nakagawa, S.; Sato, Masayuki; Yamaguchi, R. Growth and Voluntary Abatement of Transboundary Pollution in an Overlapping Generations Model. KSI Communications. 2010, 003, p.1-1.

企画研究推進部門

■今西 亜友美

- 今西 亜友美, 森本 淳子, 柴田 昌三, 中西 麻美, 大澤 直哉. 里山構成樹 6 種の伐採 4 年後における萌芽枝の消長 (第 40 回[日本緑化工学会]大会特集). 日本緑化工学会誌. 2009, 35(1), p.158-161.
- Imanishi, Ayumi; Morimoto, Junko; Imanishi, Junichi; Shibata, Shozo; Nakanishi, Asami; Osawa, Naoya; Sakai, Shinjiro. Sprout initiation and growth for three years after cutting in an abandoned secondary forest in Kyoto, Japan. Landscape and Ecological Engineering. 2009 (オンライン公開 doi: 10.1007/s11355-009-0090-7).
- 今西 純一, 中右 麻衣子, 今西 亜友美, 今西 二郎, 渡邊 映理, 木村 真理, 森本 幸裕. 森林療法、園芸療法、ヨーガを組み合わせた健康増進プログラムの高齢者への効果. 日本緑化工学会誌. 2009, 35(2), p.363-369.

2010 年度

里域生態系部門

■山下 洋

- 山下 洋, 藤浪 祐一郎. II-3. 河口域. 日本水産学会誌. 2010, 76(6), p.1093.

江口 さやか, 森口 真衣, 上原 優紀, 山中 舞子, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾の鉛を中心とした重金属汚染実態調査(4)2009 年度調査結果と総括. 神戸女学院大学論集. 2010, 57(2), p. 1-10.

■益田 玲爾

江口 さやか, 森口 真衣, 上原 優紀, 山中 舞子, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾の鉛を中心とした重金属汚染実態調査(4)2009 年度調査結果と総括. 神戸女学院大学論集. 2010, 57(2), p. 1-10.

■上野 正博

江口 さやか, 森口 真衣, 上原 優紀, 山中 舞子, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾の鉛を中心とした重金属汚染実態調査(4)2009 年度調査結果と総括. 神戸女学院大学論集. 2010, 57(2), p. 1-10.

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

久保田 信. 和歌山県田辺市で 16 回連続して鳴いたクマゼミ (カメムシ目 = 半翅目, セミ科). KINOKUNI. 2010, (78), p. 12-13.

久保田 信. 和歌山県白浜町でトビ(タカ目, タカ科)が生きたクマゼミ (カメムシ目 = 半翅目, セミ科)を捕獲. KINOKUNI. 2010, (78), p. 13-14.

久保田 信. ルリタテハ (鱗翅目, タテハチョウ科) が静止時に翅を開閉する回数. KINOKUNI. 2010, (78), p. 12-14.

久保田 信. サツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科) の白浜町と田辺市への再出現. KINOKUNI. 2010, (78), p. 14-15.

久保田 信. 日本の歌の歌詞に登用された陸生爬虫類の歌. くろしお. 2010, (2), p. 19.

久保田 信, 田名瀬 英朋, 岸田 拓士. 和歌山県白浜町沿岸に出現したヒロオウミヘビ *Laticauda laticaudata* (Linnaeus) (コブラ科; ウミヘビ亜科). くろしお. 2010, (2), p. 12-13.

久保田 信. ベニクラゲ (刺胞動物門, ヒドロ虫綱) の不老不死の生活史. 海洋化学研究. 2010, 23(1), p. 20-28.

中務 裕子, 土井 敏男, 久保田 信. ウリクラゲ *Beroë cucumis* FABRICIUS (有櫛動物門、無触手綱、ウリクラゲ目) の幼若個体の形態と行動. Kuroshio Biosphere. 2011, 7, p. 37-40.

檜山 嘉郎, 久保田 信. 和歌山県白浜町の海岸へ漂着した 2 個体目のサツマゴキブリ. KINOKUNI. 2010, (77), p. 22.
Kubota, Shin. New distribution patterns of green fluorescense in small hydromedusae. Kuroshio Biosphere. 2011, 7, p. 41-43.

Kubota, Shin. Green fluorescense in young individual(s) of cubomedusa, scyphomedusa and ctenophora. Kuroshio Biosphere. 2011, 7, p. 45-46.

2011 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

福崎 康司, 内藤 佳奈子, 吉岡 崇仁, 澤山 茂樹, 今井 一郎. 腐植物質が有害ラフィド藻 *Chattonella antiqua* の増殖に与える影響. 2011, 61(1), p. 23-28.

■館野 隆之輔

Shibata, Hideaki; Toda, Hiroto; Inagaki, Yoshiyuki; Tateno, Ryunosuke; Koba, Keisuke; Tange, Takeshi. Soil nitrogen dynamics of forest ecosystems under environmental changes. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 331-332.

里域生態系部門

■甲斐 嘉晃

坂井 恵一, 甲斐 嘉晃. 石川県のサケの遺伝的特徴を調べる. 能登の海中林 (のと海洋ふれあいセンターだより). 2012, 36, p. 2.

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

久保田 信. 和歌山県田辺湾に繫留された小型船舶に付着したミドリイガイ. くろしお. 2011, 30, p. 9.

久保田 信. 和歌山県白浜町産の特大のマガキガイ (軟体動物). くろしお. 2011, 30, p. 12.

久保田 信. 再び双子にトマト果実. くろしお. 2011, 30, p. 23.

久保田 信. 和歌山県白浜町番所山のニホンテン. くろしお. 2011, 30, p. 9.

久保田 信. ボラが 5 回連続ジャンプ. くろしお. 2011, 30, p. 26.

久保田 信. 和歌山県田辺湾に打ち上げられた寸詰まりのマガキガイの貝殻 (腹足類). くろしお. 2011, 30, p. 31.

久保田 信. 京都御所と京都府立植物園にいた矮小と小型のモンシロチョウ (シロチョウ科). くろしお. 2011, 30, p. 33.

久保田 信. 和歌山県白浜町瀬戸漁港へ出現したシマガツオ. くろしお. 2011, 30, p. 34.

久保田 信. 和歌山県白浜町の白良浜に出現したサツマゴキブリ. KINOKUNI. 2011, (7), p. 14.

- 久保田 信. モンキアゲハ (チョウ目・アゲハチョウ科) の塩分補給. KINOKUNI. 2011, (7), p. 15.
- 久保田 信. 和歌山県西牟婁郡白浜町の瀬戸漁港において流れ藻で一時休息したアメンボとイトトンボの一種. KINOKUNI. 2011, (7), p. 16.
- 久保田 信. セセリチョウの一種の塩分補給. KINOKUNI. 2011, (8), p. 15.
- 久保田 信. 和歌山県白浜町で 2011 年に初鳴きのクマゼミとニイニイゼミ. KINOKUNI. 2011, (8), p. 29.
- 久保田 信. 和歌山県田辺市で蟬しぐれの中で 15 回連続して鳴いたクマゼミ. KINOKUNI. 2011, (8), p. 30.
- 久保田 信. 和歌山県白浜町の臨海地区で初めて鳴いたミンミンゼミ. KINOKUNI. 2011, (8), p. 31.
- 久保田 信. 日の入り直前に鳴いた複数のクマゼミ. KINOKUNI. 2011, (8), p. 32.
- 久保田 信. セミしぐれの中で多数回連続して鳴いたクマゼミ. KINOKUNI. 2011, (8), p. 33.
- 久保田 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内でのクマゼミの 2011 年の遅鳴き. KINOKUNI. 2011, (8), p. 34-35.
- Kubota, S. New distribution patterns of green fluorescene in small hydromedusae. Kuroshio Biosphere. 2011, 6, p. 11-14.
- Kubota, S. Green fluorescene in young individual(s) of cubomedusa, scyphomedusa and ctenophora. Kuroshio Biosphere. 2011, 6, p. 11-14.
- 川野 進, 久保田 信. 和歌山県新宮市で釣られた越年アユ. くろしお. 2011, 30, p. 32.
- 中務 裕子, 土井 敏男, 久保田 信. ウリクラゲ *Beroë cucumis* FABRICIUS (有櫛動物門、無触手綱、ウリクラゲ目) の幼若個体の形態と行動. Kuroshio Biosphere. 2011, 6, p. 31-35.

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

向井 宏. 自然生態系と災害 ～干潟・海岸林は被害を軽減したか～. 学術の動向. 2011, 16(1), p. 76-78.

■佐藤 真行

Yamada, Katsunori; Sato, Masayuki. Another Avenue for Anatomy of Income Comparisons: Evidence from Hypothetical Choice Experiments. ISER Discussion Paper. (0795), Osaka University. 2011.

5. 3 報告書・一般誌等

2008 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

吉岡 崇仁 : 京都大学フィールド科学教育研究センター・生態学研究センター編, シカをまもること 植生を守ること, 第 5 回時計台対話集会講演録「森里海のつながりを生物多様性から考える」, 34-39, 2009.

■安藤 信

安藤 信 : 平成 20 年度 八丁平植生調査報告 (森林植生), 1-69, 2009.

■芝 正己

芝 正己 : 芦生からの便り 第 6 回 宿舍今昔, 教職員情報, 京大生協, 72, 8, 2008.

芝 正己 : 芦生からの便り 第 7 回 美山, 教職員情報, 京大生協, 73, 8, 2008.

芝 正己 : 芦生からの便り 第 8 回 自然観察会, 教職員情報, 京大生協, 74, 8, 2008.

芝 正己 : 芦生からの便り 第 9 回 インフラ整備, 教職員情報, 京大生協, 75, 8, 2008.

芝 正己 : 芦生からの便り 第 10 回 ある女の子の話, 教職員情報, 京大生協, 76, 8, 2008.

芝 正己 : 芦生からの便り 最終回 体にしみこむ記憶, 教職員情報, 京大生協, 77, 8, 2008.

芝 正己 : 森林生産再生支援ツールとしての森林認証・実行コードクロスモデルの構築, 平成 18～19 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C) (2)) 18580145 成果報告書, 1-111, 2008.

■中島 皇

中島 皇・福島 慶太郎 : 上賀茂試験地夏の自然観察会 (大学院生が実物を使ってフィールドで教える) 大学院生の感想と参加者によるアンケートの解析から, 研究林・試験地情報 2007 (平成 19) 年度, 27-35, 2008.

中島 皇 : 2007 年徳山試験地の動向, 研究林・試験地情報 2007 (平成 19) 年度, 36-40, 2008.

中島 皇・吉岡 崇仁 : 第 4 回時計台対話集会「むしに教わる森里海連環学」, 京都大学フィールド科学教育研究センターニューズレター, 14, 2, 2008.

■鎌内 宏光

鎌内 宏光 : シンポジウム「外房地域における森里海連環学の今後の展開」の報告, 陸水学雑誌, 69, 155-157, 2008.

鎌内 宏光・小川 安紀子 : ワークショップ「生態学関連データベースにおける最近の動向と今後の展望」の報告, 日本生態学会誌, 58(2), 131-136, 2008.

岸本 直之・藤井 智康・関野 樹・伴 修平・中野 伸一・飯泉 佳子・吉田 恭司・千賀 有希子・鎌内 宏光・丹野 忠

弘・奈良 郁子・渡邊 隆広：陸水学会の 2007 年問題：陸水学会の現状と今後を考える，陸水学雑誌，69，63-72，2008.

里域生態系部門

■山下 洋

山下 洋：学生を連れてフィールドに出る，Kanrin（日本船舶海洋工学会誌），21，15，2008.

山下 洋：アメリカ合衆国の遊漁と放流，平成 20 年度栽培漁業技術中央研修会テキスト集，社団法人 全国豊かな海づくり推進協会，1-6，2008.

Antonio, E. S., Ueno, M., Kasai, A., Kurikawa, Y., Ishihi, Y., Yokoyama, H., and Yamashita, Y.: Isotopic evidence of seasonal variation in feeding niche of riverine gastropods, International Workshop Sato-Umi, New Concept that Increase Biological Productivity and Biodiversity. Abstract, 99-104, 2008.

■柴田 昌三

柴田 昌三：日特振 荒廃竹林及び竹林整備状況調査報告から 提言 日本の竹林の現状と問題点を解決するためには何が必要なのか，特産情報，30(4)，16-20，2008.

柴田 昌三：日特振 荒廃竹林及び竹林整備状況調査報告から (2) 提言 日本の竹林の現状と問題点を解決するためには何が必要なのか，特産情報，30(5)，16-19，2008.

柴田 昌三：竹林を通してみる生物多様性，京都大学環境報告書 2008 ダイジェスト版，2008.

柴田 昌三：珍しい果実のなる熱帯の竹一四十八年ごとに花が咲き、枯れるタケ・・・メロカンナ (*Melocanna baccifera*) 一，竹，105，21，2008.

Muranaga, Y. and Shibata, S.: Vegetation landscape of mountain agro-ecosystem in Hong Ha, central Vietnam, Proceedings of the 4th International Conference on Landscape and Ecological Engineering, 152, 2008.

■梅本 信也

梅本 信也他：古座川合同調査報告集 第 2 巻，ユニバース印刷，長岡京市，2，146p.，2008.

梅本 信也他：森里海連環学実習 B (紀伊半島編) フィールドガイド 2008 年版，ユニバース印刷，長岡京市，75p.，2008.

梅本 信也：現地報告③古座川流域圏，第 4 回時計台対話集会「むしに教わる森里海連環学」，京大フィールド研，京都市，76-81，2008.

■長谷川 尚史

長谷川 尚史・有賀 一広・板谷 明美・岩岡 正博・櫻井 倫・佐々木 達也・鈴木 秀典・鈴木 保志・仁多見 俊夫・野瀬光弘・山口 浩和：IUFRO All-D3 Conference 2008「天然資源利用に向けて環境的に健全な技術を探る」報告（研究集会編），森林利用学会誌，2008.

Hasegawa, H., Sugimoto, K., and Niinaga, S.: Development of forest harvesting models using system dynamics with consideration of tree size, Pathways to Environmentally Sound Technologies for Natural Resource Use, 2008.

Yoshimura, T., Hasegawa, H. and Sakai, T.: Accuracy variation of GPS measurements by using an extendable GPS antenna pole under forest canopy, Proceedings of the 31st Annual Meeting of the Council on Forest Engineering: Addressing Forest Engineering Challenges For the Future, 247, 2008.

Yoshimura, T., Hasegawa, H. and Sakai, T.: Accuracy variation of dual-frequency GPS surveying under forest canopy by using an extendable GPS antenna pole, Proceedings of the 29th Asian Conference on Remote Sensing, 2008.

■中西 麻美

中西 麻美：広葉樹および針葉樹林生態系の資源獲得量に対する資源利用効率と一次生産の変動予測，平成 17-19 年度科学研究補助金 基盤研究 (C) (課題番号：17580127) 研究成果報告書，1-78，2008.

■上野 正博

上野 正博：由良川フォーラムと WakWak プロジェクト，JRRN Newsletter, 16, 2008.

上野 正博：京都大学フィールド科学教育研究センター・生態学研究センター編，農林水産業も生物多様性にとってマインナス面を持つ，第 5 回時計台対話集会講演録「森里海のつながりを生物多様性から考える」，40-45，2009.

基礎海洋生物学部門

■白山 義久

白山 義久：(プロジェクト最前線) 海洋生物のセンサスー京都大学フィールド科学教育研究センター，シーダー(地球環境情報から考える地球の未来)，0，59-60，2009

白山 義久：地球上に生物は何種類いるのだろうか，ミルシル，2009 年 2 月号，22-25，2009

■久保田 信

久保田 信：あなたにとっての幸せって？，TOKYO GRAFFITI, 52, 37, 2009.

久保田 信・堀田拓史：稀少なクシクラゲの 1 種 *Lobatolampea tetragona* の小型成体および未成熟個体，Kuroshio Biosphere, 5, 17-21, 2009.

久保田 信：和歌山県田辺湾から採集された最小の触手数を有する日本産ベニクラゲ（ヒドロ虫綱，花クラゲ目）のクラゲの形態とその成長，南紀生物，50(1)，161-162，2008.

久保田 信：海面を滑走するアメンボの追加記録，KINOKUNI, (73)，8-9，2008.

久保田 信：サツマゴキブリ（マダラゴキブリ科）を田辺市新庄総合公園の山道で発見，KINOKUNI, (73)，10，2008.

久保田 信：和歌山県白浜町沿岸における生きたホンダカラガイ（腹足綱，タカラガイ科）の 5 例目個体，くろしお，

27, 11-12, 2008.

久保田 信:京都大学瀬戸臨海実験所構内で穂の中軸が二股に分かれた2例目のエノコログサ(イネ科),くろしお, 27, 14, 2008.

久保田 信:日本の唄の歌詞に登用された鳥類一般の唄,くろしお, 27, 17-19, 2008.

久保田 信:2008年10月に連続出現したヤママユ(ヤママユガ科)の雌雄の成虫, KINOKUNI, (74), 23-24, 2008

久保田信:白浜町のすばらしい多様な自然 ~特に海洋生物~, 環境保全協議会ニュース(白浜町環境保全協議会), 2009

檜山嘉郎・久保田信・田名瀬英朋:和歌山県白浜町で初めて発見された若いグンバイヒルガオ(ヒルガオ科), Kuroshio Bioshere, 5, 23-25, 2009.

檜山嘉郎・牟田 理・久保田 信:クラゲの図案が登用された紙幣,くろしお, 27, 16, 2008.

新稲一仁・久保田 信:和歌山県白浜町の海岸に漂着したサケガシラ(フリソデウオ科)の最近の記録, 南紀生物, 50(2), 252, 2008

Uchida, H., Tanase, H. and Kubota, S.: An extraordinarily large specimen of the polychaete worm *Eunice aphroditois* (Pallas) (Order Eunicia) from Shirahama, Wakayama, central Japan, Kuroshio Bioshere, 5, 9-15, 2009

■宮崎 勝己

宮崎 勝己:書評「シリーズ21世紀の動物科学 第2巻 動物の多様性」, 生物科学ニュース, (443), 7-8, 2008.

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

向井 宏:「里海」という言葉への警告, 月刊「むすぶ-自治・ひと・くらし-」, ロシナンテ社, 454, 24-28, 2008.

向井 宏:京都大学フィールド科学教育研究センター・生態学研究センター編, 水と砂の流れと多様性, 第5回時計台対話集会講演録「森里海のつながりを生物多様性から考える」, 19-30, 2009.

企画研究推進部門

■福澤 加里部

福澤 加里部:現地研究会「森林管理のあり方と物質循環研究」に参加して, 森林立地, 50(1), 51-53, 2008

技術管理部

■秋田 豊

秋田 豊・平井 岳志・大呑 和夫:徳山試験地の天然林の樹種構成, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 71-73, 2008

■浅野 善和

小嶋 宏和・浅野 善和・伊藤 雅敏・太田 健一・大牧 治夫・長谷川 敦史・藤井 弘明・柳本 順: 芦生研究林の天然林における種子・実生動態調査-2007年度の報告-, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 47-50, 2008.

■荒井 亮

荒井 亮: 上賀茂試験地における稀少マツ属種の接ぎ木の試み, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 25-26, 2008.

荒井 亮・山内 隆之・柳本 順・黒田 真人・中川 智之: 上賀茂試験地のヒノキ天然林の下層樹木構成, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 68-70, 2008.

柴田 泰征・境 慎二郎・大橋 健太・荒井 亮・古田 卓・中根 勇雄: 上賀茂試験地のヒノキ天然林における種子・実生動態調査 -2007年度の報告-, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 64-67, 2008.

■伊藤 雅敏

小嶋 宏和・浅野 善和・伊藤 雅敏・太田 健一・大牧 治夫・長谷川 敦史・藤井 弘明・柳本 順: 芦生研究林の天然林における種子・実生動態調査-2007年度の報告-, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 47-50, 2008.

■上西 久哉

平井 岳志・長谷川 孝・上西 久哉・細見 純嗣・中川 智之・松場 輝信: 和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査 -2007年度の報告-, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 60-63, 2008.

■太田 健一

小嶋 宏和・浅野 善和・伊藤 雅敏・太田 健一・大牧 治夫・長谷川 敦史・藤井 弘明・柳本 順: 芦生研究林の天然林における種子・実生動態調査-2007年度の報告-, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 47-50, 2008.

■大呑 和夫

秋田 豊・平井 岳志・大呑 和夫:徳山試験地の天然林の樹種構成, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 71-73, 2008

■大橋 健太

柴田 泰征・境 慎二郎・大橋 健太・荒井 亮・古田 卓・中根 勇雄: 上賀茂試験地のヒノキ天然林における種子・実生動態調査 -2007年度の報告-, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 64-67, 2008.

■大牧 治夫

小嶋 宏和・浅野 善和・伊藤 雅敏・太田 健一・大牧 治夫・長谷川 敦史・藤井 弘明・柳本 順：芦生研究林の天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 47-50, 2008.

■岡部 芳彦

岡部 芳彦・佐藤 修一・勝山 智憲・林 大輔・吉岡 歩・山内 隆之：北海道研究林・標茶区の天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 54-56, 2008.

■勝山 智憲

勝山 智憲：標茶区におけるトドマツ人工林の鹿害, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 12-14, 2008.

岡部 芳彦・佐藤 修一・勝山 智憲・林 大輔・吉岡 歩・山内 隆之：北海道研究林・標茶区の天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 54-56, 2008.

■黒田 真人

荒井 亮・山内 隆之・柳本 順・黒田 真人・中川 智之：上賀茂試験地のヒノキ天然林の下層樹木構成, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 68-70, 2008.

■小嶋 宏和

小嶋 宏和・浅野 善和・伊藤 雅敏・太田 健一・大牧 治夫・長谷川 敦史・藤井 弘明・柳本 順：芦生研究林の天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 47-50, 2008.

■境 慎二郎

柴田 泰征・境 慎二郎・大橋 健太・荒井 亮・古田 卓・中根 勇雄：上賀茂試験地のヒノキ天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 64-67, 2008.

■佐藤 修一

佐藤 修一：標茶区における野鼠調査と防除, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 10-11, 2008.

岡部 芳彦・佐藤 修一・勝山 智憲・林 大輔・吉岡 歩・山内 隆之：北海道研究林・標茶区の天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 54-56, 2008.

■柴田 泰征

柴田 泰征・境 慎二郎・大橋 健太・荒井 亮・古田 卓・中根 勇雄：上賀茂試験地のヒノキ天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 64-67, 2008.

■中川 智之

荒井 亮・山内 隆之・柳本 順・黒田 真人・中川 智之：上賀茂試験地のヒノキ天然林の下層樹木構成, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 68-70, 2008.

平井 岳志・長谷川 孝・上西 久哉・細見 純嗣・中川 智之・松場 輝信：和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 60-63, 2008.

■長谷川 敦史

長谷川 敦史・柳本 順：芦生研究林の天然林におけるカシノナガキイムシによるナラ枯れ被害木の状況, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 51-53, 2008.

小嶋 宏和・浅野 善和・伊藤 雅敏・太田 健一・大牧 治夫・長谷川 敦史・藤井 弘明・柳本 順：芦生研究林の天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 47-50, 2008.

■長谷川 孝

平井 岳志・長谷川 孝・上西 久哉・細見 純嗣・中川 智之・松場 輝信：和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 60-63, 2008.

■林 大輔

岡部 芳彦・佐藤 修一・勝山 智憲・林 大輔・吉岡 歩・山内 隆之：北海道研究林・標茶区の天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 54-56, 2008.

■平井 岳志

平井 岳志・長谷川 孝・上西 久哉・細見 純嗣・中川 智之・松場 輝信：和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査—2007年度の報告—, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 60-63, 2008.

秋田 豊・平井 岳志・大谷 和夫：徳山試験地の天然林の樹種構成, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 71-73, 2008.

■藤井 弘明

小嶋 宏和・浅野 善和・伊藤 雅敏・太田 健一・大牧 治夫・長谷川 敦史・藤井 弘明・柳本 順：芦生研究林の天然

林における種子・実生動態調査－2007年度の報告－, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 47-50, 2008.

■古田 卓

柴田 泰征・境 慎二郎・大橋 健太・荒井 亮・古田 卓・中根 勇雄：上賀茂試験地のヒノキ天然林における種子・実生動態調査－2007年度の報告－, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 64-67, 2008.

■細見 純嗣

平井 岳志・長谷川 孝・上西 久哉・細見 純嗣・中川 智之・松場 輝信：和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査－2007年度の報告－, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 60-63, 2008.

■松場 輝信

平井 岳志・長谷川 孝・上西 久哉・細見 純嗣・中川 智之・松場 輝信：和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査－2007年度の報告－, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 60-63, 2008.

■柳本 順

柳本 順・古本 浩望・渡邊 康弘・岡部 芳彦・佐藤 修一・勝山 智憲・林 大輔・吉岡 歩：北海道研究林・白糠区の天然林における種子・実生動態調査－2007年度の報告－, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 57-59, 2008.

荒井 亮・山内 隆之・柳本 順・黒田 真人・中川 智之：上賀茂試験地のヒノキ天然林の下層樹木構成, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 68-70, 2008.

小嶋 宏和・浅野 善和・伊藤 雅敏・太田 健一・大牧 治夫・長谷川 敦史・藤井 弘明・柳本 順：芦生研究林の天然林における種子・実生動態調査－2007年度の報告－, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 47-50, 2008.

長谷川 敦史・柳本 順：芦生研究林の天然林におけるカシノナガキイムシによるナラ枯れ被害木の状況, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 51-53, 2008.

■吉岡 歩

岡部 芳彦・佐藤 修一・勝山 智憲・林 大輔・吉岡 歩・山内 隆之：北海道研究林・標茶区の天然林における種子・実生動態調査－2007年度の報告－, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 54-56, 2008.

■山内 隆之

岡部 芳彦・佐藤 修一・勝山 智憲・林 大輔・吉岡 歩・山内 隆之：北海道研究林・標茶区の天然林における種子・実生動態調査－2007年度の報告－, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 54-56, 2008.

荒井 亮・山内 隆之・柳本 順・黒田 真人・中川 智之：上賀茂試験地のヒノキ天然林の下層樹木構成, 京大フィールド研 研究林・試験地情報 2007年度, 2, 68-70, 2008.

2009年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

勝山 正則, 館野 隆之輔, 吉岡 崇仁. 森林流域環境と人間社会のつながりの理解にむけて. 森林科学. 2010, 58, p. 25-26.

■安藤 信

安藤 信. 2008年の北海道研究林の動向. 研究林・試験地情報 2008(平成20)年度. 2009, p. 9-12.

■芝 正己

芝 正己. 森林計画学会・森林利用学会合同シンポジウム 森林管理・計画技術と生産・利用技術の連環性への展望. 機械化林業. 2009, (667), p. 16-20.

芝 正己, 伊藤 崇之. 森林計画学会・森林利用学会合同シンポジウム概要報告. 森林利用学会誌. 2009, 24(3), p. 117-127.

芝 正己. (コラム) 森が重なる刻(とき) 持続性 Waldzeiten- Nachhaltigkeit. 森林技術. 2009, (808), p. 27.

芝 正己. 2008年の芦生研究林の動向. 研究林・試験地情報 2008(平成20)年度. 2009, p. 3-5.

■徳地 直子

徳地 直子. 2008年の和歌山研究林の動向. 研究林・試験地情報 2008(平成20)年度. 2009, p. 17-21.

■中島 皇

中島 皇. 2008年の徳山試験地の動向. 研究林・試験地情報 2008(平成20)年度. 2009, p. 40-43.

■寄元 道徳

石原 正恵, 石田 健, 井田 秀行, 伊東 明, 榎木 勉, 大久保 達弘, 金子 隆之, 金子 信博, 倉本 恵生, 酒井 武, 齋藤 哲, 崎尾 均, 寄元 道徳, 芝野 博文, 杉田 久志, 他(計35名). モニタリングサイト1000 森林・草原調査

コアサイト・準コアサイトの毎木調査データの概要. 日本生態学会誌. 2010, 60, p. 111-123.

里域生態系部門

■柴田 昌三

柴田 昌三 (編著). インド・ミゾラム州における竹類ムーリーの大面積開花に関する生態的研究 (平成 17~20 年度 科学研究費補助金 (基盤研究 (A)) (課題番号 17255007) 研究成果報告書. 2009, p. 1-102.

柴田 昌三. 竹資源の新たな有効利用のための竹林施業 (特集 広がるタケの生態特性とその有効利用への道). 森林科学. 2010, (58), p. 15-19.

柴田 昌三. 2008 年の上賀茂試験地の動向. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 22-26.

藤澤 茂樹, 奥隅 豊栄, 安元 信廣, 柴田 昌三, 田中 伸一, 小澤 徹三. 表土マット移植工法を用いたのり面緑化に関する調査研究 (I). 日本緑化工学会誌. 2009, 35 (2), p. 351-356.

藤澤 茂樹, 奥隅 豊栄, 安元 信廣, 柴田 昌三, 田中 伸一, 小澤 徹三. 表土マット移植工法を用いたのり面緑化に関する調査研究 (II). 日本緑化工学会誌. 2009, 35 (2), p. 357-362.

Shinjo, Hitoshi; Ando, Kaori; Noro, Yoko; Kuramitsu, H.; Takenaka, K.; Miyazaki, Hidetoshi; Miura, Reiichi; Tanaka, Ueru; Shibata, Shozo and Sokotela, S. Impact of land clearing on crop productivity and soil fertility in a Miombo woodland in eastern province, Zambia. "Vulnerability and Resilience of Social-Ecological Systems" FY2009 FR3 Project Report (Project E-04 (FR3)). 2010, p. 16-20.

■益田 玲爾

益田 玲爾. "クラゲと魚類との相互関係". 科学. 2009, 79 (4), p. 411-414.

益田 玲爾. クラゲと魚のおいしい関係. アクアネット. 2010, 3 月号, p. 26-29.

■梅本 信也

梅本 信也 他. 古座川合同調査報告集 第 3 巻. ユニバース印刷, 2009, 241p.

梅本 信也 他. 古座川合同調査報告集 第 4 巻. ユニバース印刷, 2009, 123p.

■長谷川 尚史

長谷川 尚史. 第 16 回森林生産システム研究会現地検討会報告. 森林利用学会誌. 2009, 24 (1), p. 19-21.

長谷川 尚史. 林業作業システムの今後の可能性 (一五〇一号記念特集 わが国林業の将来展望). 山林. 2009, 0 (1501), p. 64-70.

長谷川 尚史. 第 16 回森林生産システム研究会シンポジウム報告. 森林利用学会誌. 2009, 24 (1), p. 22-34.

長谷川 尚史. 2008 年の北白川試験地の動向. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 44-48.

基礎海洋生物学部門

■白山 義久

白山 義久. 野外研究サイトから (13) 京都大学瀬戸臨海実験所. 日本生態学会誌. 2009, 59 (3), p. 329-334.

白山 義久. 研究成果のパブリックアウトリーチ〜「海洋生物のセンサス」プロジェクトを例として〜. Ship & Ocean Newsletter. 2010, (227), p. 2-3.

白山 義久. 海の生物多様性をめぐって 海洋生物の多様性 (特集 海と環境). 環境情報科学. 2009, 38 (2), p. 8-13.

白山 義久. 沿岸底生生物群集 (Natural Geography in Shore Areas: NaGISA) (シンポジウム Census of Marine Life の成果と展望—海洋生物多様性情報の総合化に向けて). 日本プランクトン学会報. 2009, 56 (2), p. 136-138.

白山 義久, 藤倉 克則. Census of Marine Life のデータベース OBIS (シンポジウム Census of Marine Life の成果と展望—海洋生物多様性情報の総合化に向けて). 日本プランクトン学会報. 2009, 56 (2), p. 155-158.

白山 義久. 海の生物を調べつくす試み—海洋生物のセンサス. 学術の動向. 2009, 15 (3), p. 114-119.

白山 義久. 熱水鉱床の開発と海洋環境保全. 深海資源ニュース (深海資源研究会). 2010, (7), p. 17-22

藤倉 克則, 西田 周平, 白山 義久. 海洋生物のセンサス. 日本プランクトン学会報. 2009, 56 (2), p. 131-135.

■久保田 信

久保田 信. "クラゲ類のふしぎな形態と生活—不死のベニクラゲの神秘まで (特集 驚異のクラゲ)". 科学. 2009, 79 (4), p. 386-392.

■宮崎 勝己

宮崎 勝己. ウミグモ類及びクマムシ類を用いた節足動物の発生様式の進化に関する研究. 平成 17-19 年度科学研究補助金 基盤研究 (C) (課題番号: 17570081) 研究成果報告書. 2009, 80p.

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

向井 宏. 海域・海洋保護区の効果と現状 (特集 海と環境)—(海の環境保全や再生に向けて). 環境情報科学. 2009, 38 (2), p. 20-24.

向井 宏. 海洋生態系の現状と危機. 野鳥 (日本野鳥の会会誌). 2009, (732), p. 6-8.

■佐藤 真行

佐藤 真行. "環境経済・政策学会 2008 年大会". 財政と公共政策. 2009, 31 (1), p. 137-139.

佐藤 真行, 前田 章, 中川 真太郎, 佐々木 健吾. 持続可能な発展へ向けた環境政策・経済システム研究: GS 等の動態分析による政策評価. 平成 21 年度 環境経済の政策研究 (環境省). 2010.

企画研究推進部門

■今西 亜友美

森本 幸裕, 橋本 啓史, 今西 亜友美, 村上 健太郎, 田端 敬三, 大石 善隆. 都市の生物多様性: フィールド研究の現在. BIO City. 43, p.116-121.

技術管理部

■秋田 豊

伊藤 雅敏, 秋田 豊. 徳山試験地の天然林における種子生産調査 (2008 年度報告). 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 66-68.

■浅野 善和

藤井 弘明, 大牧 治夫, 紺野 絳, 浅野 善和, 柳本 順, 細見 純嗣, 大橋 健太, 岡部 芳彦, 伊藤 雅敏, 鬼塚 恵美. 芦生研究林の原生的な森林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 51-54.

太田 健一, 藤井 弘明, 浅野 善和, 伊藤 雅敏, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 大牧 治夫. 芦生研究林の天然林におけるリターフォール量調査 (2008 年度報告). 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 55-57.

中川 智之, 上西 久哉, 藤井 弘明, 浅野 善和, 太田 健一, 向 昌宏, 松場 輝信. 和歌山研究林のモミ・ツガ天然林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 61-63.

■荒井 亮

山内 隆之, 柳本 順, 黒田 眞人, 中川 智之, 荒井 亮. 上賀茂試験地のヒノキ天然林の種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 64-65.

■伊藤 雅敏

伊藤 雅敏, 秋田 豊. 徳山試験地の天然林における種子生産調査 (2008 年度報告). 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 66-68.

藤井 弘明, 大牧 治夫, 紺野 絳, 浅野 善和, 柳本 順, 細見 純嗣, 大橋 健太, 岡部 芳彦, 伊藤 雅敏, 鬼塚 恵美. 芦生研究林の原生的な森林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 51-54.

太田 健一, 藤井 弘明, 浅野 善和, 伊藤 雅敏, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 大牧 治夫. 芦生研究林の天然林におけるリターフォール量調査 (2008 年度報告). 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 55-57.

■上西 久哉

細見 純嗣, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 中川 智之, 松場 輝信. 和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査—2008 年度の報告—. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 58-60.

中川 智之, 上西 久哉, 藤井 弘明, 浅野 善和, 太田 健一, 向 昌宏, 松場 輝信. 和歌山研究林のモミ・ツガ天然林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 61-63.

■太田 健一

太田 健一, 藤井 弘明, 浅野 善和, 伊藤 雅敏, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 大牧 治夫. 芦生研究林の天然林におけるリターフォール量調査 (2008 年度報告). 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 55-57.

中川 智之, 上西 久哉, 藤井 弘明, 浅野 善和, 太田 健一, 向 昌宏, 松場 輝信. 和歌山研究林のモミ・ツガ天然林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 61-63.

■大橋 健太

大橋 健太. 上賀茂試験地における種子交換用種子の発芽特性. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 31-36.

藤井 弘明, 大牧 治夫, 紺野 絳, 浅野 善和, 柳本 順, 細見 純嗣, 大橋 健太, 岡部 芳彦, 伊藤 雅敏, 鬼塚 恵美. 芦生研究林の原生的な森林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 51-54.

■大牧 治夫

藤井 弘明, 大牧 治夫, 紺野 絳, 浅野 善和, 柳本 順, 細見 純嗣, 大橋 健太, 岡部 芳彦, 伊藤 雅敏, 鬼塚 恵美. 芦生研究林の原生的な森林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 51-54.

太田 健一, 藤井 弘明, 浅野 善和, 伊藤 雅敏, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 大牧 治夫. 芦生研究林の天然林におけるリターフォール量調査 (2008 年度報告). 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 55-57.

■岡部 芳彦

藤井 弘明, 大牧 治夫, 紺野 絳, 浅野 善和, 柳本 順, 細見 純嗣, 大橋 健太, 岡部 芳彦, 伊藤 雅敏, 鬼塚 恵美. 芦生研究林の原生的な森林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 51-54.

■鬼塚 恵美

藤井 弘明, 大牧 治夫, 紺野 絳, 浅野 善和, 柳本 順, 細見 純嗣, 大橋 健太, 岡部 芳彦, 伊藤 雅敏, 鬼塚 恵美. 芦生研究林の原生的な森林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 51-54.

■黒田 眞人

山内 隆之, 柳本 順, 黒田 眞人, 中川 智之, 荒井 亮. 上賀茂試験地のヒノキ天然林の種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 64-65.

■小嶋 宏和

太田 健一, 藤井 弘明, 浅野 善和, 伊藤 雅敏, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 大牧 治夫. 芦生研究林の天然林におけるリターフォール量調査 (2008 年度報告). 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 55-57.

■紺野 絡

紺野 絡. 「2008 芦生の森自然観察会」参加者のアンケートから. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 6-8.
藤井 弘明, 大牧 治夫, 紺野絡, 浅野 善和, 柳本 順, 細見 純嗣, 大橋 健太, 岡部 芳彦, 伊藤 雅敏, 鬼塚 恵美.
芦生研究林の原生的な森林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 51-54.

■境 慎二郎

境 慎二郎. ニホンジカの侵入防止を目的としたテキサスグートの設置. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 27-30.

■中川 智之

中川 智之, 上西 久哉, 藤井 弘明, 浅野 善和, 太田健一, 向 昌宏, 松場 輝信. 和歌山研究林のモミ・ツガ天然林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 61-63.

細見 純嗣, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 中川 智之, 松場 輝信. 和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査—2008 年度の報告—. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 58-60.

山内 隆之, 柳本 順, 黒田 真人, 中川 智之, 荒井 亮. 上賀茂試験地のヒノキ天然林の種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 64-65.

■西岡 裕平

山内 隆之, 西岡 裕平. 北白川試験地における樹木の播種試験 (2008 年度報告). 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 69-71.

■長谷川 敦史

太田 健一, 藤井 弘明, 浅野 善和, 伊藤 雅敏, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 大牧 治夫. 芦生研究林の天然林におけるリターフォール量調査 (2008 年度報告). 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 55-57.

■長谷川 孝

細見 純嗣, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 中川 智之, 松場 輝信. 和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査—2008 年度の報告—. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 58-60.

■林 大輔

林 大輔. 北海道東部ヤチダモが優占する落葉広葉樹林の択伐後 30 年間の動態. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 15-16.

■平井 岳志

細見 純嗣, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 中川 智之, 松場 輝信. 和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査—2008 年度の報告—. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 58-60.

■藤井 弘明

藤井 弘明, 大牧 治夫, 紺野絡, 浅野 善和, 柳本 順, 細見 純嗣, 大橋 健太, 岡部 芳彦, 伊藤 雅敏, 鬼塚 恵美.
芦生研究林の原生的な森林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 51-54.

太田 健一, 藤井 弘明, 浅野 善和, 伊藤 雅敏, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 大牧 治夫. 芦生研究林の天然林におけるリターフォール量調査 (2008 年度報告). 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 55-57.

中川 智之, 上西 久哉, 藤井 弘明, 浅野 善和, 太田健一, 向 昌宏, 松場 輝信. 和歌山研究林のモミ・ツガ天然林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 61-63.

■古田 卓

古田 卓. 上賀茂試験地における降水の pH と EC —2002 年～2008 年の報告—. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 37-39.

■細見 純嗣

細見 純嗣, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 中川 智之, 松場 輝信. 和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査—2008 年度の報告—. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 58-60.

藤井 弘明, 大牧 治夫, 紺野絡, 浅野 善和, 柳本 順, 細見 純嗣, 大橋 健太, 岡部 芳彦, 伊藤 雅敏, 鬼塚 恵美.
芦生研究林の原生的な森林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 51-54.

■松場輝信

細見 純嗣, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 中川 智之, 松場 輝信. 和歌山研究林の天然林における種子・実生動態調査—2008 年度の報告—. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 58-60.

中川 智之, 上西 久哉, 藤井 弘明, 浅野 善和, 太田健一, 向 昌宏, 松場 輝信. 和歌山研究林のモミ・ツガ天然林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 61-63.

■向 昌宏

中川 智之, 上西 久哉, 藤井 弘明, 浅野 善和, 太田健一, 向 昌宏, 松場 輝信. 和歌山研究林のモミ・ツガ天然林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 61-63.

■柳本 順

柳本 順. 北海道研究林白糠区におけるエゾシカのライトセンサス調査. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 13-14.

藤井 弘明, 大牧 治夫, 紺野 絳, 浅野 善和, 柳本 順, 細見 純嗣, 大橋 健太, 岡部 芳彦, 伊藤 雅敏, 鬼塚 恵美.
芦生研究林の原生的な森林における樹種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 51-54.

山内 隆之, 柳本 順, 黒田 眞人, 中川 智之, 荒井 亮. 上賀茂試験地のヒノキ天然林の種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 64-65.

■山内 隆之

山内 隆之, 柳本 順, 黒田 眞人, 中川 智之, 荒井 亮. 上賀茂試験地のヒノキ天然林の種構成と構造. 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 64-65.

山内 隆之, 西岡 裕平. 北白川試験地における樹木の播種試験 (2008 年度報告). 研究林・試験地情報 2008(平成 20)年度. 2009, p. 69-71.

2010 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

吉岡 崇仁. 木文化由良川プロジェクトの全体構想と 2009 年度の進捗状況. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 3-9.

河本 晴恵, 大槻 あずさ, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 向 昌宏, 福島 慶太郎, 今西 亜友美, 谷尾 陽一, 白澤 紘明, 堤 直人, 相本 道宏. 溶存有機物と溶存鉄の分布. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 17-32.

福島 慶太郎, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 向 昌宏. 由良川流域における人工林施業が山地渓流水質に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 33-37.

■芝 正己

芝 正己. 芦生研究林の概要. 京都大学環境報告書 2010. 2010, p. 59.

芝 正己, 藤井 弘明. 由良川河内谷試験地の森林施業の現状と操作実験計画について. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 10-16.

■徳地 直子

河本 晴恵, 大槻 あずさ, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 向 昌宏, 福島 慶太郎, 今西 亜友美, 谷尾 陽一, 白澤 紘明, 堤 直人, 相本 道宏. 溶存有機物と溶存鉄の分布. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 17-32.

福島 慶太郎, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 向 昌宏. 由良川流域における人工林施業が山地渓流水質に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 33-37.

福島 慶太郎, 徳地 直子, 今西 亜友美, 向 昌宏, 白澤 紘明, 大森 真貴子, 山中 律. 仁淀川の流下過程にともなう水質変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 228-236.

福島 慶太郎, 福澤 加里部, 徳地 直子, 長谷川 尚史, 向 昌宏, 竹本 雅浩. 仁淀川流域における人工林施業が山地渓流水質に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 223-227.

■中島 皇

中島 皇. 2009 年徳山試験地の動向. 研究林・試験地情報 2009(平成 21)年度. 2010, p. 18-19.

里域生態系部門

■山下 洋

秋山 諭, 上野 正博, 山下 洋. 丹後海由良川河口域におけるニホンハマアミ *Orientomysis japonica* の繁殖特性と個体群動態. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 91-135.

江口 さやか, 薄元 志帆, 山本 沙織, 芳村 碧, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾内の一部地域における鉛汚染追跡調査 - 生物試料, 底泥, 土壌を用いた汚染評価法 -. 環境技術. 2010, 39(4), p. 238-245.

■益田 玲爾

益田 玲爾. よく似た魚の違い. 磯・投げ情報. 2011, 2011 年 1 月号, p. 136.

益田 玲爾. イワシの打ち上げ. 磯・投げ情報. 2011, 2011 年 5 月号, p. 137.

益田 玲爾. クラゲと魚のおいしい関係. アクアネット. 2010, 3 月号 p. 26-29.

江口 さやか, 薄元 志帆, 山本 沙織, 芳村 碧, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾内の一部地域における鉛汚染追跡調査 - 生物試料, 底泥, 土壌を用いた汚染評価法 -. 環境技術. 2010, 39(4), p. 238-245.

■梅本 信也

梅本 信也 他. 古座川合同調査報告集 第 5 巻. 2011, 198p.

梅本 信也. 学校給食懐古句集. 2010, 106p.

■長谷川 尚史

長谷川 尚史. 木文化仁淀川プロジェクトの全体構想と 2009 年度の進捗状況. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 197-200.

長谷川 尚史, 杉本 和也, 福井 遼, 白澤 紘明, 武田 あずさ, 市川 隆史, 池山 祐司, 大原 栄博. 高密度作業道を用いた間伐作業のモデル化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 201-205.

長谷川 尚史, 福井 遼, 武田 あずさ, 飯田 明訓. 作業道路面処理が林業機械の走行に及ぼす影響の検証. 平成 22 年度林業機械化研究助成事業実績報告書. 2011, p. 38

長谷川 尚史. 書評「森林管理の理念と技術—森林と人間の共生の道へ—」. 森林利用学会誌. 2010, 25(1),

福島 慶太郎, 福澤 加里部, 徳地 直子, 長谷川 尚史, 向 昌宏, 竹本 雅浩. 仁淀川流域における人工林施業が山地溪流水質に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 223-227.

京都府森林組合連合会, 長谷川 尚史, 杉本 和也, 白澤 紘明. 職務満足度アンケート調査・原木流通シミュレーション事業報告書. 平成 22 年度森林整備広域連携促進対策事業報告書. 2011, p. 49

■中西 麻美

中西 麻美, 深田 英久, 今西 亜友美, 福島 慶太郎. 川成川およびヒウラ谷流域におけるスギ、ヒノキ林の土壌と葉の窒素特性. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 217-222.

深田 英久, 中西 麻美. 仁淀川森グループ調査報告—旧池川町の民有林の現状と調査林分の概要および間伐施業前の状況について—. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 206-216.

■上野 正博

秋山 諭, 上野 正博, 山下 洋. 丹後海由良川河口域におけるニホンハマアミ *Orientomysis japonica* の繁殖特性と個体群動態. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 91-135.

江口 さやか, 薄元 志帆, 山本 沙織, 芳村 碧, 上野 正博, 益田 玲爾, 山下 洋, 山本 義和. 京都府舞鶴湾内の一部地域における鉛汚染追跡調査 - 生物試料, 底泥, 土壌を用いた汚染評価法 -. 環境技術. 2010, 39(4), p. 238-245.

基礎海洋生物学部門

■白山 義久

白山 義久. 海洋生物の多様性を明らかにする国際的な試み. 環境と健康. 2010, 23(4), p. 522-528.

■久保田 信

久保田 信. 新刊紹介 荻野みちる著「クジラの死体はかく語る」. 南紀生物. 2010, 52(1), p. 85.

久保田 信. 新刊紹介 日本プランクトン学会・ベントス学会編「海の外来生物 人間によって攪乱された地球の海」. 南紀生物. 2010, 52(1), p. 85.

久保田 信. 不老不死で若返るベニクラゲ類の生活史. 遺伝. 2010, 64(5), p. 86-92.

久保田 信. 読者のコーナー(5). 環境と健康. 2010, 23(3), p. 398.

久保田 信. 読者のコーナー(6). 環境と健康. 2010, 24(1), p. 131.

久保田 信. 不老不死のベニクラゲの神秘と人類の夢. Milsil. 2010, 3(2), p. 15-17.

■宮崎 勝己

渡辺 順也, 沼田 篤志, 宮崎 勝己. 2008 年度森里海連環学実習 B における水生昆虫調査報告. 古座川合同調査報告集. 2010, 4, p. 54-87.

拝野 晃希, 小川 直記, 梶野 泰弘, 平林 凌太郎, 宮崎 勝己, 深見 裕伸. 古座川における水生昆虫調査報告. 古座川合同調査報告集. 2010, 4, p. 101-106.

■深見 裕伸

拝野 晃希, 小川 直記, 梶野 泰弘, 平林 凌太郎, 宮崎 勝己, 深見 裕伸. 古座川における水生昆虫調査報告. 古座川合同調査報告集. 2010, 4, p. 101-106.

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

向井 宏. 瀬戸内海の干潟再生事業とその問題点. Ebucheb (エブオブ). 2010, 37, p. 2-6.

向井 宏. 海はきれいになったの? ならないの?. nagisa (フリーラン別冊なぎさ). 2010, 1, p. 22-27.

向井 宏. 水産生物の乱獲と海洋保護区. JAWAN (日本湿地ネットワーク・JAWAN 通信). 2010, 98, p. 2-5.

■佐藤 真行

佐藤 真行. 貸し借りということ. 嶋臺塾記録. 2011, 6, p. 3-33.

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

福島 慶太郎. シカによって改変される森林の生態系機能—京都・芦生における大規模シカ柵実験から. 財団法人自然保護助成基金 Pro Natura ニュース. 2010, 20, p. 6.

福島 慶太郎, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 向 昌宏. 由良川流域における人工林施業が山地溪流水質に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 33-37.

福島 慶太郎, 徳地 直子, 今西 亜友美, 向 昌宏, 白澤 紘明, 大森 真貴子, 山中 律. 仁淀川の流下過程にともなう水質変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 228-236.

福島 慶太郎, 福澤 加里部, 徳地 直子, 長谷川 尚史, 向 昌宏, 竹本 雅浩. 仁淀川流域における人工林施業が山地溪流水質に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 223-227.

中西 麻美, 深田 英久, 今西 亜友美, 福島 慶太郎. 川成川およびヒウラ谷流域におけるスギ、ヒノキ林の土壌と葉の窒素特性. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 217-222.

河本 晴恵, 大槻 あずさ, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 向 昌宏, 福島 慶太郎, 今西 亜友美, 谷尾 陽一, 白澤 紘明, 堤 直人, 相本 道宏. 溶存有機物と溶存鉄の分布. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 17-32.

■今西 亜友美

今西 亜友美. 芦生研究林長治谷におけるシカスポット防除柵設置 1 年後の植生回復. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 38-45.

中西 麻美, 深田 英久, 今西 亜友美, 福島 慶太郎. 川成川およびヒウラ谷流域におけるスギ、ヒノキ林の土壌と葉の窒素特性. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 217-222.

河本 晴恵, 大槻 あずさ, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 向 昌宏, 福島 慶太郎, 今西 亜友美, 谷尾 陽一, 白澤 紘明, 堤 直人, 相本 道宏. 溶存有機物と溶存鉄の分布. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 17-32.

福島 慶太郎, 徳地 直子, 今西 亜友美, 向 昌宏, 白澤 紘明, 大森 真貴子, 山中 律. 仁淀川の流下過程にともなう水質変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 228-236.

管理技術部

■浅野 善和

浅野 善和. 公開講座を終えて. 研究林・試験地情報 2009(平成 21)年度. 2010, p. 43-44.

■荒井 亮

荒井 亮. 芦生の森自然観察会の応募状況について. 研究林・試験地情報 2009(平成 21)年度. 2010, p. 45-46.

■奥田 賢

奥田 賢. GIS を用いた見本園植栽木情報管理データベースの構築. 研究林・試験地情報 2009(平成 21)年度. 2010, p. 61-64.

■勝山 智憲

勝山 智憲. 北海道研究林標茶区における降水の pH と EC—1999 年から 2009 年までの 11 年間の変化—. 研究林・試験地情報 2009(平成 21)年度. 2010, p. 49-54.

■西岡 裕平

西岡 裕平. 芦生研究林に生えるキノコの個体調査. 研究林・試験地情報 2009(平成 21)年度. 2010, p. 71-73.

■長谷川 敦史

長谷川 敦史. 芦生研究林上谷歩道沿いにおけるマルバマンサク葉枯れ病の調査. 研究林・試験地情報 2009(平成 21)年度. 2010, p. 69-70.

■長谷川 孝

長谷川 孝. 直営による林道新設工事について. 研究林・試験地情報 2009(平成 21)年度. 2010, p. 55-56.

■藤井 弘明

藤井 弘明. NPO 法人芦生自然学校「マザーツリープロジェクト」への協賛. 研究林・試験地情報 2009(平成 21)年度. 2010, p. 67-68.

■向 昌宏

河本 晴恵, 大槻 あずさ, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 向 昌宏, 福島 慶太郎, 今西 亜友美, 谷尾 陽一, 白澤 紘明, 堤 直人, 相本 道宏. 溶存有機物と溶存鉄の分布. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 17-32.

福島 慶太郎, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 向 昌宏. 由良川流域における人工林施業が山地溪流水質に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 33-37.

福島 慶太郎, 徳地 直子, 今西 亜友美, 向 昌宏, 白澤 紘明, 大森 真貴子, 山中 律. 仁淀川の流下過程にともなう水質変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2009 年度報告書. 2010, p. 228-236.

告書. 2010, p. 228-236.

福島 慶太郎, 福澤 加里部, 徳地 直子, 長谷川 尚史, 向 昌宏, 竹本 雅浩. 仁淀川流域における人工林施業が山地
渓流水質に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」
2009 年度報告書. 2010, p. 223-227.

■柳本 順

柳本 順. 和天別川流域の河川水の pH・EC. 研究林・試験地情報 2009(平成 21)年度. 2010, p. 47-48.

■山内 隆之

山内 隆之. 開地と被陰ネット下におけるホオノキ苗木の生長比較. 研究林・試験地情報 2009(平成 21)年度. 2010,
p. 38-39.

2011 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

吉岡 崇仁. 2.1 木文化由良川プロジェクト 2010 年度の進捗状況. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文
化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 71-76.

吉岡 崇仁. 第 14 回京都大学大学院農学研究科・フィールド科学教育研究センター技術職員研究集会の開催にあたっ
て. 第 14 回京都大学大学院農学研究科・フィールド科学教育研究センター技術職員研究集会報告書. 2012, p. i.

吉岡 崇仁. 流域環境における人間・自然相互作用系の研究-フィールド科学教育研究センターが目指す森里海連環学
-. 第 14 回京都大学大学院農学研究科・フィールド科学教育研究センター技術職員研究集会報告書. 2012, p. 3-13.

吉岡 崇仁, 向 昌宏, 山下 洋, 上野 正博, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 渡辺 謙太. 2.7 由良川流域に
おける鉄と有機物の分布と挙動. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジ
ェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 126-136.

石原 正恵, 今西 亜友美, 阪口 翔太, 福澤 加里部, 向 昌宏, 吉岡 崇仁. 2.3 芦生研究林におけるシカ排除柵によ
るススキ群落の回復過程. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」
2010 年度報告書. 2012, p. 83-103.

大川 智船, 佐藤 真行, 吉岡 崇仁. 3. 由良川・仁淀川流域の社会調査報告. 概算要求事業「森里海連環学による地
域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 239-277.

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和.
2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生・土壌・溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求
事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■徳地 直子

徳地 直子, 福島 慶太郎, 白澤 紘明, 大森 真貴子, 山中 律, 富田 健介. 1.7 仁淀川全域の水質について. 概算要
求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 58-68.

富田 健介, 山中 律, 福島 慶太郎, 徳地 直子. 1.6 河川水質及び生態系に及ぼす森林管理の影響～仁淀川上流域に
おける付着藻類及び河川水クロロフィルと水生生物に及ぼす間伐の影響 (平成 22 年)～. 概算要求事業「森里海連
環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 41-57.

■中島 皇

福島 慶太郎, 井上 みずき, 阪口 翔太, 藤木 大介, 山崎 理正, 境 優, 齊藤 星耕, 中島 皇, 高柳 敦. ニホンジ
カによる過採食が芦生の冷温帯天然林の生物多様性と生態系機能に及ぼす影響の解明. プロ・ナトゥーラ・ファン
ド第 20 期助成成果報告書. 2011, p. 183-201.

■坂野上 なお

三木 敏裕, 坂野上 なお. 2.2 由良川流域における木材生産および流通の現状について～京都府中丹・南丹地域を対
象とする調査結果より～. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」
2010 年度報告書. 2012, p. 77-82.

里域生態系部門

■山下 洋

山下 洋. 4. 森・里・海とつながる生態系. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文
化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 278-286.

秋山 諭, 上野 正博, 山下 洋. 2.11 由良川河口域におけるニホンハマミ現存量と生産量の季節変化. 概算要求事
業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 159-162.

富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. 2.12 由良川河口域におけるスズキ稚魚の回遊と成長. 概算要求事業
「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 163-238.

舟橋 達宏, 上野 正博, 山下 洋, 笠井 亮秀. 2.9 数値実験による由良川河口域における塩水進入の変動解析. 概算

要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2010 年度報告書. 2012, p. 147-154.

吉岡 崇仁, 向 昌宏, 山下 洋, 上野 正博, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 渡辺 謙太. 2.7 由良川流域における鉄と有機物の分布と挙動. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2010 年度報告書. 2012, p. 126-136.

渡辺 謙太, 上野 正博, 山下 洋. 2.10 由良川河口域における植物プランクトン群集の季節変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2010 年度報告書. 2012, p. 155-158.

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Comparison of genetic population structures between the landlocked shrimp, *Neocaridina denticulata denticulata*, and the amphidromous shrimp, *Caridina leucosticta* (Decapoda: Atyidae) as inferred from mitochondrial DNA sequences. *New Frontiers in Crustacean Biology*. (Leiden, Netherland,) Brill, 2011, p. 183-196.

■柴田 昌三

柴田 昌三. 森里海連環学的視点からみた震災と津波、そして復興とボランティア支援. 環境保全. 2012, No. 26, p. 12-22.

柴田 昌三. 竹とつきあう, てんとう虫. UC Card Magazine (2011 年 4 月号) 43(4), 2011, p. 18-21.

柴田 昌三. 「ウサギ追いしかの山」の風土・景観は懐かしむだけになってしまったのか?. 広報 日造協 ((社)日本造園建設業協会, 2011 年 10 月 10 日号) 2011, 451, p. 4.

柴田 昌三. 竹〜庭園利用の現在〜. RHSJ (英国王立園芸協会日本支部, 2011 年 11 月号) 2011, 259, p. 2-7.

柴田 昌三. 緑のエッセー「里山イニシアティブを世界の基盤的な思想へ」. Rinya (林野庁情報誌「林野」2011 年 10 月号), 2011, 55, p. 3.

■田川 正朋

田川 正朋. カレイ類の形態異常出現機構の解明と防除ー最適な変態「前」成長速度の検討ー. 科研報告書 20580202. 2011.

■益田 玲爾

益田 玲爾. イワシの打ち上げ. 磯・投げ情報. 2011, 2011 年 5 月号, p. 137.

益田 玲爾. 魚の機嫌を知る行動観察の勘所. アクアネット. 2011, 2011 年 5 月号, p. 24-28.

益田 玲爾. 生きものクイズ「魚の群れと縞模様」. ちいさなかがくのとも. 2011, 2011 年 8 月号

益田 玲爾. 生きものクイズ「冬の魚とナマコ」. ちいさなかがくのとも. 2012, 2012 年 2 月号

Masuda, R. Fish locomotion: an eco-ethological perspective. Edited by P. Domenici and B. G. Kpoor. 549 pp. Science Publishing. *Journal of Fish Biology*. 2011, 79(3), p. 819-820. (書評)

■梅本 信也

梅本 信也. 古座川合同調査報告集 第 6 巻. 2011, 295p.

久保田 信, 梅本 信也. 瀬戸臨海実験所構内におけるカタバミ (カタバミ科) の奇形. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 45.

■長谷川 尚史

長谷川 尚史. 1.1 木文化仁淀川プロジェクトの全体構想と 2010 年度の進捗状況. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2010 年度報告書. 2012, p. 3-12.

長谷川 尚史. 第 17 回森林生産システム研究会現地検討会報告. 森林利用学会誌. 2011, 26(4).

長谷川 尚史. 第 17 回森林生産システム研究会シンポジウム報告. 森林利用学会誌. 2011, 26(4).

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■中西 麻美

中西 麻美, 深田 英久. 1.4 2010 年における池川・川成川地域の人工林の土壌、ヒノキ生葉の調査結果. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2010 年度報告書. 2012, p. 28-32.

深田 英久, 中西 麻美. 1.2 平成 22 年度 仁淀川森グループ調査報告ー平成 22 年度 スギ・ヒノキ調査プロットにおける毎木調査の結果ー. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2010 年度報告書. 2012, p. 13-18.

■上野 正博

秋山 諭, 上野 正博, 山下 洋. 2.11 由良川河口域におけるニホンハマアミ現存量と生産量の季節変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2010 年度報告書. 2012, p. 159-162.

富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. 2.12 由良川河口域におけるスズキ稚魚の回遊と成長. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 163-238.

舟橋 達宏, 上野 正博, 山下 洋, 笠井 亮秀. 2.9 数値実験による由良川河口域における塩水進入の変動解析. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 147-154.

吉岡 崇仁, 向 昌宏, 山下 洋, 上野 正博, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 渡辺 謙太. 2.7 由良川流域における鉄と有機物の分布と挙動. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 126-136.

渡辺 謙太, 上野 正博, 山下 洋. 2.10 由良川河口域における植物プランクトン群集の季節変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 155-158.

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Comparison of genetic population structures between the landlocked shrimp, *Neocaridina denticulata denticulata*, and the amphidromous shrimp, *Caridina leucosticta* (Decapoda: Atyidae) as inferred from mitochondrial DNA sequences. New Frontiers in Crustacean Biology. (Leiden, Netherland,) Brill, 2011, p. 183-196.

■中山 耕至

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Comparison of genetic population structures between the landlocked shrimp, *Neocaridina denticulata denticulata*, and the amphidromous shrimp, *Caridina leucosticta* (Decapoda: Atyidae) as inferred from mitochondrial DNA sequences. New Frontiers in Crustacean Biology. (Leiden, Netherland,) Brill, 2011, p. 183-196.

■甲斐 嘉晃

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Comparison of genetic population structures between the landlocked shrimp, *Neocaridina denticulata denticulata*, and the amphidromous shrimp, *Caridina leucosticta* (Decapoda: Atyidae) as inferred from mitochondrial DNA sequences. New Frontiers in Crustacean Biology. (Leiden, Netherland,) Brill, 2011, p. 183-196.

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

久保田 信. コブヒトデモドキ (ヒトデ綱; コブヒトデ科) が冬期に京都大学瀬戸臨海実験所飼育水槽で死亡. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 46-47.

久保田 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ台風により一度に打ち上がった複数のクロチョウガイ. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 48.

久保田 信. オカヤドカリ類 (甲殻類, 異尾類) の幼体を京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で 20011 年秋季に再発見. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 49-50.

久保田 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所の研究棟正面入口へ再出現したフナムシ (甲殻類). 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 51-52.

久保田 信. 夏から初冬に瀬戸臨海実験所構内に大量出現した熱帯性のサツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 53-56.

久保田 信. 読者のコーナー. (6). 環境と健康. 2011, 24(1), p. 131.

久保田 信, 内田 紘臣. 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に打ち上がった大型の死んだイシサンゴ. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 57-58.

久保田 信, 太田 満, 山本 泰司. イソモンガラ未成魚の飼育と死亡. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 43-44.

久保田 信, 梅本 信也. 瀬戸臨海実験所構内におけるカタバミ (カタバミ科) の奇形. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 45.

森阪 匡通, 酒井 麻衣, 小木 万布, 久保田 信, 亀崎 直樹. 伊豆諸島御蔵島周辺海域で観察されたアオウミガメによるクラゲ捕食. うみがめニュースレター. 2011, 89, p. 15.

海域陸域統合管理学研究部門

■佐藤 真行

佐藤 真行. 環境経済の政策研究報告書「持続可能な発展へ向けた環境政策・経済システム研究: GS等の動態分析による政策評価」. 2012,

大川 智船, 佐藤 真行, 吉岡 崇仁. 3. 由良川・仁淀川流域の社会調査報告. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 239-277.

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

福島 慶太郎. 河川水質を通して知りたいこと～Kemena・Tatau流域の水質調査報告. 熱帯バイオマス社会. 2012, 6, p. 4-8.

福島 慶太郎, 井上 みずき, 阪口 翔太, 藤木 大介, 山崎 理正, 境 優, 齊藤 星耕, 中島 皇, 高柳 敦. ニホンジカによる過採食が芦生の冷温帯天然林の生物多様性と生態系機能に及ぼす影響の解明. プロ・ナトゥーラ・ファン ド第20期助成成果報告書. 2011, p. 183-201.

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

福島 慶太郎, 福澤 加里部, 徳地 直子, 長谷川 尚史, 向 昌宏, 竹本 雅浩. 1.5 仁淀川流域における人工林施業が山地溪流水質に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 33-40.

福島 慶太郎, 福崎 康司, 吉岡 崇仁, 上野 正博, 大槻 あずさ. 2.8 由良川中流域に位置する大野ダム湖内での水質変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 137-146.

境 優, 福島 慶太郎. 2.5 スギ人工林の間伐および林道設置などの森林施業が溪流の底生動物群集に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 113-117.

富田 健介, 山中 律, 福島 慶太郎, 徳地 直子. 1.6 河川水質及び生態系に及ぼす森林管理の影響～仁淀川上流域における付着藻類及び河川水クロロフィルと水生生物に及ぼす間伐の影響 (平成 22 年) ～. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 41-57.

徳地 直子, 福島 慶太郎, 白澤 紘明, 大森 真貴子, 山中 律, 富田 健介. 1.7 仁淀川全域の水質について. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 58-68.

吉岡 崇仁, 向 昌宏, 山下 洋, 上野 正博, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 渡辺 謙太. 2.7 由良川流域における鉄と有機物の分布と挙動. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 126-136.

■石原 正恵

石原 正恵, 今西 亜友美, 阪口 翔太, 福澤 加里部, 向 昌宏, 吉岡 崇仁. 2.3 芦生研究林におけるシカ排除柵によるススキ群落の回復過程. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 83-103.

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■大川 智船

大川 智船, 佐藤 真行, 吉岡 崇仁. 3. 由良川・仁淀川流域の社会調査報告. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 239-277.

技術管理部

■浅野 善和

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■伊藤 雅敏

伊藤 雅敏. 上賀茂試験地自然観察会応募状況について. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 44-48.

■太田 満

山本 泰司, 太田 満. 瀬戸臨海実験所水族館におけるフナムシの継代飼育展示. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 35-36.

久保田 信, 太田 満, 山本 泰司. イソモンガラ未成魚の飼育と死亡. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 43-44.

■大橋 健太

大橋 健太. 上賀茂試験地における種子交換業務—最近の受注傾向 2—. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 35-43.

■勝山 智恵

古田 卓, 勝山 智恵. 北海道研究林標茶区と白糠区のハリガネムシの季節変動. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 52-58.

■小嶋 宏和

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和.

2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■佐藤 修一

佐藤 修一. 北海道研究林の森林整備加速化事業実施について. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 27-28.

■西岡 裕平

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和.

2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■長谷川 敦史

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和.

2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■林 大輔

林 大輔. 野生動物のモニタリング開始. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 29-32.

■藤井 弘明

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和.

2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■古田 卓

古田 卓, 勝山 智恵. 北海道研究林標茶区と白糠区のハリガネムシの季節変動. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 52-58.

■向 昌宏

吉岡 崇仁, 向 昌宏, 山下 洋, 上野 正博, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 渡辺 謙太. 2.7 由良川流域における鉄と有機物の分布と挙動. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 126-136.

石原 正恵, 今西 亜友美, 阪口 翔太, 福澤 加里部, 向 昌宏, 吉岡 崇仁. 2.3 芦生研究林におけるシカ排除柵によるススキ群落の回復過程. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 83-103.

■柳本 順

柳本 順. 野生動物による山引き苗の被害状況. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 33-34.

■山内 隆之

山内 隆之. 北白川試験地における見本樹の花期について. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 49-51.

■山本 泰司

山本 泰司. 瀬戸臨海実験所水族館のフナムシ飼育個体群の変動と成長. 瀬戸臨海実験所年報. 24, 2011, p. 37-42.

山本 泰司, 太田 満. 瀬戸臨海実験所水族館におけるフナムシの継代飼育展示. 瀬戸臨海実験所年報. 24, 2011, p. 35-36.

久保田 信, 太田 満, 山本 泰司. イソモンガラ未成魚の飼育と死亡. 瀬戸臨海実験所年報. 24, 2011, p. 43-44.

5. 4 著書

2008 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

吉岡 崇仁: 中尾 正義・銭 新・鄭 躍軍 編, 持続可能な発展と環境評価, 中国の水環境問題 開発のもたらす水不足, 勉誠出版, 東京, p. 185-207, 2009.

吉岡崇仁: 大西文秀編, フィールド科学と環境教育, GIS で学ぶ日本のヒト・自然系, 弘文堂, 東京, 122, 2009.

■徳地 直子

Tokuchi, N., Fukushima, K. and Katsuyama, M. : Taniguchi, M., Burnett, W. C., Fukushima, Y., Haigh, M. and Umezawa, Y. (ed), actors controlling stream water chemistry in ten small forested watersheds with plantation forests of various proportions and ages in central Japan, From Headwaters to the ocean, CRC Press, Leiden, 75-82, 2008.

Katsuyama, M., Fukushima, K. and Tokuchi, N. : Taniguchi, M. Burnett, W. C., Fukushima, Y., Haigh, M. and Umezawa, Y. (ed), Effects of various rain-fall-runoff characteristics on streamwater stable isotope variations in forested headwaters, From Headwaters to the ocean, CRC Press, Leiden, 51-56, 2008.

Fukushima, K., Tokuchi, N., Tateno, R. and Katsuyama, M. : Taniguchi, M., Burnett, W. C., Fukushima, Y., Haigh, M. and Umezawa, Y. (ed) , Water yield and nitrogen loss during regrowth of Japanese cedar forests after clearcutting, From Headwaters to the ocean, CRC Press, Leiden, 97-104, 2008.

■中島 皇

中島 皇：藤崎 憲治・西田 律夫・佐久間 正幸編，4-1-2 フィールド教育の実践 フィールドで伝えられること，フィールドから伝えられること，昆虫科学が拓く未来，京都大学学術出版会，京都，489-497，2009.

里域生態系部門

■山下 洋

山下 洋：田中 克・田川 正朋・中山 耕至編，カレイ類稚魚成育場としての河口域の役割，稚魚学 多様な生理生態を，生物研究社，東京，108-114，2008.

■柴田 昌三

柴田 昌三：藤井 透編，資源として竹を理解する，竹の基礎科学と高度利用技術，シーエムシー出版，東京，17-34，2008.

■田川 正朋

田中 克・田川 正朋・中山 耕至：稚魚 生残と変態の生理生態学，京都大学学術出版会，京都，387p，2009.

田中 克・田川 正朋・中山 耕至：稚魚学 多様な生理生態を，生物研究社，東京，365p，2008.

岡田 のぞみ・田川 正朋：田中 克，田川 正朋，中山 耕至編，ヒラメの変態と眼の移動機構，稚魚学 多様な生理生態を，生物研究社，東京，131-140，2008.

青海 忠久・田川 正朋：田中 克，田川 正朋，中山 耕至編，異体類の変態と体色異常，稚魚学 多様な生理生態を，生物研究社，東京，141-153，2008.

■益田玲爾

益田 玲爾：田中 克・田川 正朋・中山 耕至編，稚魚の心理を読む，稚魚学 多様な生理生態を，生物研究社，東京，346-351，2008.

■梅本 信也

梅本 信也：鷲谷 いずみ監修，水辺の里、海辺の里，消える日本の自然，恒星社厚生閣，東京，51-54，2008.

梅本 信也：里域植物相調査ノート，ユニバース印刷，長岡京市，73p.，2008.

■中山耕至

田中 克・田川 正朋・中山 耕至：稚魚学 多様な生理生態を，生物研究社，東京，365p，2008.

田中 克・田川 正朋・中山 耕至：稚魚 生残と変態の生理生態学，京都大学学術出版会，京都，387p，2009.

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

村上 龍男：久保田 信 監修，山形 加茂海岸のクラゲ，東北出版企画，山形県鶴岡市，122pp，2008.

■宮崎 勝己

宮崎 勝己：石川 良輔編，バイオディバーシティシリーズ 6. 節足動物の多様性と系統，裳華房，東京，2-10，11-27，110-113，2008.

■白山 義久

Z. Yasin, S. Y. Kwang, A. T. Shau-Hwai and Y. Shirayama : Field Guide to the ECHINODERMS (Sea Cucumbers and Sea Stars) of Malaysia, Kyoto University Press, Kyoto, 104p, 2008

Rahayu, D. L. and Wahyudi, A. J. : Susetiono and Shirayama (eds.), Common Littoral Hermit Crabs of Indonesia, Kyoto University Press, Kyoto, 93p, 2008

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

向井 宏：鷲谷 いづみ監修，消える日本の自然～写真が語る 108 スポットの現状～，恒星社厚生閣，東京，2008.

2009 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

吉岡 崇仁（編）．環境意識調査法 環境シナリオを評価する人びとの選好．勁草書房，2009，208p.

Mostofa, K. M. G.; Wu, F., Yoshioka, T.; Sakugawa, H.; Tanoue, E. "Dissolved organic matter in the aquatic

environment". Natural Organic Matter and Its Significance in the Environment. Fengchang, Wu, Baoshan, Xing eds., Science Press, 2009, p. 3-65.

■徳地 直子

Tokuchi, Naoko; Hirobe, M.; Kondo, K.; Arai, H.; Hobara, S.; Fukushima, Keitaro; Matsuura, Y. "Soil nitrogen dynamics in larch ecosystem". Permafrost Ecosystems: Siberian Larch Forests. Ecological studies. Osawa, A.; Zyryanova, O.A.; Matsuura, Y.; Kajimoto, T.; Wein, R.W. eds., Springer, 2010, p. 229-243.

■坂野上 なお

川村 誠, 坂野上 なお, 長谷川正. 日本林業の可能性. 国際化時代と「地域農・林業」の再構築. 井口 隆史編. 日本林業調査会, 2009, p. 113-145.

基礎海洋生物学部門

■白山 義久

Harada, Hyakubun; Shirayama, Yoshihisa eds. Selected Papers of the NaGISA WestPac Congress 2008. 瀬戸臨海実験所, 2009.

■原田 百聞

Harada, Hyakubun; Shirayama, Yoshihisa eds. Selected Papers of the NaGISA WestPac Congress 2008. 瀬戸臨海実験所, 2009.

海域陸域統合管理学研究部門

■佐藤 真行

佐藤 真行. "持続可能性の測定と環境の経済評価". グリーン産業革命. 佐和隆光(編). 日経BP社, 2010, p. 82-96

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

Tokuchi, Naoko; Hirobe, M.; Kondo, K.; Arai, H.; Hobara, S.; Fukushima, Keitaro; Matsuura, Y. "Soil nitrogen dynamics in larch ecosystem". Permafrost Ecosystems: Siberian Larch Forests. Ecological studies. Osawa, A.; Zyryanova, O.A.; Matsuura, Y.; Kajimoto, T.; Wein, R.W. eds., Springer, 2010, p. 229-243.

2010 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

Ogawa, N. O.; Wada, E.; Smirnova-Zalumi, N. S.; Melnik, N. G.; Bondarenko, N. A.; Shimaraev, M. N.; Smirnov, V. V.; Yoshioka, T. "Fish scales as a record of atmospheric change". Earth, Life, and Isotopes. Ohkouchi, N.; Tayasu, I.; Koba, K. ed., Kyoto University Press, 2010, p. 263-270.

吉岡 崇仁. "環境アセスメント". 地球環境学事典. 総合地球環境学研究所編. 弘文堂, 2010, p. 526-527.

里域生態系部門

■柴田 昌三

柴田 昌三(文), 石森 愛彦(絵). "木?それとも草?竹は竹". 福音館書店, (月刊「たくさんのふしぎ」 2010 年 10 月号(第 307 号)) 2010, 40p.

■益田 玲爾

Burk, J.; Masuda, Reiji. "Behavioral quality of flatfish for stock enhancement". Practical Flatfish Culture and Stock Enhancement. Daniels H. V., Watanabe, W. O. ed., Blackwell, 2010, p. 303-322.

益田 玲爾. "行動観察". 魚類生態学の基礎. 塚本 勝巳編. 恒星社厚生閣, 2010, p. 120-131.

益田 玲爾. "群れ行動". 魚類生態学の基礎. 塚本 勝巳編. 恒星社厚生閣, 2010, p. 264-274.

益田 玲爾. "コラム 魚の目から見たクラゲ". 水産の 21 世紀. 田中 克・川合 真一郎・谷口 順彦・坂田 泰造編. 京都大学学術出版会, 2010, p. 415-416.

■田川 正朋

田川 正朋, 田中 克. "14 章 変態と着底". 魚類生態学の基礎. 塚本 勝巳編. 恒星社厚生閣, 2010, p. 161-171.

■梅本 信也

梅本 信也. 里域連環学入門. ユニバース印刷, 2010, 103p.

梅本 信也(分担執筆). 雑草学事典. 山口裕文・編集, 梅本信也・副編集. 日本雑草学会, 2011, 362p.

■長谷川 尚史

長谷川 尚史. "森林利用研究のレビュー作業". 森林利用学会誌 25 年のあゆみ. 森林利用学会, 2011, p. 37-40.

基礎海洋生物学部門

■白山 義久

Konar, B.; Iken, K.; Pohle, G.; Miloslavich, P.; Cruz-Motta, J. J.; Benedetti-Cecchi, L.; Kimani, E.; Knowlton, A.; Trott, T.; Iseto, Toru; Shirayama, Yoshihisa. "Surveying Nearshore Biodiversity". Life in the World's Oceans: Diversity, Distribution, and Abundance. Wiley-Blackwell, 2010, p. 27-41.

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

向井 宏. "3.10 石西礁湖自然再生事業". 自然再生ハンドブック. 日本生態学会編. 地人書館, 2010, p.155-162.

向井 宏. "広域対応・全国的な対応が必要とされる課題". 自然再生ハンドブック. 日本生態学会編. 地人書館, 2010, p.163-166.

■佐藤 真行

佐藤 真行. "予防原則、オプション価格、費用便益分析". 環境リスク管理と予防原則— 法学的・経済学的検討. 植田和弘・大塚直編. 有斐閣, 2010,

2011 年度

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

吉岡 崇仁. "安定同位体聞く生態系の物語". 川と湖を見る・知る・探る 陸水学入門. 地人書館, 2011, p.93-95.

吉岡 崇仁. "安定同位体が明らかにした富栄養化の歴史—琵琶湖". 川と湖を見る・知る・探る 陸水学入門. 地人書館, 2011, p.96-97.

日本陸水学会編 (村上 哲生, 花里 孝幸, 吉岡 崇仁, 森 和紀, 小倉 紀雄 監修). 川と湖を見る・知る・探る 陸水学入門. 地人書館, 2011, p.96-97.

北方森林学会編 (吉岡 崇仁 分担編集). 北海道の森林. 北海道新聞. 2011, p.320.

里域生態系部門

■山下 洋

小路 淳, 堀 正和, 山下 洋 (共編). 浅海域の生態系サービス—海の恵みと持続的利用— (水産学シリーズ 169). 恒星社厚生閣, 150p., 2011.

浜口 昌巳, 藤浪 祐一郎, 山下 洋. "河口・干潟域における漁業資源生産". 浅海域の生態系サービス—海の恵みと持続的利用— (水産学シリーズ 169). 小路 淳, 堀 正和, 山下 洋編. 恒星社厚生閣, 2011, p.78-92.

■柴田 昌三

柴田昌三. "西日本クラスター人の影響の深さと洗練された文化". 里山・里海～自然の恵みと人々の暮らし～. 朝倉書店, 2012. p.174-184. (国際連合大学高等研究所／日本の里山・里海評価委員会編・分担執筆)

■田川 正朋

中坊 徹次 監訳, 甲斐 義晃, 鄭 忠勲, 田川 正朋, 土井内 龍 訳. 知られざる動物の世界 3 エイ・ギンザメ・ウナギのなかま. 朝倉書店, 2011.

■梅本 信也

梅本 信也. "紀伊大島のイノシシ—里域保全論への招待—". ユニバース印刷, 2012,

梅本 信也. "里域食文化論入門". ユニバース印刷, 2011,

梅本 信也. "里域震災論入門". ユニバース印刷, 2011,

■中山 耕至

中坊 徹次 監訳, 甲斐 嘉晃, 亀甲 武志, 中山 耕至 訳. 知られざる動物の世界 2 原始的な魚のなかま. 朝倉書店, 2011.

■甲斐 嘉晃

甲斐 嘉晃 (分担執筆). "NEO ポケット図鑑, 海辺の生物". 白山義久編. 小学館, 2011.

中坊 徹次 監訳, 甲斐 嘉晃, 亀甲 武志, 中山 耕至 訳. 知られざる動物の世界 2 原始的な魚のなかま. 朝倉書店, 2011.

中坊 徹次 監訳, 甲斐 義晃, 鄭 忠勲, 田川 正朋, 土井内 龍 訳. 知られざる動物の世界 3 エイ・ギンザメ・ウナギのなかま. 朝倉書店, 2011.

海域陸域統合管理学研究部門

■佐藤 真行

佐藤 真行, 村上 佳世, 植田 和弘, 新山 陽子. "有機物循環農産物の社会的便益と消費者行動". 有機物循環論. 楠部 孝誠, 新山陽子, 植田和弘, 高月紘 (編) 編. 昭和堂, 2012, p.231-268.

Sato, Masayuki. "Measuring sustainability and economic valuation of the environment". Achieving Global Sustainability: Policy Recommendations, Sawa, Takamitsu, Iai, Susumu and Ikkatai, Seiji ed., United Nations University Press, 2011. p.87-101.

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

福島 慶太郎. "第 21 章 窒素の循環". 森のバランス—植物と土壌の相互作用. 森林立地学会編. 東海大学出版会, 2012,

5. 5 自己総合評価、課題、展望

過去4年間に、フィールド研では、教員延べ28名を中心に、特任研究員や技術職員も含む構成員によって、数多くの著書、原著論文・総説、報告書及び一般誌への投稿が行われたが、その総数は862編であった。このうち、教員による投稿数は659編であった。職階別の教員あたりの年間平均発表数は、教授8.90編、准教授・講師8.09編、助教3.68編であり、助教の発表数が顕著に少なかった。

総投稿数のうち、査読有り論文は320編であった。その教員あたり年間平均発表数は、教授4.15編、准教授・講師3.34編、助教2.65編であり、教授クラスの発表数が比較的多かった。ただし、英文論文の第一著者としての年間平均発表数は、教授0.10編、准教授・講師0.66編、助教0.47編であり、准教授クラスと助教クラスの健闘が顕著である。ただし、全般的にその発表数は少ないといわざるを得ない。

一方、短期間の在籍ではあるが、フィールド研の諸活動を根底から支えている研究員等の実績は、論文が中心であり、一人あたりの年間平均の総発表数は3.43編、査読有り論文発表数は2.04編、英文論文の第一著者としての発表数は0.96編であり、第一著者の論文数が多いことから、その高い能力が示された。

フィールド研では、部局内で刊行される各種の刊行物における技術職員の調査研究成果の公開を率先しているが、彼らによる4年間の投稿数が延べ124編にのぼったことも特筆すべきことと考えられる。その大半は報告書レベルでの投稿であるが、彼らのモチベーションを高める上で、この数字は意味があるものである。また、わずかではあるが、研究者との共著として論文にも名を連ねている例があることも重要である。

以上のように、フィールド研は研究者に直接研究フィールドを提供しているという特徴に起因して、教員以外からも数多くの発信が行われていることが特徴の一つとしてあげられる。一方、各施設において施設運営や地域連携等の職務に追われながら、研究成果も公表していかなければならないという状況は、特に若手の教員に少なからず影響を与えていることも明らかである。社会的責務と研究者としての責務の両立ができるような工夫、研究環境の改善、あるいは個人的な奮起が望まれる他、その解決に向けた策が今後、検討される必要がある。

6 資料

6. 1 活動の記録（日記）

〔2008 年度（平成 20 年度）〕

(1) 2008 年 4 月～

2008 年度新入生向け少人数セミナーを開講

・「C. W. ニコル “アフアンの森” に学ぶ」	（アフアンの森）	柴田 昌三 他
・「フィールド実習 “森は海の恋人”」	（気仙沼）	白山 義久 他
・「木造校舎を造る：木の文化再生へ」	（北白川試験地ほか）	芝 正己 他
・「河口域生態学入門」	（舞鶴水産実験所）	山下 洋
・「海岸生物の生活史」	（瀬戸臨海実験所）	久保田 信
・「海洋生物の多様性」	（瀬戸臨海実験所）	白山 義久
・「魚類心理学入門」	（舞鶴水産実験所）	益田 玲爾
・「原生的な森林の働き」	（上賀茂試験地、芦生研究林）	中島 皇
・「森のつくりだすもの」	（和歌山研究林）	徳地 直子
・「森里海のつながりを清流古座川に見る」	（紀伊大島実験所）	梅本 信也
・「森林の再生と動態」	（芦生研究林ほか）	安藤 信
・「豊かな森をめざして！」	（芦生研究林）	芝 正己
・「節足動物学入門」	（瀬戸臨海実験所）	宮崎 勝己
・「お魚好きのための魚類研究入門」		田川 正朋 他
・「環境の評価」		吉岡 崇仁

(2) 2008 年 4 月～7 月

全学共通科目（リレー講義）「水圏生物学入門」開講

(3) 2008 年 3 月 25 日～4 月 7 日

瀬戸臨海実験所附属水族館において「日替わり解説ツアー・バックヤードツアー」を開催

参加者：日替わり解説ツアー（一般）71 人，バックヤードツアー（小学生以上）107 人（3 月 25 日から）

(4) 2008 年 4 月 15 日～2009 年 1 月 20 日

和歌山研究林において，和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催でウッズサイエンスを開講（週 1 回・計 20 回）

(5) 2008 年 4 月 19 日，5 月 24 日

瀬戸臨海実験所附属水族館において，きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験・バックヤード体験学習」開催（一般（小学生以上）5 人）

(6) 2008 年 5 月 1 日

NaGISA プロジェクトに特定有期雇用教員（助教）を採用

(7) 2008 年 5 月 2 日

舞鶴水産実験所が，曹洞宗京都府宗務所婦人会総会における特別講演「日本海から見える食の環境」へ講師派遣

(8) 2008 年 5 月 5 日

和歌山県串本町田原において，紀伊田原湿地の復元をめざす研究会（紀伊大島実験所・紀伊田原ウェットランドの会共催）を開催

(9) 2008 年 5 月 7 日

須崎市立市民文化会館において，シンポジウム「木を“生かして生きる”社会をつくるために」を共催（高知大学大学院黒潮海洋科学研究科・須崎市） 参加者 500 人

(10) 2008 年 5 月 10 日

上賀茂試験地において「2008 年度上賀茂試験地春の自然観察会」を開催 参加者 30 人（応募 59 人）

(11) 2008 年 5 月 14 日

和歌山研究林において，和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催で「SIMIZU タイム」（ふるさと体験）

- を実施（1年生 19人）
- (12) 2008年5月18日
全日空「私の青空 阿蘇くまもと空港」においてフィールドセミナーを開講
- (13) 2008年5月22日
芦生研究林において、地域開放特別事業「学校の目の前を流れる由良川の源流を訪ねる（綾部市立東綾小学校の総合的な学習の時間）」を実施（1年生 16人）
- (14) 2008年5月29日
木谷雅人理事が芦生研究林を視察（ランチミーティング）
- (15) 2008年5月30日
和歌山研究林において、有田川町立八幡小学校との共催で、総合的な学習の時間「森は友だち森林の町清水」を実施（5年生 15人）
- (16) 2008年5月30日
清流の都・静岡創造推進協議会総会において基調講演「清流を都市も含めた森里海連環の視点から考える」
- (17) 2008年5月31日
全日空「私の青空 岡山空港・岡崎嘉平太の森」においてフィールドセミナーを開講
- (18) 2008年5月31日
芦生研究林において「芦生の森自然観察会 入門編 『春の森を歩きながら樹木観察をしよう』」を開催
参加者 17人（応募者 83人）
- (19) 2008年6月4日
白浜町中央公民館において、第1回しらはまの海の生き物から学ぶ（講座）を開催（瀬戸臨海実験所・白浜町中央公民館・白浜町教育委員会と共催）
- (20) 2008年6月11日
瀬戸臨海実験所において、第2回しらはまの海の生き物から学ぶ（講座）として、研究施設見学と水族館体験学習を開催（白浜町中央公民館・白浜町教育委員会と共催） 参加者 11人
- (21) 2008年6月23日
父島において、小笠原エコツアーを実施（NPO 法人エコロジー・カフェ共催）
- (22) 2008年6月23日
舞鶴水産実験所において、京都府立西舞鶴高等学校理数探究科の生徒に対し講義（SPP 連携講座）を実施（44人）
- (23) 2008年6月25日
北海道研究林において、標茶町立沼幌小学校との共催で木工教室を実施（全学年 12人）
- (24) 2008年6月25日
舞鶴水産実験所が、京都府立海洋高校による舞鶴市竜宮浜周辺ダイビングマップ作成の協力（3年生 18人）
- (25) 2008年6月26日
串本町役場古座分庁舎において、講演「南紀古座川一枚岩のヘリトリゴケ」（紀伊大島実験所・古座コミュニティ・カレッジ和歌山県立串本古座高等学校主催、紀伊大島実験所後援）
- (26) 2008年7月3日
北海道大学における持続的農業生産に関する国際会議 2008（ICSA2008）において、京都大学生態学研究センターと共同でセッション「Adaptive Management of Biodiversity」を開催
- (27) 2008年7月5日
和歌山県古座川町において「第7回古座川シンポジウム」を開催（紀伊大島実験所、古座川流域協議会共催）
参加者 85人
- (28) 2008年7月8日
芦生研究林において、水生生物観察会を実施 参加者 8人（知井小学校4年生）
- (29) 2008年7月8日
舞鶴水産実験所において、綾部市立東陵中学校に対して総合学習（「中学生由良川サミット」の発表に向けた水質調査等）を実施（1年生 15人）
- (30) 2008年7月11日
瀬戸臨海実験所において、海洋観測研究実習船「ヤンチナ」完成披露会を開催（尾池総長他参加）

- (31) 2008 年 7 月 19 日～8 月 31 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、日替わり解説ツアーと、バックヤードツアーを毎日開催
参加者：日替わり解説ツアー（一般）373 人、バックヤードツアー（小学生以上）368 人
- (32) 2008 年 7 月 22 日
芦生研究林において、美山町第 4 学年合同自然体験教室「美山っ子グリーンワールド」を開催 参加者 37 人
（南丹市美山町内小学校共催）
- (33) 2008 年 7 月 22～24 日
舞鶴水産実験所において、京都教育大学附属高等学校のスーパーサイエンススクール（SSH 事業）クラスの臨海実習参加者に対して、特別講義と実習（1 年生 19 人）
- (34) 2008 年 7 月 24～25 日
舞鶴水産実験所が、京都府立西舞鶴高等学校において、サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP 事業）による講師派遣（39 人）
- (35) 2008 年 7 月 25 日～27 日
フィールド科学教育研究センター公開講座 2008「森のしくみとその役割」を芦生研究林において開催
参加者 33 人（応募者 46 人）
- (36) 2008 年 7 月 27～30 日
舞鶴水産実験所が、兵庫県立西宮今津高等学校に対して、「フィールド科学実習」（大江山での森林実習と舞鶴湾での海洋実習）を実施（2 年生 22 人）
- (37) 2008 年 7 月 31 日～8 月 2 日
舞鶴水産実験所が、京都府立南陽高等学校において、サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP 事業）「南陽高校サイエンスリサーチ科夏季臨海実習」の事前講義や臨海実習（44 人）
- (38) 2008 年 8 月 2 日
全日空「私の青空 広島空港」においてフィールドセミナーを開講
- (39) 2008 年 8 月 5～9 日
全学共通科目（1～4 回生対象）森里海連環学実習 A（芦生研究林－由良川－丹後海コース）を開講（5 人）
- (40) 2008 年 8 月 10 日
京漁連の舞鶴地方卸売市場周辺における「ふるさと海づくり大会」に舞鶴水産実験所が企画展示部門で参加（京都府と京都府漁業協同組合連合会の主催）。
- (41) 2008 年 8 月 24 日
高知県須崎市において、シンポジウム「仁淀川の森と水を考える」開催（仁淀川漁業共同組合主催・フィールド研後援） 参加者 約 400 人
- (42) 2008 年 8 月 24～25 日
芦生研究林が、大学等地域開放特別事業として、森林体験学習を開催（共催：和歌山県立有田中央高等学校清水分校、ANA「私の青空」）。参加者 1 年生 22 人
- (43) 2008 年 8 月 28 日～9 月 5 日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習（国立大学法人臨海臨湖実験所長会議 主催）
- (44) 2008 年 8 月 29 日～9 月 4 日
全学共通科目（1～4 回生対象）森里海連環学実習 C（夏の北海道実習）を開講
- (45) 2008 年 8 月 30 日
「由良川フォーラム（第 4 回）～自然と暮らす 自然とつながる～」を綾部市において開催（京都府中丹広域振興局・フィールド科学教育研究センター共催） 参加者 200 人
- (46) 2008 年 9 月 6 日
舞鶴水産実験所において、兵庫県立神戸高等学校の生徒に対して実習（SSH 事業）を実施。参加者 33 人
- (47) 2008 年 9 月 12 日
舞鶴水産実験所が、第八管区海上保安業務に関し感謝状を受贈。
- (48) 2008 年 9 月 19～25 日
全学共通科目（1～4 回生対象）森里海連環学実習 B（紀伊半島の森と里と海）を開講（日本財団助成実習）
- (49) 2008 年 9 月 20 日
舞鶴水産実験所において、京都府立舞鶴西高等学校の生徒に対して指導と講義（SPP 事業）を実施。参加者 47 人

- (50) 2008 年 9 月 21 日
京都大学ジュニアキャンパス 2008 において、「森の働き 木・水・土から見える「無用の用」」を開講、および、北白川試験地において樹木識別実習・北白川試験地およびその周辺で樹木を見学。
- (51) 2008 年 9 月 28 日
第 5 回時計台対話集会を開催（生態研と共催）。参加者約 270 人／講演：只木良也（名古屋大学名誉教授）・向井宏（北海道大学名誉教授） パネルディスカッション：吉岡崇仁，上野正博，椿宜高，谷内茂雄，奥田昇（パネラー），益田玲爾（コーディネーター）
- (52) 2008 年 10 月 1 日
海城陸域統合管理学研究部門が発足（日本財団寄附講座）
- (53) 2008 年 10 月 1～3 日
和歌山研究林において、有田川町立八幡中学校との共催で総合的な学習の時間「職業体験学習」を実施（2 年生 3 人）
- (54) 2008 年 10 月 3 日
京都大学シニアキャンパス 2008 の自由な学びの時間において、ミニゼミ「京都大学キャンパスの植物を学ぶ」を実施 参加者 5 人
- (55) 2008 年 10 月 3 日～
全学共通科目（リレー講義）「森里海連環学」を開講（日本財団助成講義）
- (56) 2008 年 10 月 3 日～
全学共通科目（リレー講義）「海城・陸域統合管理論」を開講（日本財団助成講義）
- (57) 2008 年 10 月 3 日～
全学共通科目（リレー講義）「森林学」を開講
- (58) 2008 年 10 月 9, 27 日, 29 日
和歌山研究林において、有田川町産業課との共催で「紀の国森づくり基金活用事業」の一環として町内川下の小学生を対象に「森とあそぶまなぶ」森林体験学習を実施（4 小学校 4, 5 年生計 130 人・教諭他計 31 人）
- (59) 2008 年 10 月 18 日
全日空「私の青空 中部国際空港・八百津めい想の森」においてフィールドセミナーを開講
- (60) 2008 年 10 月 18 日, 12 月 13 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験・バックヤード体験学習」（和歌山県教育委員会と共催・参加者 13 人）
- (61) 2008 年 10 月 25 日
芦生研究林において、「芦生の森自然観察会」を実施 参加者 18 人（応募者 33 人）
- (62) 2008 年 10 月 25 日
全日空「私の青空 中部国際空港・（三宅島）」においてフィールドセミナーを開講
- (63) 2008 年 10 月 26 日
瀬戸臨海実験所において、和歌山県立向陽高校の生徒に対して実習（SSH 事業）
- (64) 2008 年 11 月 8 日
北白川試験地において、第 3 回京都大学ホームカミングデイ・北部キャンパス見学ツアーを実施
- (65) 2008 年 11 月 8 日
上賀茂試験地において、第 3 回エコの寺子屋を開講 参加者 21 人
- (66) 2008 年 11 月 8 日～9 日
北海道研究林標茶区において、標茶町教育委員会リーダー養成講座「しべちゃアドベンチャースクール」を開催（北海道研究林後援） 参加者 小中高生 14 人
- (67) 2008 年 11 月 15 日
上賀茂試験地において、「2008 年度上賀茂試験地秋の自然観察会」を開催 参加者 30 人（応募者 41 人）
- (68) 2008 年 11 月 15 日
瀬戸臨海実験所において、「白浜の自然観察会」を開催 参加者 11 人
- (69) 2008 年 11 月 24 日
パシフィコ横浜（世界水産学会議）において、サバ大学の教員・大学院生との交流会
- (70) 2008 年 11 月 27 日, 12 月 24 日, 2009 年 1 月 28 日
海城陸域統合管理学部門が、海城陸域統合管理学セミナーを開催（月 1 回）

- (71) 2008 年 11 月 27 日
助成講座「海域陸域統合管理学」の設立記念面談（日本財団理事長・京大総長・フィールド研センター長）
- (72) 2008 年 11 月 29～30 日
放送大学面接授業を瀬戸臨海実験所で開催 参加者 18 人
- (73) 2008 年 12 月 13 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験・バックヤード体験学習」（和歌山県教育委員会と共催・参加者 7 人）
- (74) 2008 年 12 月 16～17 日
概算要求「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業」キックオフミーティングを開催
- (75) 2008 年 12 月 25～1 月 7 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、「日替わり解説ツアー・バックヤードツアー」を毎日開催
参加者：日替わり解説ツアー 40 人、バックヤードツアー 69 人
- (76) 2009 年 1 月 14 日
有田川町立小川小学校において、有田川町産業課との共催で講義を実施（4 年生 15 人）
- (77) 2009 年 1 月 20 日
和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催でウッズサイエンスを開講
- (78) 2009 年 1 月 31 日
メルパルク京都において、第 1 回神戸大学・京都大学合同市民公開講座を開催（神戸大学大学院海事科学研究科、フィールド研共催 日本財団後援） 参加者約 80 人
- (79) 2009 年 1 月 31 日～2 月 1 日
北海道研究林標茶区において、標茶町教育委員会リーダー養成講座「しべちゃアドベンチャースクール」を開催（北海道研究林後援） 参加者 小中高生 10 人
- (80) 2009 年 2 月 7 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験・バックヤード体験学習」（和歌山県教育委員会と共催・参加者 16 人）
- (81) 2009 年 2 月 26 日
和歌山県古座川町において「第 8 回古座川シンポジウム」を開催（紀伊大島実験所、古座川流域協議会共催）
参加者 42 人
- (82) 2009 年 3 月 7 日
厚岸町情報館「本の森」において地域連携講座「厚岸湖と厚岸湾はなぜ生産性が高いのか？」を開催（厚岸町共催・日本財団後援）
- (83) 2009 年 3 月 14 日
メルパルク京都において、第 2 回神戸大学・京都大学合同市民公開講座を開催（神戸大学大学院海事科学研究科、フィールド研共催 日本財団後援） 参加者約 50 人
- (84) 2009 年 3 月 14 日
京都大学附置研究所・センターシンポジウム「京都からの提言ー21 世紀の日本を考える（第 3 回）」を開催（京都大学附置研究所・センター主催・名古屋名鉄ホール）
- (85) 2009 年 3 月 25 日～28 日
瀬戸臨海実験所において、2008 年度公開臨海実習（春期）を実施
- (86) 2009 年 3 月 25 日～31 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において「日替わり解説ツアー・バックヤードツアー」を毎日開催
参加者：日替わり解説ツアー（一般）71 人、バックヤードツアー（小学生以上）107 人

[2009 年度（平成 21 年度）]

- (1) 2009 年 4 月 1 日
森里海連環学プロジェクト支援室に特定研究員が着任

(2) 2009 年 4 月～

2009 年度新入生向け少人数セミナーを開講

・「C. W. ニコル “アフエンの森” に学ぶ」	(アフエンの森)	柴田 昌三 他
・「フィールド実習 “森は海の恋人”」	(気仙沼)	白山 義久 他
・「河口域生態学入門」	(舞鶴水産実験所)	山下 洋
・「海岸生物の生活史」	(瀬戸臨海実験所)	久保田 信
・「海洋生物の多様性」	(瀬戸臨海実験所)	白山 義久
・「原生的な森林の働き」	(上賀茂試験地, 芦生研究林)	中島 皇
・「森のつくりだすもの」	(和歌山研究林)	徳地 直子
・「森里海のつながりを清流古座川に見る」	(紀伊大島実験所)	梅本 信也
・「海産無脊椎動物-分類群と形の多様性」	(瀬戸臨海実験所)	宮崎 勝己
・「豊かな森をめざして！」	(芦生研究林)	芝 正己
・「木造校舎を造る：木の文化再生へ」	(北白川試験地ほか)	柴田 昌三 他
・「環境の評価」	(芦生研究林)	吉岡 崇仁
・「瀬戸内に見る森里海連環」	(徳山試験地)	中島 皇
・「サンゴ礁生態学入門」	(横浪林海実験所)	深見 裕伸
・「日本海に遊ぶ～日本海学入門」	(舞鶴水産実験所)	上野 正博

(3) 2009 年 4 月～7 月

全学共通科目 (リレー講義)「水圏生物学入門」開講

(4) 2009 年 3 月 25 日～4 月 7 日

瀬戸臨海実験所附属水族館において、日替わり解説ツアー (一般対象) およびバックヤードツアー (小学生以上対象) を開催 参加者 解説ツアー74 人・バックヤードツアー102 人

(5) 2009 年 4 月 14 日～ (通年開催)

和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催でウッズサイエンスを開講(週 1 回)

(6) 2009 年 4 月 18 日～

古座川合同調査 (随時開催)

(7) 2009 年 4 月 23 日

塩田浩平理事が舞鶴水産実験所を視察

(8) 2009 年 4 月 25 日, 5 月 23 日, 6 月 20 日

瀬戸臨海実験所附属水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験・バックヤード体験学習」開催 参加者 磯採集体験 42 人・バックヤード体験 52 人

(9) 2009 年 4 月 28 日

向井宏特任教授が、「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰 (調査・学術研究部門) を受ける

(10) 2009 年 4 月 29 日

上賀茂試験地において「2009 年度上賀茂試験地春の自然観察会」を開催 参加者 43 人 (応募者 106 人)

(11) 2009 年 4 月 30 日～

海域陸域統合管理学研究部門が、海域陸域統合管理学セミナーを開催 (およそ月 1 回開催)

(12) 2009 年 5 月 1 日

森里海連環学プロジェクト支援室長が交代

(13) 2009 年 5 月 1 日

瀬戸臨海実験所に特定研究員が着任

(14) 2009 年 5 月 9 日

上賀茂試験地において、NP0 法人エコロジー・カフェとの共催で第 4 回エコの寺子屋を開催 参加者 16 人

(15) 2009 年 5 月 13 日

和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催で「SIMIZU タイム」(ふるさと体験)を実施 (1 年生 21 人)

(16) 2009 年 5 月 21 日

塩田浩平理事・大西有三理事が瀬戸臨海実験所を視察

- (17) 2009 年 5 月 22 日
徳山試験地において、周南市教育委員会との共催で「ふるさと文化財の森」看板除幕式及び説明会を開催 参加者一般 12 人及び報道関係 4 社
- (18) 2009 年 5 月 27 日
森里海連環学プロジェクト支援室が、第 2 実験室を整備（農学部総合館 N-188）
- (19) 2009 年 5 月 30 日
芦生研究林において「芦生の森自然観察会 入門編 『春の森を歩きながら樹木観察をしよう』」を開催 参加者 25 人（応募者 62 人）
- (20) 2009 年 5 月 31 日
全日空「私の青空・長崎空港（大村市）」において、フィールドセミナー（青空塾）を開講
- (21) 2009 年 6 月 1 日
森里海連環学プロジェクト支援室に特定研究員が着任
- (22) 2009 年 6 月 3 日
芦生研究林において、京都市教育委員会と共催で長期宿泊・自然体験推進事業（地域開放事業）を開催 参加者 69 人（京都市立桂徳小学校 5 年生 62 人，教員・学生ボランティア 7 人）
- (23) 2009 年 6 月 4 日
平井紀夫監事が芦生研究林を訪問
- (24) 2009 年 6 月 5 日
瀬戸臨海実験所において、特別セミナー「歯鯨類で最大種マッコウクジラの田辺湾音迷入に際し」を開催
- (25) 2009 年 6 月 8 日
和歌山研究林において、有田川町立八幡小学校との共催で、総合的な学習の時間「森は友だち森林の町清水」を実施（5 年生 9 人）
- (26) 2009 年 6 月 11 日
江崎信芳理事が徳山試験地を視察
- (27) 2009 年 6 月 20 日
芦生研究林において、NPO 法人芦生自然学校「マザーツリープロジェクト」に協力
- (28) 2009 年 6 月 22 日
舞鶴水産実験所において、京都府立西舞鶴高等学校理数探究科の生徒に対し講義（SPP 連携講座）を実施（44 人）
- (29) 2009 年 6 月 24 日
北海道研究林において、標茶町立沼幌小学校との共催で木工教室を実施（全学年 11 人）
- (30) 2009 年 6 月 30 日
和歌山県串本町・田原公民館における紀伊田原ウェットランドの会・第 2 回シンポジウムにおいて、講演「ウェットランドからの贈り物：田原湿地の特徴と保全」（紀伊田原ウェットランドの会主催，紀伊大島実験所共催）参加者 29 人
- (31) 2009 年 7 月 1 日
フィールド研公開サーバを情報環境機構の仮想サーバに移転（新ドメイン名 fserc.kyoto-u.ac.jp）
- (32) 2009 年 7 月 3 日
和歌山県古座川町において、古座川流域協議会との共催で「第 9 回古座川シンポジウム」を開催 参加者 65 人
- (33) 2009 年 7 月 4 日
紀伊大島実験所において、和歌山県日高高等学校と共催で学習会「自然域と里域」を実施 参加者 28 人
- (34) 2009 年 7 月 11 日
上賀茂試験地において、京都市北区と共催で北区民環境セミナーを開催 参加者 58 人
- (35) 2009 年 7 月 18 日～8 月 31 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、日替わり解説ツアー及びバックヤードツアーを毎日開催 参加者 549 人
- (36) 2009 年 7 月 21～23 日
舞鶴水産実験所において、京都教育大学附属高等学校のスーパーサイエンススクール（SSH）クラスの臨海実習参加者に対して特別講義と実習（1 年生 22 人）
- (37) 2009 年 7 月 23～24 日
舞鶴水産実験所が、京都府立西舞鶴高等学校において、サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP 事

- 業)による講師派遣(39人)
- (38) 2009年7月24日
舞鶴水産実験所が、舞鶴市主催「市民の学びと実践」連続講座「2. 地球市民のための環境学基礎コース ～地球市民“舞鶴人”を目指して～」に講師派遣(講演「日本海に遊ぶ」)
 - (39) 2009年7月24～26日
フィールド科学教育研究センター公開講座2009「森のしくみとその役割」を芦生研究林において開催
参加者35人(応募者36人)
 - (40) 2009年7月27～28日
舞鶴水産実験所において、兵庫県立西宮今津高等学校に対して「フィールド科学実習」を実施(2年生22人)
 - (41) 2009年7月29～30日
舞鶴水産実験所における滋賀県内の理数系高校教員を対象とする研修会に協力(滋賀県総合教育センター主催・参加者9人)
 - (42) 2009年7月30日
瀬戸臨海実験所が、白浜町中央公民館羽衣分館において、「水族館のいきもの学習」を開催 参加者24人
 - (43) 2009年7月30日
芦生研究林における第20回緑の少年団全国大会に協力(京都府主催・参加者104人)
 - (44) 2009年7月31日
芦生研究林において、南丹市美山町内小学校との共催で、美山町第4学年合同自然体験教室「美山っ子グリーンワールド」を開催 参加者38人
 - (45) 2009年7月31日
舞鶴水産実験所が、京都府立南陽高等学校において、サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP事業)「南陽高校サイエンスリサーチ科夏季臨海実習」の事前講義や臨海実習(43人)
 - (46) 2009年8月1～2日
瀬戸臨海実験所において、NPO法人エコロジー・カフェとの共催で第5回南紀白浜まなびツアーを実施
参加者2人
 - (47) 2009年8月2日
全日空「私の青空・広島空港・アサヒの森」において、フィールドセミナー(青空塾)を開講
 - (48) 2009年8月6日
紀伊大島実験所において、和歌山県日高地方科学教育研究会との共催で研究会「里域と自然域の保全」を開催
参加者12人
 - (49) 2009年8月6～10日
全学共通科目(1～4回生対象)森里海連環学実習A(芦生研究林ー由良川ー丹後海コース)を開講(日本財団助成実習・13人)
 - (50) 2009年8月11日
舞鶴水産実験所で研究を行っている大学院生の福西悠一氏が第33回国際仔稚魚学会の優秀口頭発表賞を受賞
 - (51) 2009年8月23日
高知県土佐市グランディール(旧ウエディングプラザ寿苑)において、シンポジウム「仁淀川の森と水を考える」を開催(仁淀川漁業協同組合主催・フィールド研後援) 参加者約400人
 - (52) 2009年8月24～25日
和歌山研究林が芦生研究林・上賀茂試験地において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催で、大学等地域開放特別事業として、森林体験学習を開催(ANAとの提携)。参加者1年生20人
 - (53) 2009年8月24日～29日
NPO法人エコロジー・カフェと共催で「森里海学びツアーin志津川・気仙沼」を開催
 - (54) 2009年8月30日～9月5日
全学共通科目(1～4回生対象)森里海連環学実習C(夏の北海道実習)を開講(日本財団助成実習・22人)
 - (55) 2009年9月3日～9月11日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習(国立大学法人臨海臨湖実験所長会議 主催・参加者18人)
 - (56) 2009年9月5日
舞鶴市民会館において、第1回由良川市民講座「森・里・海の対話」を開催(日本財団助成) 参加者166人

- (57) 2009年9月5日
舞鶴水産実験所において、兵庫県立神戸高等学校の生徒に対して実習（SSH事業）を実施（28人）
- (58) 2009年9月17日
74回陸水学会において、谷尾陽一氏（大学院生）ポスター賞受賞
- (59) 2009年9月17日・10月16日・22日
和歌山研究林において、有田川町産業課との共催で「紀の国森づくり基金活用事業」の一環として町内川下の小学生を対象に「森とあそぶまなぶ」森林体験学習を実施（有田川町産業課との共催・17日：有田川町立田殿小学校4年生35人・10月16日：石垣小学校42人・22日：小川小学校、五西月小学校20人）
- (60) 2009年9月18～24日
全学共通科目（1～4回生対象）森里海連環学実習B（紀伊半島の森と里と海）を開講（日本財団助成実習・12人）
- (61) 2009年9月26日
京都大学ジュニアキャンパス2009において、中学生向けゼミ「森里海連環学 森と里と海のつながりと暮らし」を実施 参加者17人（京都市教育委員会と共催）
- (62) 2009年9月27日
和歌山研究林において、和歌山県との共催で、城ヶ森鉾尖県立自然公園新規指定記念イベント「親子で森について学ぼう！In 京都大学和歌山研究林」を開催 参加者13人
- (63) 2009年10月1日
海域陸域統合管理学研究部門に特定准教授が着任
- (64) 2009年10月2日～
全学共通科目（リレー講義）「森里海連環学」を開講（日本財団助成講義）
- (65) 2009年10月2日～
全学共通科目（リレー講義）「海域・陸域統合管理論」を開講（日本財団助成講義）
- (66) 2009年10月2日～
全学共通科目（リレー講義）「森林学」を開講
- (67) 2009年10月4日
高知県仁淀川町コミュニティセンターにおいて、仁淀川地域連携講座「森から里を経て海に至る連環を再生するために 日本の木文化創出をめざして」を開催。
- (68) 2009年10月10日（利用実績報告では16日）
舞鶴水産実験所において、南丹市立八木小学校が総合的な学習の時間として講義と実習（5年生27人）
- (69) 2009年10月12日
芦生研究林において、地域開放事業として「舞鶴ネイチャーガイド養成講座」を実施 参加者28人
- (70) 2009年10月13日
連携研究推進棟完成披露式及び海域陸域統合管理学研究部門発足披露式を開催
- (71) 2009年10月21日
芦生研究林において、地域開放事業として「南丹市の環境を守り育てる会」による研修を実施 参加者13人
- (72) 2009年10月21日～23日
和歌山研究林において、有田川町立八幡中学校との共催で総合的な学習の時間「職業体験学習」を実施（2年生4人）
- (73) 2009年10月22日
瀬戸臨海実験所が、白浜町中央公民館「老人大学」講座において、白浜町中央公民館との共催で講演「海にはどれくらいの種類の生物がいるのだろうか？－臨海実験所がやってきたこと－」を開催 参加者45人
- (74) 2009年10月24日
全日空「私の青空 能登空港・きりこの森」においてフィールドセミナー（青空塾）を開講
- (75) 2009年10月24日
芦生研究林において、「芦生の森自然観察会」を開催実施 参加者20人（応募者110人）
- (76) 2009年10月26日
芦生研究林において、「ふる里ウォーク、秘境芦生の森を歩く」を開催（知井振興会17人）
- (77) 2009年10月29日
芦生研究林において、京都市教育委員会 長期宿泊・自然体験事業地域開放事業を実施（京都市立一橋・今熊野・

- 月輪小学校児童 93 人，教員 9 人)
- (78) 2009 年 10 月 30 日
芦生研究林において，京都府立北桑田高等学校森林リサーチ科 1 年生に対して，地域開放事業として「環境科学基礎」の実習を実施（28 人，教員 9 人）
- (79) 2009 年 10 月 31 日，11 月 28 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において，きのくに県民カレッジ連携講座「水族館のバックヤード体験学習」開催
参加者 25 人
- (80) 2009 年 10 月 31 日
紀伊大島実験所において，和歌山県東牟婁振興局と共催で，照葉樹林構成植物の同定に関する研修会を開催
参加者 16 人
- (81) 2009 年 11 月 5 日
和歌山研究林において，有田川町立八幡小学校との共催で，総合的な学習の時間「森を守ろう」を開催
（5 年生 9 人）
- (82) 2009 年 11 月 5 日
芦生研究林において，地域開放事業として美山町環境保全対策協議会の研修を実施（11 人）
- (83) 2009 年 11 月 6 日
京都府南丹広域振興局が開催した京都大学（正門横カンフォーラ前）にて京都美山鹿肉キャンペーン（森の恵み「美山鹿」京都デビュー試食会）に，芦生研究林が協力
- (84) 2009 年 11 月 7 日～8 日
北海道研究林標茶区において，ジュニアリーダー養成講座「しべちやアドベンチャースクール」の第 4 講座（ネイチャースクール）を開催（北海道研究林後援） 参加者 16 人
- (85) 2009 年 11 月 11 日
芦生研究林において，JICA 平成 21 年度集団研修（「森林環境・資源研究」コース）を支援 参加者 7 人
- (86) 2009 年 11 月 14 日
上賀茂試験地において，「秋の自然観察会」を開催 参加者 28 人（応募者 78 人）
- (87) 2009 年 11 月 16 日
瀬戸臨海実験所が白浜町中央公民館との共催で，講演会「海の中の驚くべき生き物の話ー海の生き物多様性を探るー」を開催 参加者 40 人
- (88) 2009 年 11 月 21 日
別寒辺牛川地域連携講座「森と海をつなぐ川の環境をどう守るか」を標茶町開発センターにて開催
- (89) 2009 年 11 月 30 日
紀伊大島実験所において，和歌山県串本町立出雲小学校，和歌山県，串本町との共催で，野外学習会「植物の分類」を開催 参加者 16 人
- (90) 2009 年 12 月 1 日
和歌山研究林長が交代
- (91) 2009 年 12 月 1 日
NaGISA プロジェクトに特定研究員が着任
- (92) 2009 年 12 月 18 日
京都大学理学研究科 5 号館北棟の新営に伴う北白川追分町の発掘調査において出土した縄文時代晩期後半（約 2600 年前）の製材痕跡のある樹幹を，芦生研究林のトラックにて京大総合博物館に搬送
- (93) 2009 年 12 月 19 日
第 6 回時計台対話集会「木文化創出～森里海連環学がひらく未来社会」を開催 参加者約 165 人
講演：あん・まくどなど（国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長）・平沼孝啓（建築家）
パネルディスカッション：長谷川 尚史，吉岡 崇仁，あん・まくどなど，平沼 孝啓（パネリスト），柴田 昌三（コーディネーター）
- (94) 2009 年 12 月 26 日～1 月 7 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において，日替わり解説ツアー及びバックヤードツアーを毎日開催
参加者：日替わり解説ツアー 95 人，バックヤードツアー 108 人

- (95) 2010 年 1 月 14～15 日
京都テルサにおいて、国際シンポジウム International Symposium of Integrated Coastal Management for Marine Biodiversity in Asia（アジアの海洋生物多様性のための海域陸域統合統合管理学に関する国際シンポジウム）を開催（日本財団後援） 参加者 63 人
- (96) 2010 年 1 月 23 日
シンポジウム「対馬から「林業再生」を考える ―― 森里海連環思想の提案」を対馬市交流センターにて開催（対馬森林組合主催・フィールド研他後援）
- (97) 2010 年 1 月 24 日
上賀茂試験地において、京都自然教室との共催で、講演と観察会「世界の松について」を開催（参加者 45 人）
- (98) 2010 年 1 月 30 日～31 日
北海道研究林標茶区において、標茶町教育委員会リーダー養成講座「しべちゃアドベンチャースクール」を開催（北海道研究林後援） 参加者 小中高生 10 人
- (99) 2010 年 2 月 1 日 ～16 日
瀬戸臨海実験所附属水族館が、第 2・3・4 水槽室の補修・改修工事のため休館。
- (100) 2010 年 2 月 17 日
舞鶴水産実験所において、京都府立海洋高等学校海洋科学科 2 年生に対して講演「若狭湾の底曳網漁でとれる魚について」
- (101) 2010 年 2 月 25 日
和歌山県古座川町において、古座川流域協議会との共催で「第 10 回古座川シンポジウム」を開催 参加者 75 人
- (102) 2010 年 3 月 1 日
NaGISA プロジェクトに特定研究員が着任
- (103) 2010 年 3 月 4 日
瀬戸臨海実験所附属水族館 403 号水槽にライブカメラを設置しインターネット上で公開開始（<http://webcam-aqua.pr.kyoto-u.ac.jp/local/camera.html>）
- (104) 2010 年 3 月 13 日
福岡県アクロス福岡において、第 5 回京都大学附置研究所・センターシンポジウム「京都からの提言―21 世紀の日本を考える」を開催。白山センター長が講演「海の生物を調べつくす挑戦」
- (105) 2010 年 3 月 20 日
舞鶴水産実験所が、舞鶴市中総合会館で開催された第 1 回舞鶴高等教育機関等合同 P R 事業において展示及び解説
- (106) 2010 年 3 月 25 日～31 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において「日替わり解説ツアー・バックヤードツアー」を開催
参加者：一般 41 人（3 月 31 日まで）
- (107) 2010 年 3 月 28 日～4 月 3 日
瀬戸臨海実験所において、2009 年度公開臨海実習（春期）を実施

[2010 年度（平成 22 年度）]

- (1) 2010 年 4 月 1 日
北海道研究林長・芦生研究林長・上賀茂試験地長・北白川試験地長が交代
- (2) 2010 年 4 月 1 日
森林フィールド管理部門の勤務地が、北白川試験地から北海道研究林に移動
- (3) 2010 年 4 月～
2010 年度新入生向け少人数セミナーを開講
- | | | |
|---------------------------|-----------|---------|
| ・「C. W. ニコル “アフエンの森” に学ぶ」 | (アフエンの森) | 柴田 昌三 他 |
| ・「フィールド実習 “森は海の恋人”」 | (気仙沼) | 白山 義久 他 |
| ・「木造校舎を造る：木の文化再生へ」 | (上賀茂試験地) | 柴田 昌三 他 |
| ・「環境と魚の河口域生態学入門」 | (舞鶴水産実験所) | 山下 洋 |

- | | | |
|----------------------|-----------------|---------|
| ・「海岸生物の生活史」 | (瀬戸臨海実験所) | 久保田 信 |
| ・「海洋生物の多様性」 | (瀬戸臨海実験所) | 白山 義久 |
| ・「魚類心理学入門」 | (舞鶴水産実験所) | 益田 玲爾 |
| ・「原生的な森林の働き」 | (上賀茂試験地、芦生研究林) | 中島 皇 |
| ・「森のつくりだすもの」 | (和歌山研究林) | 徳地 直子 |
| ・「森里海のつながりを清流古座川に見る」 | (紀伊大島実験所) | 梅本 信也 |
| ・「豊かな森をめざして！」 | (芦生研究林) | 芝 正己 |
| ・「海産無脊椎動物一分類群と形の多様性」 | (瀬戸臨海実験所) | 宮崎 勝己 |
| ・「お魚好きのための魚類研究入門」 | (舞鶴水産実験所) | 田川 正朋 他 |
| ・「サンゴ礁生態学入門」 | (瀬戸臨海実験所) | 深見 裕伸 |
| ・「環境の評価」 | (芦生研究林) | 吉岡 崇仁 |
| ・「瀬戸内に見る森里海連環」 | (徳山試験地) | 中島 皇 |
| ・「京をめぐる森と人の暮らし」 | (上賀茂試験地・北白川試験地) | 寄元 道德 他 |
- (4) 2010 年 4 月～7 月
全学共通科目 (リレー講義)「水圏生物学入門」開講(日本財団助成講義)
- (5) 2010 年 4 月～
瀬戸臨海実験所において和歌山県紀の国森づくり基金活用事業「小・中・高・大連携による紀南地域の森林環境学習」として、田辺市内の会津川流域に位置する三栖小学校・高雄中学校・神島高等学校の 3 校を対象に、学習会、デジタルバックテストによる河川環境の調査、間伐体験の活動等を実施
- (6) 2010 年 3 月 28 日～4 月 3 日
瀬戸臨海実験所において、2009 年度公開臨海実習(春期)を実施 参加者 11 人
- (7) 2010 年 3 月 25 日～4 月 7 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において「日替わり解説ツアー・バックヤードツアー」を開催
参加者：一般 56 人、バックヤード(小学生以上) 64 人(うち 4 月 1 日以降は、それぞれ 37 人、42 人)
- (8) 2010 年 4 月 10 日～
古座川合同調査(随時開催)
- (9) 2010 年 4 月 15 日
大西珠江理事(財務担当)が舞鶴水産実験所を視察
- (10) 2010 年 4 月 17 日、5 月 15 日、6 月 12 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験・バックヤード体験学習」を開催 参加者 計 21 人
- (11) 2010 年 4 月 20 日～1 月 18 日 (通年開催)
和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催でウッズサイエンスを開講(週 1 回・計 25 回 3 年生 3 人)
- (12) 2010 年 4 月 24 日
全日空「私の青空・小松空港・安宅関の森」において、フィールドセミナー(青空塾)を開催
- (13) 2010 年 4 月 24 日
上賀茂試験地において「2010 年度上賀茂試験地春の自然観察会」を開催 参加者 25 人(応募 57 人)
- (14) 2010 年 5 月 11 日
舞鶴水産実験所において、京都府立海洋高等学校海洋科学学科の生徒に対して、講義と施設案内(27 人)
- (15) 2010 年 5 月 11 日・6 月 22 日・7 月 20 日・2011 年 1 月 13 日・2 月 21 日
海域陸域統合管理学研究部門が、海域陸域統合管理学セミナーを開催(日本財団助成) 参加者延べ 60 人
- (16) 2010 年 5 月 12 日
和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催で「SIMIZU タイム」(ふるさと体験)を実施(1 年生 24 人)
- (17) 2010 年 5 月 17 日
舞鶴水産実験所が、舞鶴生活学校定期総会において、講演「魚の目から見た舞鶴のゆたかさ」を実施(参加者 50 人)

- (18) 2010 年 5 月 22 日
全日空「私の青空・三宅島空港（三宅島）・アカコッコの森」において、フィールドセミナー（青空塾）を開講
- (19) 2010 年 5 月 29 日
舞鶴水産実験所において、兵庫県立神戸高等学校の生徒に対して実習（SSH 事業）を実施（42 人）
- (20) 2010 年 5 月 29～30 日
芦生研究林において、NPO 法人エコロジー・カフェと共催で、第 5 回エコの寺子屋を開講 参加者 10 人
- (21) 2010 年 6 月 1 日～2011 年 1 月 10 日
瀬戸臨海実験所において、開館 80 周年記念特別展 内海富士夫展を開催
- (22) 2010 年 6 月 4 日
和歌山研究林において、有田川町立八幡小学校との共催で、総合的な学習の時間「森は友だち森林の町清水」を実施（5 年生 12 人）
- (23) 2010 年 6 月 5 日
芦生研究林において、芦生の森自然観察会 入門編「春の森を歩きながら樹木観察をしよう」を開催 参加者 21 人（応募者 195 人）
- (24) 2010 年 6 月 5 日
全日空「私の青空・根室中標津空港・シマフクロウの森」において、フィールドセミナー（青空塾）を開催
- (25) 2010 年 6 月 11 日
舞鶴水産実験所が綾部市中央公民館主催の綾部市ふるさと自然講座において、講演「日本海の生物と外来生物」
- (26) 2010 年 6 月 13 日、10 月 3 日、12 月 12 日
徳山試験地において、周南市「みどりの案内人養成プロジェクト」実行委員会と共催で、「みどりの案内人養成プロジェクト」特別講座を開催 参加者 6 月 20 人・10 月 18 人・12 月 14 人
- (27) 2010 年 6 月 15 日
大西珠枝理事（財務担当）が瀬戸臨海実験所を視察
- (28) 2010 年 6 月 22 日
北海道研究林において、標茶町立沼幌小学校との共催で木工教室を実施（2～6 年生 9 人）
- (29) 2010 年 6 月 25 日
舞鶴水産実験所が、京都府の SKY 大学主催の講座において、講演「海から見た舞鶴のゆたかさ」 参加者 45 人
- (30) 2010 年 6 月 30 日
和歌山県古座川町において「第 11 回古座川シンポジウム」を開催（紀伊大島実験所、古座川流域協議会共催）参加者 38 人
- (31) 2010 年 7 月 1 日
プロジェクト支援室・特定研究員が着任
- (32) 2010 年 7 月 1 日
6 月 30 日の理学研究協会の解散に伴い、7 月 1 日付で、京都大学が理学研究協会の土地、建物等（瀬戸臨海実験所）の資産を受け入れ
- (33) 2010 年 7 月 1 日
大西珠枝理事（財務担当）が上賀茂試験地を視察
- (34) 2010 年 7 月 1 日
人事異動 芝准教授 琉球大学へ異動／深見助教 宮崎大学へ異動
- (35) 2010 年 7 月 1 日
北白川試験地長が交替
- (36) 2010 年 7 月 12、22～23 日、9 月 18 日
舞鶴水産実験所において、文部科学省によるサイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP 事業）による「講座型学習活動（プラン A）」として、京都府立西舞鶴高等学校の生徒に対し講義を実施（理数探求科 2 年生 44 人 7 月 12 日は実習前講義・9 月 18 日は実習成果発表会）
- (37) 2010 年 7 月 16 日
京都産業会館における NPO 法人エコロジー・カフェ主催の第 3 回関西事務所シンポジウム「食文化と生物多様性から環境を考える」において、白山センター長が講演「海洋生物から見る生物多様性」
- (38) 2010 年 7 月 17 日
舞鶴水産実験所が、京都府立南陽高等学校において、サイエンスリサーチ科 1 年生に対して、講義「生物の多

- 様性とそれを探る科学的方法」と解剖学実習（40人）
- (39) 2010年7月24日
北海道研究林白糠区において、ミニ公開講座「自然観察、草木染め」を実施（参加者13人）
- (40) 2010年7月25日
時計台記念ホールにおいて、アサヒビール環境文化講座特別シンポジウム「自然の恵みを明日へ」を開催（アサヒビール株式会社、社団法人日本環境教育フォーラム主催、フィールド研共催）白山センター長がパネリストとして参加
- (41) 2010年7月27日
舞鶴水産実験所が、兵庫県立西宮今津高等学校に対して「フィールド科学実習」を実施（2年生19人）
- (42) 2010年7月27日
芦生研究林において、美山町第4年合同自然体験教室「美山っ子グリーンワールド」を開催 参加者41人（南丹市美山町内小学校共催）
- (43) 2010年7月28～30日
舞鶴水産実験所において、京都教育大学附属高等学校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）クラスの臨海実習参加者に対して特別講義と実習（1年生20人）
- (44) 2010年7月30日～8月1日
フィールド科学教育研究センター公開講座2010「森のしくみとその役割」を芦生研究林において開催 参加者23人
- (45) 2010年8月1日
北海道研究林標茶区において、ミニ公開講座「自然観察、草木染め」を実施（参加者10人）
- (46) 2010年8月1～31日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、日替わり解説ツアー及びバックヤードツアーを毎日開催 参加者526人
- (47) 2010年8月3～11日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習を実施（国立大学法人臨海臨湖実験所長会議 主催・4人）
- (48) 2010年8月3～4日
舞鶴水産実験所他において、京都府立南陽高等学校サイエンスリサーチ科のサイエンスキャンプとして、舞鶴臨海実習を実施（43人）
- (49) 2010年8月5日
平井紀夫監事が舞鶴水産実験所を訪問
- (50) 2010年8月8～12日
全学共通科目（1～4回生対象）森里海連環学実習A（芦生研究林－由良川－丹後海コース）を開講（日本財団助成実習・参加者10人）
- (51) 2010年8月16日
隔地教員研究室が、旧演習林本部事務室棟の改修工事のため、農学部総合館地階N032へ移転
- (52) 2010年8月17日
舞鶴水産実験所が舞鶴市小学校教育研究会社会科夏季研究会において講演「日本近海の水産資源と栽培漁業」参加者15人
- (53) 2010年8月18日
舞鶴水産実験所が、綾部市学校教育研究会（綾部市内の小中学校の理科部所属教員）の夏季研究会において、講義や指導 参加者25人
- (54) 2010年8月20日～25日
NPO法人エコロジー・カフェと共催で「森里海学びツアーin志津川・気仙沼」を開催
- (55) 2010年8月24日～25日
和歌山研究林が芦生研究林において、森林体験学習を開催（和歌山県立有田中央高等学校清水分校と共催、全日空との提携、1年生22人）
- (56) 2010年8月22日
高知県土佐市グランディール(旧ウエディングプラザ寿苑)において、「仁淀川の森と水を考える」シンポジウム2010を開催（仁淀川漁業協同組合主催・フィールド研後援）
- (57) 2010年8月29日～9月5日
北海道研究林標茶区・白糠区において、全学共通科目「北海道東部の人と自然」（農学学科目「研究林実習III

- 夏の北海道」の実施（18人）
- (58) 2010年8月31日
和歌山研究林において、有田川町立白馬中学校との共催で、総合的な学習の時間を実施（1年生9人）
- (59) 2010年9月6～8日
上賀茂試験地・芦生研究林・北白川試験地において、公開森林実習（人間環境大学他）を実施 参加者5人
- (60) 2010年9月6～12日
全学共通科目（1～4回生対象）森里海連環学実習C 京大・北大合同実習（夏の北海道実習）を開講（日本財団助成実習・京都大学7人、北海道大学10人）
- (61) 2010年9月10日
芦生研究林において、京都市立葛野小学校との共催で、総合的な学習の時間を実施（85人）
- (62) 2010年9月14日
舞鶴市商工観光センターで開催された「ネイチャーガイド養成講座」に舞鶴水産実験所が講師を派遣
- (63) 2010年9月16～22日
全学共通科目（1～4回生対象）森里海連環学実習B 京大・北大合同実習（紀伊半島の森と里と海）を開講（日本財団助成実習・京都大学6人、北海道大学9人）
- (64) 2010年9月17日・10月15日
和歌山研究林において、有田川町産業課との共催で「紀の国森づくり基金活用事業」の一環として町内川下の小学生を対象に「森とあそぶまなぶ」森林体験学習を実施（有田川町産業課との共催・9月17日：有田川町立田殿小学校4年生33人・10月15日：石垣小学校23人）
- (65) 2010年9月19日
舞鶴水産実験所が、舞鶴市西市民プラザで開催された第2回舞鶴高等教育機関等合同PR事業において展示解説及び講演「由良川の自然探検」 参加者500人
- (66) 2010年9月22～23日
瀬戸臨海実験所において、NPO法人エコロジー・カフェと共催で、第6回南紀白浜まなびツアーを開催 参加者1人
- (67) 2010年9月24日～26日
国際高等研究所において、国際高等研究所他と共催で、公開シンポジウム「森里海連環と地球的課題」を開催 参加者延べ178人
- (68) 2010年9月25日
京都大学ジュニアキャンパス2010において、中学生向けゼミ「森の作るおいしい水」を実施 参加者 中学生18人・保護者8人（京都市教育委員会と共催）
- (69) 2010年9月28日～30日
和歌山研究林において、総合的な学習の時間「職業体験学習」を開催実施（有田川町立八幡中学校との共催 2年生6人）
- (70) 2010年10月1日
里域フィールド管理部門の勤務地が、上賀茂試験地から北白川試験地に移動
- (71) 2010年10月5日～
全学共通科目（リレー講義）「森里海連環学ー森里海のつながりー」「沿岸環境保全学」「森林学」を開講（日本財団助成講義）
- (72) 2010年10月14日
芦生研究林において、京都市立大枝小学校との共催で、総合的な学習の時間を実施（76人）
- (73) 2010年10月18日～19日
財務部長が、瀬戸臨海実験所および和歌山研究林を視察
- (74) 2010年10月19日
舞鶴水産実験所において、舞鶴市立中保育所の子供たちに対して、ふるさと保育や環境モデル事業の一環として見学、講話（43人）
- (75) 2010年10月23日
徳山試験地において、櫛浜・久米・大島・杵島・菊川・中央公民館と共催で、周南市環境学習教室「森林とふれあい自分だけのオリジナル図鑑を作ってみよう」を開催（小学生27人）

- (76) 2010年10月26日～27日
塩田浩平理事（総務・人事担当）が北海道研究林を視察
- (77) 2010年10月29日
芦生研究林において、京都府立北桑田高等学校森林リサーチ科1年生に対して、「環境科学基礎」の校外学習を開催（30人）
- (78) 2010年10月30日
高知サンライズホテルにおいて、京都大学高知講演会・第2回仁淀川地域連携講座「森・里・海」を開催（日本財団助成） 参加者約150人
- (79) 2010年10月30日、12月4日、2011年2月6日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」を開催 参加者約26人
- (80) 2010年11月1日
川井秀一副理事（宇治・遠隔地キャンパス担当）が、瀬戸臨海実験所を視察
- (81) 2010年11月5日
舞鶴水産実験所において、舞鶴市立大浦小学校5・6年生を対象として、講演「環境について考えよう 舞鶴の海と魚」を実施（参加者34人）
- (82) 2010年11月6日
厚岸町情報館「本の森」において第3回別寒辺牛川地域連携講座「流域管理と住民参加ー環境保全の担い手へー」を開催（厚岸町・標茶町と共催・日本財団助成）参加者80人
- (83) 2010年11月6日～7日
北海道研究林標茶区において標茶町教育委員会「しべちャアドベンチャースクール」第4ステージを開催（北海道研究林後援）参加者17人
- (84) 2010年11月11日
和歌山研究林において、有田川町立八幡小学校との共催で、総合的な学習の時間「森を守ろう」を実施（5年生11人）
- (85) 2010年11月13日
上賀茂試験地において、「2010年上賀茂試験地秋の自然観察会」を開催 参加者33人（応募者37人）
- (86) 2010年11月13日
北白川試験地において、京都大学ホームカミングデー参加者の見学会を開催 参加者約34人
- (87) 2010年11月20日
第7回時計台対話集会「森里海をつなぐ人づくり」を開催 参加者210人
基調講演：田中 克（国際高等研究所フェロー）・久山 慶子（フィールドソサイエティー事務局長）
講演：天野 礼子（作家） 報告：上野 正博
パネルディスカッション：田中 克、久山 慶子、天野 礼子、上野 正博（パネリスト）、白山 義久（コーディネーター）
- (88) 2010年11月24日
吉田事業所産業医が和歌山研究林を巡視
- (89) 11月26日～11月27日
日吉町森林組合間伐作業山林及び京都府立るり溪少年自然の家における第17回森林生産システム研究会の開催に、芦生研究林が後援
- (90) 2010年12月4日
ホテルロイヤルヒル福知山において、第2回由良川市民講座「森・里・海の対話」を開催（京都府中丹広域振興局との共催・日本財団助成・参加者 約130人）
- (91) 2010年12月13日
「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業」（木文化プロジェクト）のウェブページを一般公開
<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/proshien/kibunka/index.html>
- (92) 2010年12月16日
紀伊大島実験所が、和歌山県古座川町において「第12回古座川シンポジウム」を開催（紀伊大島実験所、古座川流域協議会共催）参加者30人
- (93) 2010年12月25日～2011年1月10日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、日替わり解説ツアーと、バックヤードツアーを毎日開催

- 参加者：一般 151 人、バックヤード（小学生以上）142 人
- (94) 2011 年 1 月 15 日・29 日・2 月 5 日・12 日
京都大学東京オフィスにおける「東京で学ぶ 京大の知 シリーズ 2 生きものの多様な世界」において、連続講演「人類の夢、不老不死のベニクラゲの神秘」・「海洋生物の行動学」「マツ枯れナラ枯れ」「海洋生物の生物多様性」 参加者延べ 312 人
 - (95) 2011 年 1 月 22～23 日
北海道研究林標茶区において標茶町教育委員会「しべちゃアドベンチャースクール」第 5 ステージを開催（北海道研究林後援） 参加者 18 人
 - (96) 2011 年 2 月 8 日
百周年時計台記念館京大サロンにおける第 66 回京大サロントークにおいて講演
 - (97) 2011 年 2 月 10 日～13 日
全学共通科目「暖地性積雪地域における冬の自然環境」を芦生研究林にて開講
 - (98) 2011 年 2 月 12 日
京都大学総合博物館レクチャーシリーズ no. 87 ジュニアレクチャーにおいて、講演「めったに咲かない竹の花が咲くとき…」を実施
 - (99) 2011 年 2 月 21～23 日
2010 年度新入生向け少人数セミナー「日本海に遊ぶ～日本海学入門」（舞鶴水産実験所・上野 正博）を開講
 - (100) 2011 年 2 月 21～27 日
北海道研究林標茶区・白糠区において、全学共通科目「北海道東部の厳冬期の自然環境」（農学部科目「研究林実習 IV 冬の北海道」の実施（16 人）
 - (101) 2011 年 2 月 24 日
協議委員会を開催
 - (102) 2011 年 2 月 26 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」を開催
 - (103) 2011 年 3 月 4 日
運営委員会を開催
 - (104) 2011 年 3 月 17 日
紀伊大島実験所が、和歌山県古座川町において第 13 回古座川シンポジウムを開催（紀伊大島実験所、古座川流域協議会共催） 参加者 30 人
 - (105) 2011 年 3 月 20～26 日
瀬戸臨海実験所において、2010 年度公開臨海実習（春期）を実施 参加者 12 人
 - (106) 2011 年 3 月 25 日～31 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において「日替わり解説ツアー・バックヤードツアー」を開催
参加者 解説ツアー 65 人・バックヤードツアー 62 人（3 月 31 日まで）

[2011 年度（平成 23 年度）]

- (1) 2011 年 4 月 1 日
センター長が交代
- (2) 2011 年 4 月 1 日
和歌山研究林長・瀬戸臨海実験所長が交代
- (3) 2011 年 4 月 1 日
人事異動 舘野 隆之輔 准教授（鹿児島大学から）、中野 智之 助教（国立科学博物館から）、佐藤 拓哉 特定助教（次世代研究者育成センター（白眉プロジェクト）の特定助教を受け入れ）が着任
- (4) 2011 年 4 月 1 日
京都大学大学院地球環境学舎に、協力講座「水域生物環境論分野」を開設
- (5) 2011 年 4 月 4 日
舞鶴水産実験所と瀬戸臨海実験所が、「教育関係共同利用拠点」として文部科学省から認定

- (6) 2011 年 4 月～
2011 年度新入生向け少人数セミナーを開講
- | | | |
|-------------------------|-----------------------------|----------|
| ・「原生的な森林の働き」 | (学内+上賀茂試験地+7 月 2～4 日・芦生研究林) | 中島 皇 |
| ・「魚類心理学入門」 | (学内+7 月 2～3 日・舞鶴水産実験所) | 益田 玲爾 |
| ・「森里海のつながりを清流古座川に見る」 | (8 月 22～26 日・紀伊大島実験所) | 梅本 信也 |
| ・「C. W. ニコル“アフエンの森”に学ぶ」 | (学内+8 月 5～10 日・アフエンの森) | 柴田 昌三 他 |
| ・「フィールド実習“森は海の恋人”」 | (8 月 22～27 日・気仙沼) | 長谷川 尚史 他 |
| ・「木造校舎を造る：木の文化再生へ」 | (学内+京都府立植物園) | 柴田 昌三 他 |
| ・「海産無脊椎動物一分類群と形の多様性」 | (学内+9 月 10～14 日・瀬戸臨海実験所) | 宮崎 勝己 |
| ・「森林の再生と動態」 | (4 月 15 日～5 月 7 日・芦生研究林ほか) | 安藤 信 |
| ・「環境の評価」 | (学内+8 月 18～19 日・芦生研究林) | 吉岡 崇仁 |
| ・「瀬戸内に見る森里海連環」 | (学内+8 月 9 日～12 日・徳山試験地) | 中島 皇 |
| ・「京をめぐる森と人の暮らし」 | (上賀茂試験地・北白川試験地ほか) | 寄元 道徳 |
| ・「森を育て活かすー林業体験をとおして考える」 | (8 月 10～13 日・芦生研究林) | 長谷川 尚史 |
- (7) 2011 年 4 月～7 月
全学共通科目（リレー講義）「水圏生物学入門」「森里海連環学ー森・川・海と人のつながりー」「沿岸環境保全学」「森林学」開講（日本財団助成講義）
- (8) 2011 年 4 月～
紀伊大島実験所において、古座川プロジェクト関連の古座川合同調査を実施（毎月実施、第 65～75 回）
- (9) 2011 年 4 月～
瀬戸臨海実験所において和歌山県紀の国森づくり基金活用事業「小・中・高・大連携による紀南地域の森林環境学習」として、田辺市内の会津川流域に位置する三栖小学校・高雄中学校・神島高等学校の 3 校を対象に、学習会、河川の水質調査、間伐体験の活動等を実施
- (10) 2011 年 3 月 25 日～4 月 7 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において「日替わり解説ツアー・バックヤードツアー」を開催 参加者：一般 135 人、バックヤード（小学生以上）117 人（うち 4 月 1 日以降は、それぞれ、70 人、55 人）
- (11) 2011 年 4 月 8 日
瀬戸臨海実験所において「鯨セミナー」を開催（主催：海の哺乳類情報センター・共催：瀬戸臨海実験所） 参加者 33 人
- (12) 2011 年 4 月 12 日～
古座川合同調査（随時開催）
- (13) 2011 年 4 月 19 日～
和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催でウッズサイエンスを開講（週 1 回・計 15 回 3 年生 4 人）
- (14) 2011 年 4 月 23 日
上賀茂試験地において「2011 年度上賀茂試験地春の自然観察会」を開催 参加者 30 人（応募 49 人）
- (15) 2011 年 4 月 28 日・5 月 27 日・7 月 8 日・7 月 28 日・10 月 11 日・11 月 22 日
海域陸域統合管理学研究部門が海域陸域統合管理学セミナーを開催（日本財団助成）参加者延べ 61 人
- (16) 2011 年 5 月 15～17 日
芦生研究林における「国際森林学生連盟 第 2 回アジア地域会議」（日本の森林植生や林業の見学と、長期森林動態試験の見学）を後援（38 人）
- (17) 2011 年 5 月 20 日
隔地教員研究室が農学部総合館地下 N032 から旧演習林事務室棟 108, 109 へ移転
- (18) 2011 年 5 月 20～23 日、7 月 18～20 日、9 月 18～21 日、11 月 28 日～12 月 1 日、1 月 25～27 日、3 月 12～15 日
舞鶴水産実験所が、気仙沼湾潜水調査を実施
- (19) 2011 年 5 月 21 日、6 月 4 日、6 月 18 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、体験学習「水族館の磯採集体験」「水族館の飼育体験」（和歌山県教育委員会「きのくに県民カレッジ」連携講座）を開催 参加者合計 50 人

- (20) 2011 年 5 月 23 日～
舞鶴水産実験所が、東日本大震災被災学生（北里大学・海洋生命科学部、東京海洋大学・大学院海洋科学部）を受け入れ
- (21) 2011 年 5 月 28 日
芦生研究林において、芦生の森自然観察会 入門編「春の森を歩きながら樹木観察をしよう」を開催 参加者 11 人（応募者 93 人）
- (22) 2011 年 6 月 1 日
北部総合教育研究棟（益川記念館）の利用開始（里海生態学保全学分野及び海域陸域統合管理学研究部門）
- (23) 2011 年 6 月 4 日
全日空「私の青空・根室中標津空港・シマフクロウの森」において、フィールドセミナー（青空塾）を開催
- (24) 2011 年 6 月 12 日・9 月 11 日・11 月 13 日
徳山試験地において、徳山県周南市との共催で、周南市連携講座(全 3 回)を開催 参加者 6 月 25 人・9 月 27 人・11 月 23 人
- (25) 2011 年 6 月 22 日
塩田理事と浅野総務部長が、舞鶴水産実験所を視察
- (26) 2011 年 6 月 22 日
木文化プロジェクトがバイオマスセミナーを開催
- (27) 2011 年 6 月 25 日
舞鶴水産実験所が、舞鶴市東コミュニティセンターで開催された第 3 回高等教育機関等合同 PR フェアにおいてパネル展示及び魚の行動実験を開催（入場者約 500 人）
- (28) 2011 年 6 月 30 日
紀伊大島実験所が、第 14 回古座川シンポジウムを開催（紀伊大島実験所、古座川流域協議会共催） 参加者 30 人
- (29) 2011 年 7 月 2 日
全日空「私の青空・オホーツク紋別空港・とっかりの森」において、フィールドセミナー（青空塾）を開催
- (30) 2011 年 7 月 3 日
京都大学時計台記念館において第 6 回京都大学附置研究所・センターシンポジウム「混沌の時代に光を探る」を開催
- (31) 2011 年 7 月 14 日、10 月 5 日
木文化プロジェクトが木文化サロンを開催
- (32) 2011 年 7 月 16 日
京都会館会議場において東北地域連携講座「森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興をどう進めるか～」を開催 参加者 約 180 人
- (33) 2011 年 7 月 21 日～8 月 31 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催 参加者：解説ツアー（一般）266 人、バックヤードツアー（小学生以上）382 人
- (34) 2011 年 7 月 22～24 日
フィールド科学教育研究センター公開講座 2011「今、森から考えるー森のめぐみー」を芦生研究林において開催 参加者 一般枠：35 人、高校生枠：3 人
- (35) 2011 年 7 月 23 日
北海道研究林標茶区において、ミニ公開講座「自然観察，草木染め」を実施 参加者 10 人
- (36) 2011 年 7 月 28 日
名古屋大学において、名古屋大学 HyARC（地球水循環研究センター）研究集会（合同ワークショップ）「流域社会をとりまく水循環と水問題：水を巡る諸問題に関わる自然科学と社会科学の融合研究の可能性」を開催（フィールド研 木文化プロジェクト共催）
- (37) 2011 年 7 月 30 日
芦生研究林において、京都府市民講座「知ろう，守ろう芦生の森ー芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動ー」を開催（主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会，京都府南丹広域振興局／共催：フィールド研他）参加者 31 人

- (38) 2011 年 7 月 30 日
北海道研究林白糠区において、ミニ公開講座「自然観察、草木染め」を実施 参加者 7 人
- (39) 2011 年 8 月 3 日
舞鶴水産実験所他において、京都府教育委員会が招待した東日本大震災により非難所等で生活している福島県の中学生に対して、講義と施設案内を実施 (21 人)
- (40) 2011 年 8 月 8 日
西阪理事が芦生研究林を視察
- (41) 2011 年 8 月 8～12 日
全学共通科目 (1～4 回生対象) 森里海連環学実習 A (芦生研究林一由良川一丹後海コース) を開講 (日本財団助成・公開実習・参加者 京大 8 人, 他大学 5 人)
- (42) 2011 年 8 月 9, 11, 16, 18, 23, 25 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、白浜温泉旅館協同組合主催「海の中まで白浜を知っちゃおう!」として展示スペース解説ツアー・バックヤードツアーを開催
参加者: 展示スペース解説ツアー 41 人, バックヤードツアー 37 人
- (43) 2011 年 8 月 11 日
旧演習林事務室棟 108 号室の隔地教員研究室を、109 号室に統合
- (44) 2011 年 8 月 18 日
舞鶴水産実験所において、“多々見市長と”遊覧船で行く「まいづるサマースクール」(舞鶴市主催)の中で、講義と施設案内を実施 (小学生 35 人)
- (45) 2011 年 8 月 21 日
高知県土佐市グランディール (旧ウェディングプラザ寿苑) において、仁淀川の再生をめざして「仁淀川の森と水を考える」シンポジウム 2011 を開催 (仁淀川漁業協同組合主催・フィールド研後援)
- (46) 2011 年 8 月 26～30 日
京都大学が東北復興支援学生ボランティアを派遣 (学生 21 人, 教員 1 人, 技術職員 2 人, 事務職員 1 人)
- (47) 2011 年 8 月 27 日～9 月 2 日
全学共通科目 (1～4 回生対象) 森里海連環学実習 C 京大・北大合同実習 (夏の北海道実習) を開講 (日本財団助成実習・京都大学 9 人, 北海道大学 7 人)
- (48) 2011 年 8 月 29 日～9 月 4 日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「海洋生物学、特に無脊椎動物の分類・発生」を実施 (教育関係共同利用拠点事業・国立大学法人臨海臨湖実験所長会議 主催・3 人)
- (49) 2011 年 9 月 2～4 日
台風 12 号による豪雨のため、和歌山研究林の林道・土場・機器等に甚大な被害
- (50) 2011 年 9 月 4～11 日
北海道研究林標茶区・白糠区において、全学共通科目「北海道東部の人と自然」(農学部科目「研究林実習 III 夏の北海道」)の実施 (14 人)
- (51) 2011 年 9 月 5～7 日
芦生研究林、上賀茂試験地および北白川試験地において、京都大学公開森林実習一近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴一を実施 (宇都宮大学他, 参加者 5 人)
- (52) 2011 年 9 月 10 日
2007 年 2 月に出版した『森里海連環学』(京都大学学術出版会)の内容を更新し、改訂 増補版を発刊
- (53) 2011 年 9 月 10 日
舞鶴水産実験所が、京都府総合教育センター北部研修所「親子おもしろ科学実験教室」体験ブースにおいて、海の生き物展示を実施 (213 人)
- (54) 2011 年 9 月 10 日
全日空「私の青空 能登空港・きりこの森」において、フィールドセミナー (青空塾) を開催
- (55) 2011 年 9 月 18 日
京都大学ジュニアキャンパス 2011 において、中学生向けゼミ「ナマコの海洋生物学」を実施 参加者 中学生 24 人・保護者等 7 人 (京都市教育委員会と共催)
- (56) 2011 年 9 月 14～18 日
紀伊大島実験所において、全学共通科目 (1～4 回生対象) 森里海連環学実習 B (紀伊半島の森と里と海) を開

- 講（日本財団助成実習・8人）
- (57) 2011年9月24日
福知山市三段池公園 総合体育館において、第3回由良川市民講座「森・里・海の対話～身近な視点から生態系のつながりを考える～」を開催（京都府中丹広域振興局との共催・日本財団助成・参加者約60人）
- (58) 2011年10月1日
北海道研究林長が交代
- (59) 2011年10月1日
森林フィールド管理部門の勤務地が、北海道研究林及び芦生研究林となる。
- (60) 2011年10月1日
全日空「私の青空 小松空港・安宅関の森」において、フィールドセミナー（青空塾）を開催
- (61) 2011年10月～
2011年度新入生向け少人数セミナーを開講

・「海岸生物の生活史」	(11月23～27日・瀬戸臨海実験所)	久保田 信
・「森のつくりだすもの」	(1月14～15日・三重県名張市赤目)	徳地 直子
・「日本海に遊ぶ～日本海学入門」	(学内+2月21～23日・舞鶴水産実験所)	上野 正博
- (62) 2011年10月7日
学生ボランティア派遣について、松本総長・大西理事と面談
- (63) 2011年10月8日
高知県仁淀川町池川中学校体育館において、第3回仁淀川地域連携講座「国際森林年を“森林・林業再生プラン” 実行元年とするために」を開催（日本財団助成） 参加者約280人
- (64) 2011年10月15日
美山文化ホールにおいて、「知ろう、守ろう芦生の森シンポジウム」を開催（主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会、京都府南丹広域振興局／共催：フィールド研他） 参加者約80人
- (65) 2011年10月15日
瀬戸臨海実験所において、施設見学会を実施（京大ウィークス参加イベント、参加者4人）
- (66) 2011年10月15日
上賀茂試験地において、「2011年上賀茂試験地秋の自然観察会」を開催（京大ウィークス参加イベント、参加者27人（応募者41人））
- (67) 2011年10月17～11日、12月5～20日
芦生研究林において、「芦生地域有害鳥獣対策協議会」の活動として銃器によるニホンジカの捕獲を行うため、平日の夜明けから午前9時まで、入林制限を実施
- (68) 2011年10月19日
フィールド研のイベントや刊行物等をご案内する「FSERC ニュースメール」の電子メール配信を開始
- (69) 2011年10月22日
芦生研究林において、芦生の森自然観察会 入門編「秋の森を歩きながら樹木観察をしよう」を開催（京大ウィークス参加イベント、参加者16人（応募者67人））
- (70) 2011年10月22日・12月17日・2012年2月18日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」を開催 参加者46人
- (71) 2011年10月27日
舞鶴水産実験所共同利用運営委員会を開催
- (72) 2011年10月28日
瀬戸臨海実験所共同利用運営委員会を開催
- (73) 2011年10月30日
周南緑地（西緑地）において、徳山試験地が周南市とともに連携公開講座を実施 参加者29人
- (74) 2011年11月4日
京都大学東京オフィスにおいて、第18回品川セミナーを開催。柴田センター長が講演「『森里海連環学』をとおして日本の自然を再考する」 参加者47人
- (75) 2011年11月5日～2012年3月25日
北海道研究林白糠区において、白糠町からの協力要請を受け、北海道エゾシカ被害防止緊急捕獲事業として銃

- 器を使用した捕獲を行うため、土日・祭日(終日)の入林制限を実施
- (76) 2011 年 11 月 6 日
芦生研究林において、地域開放事業として、美山町環境保全対策協議会の参加者に対して、芦生自然環境ワークを実施 (24 人)
- (77) 2011 年 11 月 12 日
厚岸町情報館「本の森」において第 4 回別寒辺牛川地域連携講座「森から海へ～海域環境の保全と人のくらし～」を開催 (厚岸町・標茶町と共催・日本財団助成) 参加者 74 人
- (78) 2011 年 11 月 14 日
舞鶴水産実験所において、舞鶴市立中保育所・中舞鶴幼稚園・中舞鶴小学校 (1 年生) の子供たちに対して、ナマコに関する見学会を実施 (111 人)
- (79) 2011 年 11 月 21 日
芦生地域有害鳥獣対策協議会の活動の一環として、芦生研究林に設置したシカ防護ネット内の観察およびネットを下ろす作業の体験を実施 (主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会、京都府南丹広域振興局／共催：フィールド研) 参加者 12 人
- (80) 2011 年 11 月 22 日
吉田事業所産業医が舞鶴水産実験所を巡視
- (81) 2011 年 11 月 26 日
全日空「私の青空 徳島阿波おどり空港・巣立ちの森」において、フィールドセミナー (青空塾) を開催
- (82) 2011 年 11 月 26 日
上賀茂試験地において、京都市青少年科学センター「未来のサイエンティスト養成事業体験コース」(講義と自然観察) を実施 (上賀茂試験地 共催) 参加者 26 人 (応募者 40 人)
- (83) 2011 年 12 月 14 日
吉田事業所産業医が上賀茂試験地を巡視
- (84) 2011 年 12 月 17 日
上賀茂試験地において、NPO 法人エコロジー・カフェと共催で、第 6 回エコの寺子屋を開講 参加者 13 人
- (85) 2011 年 12 月 23 日～1 月 9 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催 参加者：解説ツアー (一般) 122 人、バックヤードツアー (小学生以上) 139 人
- (86) 2012 年 1 月 1 日
人事異動 朝倉教授 着任
- (87) 2012 年 1 月 1 日
瀬戸臨海実験所長が交代
- (88) 2012 年 2 月 6 日
瀬戸臨海実験所において、第 24 回瀬戸海洋生物学セミナーを実施 (8 人)
- (89) 2012 年 2 月 10～13 日
全学共通科目「暖地性積雪地域における冬の自然環境」を芦生研究林にて開講
- (90) 2012 年 2 月 14 日
京都府漁業協同組合舞鶴支所において、舞鶴水産実験所が「舞鶴市ナマコプロジェクト」報告会を実施 (25 人)
- (91) 2012 年 2 月 19～25 日
北海道研究林標茶区において、全学共通科目「北海道東部の厳冬期の自然環境」(農学部科目「研究林実習 IV 冬の北海道」) の実施 (15 人)
- (92) 2012 年 2 月 27 日
協議員会を開催
- (93) 2012 年 3 月 7 日
木文化プロジェクトが 2011 年度研究報告会を開催
- (94) 2012 年 3 月 9 日
運営委員会を開催
- (95) 2012 年 3 月 10 日
全日空「私の青空 萩・石見空港・高津川清流の森」において、フィールドセミナー (青空塾) を開催

- (96) 2012 年 3 月 19～23 日
京都大学が東北復興支援学生ボランティアを派遣（学生 23 人，教員 1 人，技術職員 2 人，事務職員 1 人）
- (97) 2012 年 3 月 21～27 日
瀬戸臨海実験所において，2011 年度公開臨海実習（春期）「海洋無脊椎動物の多様性と進化学」を実施（教育関係共同利用拠点事業・国立大学法人臨海臨湖実験所長会議主催・9 人）
- (98) 2012 年 3 月 24～31 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において，「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催 参加者：解説ツアー（一般）49 人，バックヤードツアー（小学生以上）81 人

（注） 2011 年度から，高校生以下を対象とする事業は，「主な取り組み」に原則として掲載していない。

6. 2 マスコミへの情報発信

6.2.1 新聞・雑誌等記事

(センターに関する記事)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	計
フィールド研	4	1	13	23	41
芦生研究林	2	12	24	9	47
北海道研究林			5		5
和歌山研究林	4				4
上賀茂試験地	1	2	3	2	8
徳山試験地	1	2		2	5
北白川試験地		1			1
紀伊大島実験所	5	17	28	1	51
舞鶴水産実験所	4	2	1	5	12
瀬戸臨海実験所	7	7	6	3	23
白浜水族館	51	4	12	6	73
海城陸域統合管理学研究部門		5			5
その他	1		1		2
件	80	53	93	51	277

(教職員に関する記事)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	計
白山 義久	4	12	19		35
柴田 昌三	3	5	7	3	18
山下 洋			1	1	2
向井 宏				1	1
芝 正己		1			1
久保田 信	11	69	64	69	213
田川 正朋	1		2		3
徳地 直子	1		2	1	4
益田 玲爾	3	5	5	18	31
梅本 信也		11	8	5	24
長谷川 尚史			2	2	4
深見 裕伸	1				1
上野 正博	13	13	2	24	52
中山 耕至			4		4
佐藤 拓哉			1	2	3
畠山 重篤 (社会連携教授)	3	1	4	12	20
田中 克 (名誉教授)	1	2		3	6
竹内 典之 (名誉教授)	1				1
諏訪 良太 (特定研究員)		2			2
その他	3	3	1	2	9
件	45	124	122	143	434

6.2.2 テレビ、ラジオ

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	計
白山 義久	1				1
柴田 昌三				3	3
山下 洋				1	1
向井 宏	1		1		2
久保田 信	5	7	4	5	21
益田 玲爾	2	1	2	2	7
梅本 信也				2	2
その他				1	1
計	9	8	7	14	38

6. 3 各施設 利用人数一覧

2008年度

(単位：人)

(所属) (目的) (利用者)	京都大学					他大学				
	教育		研究		その他	教育		研究		その他
	教職員等	学生	教職員等	学生		教職員等	学生	教職員等	学生	
芦生研究林	197	684	308	712	2	14	53	71	62	0
北海道研究林白糠区	44	134	31	0	4	0	0	4	0	0
北海道研究林標茶区	147	293	24	0	5	7	43	3	0	8
和歌山研究林	109	16	43	77	0	2	3	16	28	0
徳山試験地	4	0	5	0	6	0	0	0	0	0
上賀茂試験地	124	513	241	273	32	21	319	28	64	24
北白川試験地	19	286	670	1,490	69	0	0	6	2	11
紀伊大島実験所	39	178	9	144	0	7	63	18	1	0
舞鶴水産実験所	110	852	315	5,472	117	28	260	17	34	5
瀬戸臨海実験所	145	647	69	2,301	91	153	1,107	233	331	0
計	938	3,603	1,715	10,469	326	232	1,848	396	522	48

(所属) (目的) (利用者)	教育研究機関等			一般			合計
	教育	研究	その他	教育	研究	その他	
芦生研究林	246	51	46	562	180	7,750	10,938
北海道研究林白糠区	0	1	0	0	4	16	238
北海道研究林標茶区	82	4	0	52	109	31	808
和歌山研究林	324	16	28	2	9	53	726
徳山試験地	6	0	0	0	0	70	91
上賀茂試験地	0	44	40	342	288	216	2,569
北白川試験地	0	7	0	83	10	68	2,721
紀伊大島実験所	0	76	0	14	150	0	699
舞鶴水産実験所	700	33	22	4	3	481	8,453
瀬戸臨海実験所	385	199	0	106	88	66,414	72,269
計	1,743	431	136	1,165	841	75,099	99,512

2009年度

(単位：人)

(所属) (目的) (利用者)	京都大学					他大学				
	教育		研究		その他	教育		研究		その他
	教職員等	学生	教職員等	学生		教職員等	学生	教職員等	学生	
芦生研究林	352	630	386	700	10	24	34	55	117	5
北海道研究林白糠区	54	135	15	5	15	0	0	5	0	3
北海道研究林標茶区	138	238	17	0	9	13	40	10	0	0
和歌山研究林	148	6	91	65	0	2	0	105	29	0
徳山試験地	16	12	13	0	9	0	0	0	0	0
上賀茂試験地	130	519	280	320	11	18	147	24	112	18
北白川試験地	10	196	473	1,194	25	0	0	26	0	0
紀伊大島実験所	35	106	14	57	0	7	49	15	65	0
舞鶴水産実験所	106	516	312	5,863	107	31	234	18	142	2
瀬戸臨海実験所	217	885	117	2,077	6	201	1,299	167	75	0
計	1,206	3,243	1,718	10,281	192	296	1,803	425	540	28

(所属) (目的) (利用者)	教育研究機関等			一般			合計
	教育	研究	その他	教育	研究	その他	
芦生研究林	240	29	132	877	282	6,566	10,439
北海道研究林白糠区	0	0	0	9	5	8	254
北海道研究林標茶区	31	4	57	54	82	47	740
和歌山研究林	300	20	0	14	5	27	812
徳山試験地	0	0	0	0	0	73	123
上賀茂試験地	4	23	37	363	223	273	2,502
北白川試験地	0	0	18	0	6	85	2,033
紀伊大島実験所	0	156	7	1	173	65	750
舞鶴水産実験所	521	37	92	4	11	101	8,097
瀬戸臨海実験所	566	59	0	682	318	62,742	69,411
計	1,662	328	343	2,004	1,105	69,987	95,161

2010年度

(単位：人)

(所属) (目的) (利用者)	京都大学					他大学				
	教育		研究		その他	教育		研究		その他
	教職員等	学生	教職員等	学生		教職員等	学生	教職員等	学生	
芦生研究林	321	611	498	1043	4	76	168	120	187	0
北海道研究林白糠区	53	94	103	7	3	0	0	5	1	1
北海道研究林標茶区	153	293	292	4	3	12	28	40	3	0
和歌山研究林	105	3	192	35	0	1	2	66	172	0
徳山試験地	24	40	14	0	7	0	0	0	4	0
上賀茂試験地	121	532	322	302	46	17	164	6	12	56
北白川試験地	11	155	506	1,026	4	1	5	40	1	0
紀伊大島実験所	45	122	3	14	0	7	63	9	4	0
舞鶴水産実験所	132	427	217	4,784	51	17	212	56	65	1
瀬戸臨海実験所	117	474	16	1,969	0	193	1,139	97	264	0
計	1,082	2,751	2,163	9,184	118	324	1,781	439	713	58

(所属) (目的) (利用者)	教育研究機関等			一般			合計
	教育	研究	その他	教育	研究	その他	
芦生研究林	264	29	92	889	201	6,036	10,539
北海道研究林白糠区	0	0	0	13	4	90	374
北海道研究林標茶区	16	0	0	118	136	61	1159
和歌山研究林	228	18	0	0	36	15	873
徳山試験地	14	0	1	73	0	36	213
上賀茂試験地	0	19	49	105	59	490	2,300
北白川試験地	0	1	45	24	2	34	1,855
紀伊大島実験所	38	50	0	1	202	0	558
舞鶴水産実験所	672	78	51	44	10	246	7,063
瀬戸臨海実験所	431	228	1	84	220	64,626	69,859
計	1,663	423	239	1,351	870	71,634	94,793

2011年度

(単位：人)

(所属) (目的) (利用者)	京都大学					他大学				
	教育		研究		その他	教育		研究		その他
	教職員等	学生	教職員等	学生		教職員等	学生	教職員等	学生	
芦生研究林	393	772	457	889	3	35	174	30	332	0
北海道研究林標茶区	204	318	292	0	0	3	74	22	2	0
北海道研究林白糠区	16	15	80	0	0	0	0	8	0	0
和歌山研究林	76	0	65	30	0	0	0	18	6	0
徳山試験地	20	28	2	0	4	0	0	0	0	0
上賀茂試験地	118	512	335	146	20	15	162	7	5	14
北白川試験地	13	132	481	592	3	1	10	41	6	4
紀伊大島実験所	34	99	2	8	0	0	0	14	3	0
舞鶴水産実験所	90	502	513	3,914	48	51	287	37	502	6
瀬戸臨海実験所	196	414	132	1,293	0	222	1,244	151	353	0
計	1,160	2,792	2,359	6,872	78	327	1,951	328	1,209	24

(所属) (目的) (利用者)	教育研究機関等			一般			合計
	教育	研究	その他	教育	研究	その他	
芦生研究林	234	51	66	587	216	6,532	10,771
北海道研究林標茶区	7	7	0	112	79	60	1,180
北海道研究林白糠区	0	0	0	7	6	42	174
和歌山研究林	102	10	0	0	11	17	335
徳山試験地	10	0	0	75	0	162	301
上賀茂試験地	7	13	74	138	83	575	2,224
北白川試験地	0	10	0	0	10	48	1,351
紀伊大島実験所	16	34	0	0	413	22	645
舞鶴水産実験所	460	70	172	16	11	260	6,939
瀬戸臨海実験所	951	78	0	11	116	64,158	69,319
計	1,787	273	312	946	945	71,876	93,239

6. 4 各施設 学生実習等調べ

6. 4. 1 フィールド研提供科目

(学生数・教員等数は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.05.04 ～ 08.05.23	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森林の更新と動態」	1回生	17	3	
08.07.03 ～ 08.07.05	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「豊かな森をめざして！」	1回生	27	3	
08.07.11 ～ 08.07.13	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	1回生	31	3	
08.08.05 ～ 08.08.06	2	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A	全学全回生	14	11	
08.08.25 ～ 08.08.29	5	京都大学	農学部 森林科学科	研究林実習Ⅰ	2回生	125	12	
08.09.16 ～ 08.09.19	4	京都大学	農学部 森林科学科	研究林実習Ⅱ	3回生	67	8	
08.09.24 ～ 08.09.27	4	京都大学	農学部 森林科学科	森林利用学実習及び実習法	3回生	92	12	
09.02.06 ～ 09.02.09	4	京都大学	フィールド研	暖地性積雪地域における冬の自然環境	全回生	72	4	
09.07.01 ～ 09.07.03	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「豊かな森をめざして！」	全学全回生	33	4	
09.07.11 ～ 09.07.13	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	全学全回生	32	6	
09.08.04 ～ 09.08.05	2	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「環境の評価」	全学1回生	10	3	
09.08.06 ～ 09.08.07	2	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A	全学全回生	32	22	
09.08.25 ～ 09.08.29	5	京都大学	農学部 森林科学科	研究林実習Ⅰ		124	22	
09.09.15 ～ 09.09.18	4	京都大学	農学部 森林科学科	研究林実習Ⅱ		28	18	
09.09.28 ～ 09.10.01	4	京都大学	農学部 森林科学科	森林利用学実習及び実習法		66	36	
10.02.05 ～ 10.02.08	4	京都大学	フィールド研	暖地性積雪地域における冬の自然環境	全学全回生	48	8	
10.05.20 ～ 10.05.21	2	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「豊かな森をめざして！」	全学1回生	18	4	
10.07.03 ～ 10.07.05	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	全学1回生	21	12	
10.08.08 ～ 10.08.09	2	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A	全学全回生	22	16	
10.08.10 ～ 10.08.11	2	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「環境の評価」	全学1回生	14	6	
10.08.30 ～ 10.09.03	5	京都大学	農学部 森林科学科	研究林実習Ⅰ		144	16	
10.09.15 ～ 10.09.18	4	京都大学	農学部 森林科学科	研究林実習Ⅱ		44	14	
10.09.27 ～ 10.09.30	4	京都大学	農学部 森林科学科	森林利用学実習及び実習法		104	33	
11.02.10 ～ 11.02.13	4	京都大学	フィールド研	暖地性積雪地域における冬の自然環境	全学全回生	67	7	
11.05.03	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森林の再生と動態」	全学1回生	3	1	
11.07.02 ～ 11.07.04	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	全学1回生	20	6	
11.08.08 ～ 11.08.09	2	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A（芦生研究林・由良川・丹後海コース）	全学全回生	33	10	公開実習
11.08.10 ～ 11.08.13	4	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森を育て活かすー林業体験をおとして考える」	全学1回生	52	13	
11.08.18 ～ 11.08.19	2	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「環境の評価」	全学1回生	18	2	
11.08.29 ～ 11.09.02	5	京都大学	農学部 森林科学科	研究林実習Ⅰ	2回生	126	24	
11.09.13 ～ 11.09.16	4	京都大学	農学部 森林科学科	研究林実習Ⅱ	3回生	71	20	
11.09.26 ～ 11.09.29	4	京都大学	農学部 森林科学科	森林利用学実習及び実習法	3回生	90	35	
11.11.05	1	京都大学	農学部 森林科学科	研究林実習Ⅰ	2回生	2	0	
12.02.10 ～ 12.02.13	4	京都大学	フィールド研	暖地性積雪地域における冬の自然環境	全学全回生	50	13	
計	111		(34件)			1,717	407	

北海道研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.08.28 ～ 08.09.01	5	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習C（北大との共催）	全学全回生	76	52	標茶区
08.09.04 ～ 08.09.15	12	京都大学	農学部	研究林実習Ⅲ 夏の北海道・北海道東部の人と自然	全学全回生	212	71	標茶区・白糠区
09.02.22 ～ 09.02.25	4	京都大学	農学部	研究林実習Ⅳ 冬の北海道・北海道東部の厳冬期の自然環境	全学全回生	131	43	標茶区・白糠区
09.08.29 ～ 09.09.02	5	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習C（北大との共催）	全学全回生	89	55	標茶区
09.09.04 ～ 09.09.13	10	京都大学	農学部	研究林実習Ⅲ 夏の北海道・北海道東部の人と自然	全学全回生	191	57	標茶区・白糠区
10.02.21 ～ 10.03.01	10	京都大学	農学部	研究林実習Ⅳ 冬の北海道・北海道東部の厳冬期の自然環境	全学全回生	127	57	標茶区・白糠区
10.08.29 ～ 10.08.31	3	京都大学	農学部	研究林実習Ⅲ 夏の北海道・北海道東部の人と自然	全学共通	60	28	白糠区
10.08.31 ～ 10.09.05	6	京都大学	農学部	研究林実習Ⅲ 夏の北海道・北海道東部の人と自然	全学共通	131	56	標茶区
10.09.09 ～ 10.09.12	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習C（北大との共催）	全学共通	68	42	標茶区
11.02.20 ～ 11.02.28	9	京都大学	農学部	研究林実習Ⅳ 冬の北海道・北海道東部の厳冬期の自然環境	全学共通	122	47	標茶区
11.02.22 ～ 11.02.24	2	京都大学	農学部	研究林実習Ⅳ 冬の北海道・北海道東部の厳冬期の自然環境	全学共通	34	18	白糠区

11.08.27 ～ 11.08.30	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習C（北大との共催）	全学共通	76	41	標茶区
11.09.04 ～ 11.09.11	8	京都大学	農学部	研究林実習Ⅲ 夏の北海道・北海道東部の人と自然	全学共通	131	72	標茶区
11.09.05	1	京都大学	農学部	研究林実習Ⅲ 夏の北海道・北海道東部の人と自然	全学共通	15	10	白糠区
12.02.19 ～ 12.02.25	7	京都大学	農学部	研究林実習Ⅳ 冬の北海道・北海道東部の厳冬期の自然環境	全学共通	113	61	標茶区
計	90		(15件)			1,576	710	

和歌山研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.08.26 ～ 08.08.29	4	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森のつくりだすもの」		19	18	
09.08.05 ～ 09.08.07	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森のつくりだすもの」		6	23	
10.09.27 ～ 10.09.29	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森のつくりだすもの」		3	3	
計	10		(3件)			28	44	

上賀茂試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.05.29 ～ 08.06.05	2	京都大学	農学部 森林科学科	森林総合実習及び調査法	3回生	48	10	
08.06.22	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	全学1回生	9	1	
08.06.24	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「木造校舎を造る：木の文化再生へ」	全学1回生	8	6	
08.09.30	1	京都大学	地球環境学舎	里山再生論	M1, M2, D1	5	1	
08.10.07	1	京都大学	農学部 森林科学科	森林科学実習Ⅳ	2回生	54	3	
09.06.04 ～ 09.06.11	2	京都大学	農学部 森林科学科	森林総合実習及び調査法	3回生	47	10	
09.06.13	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	1回生	8	1	
09.07.07	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「木造校舎を造る：木の文化再生へ」	1回生	4	3	
09.09.01	1	京都大学	地球環境学舎	里山再生論	M1, M2	11	2	
09.10.20	1	京都大学	農学部 森林科学科	森林科学実習Ⅳ	2回生	55	4	
10.05.28 ～ 10.06.03	2	京都大学	農学部 森林科学科	森林総合実習及び調査法	3回生	58	6	
10.05.29	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「京をめぐる森と人のくらし」	1回生	7	2	
10.06.20	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	1回生	5	1	
10.07.06	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「木造校舎を造る：木の文化再生へ」	1回生	5	5	
10.08.31	1	京都大学	フィールド研	里山再生論	M1, M2	4	2	
10.10.19	1	京都大学	農学部 森林科学科	森林科学実習Ⅳ	2回生	61	7	
11.06.02 ～ 11.06.09	2	京都大学	農学部 森林科学科	森林総合実習及び調査法	3回生	56	2	
11.06.19	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	1回生	4	1	
11.08.22	1	京都大学	地球環境学舎	里山再生論	M1, M2	9	3	
11.10.06	1	京都大学	農学部 森林科学科	森林科学実習Ⅳ	2回生	66	9	
12.03.15	1	京都大学	農学部	資源生物科学実験及び実験法	3回生	2	1	
計	25		(21件)			526	80	

徳山試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	参加者数	教員等数	備考
09.08.03 ～ 09.08.06	4	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「瀬戸内に見る森里海連環」	全学1回生	12	16	
10.08.06 ～ 10.08.10	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「瀬戸内に見る森里海連環」	全学1回生	40	10	
11.08.09 ～ 11.08.12	4	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「瀬戸内に見る森里海連環」	全学1回生	28	8	
計	13		(3件)			80	34	

北白川試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	参加者数	教員等数	備考
08.04.26	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森林の再生と動態」	1回生	7	1	
08.12.16	1	京都大学	フィールド研	樹木分類，樹木識別	3回生	17	1	
計	2		(2件)			24	2	

紀伊大島実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.09.01 ～ 08.09.04	4	京都大学	地球環境学舎	里域植生保全論		24	4	
08.09.08 ～ 08.09.12	5	京都大学	農学部	植物調査法と実習		98	7	
08.09.19 ～ 08.09.25	7	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習B（北大との共催）		119	49	
09.08.24 ～ 09.08.28	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森里海のつながりを清流古座川に見る」		35	5	
09.09.07 ～ 09.09.11	2	京都大学	農学部	植物調査法と実習		64	7	
09.09.18 ～ 09.09.24	7	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習B（北大との共催）		91	35	

10.08.09 ～ 10.08.12	4	京都大学	地球環境学舎	里域植物保全論	院生	24	4	
10.08.23 ～ 10.08.27	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森里海のつながりを清流古座川に見る」	全学1回生	20	5	
10.09.06 ～ 10.09.10	5	京都大学	農学部	植物調査法と実習		36	6	
10.09.16 ～ 10.09.22	7	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習B（北大との共催）		105	38	
11.08.08 ～ 11.08.08	4	京都大学	地球環境学舎	里域植生保全論	院生	24	4	
11.08.22 ～ 11.08.26	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森里海のつながりを清流古座川に見る」	全学1回生	35	5	
11.09.14 ～ 11.09.18	5	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習B	全学全回生	40	25	
計	65			(13件)		715	194	

舞鶴水産実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.06.06 ～ 08.06.08	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「河口域生態学入門」	1回生	20	3	
08.07.04 ～ 08.07.06	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「魚類心理学入門」		27	3	
08.08.06 ～ 08.08.08	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「お魚好きのための魚類研究入門」		15	8	
08.08.06 ～ 08.08.09	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A	1回生	20	37	
08.08.20 ～ 08.08.26	7	京都大学	農学部 資源生物科学科	海洋生物科学技術論と実習Ⅰ		91	12	
08.08.26 ～ 08.08.31	6	京都大学	農学部 資源生物科学科	海洋生物科学技術論と実習Ⅱ		137	13	
09.06.26 ～ 09.06.28	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「河口域生態学入門」	1回生	15	3	
09.08.07 ～ 09.08.10	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A		55	34	
09.08.20 ～ 09.08.31	12	京都大学	農学部 資源生物科学科	海洋生物科学技術論と実習Ⅰ・Ⅱ		132	24	
10.02.22 ～ 10.02.24	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「日本海に遊ぶ～日本海学入門」	1回生	27	3	
10.06.18 ～ 10.06.20	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「環境と魚の河口域生態学入門」		12	3	
10.07.02 ～ 10.07.04	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「魚類心理学入門」		27	3	
10.08.09 ～ 10.08.11	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「お魚好きのための魚類研究入門」	1回生	18	6	
10.08.09 ～ 10.08.12	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A		40	36	
10.08.20 ～ 10.08.31	13	京都大学	農学部 資源生物科学科	海洋生物科学技術論と実習Ⅰ・Ⅱ		133	42	
11.02.21 ～ 11.02.23	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「日本海に遊ぶ～日本海学入門」	1回生	9	3	
11.07.01 ～ 11.07.03	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「魚類心理学入門」		27	3	
11.08.09 ～ 11.08.12	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A		52	23	公開実習
11.08.19 ～ 11.08.31	13	京都大学	農学部 資源生物科学科	海洋生物科学技術論と実習Ⅰ・Ⅱ		178	28	公開実習
12.02.21 ～ 12.02.23	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「日本海に遊ぶ～日本海学入門」		27	3	
計	100			(20件)		1,062	290	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.05.01 ～ 08.05.05	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海洋生物の生活史」	1回生	60		
08.07.30 ～ 08.08.07	9	京都大学	理学部	臨海実習第1部・第4部		54		
08.08.02 ～ 08.08.07	6	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海洋生物の多様性」		33	6	
08.09.01 ～ 08.09.30	5	京都大学	総合人間学部	探究型化学実験－湖と海の化学調査－	1回生	45	20	
08.09.13 ～ 08.09.16	4	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「節足動物学入門」		12	4	
09.03.24 ～ 09.03.30	7	京都大学	理学部	臨海実習第2部		72	6	
09.05.02 ～ 09.05.06	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海岸生物の生活史」	1回生	55	5	
09.07.30 ～ 09.08.02	4	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海洋生物の多様性」		40		
09.08.03 ～ 09.08.11	9	京都大学	理学部	臨海実習第1部・第4部		144		
09.09.14 ～ 09.09.18	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海産無脊椎動物」	1回生	25	5	
09.09.23 ～ 09.09.27	5	京都大学	総合人間学部	探究型化学実験・湖と海の化学調査		73	15	
10.03.26 ～ 10.04.01	7	京都大学	理学部	臨海実習第2部および公開臨海実習（春期）		133		
10.05.01 ～ 10.05.05	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海岸生物の生活史」	1回生	35	5	
10.06.04 ～ 10.06.06	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「サンゴ礁生態学入門」		12	3	
10.06.11 ～ 10.06.13	2	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「サンゴ礁生態学入門」		4	2	
10.08.26 ～ 10.08.30	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海産無脊椎動物－分類群と形の多様性」	2回生 3回生	15		
10.09.01 ～ 10.09.09	9	京都大学	理学部	臨海実習第1部		36		
10.09.01 ～ 10.09.09	9	京都大学	理学部	臨海実習第4部		9		
10.09.09 ～ 10.09.13	5	京都大学	総合人間学部	探究型化学実験－湖と海の化学調査	2回生 3回生	50	15	
10.09.21 ～ 10.09.24	4	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海洋生物の多様性」		32	8	

11.08.06 ～ 11.08.12 11.08.29 ～ 11.09.04	7 7	京都大学 京都大学	理学部 理学部	臨海実習第2部 臨海実習第1部＋公開臨海実習「海洋生物学、特に無脊椎動物の分類・発生」		21 84	28 35	公開実習／本学学生：9人、他学学生：3人
11.09.07 ～ 11.09.11 11.09.10 ～ 11.09.14	5 5	京都大学 京都大学	地球環境学会 フィールド研	探究型化学実験「湖と海の化学調査」 少人数セミナー「海産無脊椎動物－分類群と形の多様性」	1 回生	45 20	15 5	
11.11.23 ～ 11.11.27	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海岸生物の生活史」		5	5	
計	142		(25件)			1,114	182	

6.4.2 学内利用

(学生数・教員等数は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.05.04 ～ 08.05.06 08.05.28	3 1	京都大学 京都大学	理学部 生物科学系 生存圏研究所 循環材料創成分野	野生生物研究会春合宿 天然林の見学と実習	修士・博士	49 6		
08.06.21 ～ 08.06.22 08.06.27 ～ 08.06.29	2 3	京都大学 京都大学	理学部 生物科学系 人間・環境学研究科	生物学実習C脊椎動物解剖学実習 文化行為論2A	3回生	20 21	4 6	
08.07.05 ～ 08.07.07	3	京都大学	アジア・アフリカ地域研究研究科	芦生研究林フィールド調査法実習	D1	60	18	
08.09.08 ～ 08.09.11 08.10.16 ～ 08.10.17	4 2	京都大学 京都大学	生態学研究センター 農学研究科 森林科学専攻	野外実習第2部 国際交流科目 タイ・カセサート大学学生受入	3回生	20 30	8 6	
08.11.01 ～ 08.11.03 08.11.03	3 1	京都大学 京都大学	理学部 生物科学系 理学研究科 生物科学専攻	野生生物研究会秋合宿 フィールドワーク実習 －菌類相から森を考える－		24 16		14
08.11.08 ～ 08.11.09	2	京都大学	工学研究科 物質エネルギー化学専攻	芦生研究林の見学会		10	9	
09.04.11 ～ 09.04.12	2	京都大学	理学研究科 動物学教室	河川における付着動物の同定	D1～PD	18		
09.05.02 ～ 09.05.03	2	京都大学	理学部	芦生演習林に生息する生物観察	野生生物研究会 全回生	34 36		20
09.05.15 ～ 09.05.17	3	京都大学	生態学研究センター	生態科学Ⅱゼミナール第4部（理学部）／進化・菌類ゼミナール（総合人間学部少人数セミナー）合同見学会				
09.05.19	1	京都大学	生存圏研究所	天然林の見学と実習	修士・博士	6	4	
09.06.27 ～ 09.06.29	3	京都大学	人間・環境学研究科	文化行為論	M1	24	6	
09.07.04 ～ 09.07.06	3	京都大学	アジア・アフリカ地域研究研究科	アジア・アフリカ地域研究演習	D1	57	12	
09.09.08 ～ 09.09.10	3	京都大学	理学研究科 生物科学専攻	野外実習第1部		54	6	
09.09.20 ～ 09.09.22 09.09.25 ～ 09.09.26	3 2	京都大学 京都大学	生態学研究センター 工学研究科 都市環境工学専攻	生態科学Ⅱ特論第4部 野外巡検 研究室（環境情報学講座）ゼミ合宿		24 22	3 8	
09.11.08	1	京都大学	理学研究科 生物科学専攻	フィールドワーク実習 －菌類相から森を考える－		15	10	
10.04.29 ～ 10.04.30 10.05.01 ～ 10.05.03	2 3	京都大学 京都大学	理学研究科	ヘビの採集法の講習会 野生生物観察研修(新歓合宿)	野生生物研究会	8 60	6	
10.05.28	1	京都大学	生存圏研究所	芦生研究林における木材腐朽菌による劣化調査		4	3	
10.06.19 ～ 10.06.20	2	京都大学	情報学研究科 社会情報学専攻	生物圏情報学セミナー	修士・博士	32	10	
10.06.26 ～ 10.06.27	2	京都大学	アジア・アフリカ地域研究研究科	アジア・アフリカ地域研究演習	A・A研, M1	30	6	
10.09.29	1	京都大学	生存圏研究所 循環材料創成分野	天然林の見学と実習		7	2	

11.04.23 ～ 11.04.24 11.04.28	2 1	京都大学 京都大学	情報学研究科 農学部	生物圏情報学講座ゼミ 食料・環境経済学入門	1回生	34 34	17 4	
11.05.03 ～ 11.05.05 11.05.16 ～ 11.05.18	3 3	京都大学 京都大学	理学部 農学研究科 森林科学専攻	京都大学野生生物研究会 自然観察会 森林科学特別科目 ならびに 短期交流学生向け研修（国際森林学生連盟第2回アジア地域会議）		27 114	12	
11.05.28 ～ 11.05.29	2	京都大学	生態学研究センター	生態科学Ⅱゼミナール第4部/発酵・菌類ゼミナール合同見学会		22	2	
11.06.25 ～ 11.06.26	2	京都大学	アジア・アフリカ地域研究研究科	アジア・アフリカ地域研究演習	M1	38	8	
11.07.07 ～ 11.07.08	2	京都大学	生態学研究センター	京都大学グローバルCOE国際シンポジウム参加者による芦生演習林の観察		48	52	
11.09.20 ～ 11.09.22	3	京都大学	理学研究科 生物科学専攻	野外実習第1部		21	6	
11.09.09 ～ 11.09.10	2	京都大学	農学研究科 応用生物科学専攻	防鹿柵内外の植生比較（自主ゼミ）		16	2	
11.10.08 ～ 11.10.10	3	京都大学	生態学研究センター他	生態科学Ⅱゼミナール第4部（理学研究科）/真菌自然史（総合人間学部）/行動発達論（人間・環境学研究科）/発達論（総合人間学部）合同見学会		30	9	
11.11.03	1	京都大学	理学研究科 生物科学専攻	フィールドワーク実習ー菌類層から森を考えるー		35	6	
計	82			(37件)		1,106	282	

北海道研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.08.03 ～ 08.08.07	5	京都大学	農学部 食料・環境経済学科	調査研究方法実習Ⅰ	2回生	48	20	標茶区・白糠区
09.08.03 ～ 09.08.08	6	京都大学	農学部 食料・環境経済学科	調査研究方法実習Ⅰ・Ⅱ	2回生	25	23	標茶区・白糠区
11.08.06 ～ 11.08.10	5	京都大学	農学部 食料・環境経済学科	調査研究方法実習Ⅰ・Ⅱ	2回生	30	11	標茶区・白糠区
計	16			(3件)		103	54	

和歌山研究林

（該当案件なし）

上賀茂試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.04.12	1	京都大学	農学部 森林科学科	新入生向け見学会	1回生	56	24	
08.05.17	1	京都大学	農学研究科 森林科学専攻	新入生ガイダンス	M1	150	37	
08.05.21 ～ 08.05.27	4	京都大学	理学部 生物科学系	生物学実習「野外調査法ー昆虫の密度推定法」	3回生	68	6	
08.05.28	1	京都大学	農学部 地域環境工学科	「土壌物理学・水環境工学実験」 土壌の三相分布測定及び浸入能試験実習	3回生	26	1	
08.05.28 ～ 08.07.09	4	京都大学	農学部 森林科学科	森林生物学実験及び実験法	3回生	88	4	
09.04.11	1	京都大学	農学部 森林科学科	平成21年度 農学部森林科学科ガイダンス	1回生	56	22	
09.05.16	1	京都大学	農学研究科 森林科学専攻	新入生向けガイダンス	M1	142	48	
09.05.18 ～ 09.05.21	4	京都大学	理学部 生物科学系	生物学実習「野外調査法ー昆虫の密度推定法」	3回生	65	4	
09.06.17	1	京都大学	農学部 地域環境工学科	「土壌物理学・水環境工学実験」 土壌の三相分布測定及び浸入能試験実習	3回生	25	1	
09.06.03 ～ 09.07.01	4	京都大学	農学部 森林科学科	森林生物学実験及び実験法	3回生	103	4	
10.04.10	1	京都大学	農学部 森林科学科	平成22年度 農学部森林科学科ガイダンス	1回生	54	22	
10.05.15	1	京都大学	農学研究科 森林科学専攻	新入生ガイダンス	M1	153	46	
10.05.17 ～ 10.05.25	3	京都大学	理学部 生物科学系	生物学実習「野外調査法ー昆虫の密度推定法」	3回生	52	4	
10.06.02	1	京都大学	生態学研究センター	生物学実習B 野外調査法（生態）	3回生	11	2	
10.06.02 ～ 10.06.30	4	京都大学	農学部 森林科学科	森林生物学実験及び実験法	3回生	105	4	
10.06.09	1	京都大学	農学部 地域環境工学科	「土壌物理学・水環境工学実験」 土壌の三相分布測定及び浸入能試験実習	3回生	17	1	
11.04.09	1	京都大学	農学部 森林科学科	農学部森林科学科ガイダンス		57	25	
11.05.21	1	京都大学	大学院農学研究科	新入生ガイダンス及び歓迎会	M1	159	31	
11.06.08	1	京都大学	農学部 地域環境工学科	「土壌物理学・水環境工学実験」 土壌の三相分布測定及び浸入能試験実習	3回生	26	1	
11.06.08 ～ 11.06.29	3	京都大学	農学部 森林科学科	森林生物学実験及び実験法	3回生	80	3	
11.06.07	1	京都大学	生態学研究センター	生物学実習B 野外調査法（生態）	3回生	14	1	
11.06.14	1	京都大学	農学部	少人数セミナー「京都の森を襲った2つの森林流行病」	1回生	5	1	
11.07.06	1	京都大学	農学部 森林科学科	森林生物学実験及び実験法	3回生	27	1	
12.01.28	1	京都大学	地球環境学会	土壌学特論		5	3	
12.02.20	1	京都大学	農学部	少人数セミナー「京都の森を襲った2つの森林流行病」	1回生	2	1	
計	44			(25件)		1,546	297	

徳山試験地

(該当案件なし)

北白川試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.04.08	1	京都大学	農学部	有機化学実験および実験法	3回生	35	3	
08.04.16	1	京都大学	農学部	「土壌物理学・水環境工学実験」採土方法の習得と土壌の三相分布測定	3回生	25	1	
08.05.23	1	京都大学	農学部	少人数セミナー「細胞性粘菌の不思議な世界」	1回生	7	1	
08.05.27	1	京都大学	農学部	有機化学実験および実験法	3回生	54	3	
08.06.15	1	京都大学	農学部	森林科学実習Ⅰ（森林科学科）	2回生	32	1	
08.07.10	1	京都大学	農学部	森林科学実習Ⅰ（森林科学科）	2回生	26	1	
08.09.05～08.09.10	2	京都大学	農学部	森林水文学・砂防学実験及び実験法	3回生	4		
08.10.06～08.10.20	2	京都大学	農学部	森林水文学・砂防学実験及び実験法	3回生	29	2	
08.11.12	1	京都大学	農学部	生物有機化学Ⅲ	3回生	42	1	
09.04.08	1	京都大学	農学部	有機化学実験および実験法	3回生	45	3	
09.04.15	1	京都大学	農学部	「土壌物理学・水環境工学実験」採土方法の習得と土壌の三相分布測定	3回生	28	1	
09.06.01～09.06.02	2	京都大学	農学部	有機化学実験および実験法	3回生	52	4	
09.06.16～09.07.01	7	京都大学	農学部	生物学実習	3回生	26		
09.11.18	1	京都大学	農学部	生物有機化学Ⅲ	3回生	33	1	
09.12.16	1	京都大学	農学部	森林植物学実習	3回生	12	1	
10.04.09	1	京都大学	農学部	有機化学実験および実験法	3回生	36	4	
10.04.21	1	京都大学	農学部	「土壌物理学・水環境工学実験」採土方法の習得と土壌の三相分布測定	3回生	19	1	
10.06.04	1	京都大学	農学部	有機化学実験および実験法	3回生	47	2	
10.10.04	1	京都大学	農学部	森林水文学・砂防学実験及び実験法	3回生	20	1	
10.11.17	1	京都大学	農学部	生物有機化学Ⅲ	3回生	32	1	
11.04.08	1	京都大学	農学部	有機化学実験及び実験法	3回生	38	4	
11.04.20	1	京都大学	農学部	「土壌物理学・水環境工学実験」採土方法の習得と土壌の三相分布測定	3回生	26	1	
11.06.15	1	京都大学	農学部	有機化学実験	3回生	4	2	
11.08.26	1	京都大学	農学部	森林水文学・砂防学実験及び実験法	3回生	3	1	
11.10.03～11.10.17	2	京都大学	農学部	森林水文学・砂防学実験及び実験法	3回生	27	2	
11.11.16	1	京都大学	農学部	生物有機化学Ⅲ	3回生	34	1	
計	36		(26件)			736	43	

紀伊大島実験所

(該当案件なし)

舞鶴水産実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.09.08～08.09.11	4	京都大学	農学研究科 地域環境科学専攻	「水理学実験」の実験実習		128	4	
09.05.08～09.05.10	3	京都大学	農学研究科 応用生物科学専攻	新入生歓迎会	M1	64		
09.05.16～09.05.17	2	京都大学	情報学研究科	セミナー合宿	M1	28	14	
09.08.03	1	京都大学	地球環境学学	野外実習		50	5	
09.09.07～09.09.10	4	京都大学	農学研究科 地域環境科学専攻	「水理学実験」の実験実習		139	4	
10.09.06～10.09.09	4	京都大学	農学研究科 水資源利用工学研究室	「水理学実験」の実験実習		108	12	
10.10.08～10.10.09	2	京都大学	理学研究科 地質学鉱物学教室	地質学野外実習（大島半島他）のため		16	6	
11.08.01	1	京都大学	地球環境学学	環境マネージメント夏期野外実習（船の実習・磯の実習）		33	10	
11.09.12～11.09.15	4	京都大学	農学部・大学院農学研究科	実習 水理学実験（学部） 水資源利用工学実験（大学院）		144	12	
11.10.15～11.10.16	2	京都大学	理学研究科	地質科学野外巡検Ⅰ（大島半島巡検）		22	6	
計	27		(10件)			732	73	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.04.09～08.04.10	2	京都大学	理学研究科	インターラボ	M1	72		
08.06.20～08.06.21	2	京都大学	防災研究所	土木学会環境水理部会研究集会	M1, M2	14	2	
08.08.07～08.08.11	5	京都大学	人間・環境学研究科	海洋化学実習		60	14	
08.08.28～08.09.05	9	京都大学	理学部	臨海実習1部		99	14	
08.09.08～08.09.09	2	京都大学	防災研究所	少人数セミナー「空を観る，海を観る，川を観る」		10	6	
08.09.24～08.09.25	2	京都大学	防災研究所	気象海象観測実験		20	10	
09.01.09～09.01.11	3	京都大学	理学部	生物科学セミナー		3	10	
09.02.27～09.03.02	4	京都大学	人間・環境学研究科	生物学実習Ⅱ（生態学コース）		64	12	
09.03.10～09.03.15	6	京都大学	理学部	臨海実習第3部		36	9	

09.04.11 ~ 09.04.12	2	京都大学	理学部	インターラボ		100	2	
09.07.29 ~ 09.07.31	3	京都大学	理学研究科 化学専攻	化学専攻無機化学大講座の合同の海洋無機演習、海洋無機分析に関する講義・雑誌会・実験・分析		54	18	
09.09.06 ~ 09.09.14	4	京都大学	防災研究所	少人数セミナー「白浜高潮観測塔における海象実習」	1回生, M1, M2, D1	32	14	
09.09.16 ~ 09.09.20	5	京都大学	人間・環境学研究科	海洋科学実習		65	10	
10.02.26 ~ 10.03.31	4	京都大学	地球環境学	生物学実習Ⅱ (海洋生物学コース)		36	20	
10.04.09 ~ 10.04.10	2	京都大学	理学研究科	インターラボ	M1	110	4	
10.08.02 ~ 10.08.03	2	京都大学	理学研究科	最先端科学の体験型学習講座 (略称: ELCAS)		52	20	
10.09.01 ~ 10.09.02	2	京都大学	防災研究所	少人数セミナー「空を観る・海を観る・川を観る」		8	4	
10.09.15 ~ 10.09.16	2	京都大学	防災研究所 流域災害研究センター	大学院生少人数セミナー		22	10	
11.03.03 ~ 11.03.06	4	京都大学	人間・環境学研究科	生物学実習Ⅱ		60	20	
11.11.23	1	京都大学	人間・環境学研究科	留学生見学旅行	留学生	29	4	
12.02.21 ~ 12.02.24	4	京都大学	人間・環境学研究科	生物学実習	全学共通	52	12	
12.03.09 ~ 12.03.14	6	京都大学	理学部	臨海実習第3部	理学部	24	18	
計	76		(22件)			1,022	233	

6.4.3 他大学利用

(学生数・教員等数は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.10.31	1	京都造形芸術大学	日本庭園・歴史遺産研究センター	The Japanese Garden Intensive Seminar		29	6	
09.07.27 ~ 09.07.28	2	兵庫県立大学 大学院	緑環境景観マネジメント研究科	自主ゼミ 「植生の多様性の観察、自然環境教育の実践」		4	2	
10.05.30	1	東京学芸大学	小泉 武栄	芦生研究林における樹種の分布と地形・地質条件との関係		2	7	
10.08.01	1	石川県立大学	生物資源環境学部	日本海側の森林の潜在的植生の観察とシカによる食害が植生に与える影響の把握		11	2	
10.09.06 ~ 10.09.08	3	京都大学	フィールド研	公開森林実習		15	11	
10.10.09 ~ 10.10.11	3	京都造形芸術大学	こども芸術学科	科目名「こどもといのち」 こども狩猟採集学入門：自然と地域とこども		105	6	
10.11.04 ~ 10.11.05	2	神戸大学	農学部	応用植物学専門演習		16	4	
10.11.05	1	京都造形芸術大学	日本庭園・歴史遺産研究センター	The Japanese Garden Intensive Seminar		19	4	
11.08.01	1	石川県立大学	生物資源環境学部	日本海側の森林の潜在的植生の観察とシカによる食害が植生に与える影響の把握		11	2	
11.09.05 ~ 11.09.07	3	京都大学	フィールド研	公開森林実習	全大学全回生	15	13	公開実習
11.09.05 ~ 11.09.07	3	人間環境大学	・京都学園大学	共同フィールドワークB	全回生	18	19	
11.10.09 ~ 11.10.11	3	京都造形芸術大学	こども芸術学科	科目名「こどもといのち」 こども狩猟採集学入門：自然と地域とこども		105	6	
11.11.04 ~ 11.11.05	2	神戸大学	農学部	応用植物学専門演習		16	4	
11.11.05	1	京都造形芸術大学	日本庭園・歴史遺産研究センター	The Japanese Garden Intensive Seminar		19	4	
計	27		(14件)			385	90	

北海道研究林

(該当案件なし・北大との共催科目は 6.4.1(p.126) に掲載)

和歌山研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
10.10.27	1	大阪府立大学	大学院 生命環境科学研究科	緑地環境科学実験実習Ⅱ	B3	2	1	
計	1		(1件)			2	1	

上賀茂試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.04.21	1	京都精華大学	人文学部 環境社会学科	自然教育論	1~3回生	56	1	
08.05.16 ~ 08.12.05	2	京都造形芸術大学	環境デザイン学科	ランドスケープ計画 名園実習	3~4回生	37	5	
08.06.23	1	京都精華大学	人文学部	上賀茂試験地の樹木見学	2回生	12	1	
08.07.07	1	京都精華大学	人文学部 環境社会学科	自然教育論	1~3回生	36	1	
08.07.08 ~ 08.07.28	2	京都府立大学	大学院 生命環境科学研究科	森林植物学実習	3回生	31	5	
08.09.11	1	京都教育大学	教育学部 産業技術科学科	栽培と飼育の実践Ⅱー生命を慈しみ、育むー	1~4回生	13	6	
08.11.08	1	京都精華大学	人文学部 環境社会学科	自然観察会「京都精華大学子ども楽々塾」		0	35	
08.11.11 ~ 08.11.13	3	京都精華大学	人文学部 環境社会学科	ネイチャーゲーム講習会	2~4回生	127	3	
09.04.20 ~ 09.10.20	3	京都精華大学	人文学部 環境社会学科	自然教育論	2~4回生	77	4	
09.05.13 ~ 09.12.12	2	京都造形芸術大学	環境デザイン学科	庭園実習Ⅰ・Ⅱ	3回生	25	4	
09.07.07	1	京都府立大学	生命環境学部 森林科学科	森林植物学実習	3回生	18	4	
09.09.28	1	京都教育大学	教育学部 産業技術科学科	「栽培実習Ⅱ」および「栽培と飼育の実践Ⅱー生命を慈しみ、育むー」	1~4回生	16	4	
10.05.12 ~ 10.12.01	2	京都造形芸術大学	環境デザイン学科	庭園実習Ⅰ・Ⅱ	3回生	33	4	
10.07.06	1	京都府立大学	生命環境学研究科	森林植物学実習	3回生	35	4	
10.09.06	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習		5	3	公開実習
10.09.30	1	京都教育大学	教育学部 産業技術科学科	栽培実習Ⅱおよび栽培と飼育の実践Ⅱ		6	5	
11.05.11	1	京都造形芸術大学	環境デザイン学科	庭園実習Ⅰ・Ⅱ	3回生	16	2	
11.07.04	1	京都精華大学	人文学部 環境社会学科	自然教育論	2~4回生	14	1	
11.07.04 ~ 11.07.31	2	京都府立大学	生命環境学部	森林植物学実習	2回生	48	5	
11.07.05	1	京都府立大学	生命環境学部	森林植物学実習	3回生	32	3	
11.09.05	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習		5	4	公開実習
11.09.05	1	人間環境大学・京都学園大学	共同フィールドワークB		全回生	6	5	
11.09.27	1	京都教育大学	教育学部	「栽培実習Ⅱ」及び「食農教育の実践Ⅱ」	2回生	16	2	
11.11.16	1	京都産業大学	法学部	自然地理学応用	2~4回生	16	1	
11.11.30	1	京都造形芸術大学	環境デザイン学科	庭園実習Ⅰ・Ⅱ	3回生	10	2	
計	34		(25件)			690	114	

徳山試験地

(該当案件なし)

北白川試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
10.09.08	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習		5	2	
11.09.07	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習		5	1	公開実習
11.09.07	1	人間環境大学・京都学園大学	共同フィールドワークB		1~4回生	6	2	
計	3		(3件)			16	5	

紀伊大島実験所

(該当案件なし)

舞鶴水産実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.06.23 ~ 08.06.27	5	近畿大学	農学部	環境管理学実験・実習Ⅱ		120	13	
08.09.03 ~ 08.09.06	4	岐阜大学	地域科学部	臨海実習		24	4	
08.09.14 ~ 08.09.19	6	岐阜大学	教育学部	臨海実習		84	14	
08.10.16	1	タイ カセサート大学		施設見学		15	2	
08.10.19 ~ 08.10.20	2	ノルウェー海洋科学研究所		水産資源学に関する講演と討論		4		
09.06.29 ~ 09.07.03	5	近畿大学	農学部	環境生態学実験・実習Ⅰ		125	7	
09.07.12 ~ 09.07.14	3	神戸女学院大学	人間科学部	舞鶴湾環境調査実習		26	7	
09.09.02 ~ 09.09.04	3	岐阜大学	地域科学部	臨海実習		18	4	
09.09.10 ~ 09.09.15	6	岐阜大学	教育学部	臨海実習		78	12	
10.05.17 ~ 10.05.21	5	近畿大学	農学部	環境生態学実験・実習Ⅰ		134	5	
10.09.13 ~ 10.09.18	6	岐阜大学	教育学部	臨海実習		78	14	
11.03.09 ~ 11.03.10	2	東京大学	理学系研究科	サンプリング		4		
11.05.24 ~ 11.05.28	5	近畿大学	農学部	環境生態学実験・実習Ⅰ, 海草藻場実習		130	10	
11.08.31 ~ 11.09.05	6	岐阜大学	教育学部	臨海実験法および実験		72	24	
11.12.27 ~ 12.03.21	5	広島大学	大学院 生物圏科学研究科	沿岸魚類生産学実習Ⅰ,Ⅱ		25	5	
計	64		(15件)			937	121	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
08.04.05 ~ 08.04.09	5	和歌山大学	教育学部	臨海実習	3回生	60	15	
08.05.19 ~ 08.05.23	5	近畿大学	農学部環境管理学科	環境生態学専門実験・実習	3,4回生, M1	130	10	
08.06.02 ~ 08.06.07	6	奈良女子大学	理学部	臨海実習Ⅱ	3回生, M1	114	14	
08.06.17 ~ 08.06.21	5	奈良教育大学	教育学部	臨海実習 (野外実習A-Ⅱ)	2,3回生, M2	70	15	
08.06.29 ~ 08.07.03	5	大阪教育大学	教育学部	臨海実習	3,4回生	74	5	
08.07.11 ~ 08.07.17	7	大阪市立大学	理学部	臨海実習	3回生	140	28	
08.08.07 ~ 08.08.11	5	信州大学	理学部	海洋化学実習		60	10	
08.08.18 ~ 08.08.22	5	関西学院大学	理工学部	臨海実験・演習		115	29	
08.08.28 ~ 08.09.05	9	国立大学臨海	臨湖実験所長会議	公開臨海実習		45	14	
08.09.11 ~ 08.09.16	6	大阪大学	理学部	生物学臨海実習		117	16	
08.09.19 ~ 08.09.21	3	大阪千代田短期大学		磯観察実習		30	3	
08.09.26 ~ 08.09.29	4	京都教育大学		生物学夏期実習Ⅱ		32	4	
08.11.29 ~ 08.11.30	2	放送大学 (京都学習センター)		放送大学面接授業 (海洋生物の多様性)		0	38	
09.03.24 ~ 09.03.30	7	国立大学臨海	臨湖実験所長会議	公開臨海実習		49	6	
09.03.31 ~ 09.04.03	4	龍谷大学		環境フィールドワーク 白浜臨海実習		64	12	
09.04.24 ~ 09.04.29	6	和歌山大学	教育学部	臨海実習		108	24	
09.05.25 ~ 09.05.29	5	近畿大学	農学部 環境管理学科	環境生態学専門実験・実習		135	10	
09.06.05 ~ 09.06.10	6	奈良女子大学		臨海実習		120	18	
09.06.23 ~ 09.06.27	5	奈良教育大学	理学部	臨海実習		75	15	
09.07.04 ~ 09.07.08	5	大阪教育大学	教員養成課程 理科教育講座	臨海実習		95	5	
09.07.09 ~ 09.07.15	7	大阪市立大学	大学院理学研究科	臨海実習		161	21	
09.08.18 ~ 09.08.22	5	関西学院大学	理工学部	臨海実習 (ウニの発生実験、甲殻類の解剖、島島での磯採集)		100	30	
09.08.24 ~ 09.08.27	4	滋賀県立大学	環境科学部	臨海実習		76	16	
09.08.28 ~ 09.09.02	6	大阪大学	理学部	生物学臨海実習		96	24	
09.09.03 ~ 09.09.11	9	国立大学臨海	臨湖実験所長会議	公開臨海実習 (夏期)	2回生	108	54	
10.03.19 ~ 10.03.22	4	龍谷大学	法学部 (環境サイエンスコース)	白浜臨海実習		128	12	
10.04.15 ~ 10.04.19	5	和歌山大学	教育学部 (生物学教室)	臨海実習		65	15	
10.05.25 ~ 10.05.30	6	奈良女子大学		臨海実習		120	18	
10.06.12 ~ 10.06.13	2	放送大学京都学習センター		海洋生物の多様性		40		
10.06.13 ~ 10.06.17	5	大阪教育大学		臨海実習		80	5	
10.06.27 ~ 10.07.01	5	奈良教育大学		臨海実習		65	15	
10.07.07 ~ 10.07.13	7	大阪市立大学	大学院 理学研究科	臨海実習		168	49	
10.07.13 ~ 10.07.15	3	近畿大学	農学部	環境生態学専門実験・実習		90	3	
10.07.29 ~ 10.8.02	5	信州大学	理学部	分析化学持論実習		75	20	
10.08.03 ~ 10.08.11	9	国立大学臨海	臨湖実験所長会議	公開臨海実習 (夏期)		63		
10.08.22 ~ 10.08.26	5	関西学院大学	理工学部	臨海実習		95	25	
10.08.26 ~ 10.08.31	6	大阪大学	理学研究科	生物学臨海実習	大学院生	102	36	
10.11.06 ~ 10.11.07	2	放送大学京都学習センター		海洋と地球環境		40		
11.03.20 ~ 11.03.26	7	国立大学臨海	臨湖実験所長会議	公開臨海実 (春期)		56	28	
11.04.02 ~ 11.04.05	4	龍谷大学	法学部 (環境サイエンスコース)	環境フィールドワーク 白浜臨海実習		64	12	
11.04.17 ~ 11.04.22	6	和歌山大学	教育学部 (生物学教室)	臨海実習		120	18	
11.05.30 ~ 11.06.04	6	奈良女子大学	理学部	臨海実習Ⅱ		102	18	
11.06.15 ~ 11.06.19	5	奈良教育大学	教育学部	臨海実習 (野外実習A-Ⅱ)		75	15	
11.06.30 ~ 11.07.04	5	大阪教育大学	教員養成課程 理科教育講座	臨海実習		80	5	
11.07.12 ~ 11.07.18	7	大阪市立大学	大学院 理学研究科	臨海実習		77	21	
11.07.29 ~ 11.08.01	4	近畿大学	農学部	環境生態学実験・実習		112	4	
11.08.01 ~ 11.08.05	5	信州大学	理学部 化学科	海洋化学実習		45	20	
11.08.16 ~ 11.08.20	5	関西学院大学	理工学部	臨海実験		120	25	
11.08.22 ~ 11.08.25	4	滋賀県立大学	環境科学部 環境生態学科	自然環境特別実習および環境学野外実習		72	12	
11.09.12 ~ 11.09.14	3	奈良女子大学	理学部	実習		6	3	
11.09.12 ~ 11.09.17	6	大阪大学	理学研究科 生物科学専攻	生物学臨海実習		126	24	
11.09.22 ~ 11.09.25	4	島根大学	教育学部 自然環境教育講座	フィールド科学実習		64	8	
11.09.27 ~ 11.10.01	5	大阪大学	科学・生物学複合メジャーコース	白浜臨海実習		80	15	
12.03.21 ~ 12.03.27	7	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「海洋無脊椎動物の多様性と進化学」		63	56	公開実習／本学学生1人・他学学生8人
計	283		(54件)			4,567	918	

6.4.4 高校生以下を対象とする実習等

(学生数・教員等数は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.05.11 ～ 08.12.07	3	兵庫県立尼崎小田高等学校	「自然科学研究」ブナ林の生態、種子調査ー地球温暖化の指標としてー	高校生	23		
08.05.22	1	綾部市立東綾中学校	総合的な学習の時間	1年生	16	5	
08.06.25	1	東海大学付属仰星高等学校	遠足における自然観察と環境教育	高校生	41		
08.07.08	1	京都大学 フィールド研	水生生物観察会	知井小学校4年生	9	9	
08.07.22	1	南丹市立宮島小学校	美山町第4学年合同自然体験教室「美山っ子グリーンワールド」	美山町内4年生	48		
08.08.24 ～ 08.08.25	2	京都大学 フィールド研	森林体験学習（共催：和歌山県立有田中央高等学校清水分校、ANA「私の青空」）	高校1年生	44	8	大学等地域開放特別事業
08.09.17	1	高島市立朽木西小学校	樹木の葉の観察	小学生	11		
08.10.02	1	京都市立葛野小学校	京都市教育委員会 長期宿泊・自然体験推進事業	小学生	86		
08.10.09	1	京都市立堀川高等学校	2008 理科&地歴フィールドワーク	高校生	15		
08.10.28	1	京都府立北桑田高等学校 森林リサーチ科	環境科学基礎	1年生	33		
09.06.03	1	京都市立桂徳小学校	京都市教育委員会 長期宿泊・自然体験推進事業		66	9	
09.07.31	1	南丹市美山町内小学校	美山町第4学年合同自然体験教室「美山っ子グリーンワールド」	小学4年生	38	10	
09.08.08 ～ 09.08.09	2	大阪教育大学付属高等学校天王寺校舎	学校設定科目「環境論」		61		
09.08.24 ～ 09.08.25	2	京都大学 フィールド研	森林体験学習（共催：和歌山県立有田中央高等学校清水分校、ANA「私の青空」）		50	13	
09.10.12 ～ 09.11.07	4	兵庫県立尼崎小田高等学校	自然科学研究 「ブナ林の生態・種子調査ー地球温暖化の指標としてー」		10	1	
09.10.29	1	京都市立一橋小学校	長期宿泊体験学習の一環として「森林の見学及び芦生の自然についての学習」	小学5年生	102	11	
09.10.30	1	京都府立北桑田高等学校 森林リサーチ科	環境科学基礎		32	3	
10.07.27	1	南丹市立鶴ヶ岡小学校	美山町第4学年合同自然体験教室「美山っ子グリーンワールド」		51	9	
10.08.09 ～ 10.08.10	2	大阪教育大学附属高等学校 天王寺校舎	学校設定科目「環境論」		66		
10.09.10	1	京都市立葛野小学校	総合的な学習		94	7	
10.10.14	1	京都市立大枝小学校	総合的な学習		83	9	
10.10.29	1	京都府立北桑田高等学校	環境科学基礎		32	3	
10.10.31	1	兵庫県立尼崎小田高等学校	科目名「自然科学研究」 テーマ ブナ葉緑体DNAの分析、ブナ林の生態調査		7		
11.06.19	1	南丹市教育委員会	なんたんわくわくキッズ開始式・芦生研究林ハイキング	小学5,6年生	34	6	
11.07.28	1	南丹市立平屋小学校他	美山町第4学年合同自然体験教室「美山っ子グリーンワールド」	小学4年生	34	9	
11.08.07 ～ 11.08.08	2	大阪教育大学附属高等学校 天王寺校舎	学校設定科目「環境論」 SSH事業	高校生	64	0	
11.10.25	1	京都府立北桑田高等学校	環境科学基礎	高校生	30	4	
11.11.02	1	光の子どもインターナショナルクリ	本学中高生の自然観察学習	中, 高生	30	8	
計	38	(28件)			1,210	124	

北海道研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.05.23	1	標茶町立標茶小学校	遠足	3年生	48	1	
08.06.25	1	標茶町立沼幌小学校	木工教室（図工）	全学年	18	5	
08.11.08 ～ 08.11.09	2	標茶町教育委員会	平成20年度ジュニアリーダー養成講座「しべちゃアドベンチャースクール」の第4講座（ネイチャースクール）	小中高生	28	11	
09.01.31 ～ 09.02.01	2	標茶町教育委員会社会教育課	平成20年度ジュニアリーダー養成講座「しべちゃアドベンチャースクール」の第5講座（冬の野外学習）	小中高生	20	12	
09.05.22	1	標茶町立標茶小学校	遠足	3年生	57	1	
09.06.24	1	標茶町立沼幌小学校	木工教室（図工）	全学年	16	4	
09.11.07 ～ 09.11.08	2	標茶町教育委員会社会教育課	平成21年度ジュニアリーダー養成講座「しべちゃアドベンチャースクール」の第4講座（ネイチャースクール）	標茶町の小中高生	32	4	
10.01.30 ～ 10.01.31	2	標茶町教育委員会社会教育課	平成21年度ジュニアリーダー養成講座「しべちゃアドベンチャースクール」の第5講座（冬の野外学習）	標茶町の小中高生	27	5	

10.05.21 10.06.22 10.11.06 ～ 10.11.07	1 1 2	標茶町立標茶小学校 標茶町立沼幌小学校 標茶町教育委員会	遠足 木工教室（図工） 平成22年度しべちャアドベンチャース クール第4ステージ「秋の森林学習」－ 京都大学森林ステーションでの自然学習 －	3年生 2年生～6年生 標茶町の小中 高生	59 13 20	1 4 12	標茶区 標茶区 標茶区
11.01.22 ～ 11.01.23	2	標茶町教育委員会	平成22年度しべちャアドベンチャース クール第5ステージ「冬の雪山活動」－ 京都大学森林ステーションでの雪上散策 －	標茶町の小中 高生	16	13	標茶区
11.05.27 11.06.21 12.01.21 ～ 12.01.22	1 1 2	標茶町立標茶小学校 標茶町立沼幌小学校 標茶町教育委員会	遠足 草木染め教室（図工） 平成23年度しべちャアドベンチャース クール第5ステージ「冬の雪山活動」－ 京都大学森林ステーションでの雪上散策 －	小学3年生 小学生 小中高生	61 13 35	1 6 8	後援
計	22	(15件)			463	88	

和歌山研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.04.15 ～ 09.01.20 08.05.14	20 1	県立有田中央高等学校清水分校 県立有田中央高等学校清水分校	ウッズサイエンス 総合的な学習の時間「SIMIZUタイム」 (森林ウォーク)	3年生 1年生	97 25	44 7	
08.05.30 08.10.20	2	有田川町立八幡小学校	総合的な学習の時間「森は友だち森林の 町清水」	5年生	34	12	
08.10.01 ～ 08.10.03 08.10.09 ～ 08.10.29	3 3	有田川町立八幡中学校 有田川町産業課	総合的な学習の時間「職業体験学習」 「森とあそぶまなぶ」 森林体験学習	2年生 4,5年生	9 159	10 22	
09.04.14 ～ 10.01.19 09.05.13	26 1	県立有田中央高等学校清水分校 県立有田中央高等学校清水分校	ウッズサイエンス 総合的な学習の時間「SIMIZUタイム」 (森林ウォーク)	1年生	118 25	67 6	
09.06.08	1	有田川町立八幡小学校	総合的な学習の時間「森は友だち森林の 町清水」	5年生	11	6	
09.09.17 ～ 09.10.22 09.10.21 ～ 09.10.23 09.11.05	3 3 1	有田川町産業課 有田川町立八幡中学校 有田川町立八幡小学校	「森とあそぶまなぶ」 森林体験学習 総合的な学習の時間「職業体験学習」 総合的な学習の時間「森を守ろう」	4,5年生 2年生 5年生	116 12 12	21 18 5	
10.04.20 ～ 10.12.07 10.05.12	23 1	県立有田中央高等学校清水分校 県立有田中央高等学校清水分校	ウッズサイエンス 総合的な学習の時間「SIMIZUタイム」 (森林ウォーク)	3年生 1年生	78 28	66 7	
10.06.04	1	有田川町立八幡小学校	総合的な学習の時間「森は友だち森林の 町清水」	5年生	14	5	
10.08.31 10.09.17 10.09.28 ～ 10.09.30 10.10.15 10.11.11	1 1 3 1 1	有田川町立白馬中学校 有田川町産業課 有田川町立八幡中学校 有田川町産業課 有田川町立八幡小学校	総合的な学習の時間 「森とあそぶまなぶ」 森林体験学習 職業体験学習 「森とあそぶまなぶ」 森林体験学習 総合的な学習の時間「森を守ろう」 環境	1年生 4年生 2年生 4年生 5年生	12 38 18 26 14	6 6 6 6 6	
11.04.19 ～ 11.11.29 11.05.10	14 1	県立有田中央高等学校清水分校 県立有田中央高等学校清水分校	ウッズサイエンス 総合的な学習の時間「SIMIZUタイム」 (森林ウォーク)	3年生 1年生	55 22	58 7	
11.06.10 ～ 11.11.14	2	有田川町立八幡小学校	総合的な学習の時間「森は友だち森林の 町清水」	5年生	25	11	
計	113	(22件)			948	396	

上賀茂試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.05.24	1	京都精華大学 人文学部環境社会学 科	子供楽々塾「自然観察会」	小学生	4	31	
08.08.25	1	京都大学 フィールド研	森林体験学習	高校1年生	29	6	大学等地 域開放特 別事業
09.06.06 ～ 09.11.21 09.08.25	2 1	京都精華大学 人文学部 環境社会 京都大学 フィールド研	京都精華大学こども楽々塾 森林体験学習	小学生 高校1年生	70 24	5 9	
10.07.29	1	京都府立大学 生命環境学研究科	洛北高校スーパーサイエンス研究室訪問	高校生	1	1	
10.08.01	1	岡山大学 大学院環境学研究科 昆虫生態学研究室	子供たちを対象とした昆虫観察会および セミナー	小学5,6年,中 学生	42		
11.11.22 11.11.26	1 1	総合地球環境学研究所 京都市青少年科学センター	上賀茂試験地の施設見学及び散策 平成23年度京都市青少年科学センター未 来のサイエンティスト養成事業体験コー ス	高校2年生 小学4年生～ 中学生	46 29	7	共催
計	9	(8件)			245	59	

徳山試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
10.10.23	1	周南市教育委員会	周南市環境学習教室「森林とふれあい自分だけのオリジナル図鑑を作ってみよう」	周南市内小学生	27	8	共催
計	1	(1件)			27	8	

北白川試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.04.23	1	園田学園高等学校	2008年度春期課外活動「京都大学北部構内見学」	特別進学コース1,2,3年生	39	4	
08.09.21	1	京都大学 フィールド研	森の働きー木・水・土から見える「無用の用」ー（京都大学・ジュニアキャンパス）	中学生	18	7	
08.12.09	1	京都大学 農学研究科 森林科学専攻	進路指導 集中セミナー	高校1,2年生	26	1	
10.12.10	1	京都大学 地球環境学堂 景観生態保全論分野	集中セミナー	大阪府立大手前高校	25	1	
計	4	(4件)			108	13	

紀伊大島実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
11.03.22	1	名古屋市立向陽高等学校	自然域と里域に関するフィールドワーク		34	4	
11.07.09	1	和歌山県立日高高等学校	SSH「紀伊大島照葉樹林の観察」	1,2年生	16	1	
計	2	(2件)			50	5	

舞鶴水産実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.07.01 ～ 08.07.08	2	綾部市立東陵中学校	施設見学及び由良川についての学習	中学生	19		
08.07.22 ～ 08.07.24	3	京都教育大学附属高等学校	臨海実習（SSHクラス）	1年生	57	5	
08.07.24 ～ 08.07.25	2	京都府立西舞鶴高等学校	森と川の調査と分析（SPPプログラム）	2年生	78	7	
08.07.27 ～ 08.07.30	4	兵庫県立西宮今津高等学校	臨海実習	2年生	88	4	
08.07.31 ～ 08.08.02	3	京都府立南陽高等学校	実習・実験・講義（SPPプログラム）	1年生	132	6	
08.09.06	1	兵庫県立神戸高等学校	サイエンスツアー（SSHクラス）	高校生	33	2	
08.10.08	1	舞鶴市立倉梯第二小学校	施設見学	小学生	134		
08.10.10 ～ 08.10.30	2	京都府立海洋高等学校	施設見学と講義	高校生	41		
08.11.07	1	舞鶴市立中舞鶴小学校	ウオークラリー	小学生	360		
08.12.24	1	京都府立海洋高等学校ほか	標本館見学	高校生	3		
09.07.21 ～ 09.07.23	3	京都教育大学附属高等学校	SSHクラス臨海実習	1年生	66		
09.07.23 ～ 09.07.24	2	京都府立西舞鶴高等学校	森と川の調査と分析	2年生	86		
09.07.27 ～ 09.07.29	3	兵庫県立西宮今津高等学校	臨海実習	2年生	66	3	
09.07.31	1	京都府立南陽高等学校	夏季臨海実習		42	1	
09.09.05	1	兵庫県立神戸高等学校	サイエンスツアー		28		
09.10.16	1	八木小学校	総合学習		27		
22.02.17	1	京都府立海洋高等学校	施設見学と講義		26	1	
10.05.11	1	京都府立海洋高等学校	施設見学と講義		27		
10.05.29	1	兵庫県立神戸高校	サイエンスツアー		42		
10.07.28 ～ 10.07.30	3	京都教育大学附属高等学校	SSHクラス臨海実習	1年生	60	12	
10.07.27	1	兵庫県立西宮今津高等学校	調査船緑洋丸による海洋調査		19	1	
10.07.22 ～ 10.07.23	2	京都府立西舞鶴高等学校	平成22年度SPP講座参加のため		87	8	
10.08.04	1	京都府立南陽高等学校	夏季臨海実習		43		
10.08.17	1	舞鶴市小学校教育研究会	社会科夏季研究会		15		
10.08.18	1	綾部市学校教育研究会	理科研究会		25		
11.03.09	1	中保育所	稚ナマコ放流	園児	41		
11.05.11	1	京都府立海洋高等学校	日本海の生物多様性に関する講義と標本を用いた実習	高校生	25	1	
11.06.28	1	兵庫県立神戸高等学校	第1回サイエンスツアー	高校生	44	2	
11.07.21 ～ 11.07.22	2	京都府立西舞鶴高等学校	SPP実習での実験・調査	高校生	86	6	
11.07.26	1	兵庫県立西宮今津高等学校	「フィールド科学実習」の底生生物同定作業	高校生	19	1	
11.07.28 ～ 11.07.30	3	京都教育大学附属高等学校	臨海実習のため	高校生	72	5	
11.08.03	1	京都府立南陽高等学校	臨海実習 施設見学と講義	高校生	44	1	
11.08.03	1	京都府教育委員会	「ふくしまっ子応援京・体験プロジェクト中学生コース」魚類採取体験	福島県被災小・中学生	38	2	
11.08.18	1	舞鶴市	まいづるサマースクール	小学生	35	1	
11.08.26	1	富山県立氷見高等学校	施設見学と講義	高校生	21	1	
11.10.04	1	舞鶴市立三笠小学校	遠足（水産生物標本館見学）	小学生	84	1	
11.11.14	1	舞鶴市立中保育所・中舞鶴幼稚園・中舞鶴小学校	ナマコ見学会	保育園児他	111	1	
12.01.05	1	京都市立堀川高等学校	施設見学と講話「里海生態保全学とは」	高校生	27	1	
計	59	(38件)			2,251	73	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.05.06	1	和歌山県立向陽高等学校	SSH課題研究に係る磯観察	環境科学科2年生	8		
08.05.31 ~ 08.06.01	2	奈良県立奈良高等学校	SSHサイエンスツアー	1,2年生	34		
08.07.18 ~ 08.07.21	4	大阪府立豊中高等学校	平成20年度生物特別臨海実習	1,2年生	68		
08.07.22 ~ 08.07.25	4	滋賀県立膳所高等学校	第39回生物実習旅行	普通科・理数科1年生	100		
08.08.22 ~ 08.08.24	3	奈良女子大学附属中等教育学校	サイエンス「夏の学校」	中学生	79		
08.08.26 ~ 08.08.28	3	兵庫県立尼崎小田高等学校	SSH臨海実習	高校生	21	3	
08.08.30	1	和歌山県立向陽高等学校	磯観察	高校生	6	1	
08.10.03 ~ 08.10.05	3	兵庫県立姫路飾西高等学校	SSC宿泊研修海洋実習	高校生	66		
08.10.10 ~ 08.10.12	3	兵庫県立姫路飾西高等学校	SSC宿泊研修海洋実習	高校生	66		
09.04.25 ~ 09.12.14	3	和歌山県立向陽高等学校	臨海実習		15	1	
09.05.30 ~ 09.05.31	2	奈良県立奈良高等学校	SSHサイエンスツアー		30	4	
09.06.23	1	白浜第二小学校	5年学年行事「磯採集体験」	5年生、父兄	33	4	
09.06.30	1	北富田小学校	社会見学：水族館のバックヤード	3年生	36	3	
09.07.21 ~ 09.07.24	4	滋賀県立膳所高等学校	サイエンスキャンプ I (第40回生物実習旅行)		100		
09.07.26 ~ 09.07.28	3	奈良女子大学付属中等教育学校	SSHサイエンス夏の学校		144		
09.10.03 ~ 09.10.04	2	兵庫県立西宮南高等学校	磯観察、生物の同定、ウニの産卵・採精・受精		28		
09.10.15	1	奈良県立奈良北高等学校	理数科校外研修「海の動物の多様性について」		41		
09.11.05 ~ 09.11.21	6	兵庫県立姫路飾西高等学校	実習受講		117		
10.03.09	1	南部町立清川小学校	概要説明	5年生	10	3	
10.04.29	1	和歌山県立向陽高等学校	SSH実習	環境科学科2年生	3	1	
10.06.05 ~ 10.06.06	2	奈良県立奈良高等学校	臨海実習		20	4	
10.07.17 ~ 10.07.19	3	大阪府立住吉高等学校 理科・生物科	水族生態理解のための臨海実習		66	6	
10.07.21 ~ 10.07.24	4	滋賀県立膳所高等学校	サイエンスキャンプ (第41回生物実習旅行)		88	20	
10.07.27 ~ 10.07.29	3	奈良女子大学附属中等教育学校	臨海実習およびウニの発生実験		114	18	
10.08.09	1	和歌山県立向陽高等学校	実習受講 番所崎におけるイソアワモチ類のデータ収集	2年生	3	1	
10.08.21 ~ 10.08.22	2	兵庫県立尼崎小田高等学校	臨海実習		26	4	
10.09.04	1	和歌山県立 向陽高等学校	番所崎におけるイソアワモチ類のデータ収集		4	1	
10.10.08	1	奈良県立奈良北高等学校	校外研修「海の動物の多様性について」		40	2	
10.11.04 ~ 10.11.06	3	兵庫県立姫路飾西高等学校	宿泊体験学習(海洋実習・前半)		60	6	
10.11.11 ~ 10.11.13	3	兵庫県立姫路飾西高等学校	宿泊体験学習(海洋実習・後半)		60	6	
11.01.07 ~ 11.01.09	3	大阪府立豊中高等学校	生物特別臨海実習2010		42	6	
10.11.09	1	田辺市立龍神小学校	水族館バックヤード	1~6年生	22	6	
10.11.16	1	上富田町立上富田小学校	水族館バックヤード	2,3年生	33	5	
11.02.24	1	田辺市立三里小学校	社会見学	6年生	10	1	
11.05.21 ~ 11.05.22	2	京都大学 理学研究科	最先端科学の体験型学習講座(ELCAS) 修了発表会および合宿	高校生	60	12	
11.05.30	1	白浜町立白浜第二小学校	水族館のバックヤード見学・餌やり体験	4年生	33		
11.06.13	1	白浜町立白浜第二小学校	水族館のバックヤード見学	5年生	25	2	
11.07.22 ~ 11.07.25	4	滋賀県立膳所高等学校	サイエンスキャンプ(第42回生物実習旅行)	高校生	108		
11.07.26 ~ 11.07.27	2	奈良女子大学附属中等教育学校	SSH事業 サイエンス夏の学校	高校生	46		
11.07.28 ~ 11.07.29	2	奈良県立奈良高等学校	サイエンスツアー	高校生	24		
11.07.30	1	瀬戸臨海実験所+和歌山県	紀の国森づくり「最先端大学見学会」(和歌山県紀の国森づくり基金活用事業)	小中高校生	24	1	
11.08.02 ~ 11.08.03	2	白浜町立第一小学校	地域社会体験研修	小学生	2		
11.08.10 ~ 11.08.11	2	田辺市立高雄中学校	地域社会体験研修	中学生	2		
11.08.26 ~ 11.08.27	2	兵庫県立尼崎小田高等学校	臨海実習 SSH事業	高校生	28		
11.10.07	1	奈良県立奈良北高等学校	「海の動物の多様性について」の講義・水族館見学	高校生	43	1	
11.10.08 ~ 11.10.10	3	大阪府立住吉高等学校	水族生態理解のための臨海フィールドワーク実習	高校生	114		
11.10.11 ~ 11.10.13	3	兵庫県立西宮南高等学校	臨海実習	高校生	39		
11.10.19	1	みなべ町立上南部小学校	水族館のバックヤード見学	2年生	47	3	
11.10.28	1	白浜町立北富田小学校	水族館のバックヤード見学	2年生	21	2	
11.11.02	1	みなべ町立高城小学校	水族館のバックヤード見学	1,2年生	25	2	
11.11.17	1	白浜町立北富田小学校	水族館のバックヤード見学	3年生	14	2	
12.01.04 ~ 12.01.06	3	大阪府立豊中高等学校	水族館の案内・解説	高校生	54	3	
計	111	(52件)			2,302	134	

6.4.5 一般対象の実習等

(参加者数・教員等数は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.04.19 ～ 08.11.24	120	財団法人美山町自然文化村	芦生ネイチャーガイドハイキング	一般	2,983		
08.04.23 ～ 08.05.14	2	びわ湖高島観光協会朽木支所	自然観察会	一般	56		
08.04.25 ～ 08.11.15	49	芦生山の家	芦生研究林の自然観察（ハイキングを認定ガイドで案内する）	一般	895		
08.05.29	1	美山産官学公連携協議会	美山産官学公連携協議会景観・環境プロジェクト	一般	10	2	
08.05.31	1	京都大学 芦生研究林	芦生の森自然観察会入門編『春の森を歩きながら樹木観察をしよう』	一般	17	11	
08.06.01 ～ 08.12.21	20	NPO法人芦生自然学校	自然観察，自然体験，環境教育	一般	220		
08.06.04	1	神戸シルバーカレッジ	観光開発と自然保護	一般	7		
08.07.25 ～ 08.07.27	3	京都大学 フィールド研	フィールド研公開講座「森のしくみとその役割」－変わりゆく芦生の森と生き物たち－	一般	91	45	
08.08.03	1	舞鶴の川と海を美しくする会	由良川エコ・ウォッチング	一般	42		
08.09.28 ～ 08.11.06	3	針畑ルネッサンスセンター	自然観察会	一般	31		
08.09.28	1	Nantan健歩会	歴史健康ウォーキング美山・芦生の森トロッコ道自然観察	一般	132		
08.10.25	1	京都大学 芦生研究林	芦生の森自然観察会 入門編『秋の森を歩きながら樹木観察をしよう』	一般	18	11	
08.10.26	1	京都大学 理学研究科物理学・宇宙物理学専攻	理科の探検 RikaTan センスオブワンダー		16	3	
09.04.12 ～ 10.02.21	87	財団法人美山町自然文化村	芦生ネイチャーガイドハイキング		2,139		
09.04.24 ～ 09.11.22	46	芦生山の家	芦生研究林の自然観察 ハイキングを地元のガイドで案内する		741		
09.04.25	1	財団法人京都ゼミナールハウス	21年度ゼミナールハウス教育文化芸術振興事業「山野草教室」の一環		32		
09.04.29	1	NPO法人自然観察指導員京都連絡会	由良川源流域における天然林の観察		34		
09.05.09 ～ 09.11.08	4	針畑ルネッサンスセンター	自然観察会		63		
09.05.13 ～ 09.11.21	6	NPO法人シニア自然大学校	芦生の森 自然観察		194	1	
09.05.17 ～ 09.12.06	11	NPO法人芦生自然学校	自然観察，自然体験，環境教育		183		
09.05.30	1	京都大学フィールド研 芦生研究林	自然観察会		21	14	
09.06.25	1	京都大阪森林管理事務所	京都大阪森林管理事務所職員研修		11		
09.07.04 ～ 09.07.05	2	NPO自然観察指導員京都連絡会北部支部	NPO自然観察指導員京都連絡会北部支部の芦生研究林における森林及び生息する野鳥についての現地一泊研修		20		
09.07.24 ～ 09.07.26	3	京都大学 フィールド研	公開講座		140	73	
09.07.30	1	南丹広域振興局農林商工部林業振興担当	第20回緑の少年団全国大会における体験活動		104	11	
09.08.10	1	全国農業教育研究会第39回大会実行委員会事務局長	芦生研究林の原生的自然及び鹿害について		16		
09.10.03	1	日本生態学会近畿地区会	フィールドシンポジウム「芦生におけるシカ害とその対策研究の現状」		15	18	
09.10.12	1	舞鶴ネイチャーガイド養成講座	丹後広域観光キャンペーン協議会 丹後ネイチャーガイド養成講座 自然観察の合同フィールドワーク「由良川の源流を探って」		28	5	
09.10.21	1	南丹市役所市民部環境課	自然環境の現状把握のための見学並びに研修		13		
09.10.24	1	京都大学フィールド研 芦生研究林	自然観察会		20	11	
09.10.26	1	知井振興会	ふる里ウォーク 秘境芦生の森を歩く		17		
09.11.05	1	美山町環境保全対策協議会	森林における環境変化の認識及び研修		11	1	
09.11.11	1	独立行政法人国際協力機構 筑波国際センター	平成21年度集団研修「森林環境・資源研究」コース		7	2	
09.11.18	1	こうべ森の学校	未開発の森林の姿を観る		21	2	
09.12.03	1	ワークセンターびび	障害者の地域活動支援		12	2	

10.05.02 ～ 10.11.28	31	NPO法人芦生自然学校	自然観察、自然体験、環境教育		455		
10.05.12 ～ 10.05.14	2	NPO法人シニア自然大学校	芦生原生林の自然観察会		49		
10.05.29	1	京丹波町役場職員互助会	環境意識を高めるための現地研修		9	1	
10.05.29 ～ 10.05.30	2	NPO法人エコロジー・カフェ	第5回エコの寺子屋		19	5	
10.06.05	1	京都大学 フィールド研	自然観察会	一般	24	12	
10.06.14	1	知井振興会	環境学習会		17	5	
10.07.30 ～ 10.08.01	3	京都大学 フィールド研	フィールド研 公開講座	一般	96	70	
10.08.24 ～ 10.08.25	2	京都大学 フィールド研	森林体験学習（共催：和歌山県立有田中央高等学校清水分校、ANA「私の青空」）		54	14	
10.10.16 ～ 10.10.17	2	京都大学 理学研究科	最先端科学の体験型学習講座（略称：ELCAS）		78	2	
10.10.25 ～ 10.10.28	4	中国・四国・近畿地区大学附属演習林協会	平成22年度技術職員研修		58	40	
10.10.20 ～ 10.10.27	2	社団法人びわ湖高島観光協会	自然観察会		22		
11.05.08 ～ 11.12.06	17	NPO法人芦生自然学校	野鳥観察、ネイチャートレッキング、植物観察、水中生物観察、シャワークライミング		295		
11.05.28	1	京都大学 フィールド研	春の自然観察会		11	11	主催
11.07.22 ～ 11.07.24	3	京都大学 フィールド研	フィールド研 公開講座「今、森から考えるー森のめぐみー」		116	68	主催
11.07.30 ～ 11.08.03	2	南丹広域振興局農林商工部	知ろう、守ろう芦生の森ー芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動ー		49	19	
11.10.14	1	社団法人自然環境共生技術協会	野外研修		20		
11.10.22	1	京都大学 フィールド研	秋の自然観察会（京大ウィークス参加事業）		16	10	主催
11.11.03	1	鯖江市特産づくり応援室	森、里、海の連関		14	3	
11.11.03 ～ 11.11.04	2	京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科	日本の森林をタイ・インドの森林研究者の方々に紹介する		16	2	
11.11.06	1	美山町環境保全対策協議会	芦生自然環境ウォーク		24	2	
11.11.07	1	京都園芸倶楽部	芦生原生林見学		22		
11.11.10	1	(株)NHK文化センター梅田教室	自然観察「秋の芦生原生林を観る」		20		
11.11.21	1	芦生地域有害鳥獣対策協議会・南丹広域振興局	芦生の森に設置したシカ防護ネット内の観察及びネットを下ろす作業の体験		14	5	共催
計	461	(58件)			9,858	481	

北海道研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
10.07.24	1	京都大学 フィールド研	ミニ公開講座	一般	13	7	白糠区
10.08.01	1	京都大学 フィールド研	ミニ公開講座	一般	10	6	標茶区
11.07.23	1	京都大学 フィールド研	ミニ公開講座	一般	10	7	標茶区
11.07.30	1	京都大学 フィールド研	ミニ公開講座	一般	7	6	白糠区
計	4	(4件)			40	26	

和歌山研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.10.26	1	和歌山県森林インストラクター会	わかやま森づくり塾現地研修	森林インストラクター	33		
09.09.27	1	和歌山県自然環境室	城ヶ森鉾尖県立自然公園新規指定記念イベント「親子で森について学ぼう！In京都大学和歌山研究林」		20	4	
計	2	(2件)			53	4	

上賀茂試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.04.20	1	京都樹木医会	京都樹木医会勉強会「マツ属の生態観察」	京都樹木医会員	15		
08.05.10	1	京都大学 フィールド研	上賀茂試験地春の自然観察会	一般	30	9	
08.09.01 ～ 08.09.30	2	NPO法人シニア自然大学校 花と実の会	自然観察会	一般	9	1	
08.09.10	1	京都園芸倶楽部	園芸クラブ会員の講演と見学	一般	28		
08.09.24	1	NPO法人シニア自然大学校 茨木バラとカシの会	上賀茂試験地の研究内容・概要の説明とフィールド見学	一般	17	1	
08.10.02	1	京都府立植物園ボランティアグループ	樹木一般 試験地内見学	一般	16		
08.10.14	1	竹林管理ボランティア「竹レンジャー」	伝統ある施設を見学して、竹林管理に有効な竹の生態や管理作業の実際を学ぶ	一般	15		
08.11.07	1	NPO法人シニア自然大学校 自然と文化科	試験地内の樹木の観察	一般	34	1	
08.11.08	1	NPO法人エコロジー・カフェ	第3回エコの寺子屋	一般	21	2	
08.11.08	1	京都精華大学 人文学部環境社会学科	自然観察会「京都精華大学子ども楽々塾」	一般	34	1	
08.11.09	1	京都府ネイチャージョーゲーム協会	ネイチャージョーゲームを使った、子ども達への環境学習	一般	25	5	
08.11.15	1	京都大学 フィールド研	上賀茂試験地秋の観察会	一般	30	7	
08.11.25	1	NPO法人シニア自然大学校 高等科	試験地の見学と実習	一般	30	1	

09.04.29	1	京都大学 フィールド研	上賀茂試験地春の自然観察会	一般	43	8	
09.05.09	1	NPO法人エコロジー・カフェ	エコの寺子屋「フィールド学習」	一般	16	5	
09.07.11	1	京都市北区民ふれあい事業実行委員会	北区民環境セミナー	北区民	51	9	
09.09.11	1	NPO法人シニア自然大学校 インタープリテーション科	自然観察	NPO会員	22	1	
09.10.15	1	NPO法人シニア自然大学校 森と海の自然科	試験地の見学と樹木の観察	NPO会員	15	1	
09.11.10	1	NPO法人シニア自然大学校 高等科	上賀茂試験地の見学と実習	NPO会員	42		
09.11.14	1	京都大学 フィールド研	上賀茂試験地秋の自然観察会	一般	28	8	
10.01.10 ～ 10.01.24	2	京都自然教室	世界の松について	一般	53	4	
10.04.24	1	京都大学 フィールド研	上賀茂試験地春の自然観察会	一般	25	7	
10.11.11 ～ 10.11.13	3	京都精華大学 人文学部社会環境学科	ネイチャーゲーム講習会		84	6	
10.11.13	1	京都大学 フィールド研	上賀茂試験地秋の自然観察会	一般	33	6	
11.04.23	1	京都大学 フィールド研	上賀茂試験地春の自然観察会		30	8	主催
11.12.15 ～ 11.12.17	2	NPO法人エコロジー・カフェ 関西事務所	第6回エコの寺子屋		13	3	
11.10.15	1	京都大学 フィールド研	上賀茂試験地秋の自然観察会（京大ウィークス参加事業）		27	7	主催
計	32	(27件)			786	101	

徳山試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
09.05.22	1	周南市教育委員会	「ふるさと文化財の森」説明会（見学）	一般	13	2	
10.06.13	1	周南市公園花とみどり課	周南市「みどりの案内人養成プロジェクト」特別講座	受講生	16	7	共催
10.10.03	1	周南市公園花とみどり課	周南市「みどりの案内人養成プロジェクト」特別講座	受講生	16	6	共催
10.12.12	1	周南市公園花とみどり課	周南市「みどりの案内人養成プロジェクト」特別講座	受講生	13	5	共催
11.06.12	1	徳山試験地・周南市	京都大学フィールド科学教育研究センター・周南市連携講座		30	4	共催
11.09.11	1	徳山試験地・周南市	京都大学フィールド科学教育研究センター・周南市連携講座		29	4	共催
11.11.13	1	徳山試験地・周南市	京都大学フィールド科学教育研究センター・周南市連携講座		26	4	共催
計	7	(7件)			143	32	

北白川試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
09.05.14	1	京都大学 理学研究科 生物科学専攻	京大植物園を考える会北白川試験地観察会	一般	35	3	
09.08.07	1	京都大学 農学研究科 森林科学専攻	オープンキャンパス	一般	21	1	
計	2	(2件)			56	4	

紀伊大島実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
09.05.10 ～ 09.05.24	3	串本町農林水産課	紀伊大島中部における獣害駆除		72	3	
計	3	(1件)			72	3	

舞鶴水産実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.08.20 ～ 08.08.29	7	海上保安学校	港湾測量実習立ち入り		112		
09.04.17	1	舞鶴赤煉瓦倶楽部	実験所見学		12		
09.07.29 ～ 09.07.30	2	滋賀県総合教育センター	理数系教員指導力向上研修会		18	2	
09.09.02 ～ 09.09.16	11	海上保安学校	港湾測量実習		154		
09.11.12	1	京都府女性の船	施設見学		8	1	
10.01.21	1	総合地球環境学研究所	施設見学・セミナー		30		
10.02.01	1	自然をみる・きく・考える会	講演「地球環境から舞鶴の海を考える」		20	1	
10.08.17	1	舞鶴市小学校教育研究会	社会科夏季研究会		15		
10.08.18	1	綾部市学校教育研究会	理科研究会		25		
11.07.14	1	NPO法人シニア自然大学校	「森と海の自然科」研修		16	1	
計	27	(10件)			410	5	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
08.11.22 ～ 08.11.23	2	NPO法人エコロジー・カフェ	NaGISAサンプリングのソーティング	NPO会員	12	6	
09.04.25 ～ 09.11.28	5	和歌山県	きのくに県民カレッジ連携講座	一般（小学生以上）	119	24	
09.07.19 ～ 09.07.20	2	NPO法人シニア自然大学校 研究部	磯浜フィールド実習他	NPO法人	20	2	
09.07.30	1	森と海の自然科 白浜町中央公民館羽衣分館	水族館のいきもの学習	一般	24	1	

10.12.14	1	NPO法人 ハートツリー	水族館業務体験	センター長、 会員	2		
11.01.29	1	(京都大学瀬戸臨海実験所・久保田信)	水辺環境教育・バードウォッチング		10	5	
11.03.19	1	白浜町立児童館	水族館のバックヤード見学	小学校低学年 および父兄	36	1	
11.04.01 ～ 11.04.07	7	瀬戸臨海実験所白浜水族館	「日替わり解説ツアー」「バックヤードツアー」		125	7	主催
11.04.08	1	海の哺乳類情報センター	鯨セミナー		25	8	共催
11.04.15	1	白浜エネルギーランド(株)	研修見学(新人研修)		5		
11.05.21 ～ 11.06.18	3	和歌山県教育委員会	体験学習「水族館の磯採集体験」「水族館の飼育体験」		50	24	共催
11.07.15	1	NPO法人シニア自然大学校 環境科	水族館のバックヤード見学		42	2	
11.07.21 ～ 11.08.31	42	瀬戸臨海実験所	「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」		648	42	主催
11.08.01	1	白浜町教育研究会 小学校5年生 部会会員	「バックヤード体験・餌やり体験・飼育 数集計体験」	小学校教員	11	2	
11.08.02	1	兵庫県私立中学高等学校理科教育 研究会	水族館のバックヤード見学	高校教員	19	2	
11.08.09 ～ 11.08.25	6	白浜温泉旅館協同組合	「海の中まで白浜を知っちゃおう！」 (解説ツアー、バックヤードツアー)		78	6	
11.10.15	1	瀬戸臨海実験所	施設見学会(京大ウィークス参加事業)		4	2	主催
11.10.22 ～ 12.02.18	3	和歌山県教育委員会	体験学習「水族館の磯採集体験」「水族館の飼育体験」		46	13	共催
11.12.11	1	ボーイスカウト田辺第1団	水族館の案内・解説	小学1年生他	11	1	
11.12.23 ～ 12.01.09	18	瀬戸臨海実験所白浜水族館	「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」		261	18	主催
12.02.06	1	瀬戸臨海実験所	第24回瀬戸海洋生物学セミナー		4	4	主催
12.03.24 ～ 12.03.31	7	瀬戸臨海実験所白浜水族館	「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」		130	8	主催
計	107	(22件)			1,682	178	

6. 5 瀬戸臨海実験所 水族館入場者数

年度	有料					無料	総入場者数
	個人		団体		計		
	大人	小人	大人	小人	名	名	名
2008	52,564	3,346	1,603	1,624	59,137	7,274	66,411
2009	48,933	3,550	1,510	1,111	55,104	7,581	62,685
2010	51,065	3,543	1,649	1,293	57,550	7,076	64,626
2011	51,173	3,633	1,272	1,424	57,502	6,656	64,158
合計	203,735	14,072	6,034	5,452	229,293	28,587	257,880

6. 6 船舶運転実績

6.6.1 舞鶴水産実験所 船舶運転実績

年度	船舶名					
	緑洋丸		白浪丸		ボート、その他	
	航海数	利用人数	航海数	利用人数	航海数	利用人数
2008	54	512	18	64	11	28
2009	52	454	35	109	5	20
2010	60	540	82	283	49	132
2011	68	621	55	180	47	152
合計	234	2,127	190	636	112	332

6.6.2 瀬戸臨海実験所 船舶運転実績

年度	船舶名			
	ヤンチナ		ゾエア	
	航海数	利用人数	航海数	利用人数
2008	164	784	37	78
2009	156	820	45	141
2010	132	569	34	122
2011	162	610	28	78
合計	614	2,783	144	419

(ヤンチナは、2008 年 7 月に更新されており、上記数値は新旧ヤンチナの実績の合算値である。)

京都大学フィールド科学教育研究センター

自己点検・評価報告書

発行日 2013 年 2 月

発行 京都大学フィールド科学教育研究センター
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
TEL 075-753-6420 / FAX 075-753-6450
Email joho@kais.kyoto-u.ac.jp

印刷 株式会社 北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
